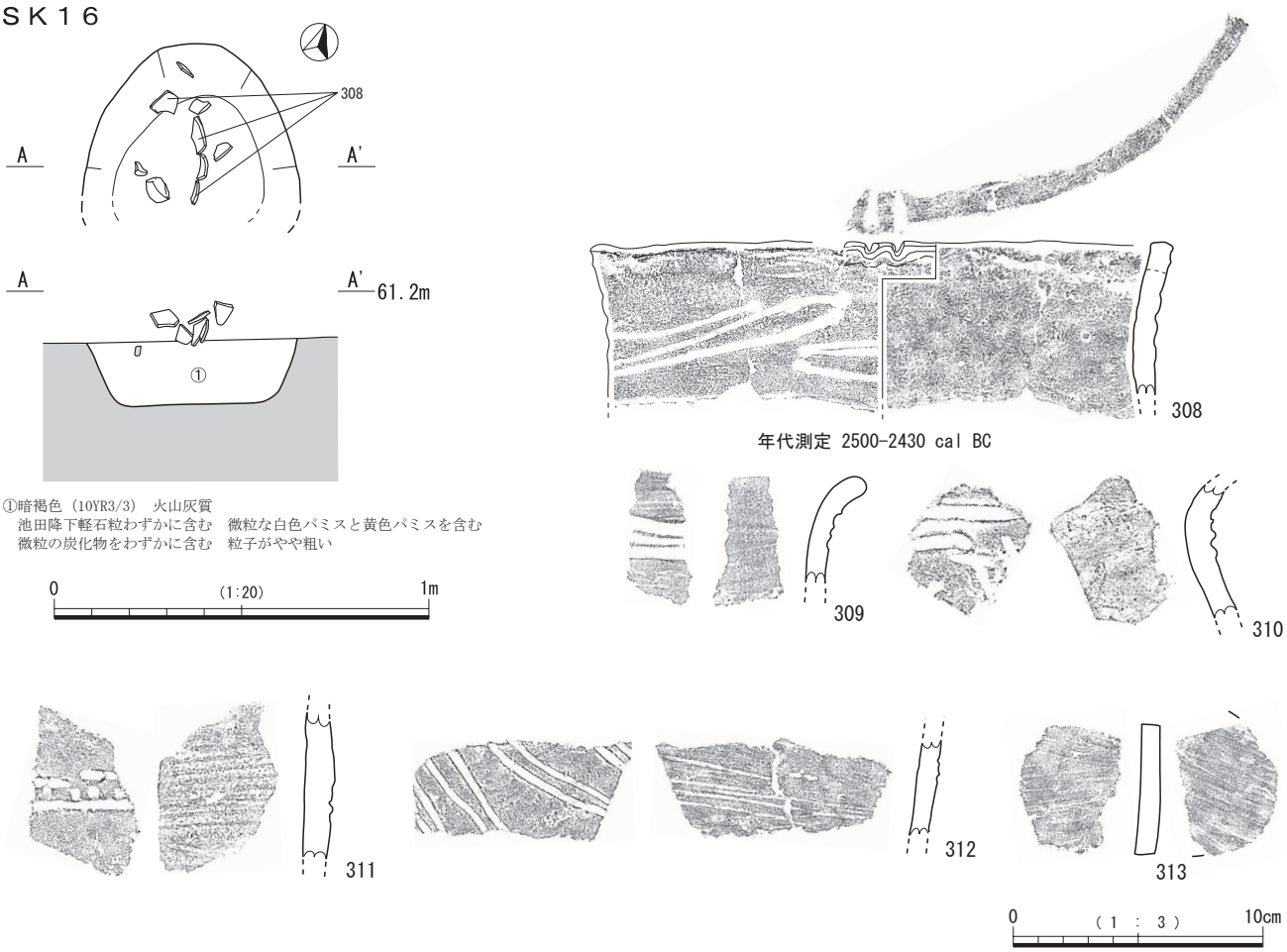


第110図　土坑16号と出土遺物

土坑18号（第113図）

検出状況

SK18は，C－６区のⅣb層で検出された。長軸は1.71m，短軸1.13m，深さ45㎝，推定面積は1.66㎡を測る。平面形は楕円率0.66の楕円である。掘り込みの断面形状は，北側がなだらかに落ち込む。遺物は土器，石皿片，磨石等が主に北側落ち込み部分の中央の埋土上層から出土した。花崗岩製の石皿片が最上位に出土しているが，残存部が少なく分類・図化には至っていない。周囲からは花崗岩製石皿立石遺構が検出されているため，それらに関連した遺物・遺構である可能性も否定できない。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，暗褐色土１枚である。池田降下軽石，白色パミス，橙色パミスや炭化物を含む。やや硬質でやや粘質の，粒子の細やかな土である。

出土遺物

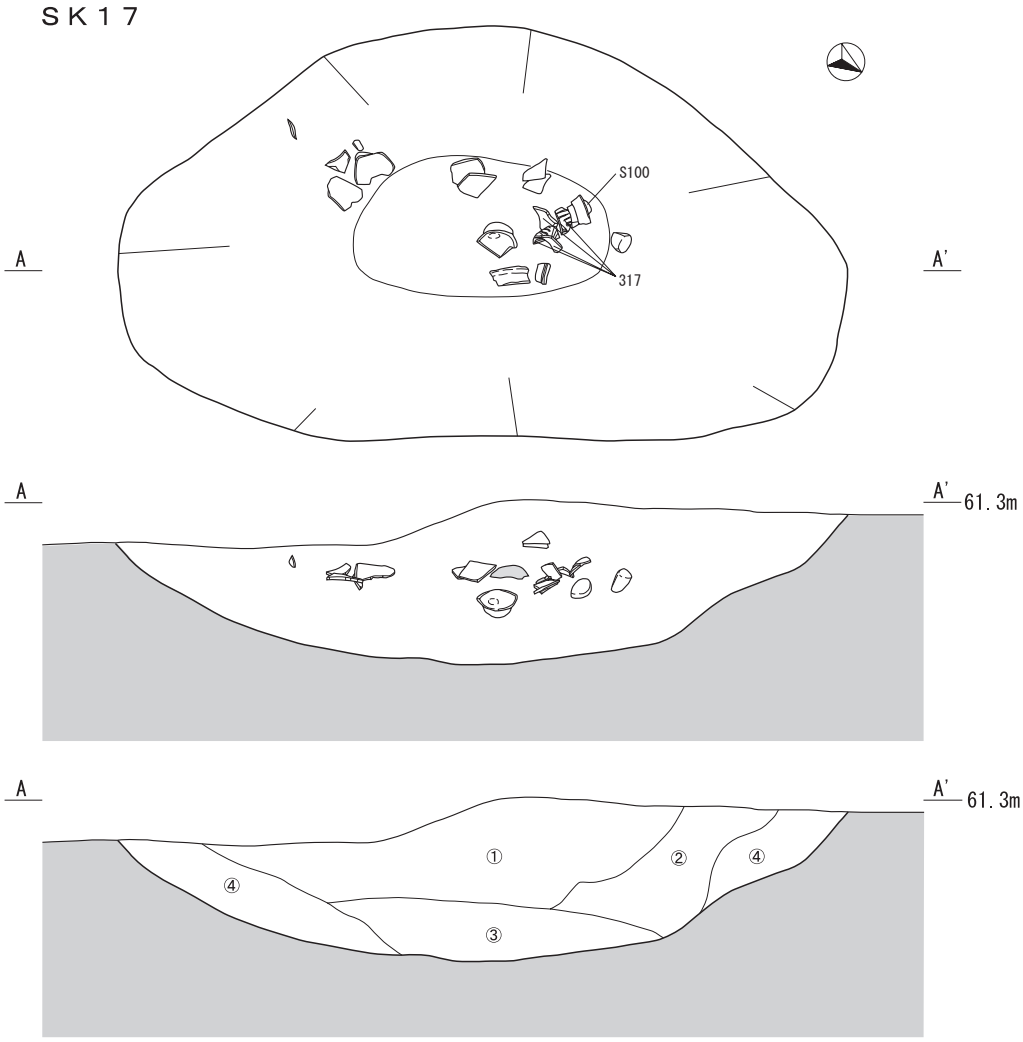
319・320は深鉢の口縁部片である。320は口縁部外面にやや幅広の肥厚帯を形成し，肥厚帯には，棒状工具による連点文と枠状の沈線文を横位に連続させた文様帯を形成する。残存部外面の下端に横位の沈線が確認できるため，胴部にも文様が施されたことがわかる。口唇部には凹線を巡らせ，所々に連点を施したと推測される。Ⅷa類と考えられる。319は直線的に立ち上がり，口唇部に指頭による強い押圧を連続させ，波状を呈し，Ⅵb類と考えられる。321はⅧ類土器の胴部片と判断される。平行沈線間に棒状工具による円形刺突を連続して施す。

S102はホルンフェルス製の磨・敲石Ⅰ類である。下面は敲打により割れ，正面には明瞭な磨面を形成しよく使用される。S103は，砂岩製の磨・敲石Ⅱ類である。残存部が少なく形態の分類は難しい。破断面にも使用の痕跡が窺える。S104は砂岩製で，下面のほかに加工・使用の痕跡が薄いため，磨・敲石Ⅳ類として分類した。上面を欠損する。細長い自然礫の形状を活かして石斧として使用された可能性もある。

土坑19号（第114図）

検出状況

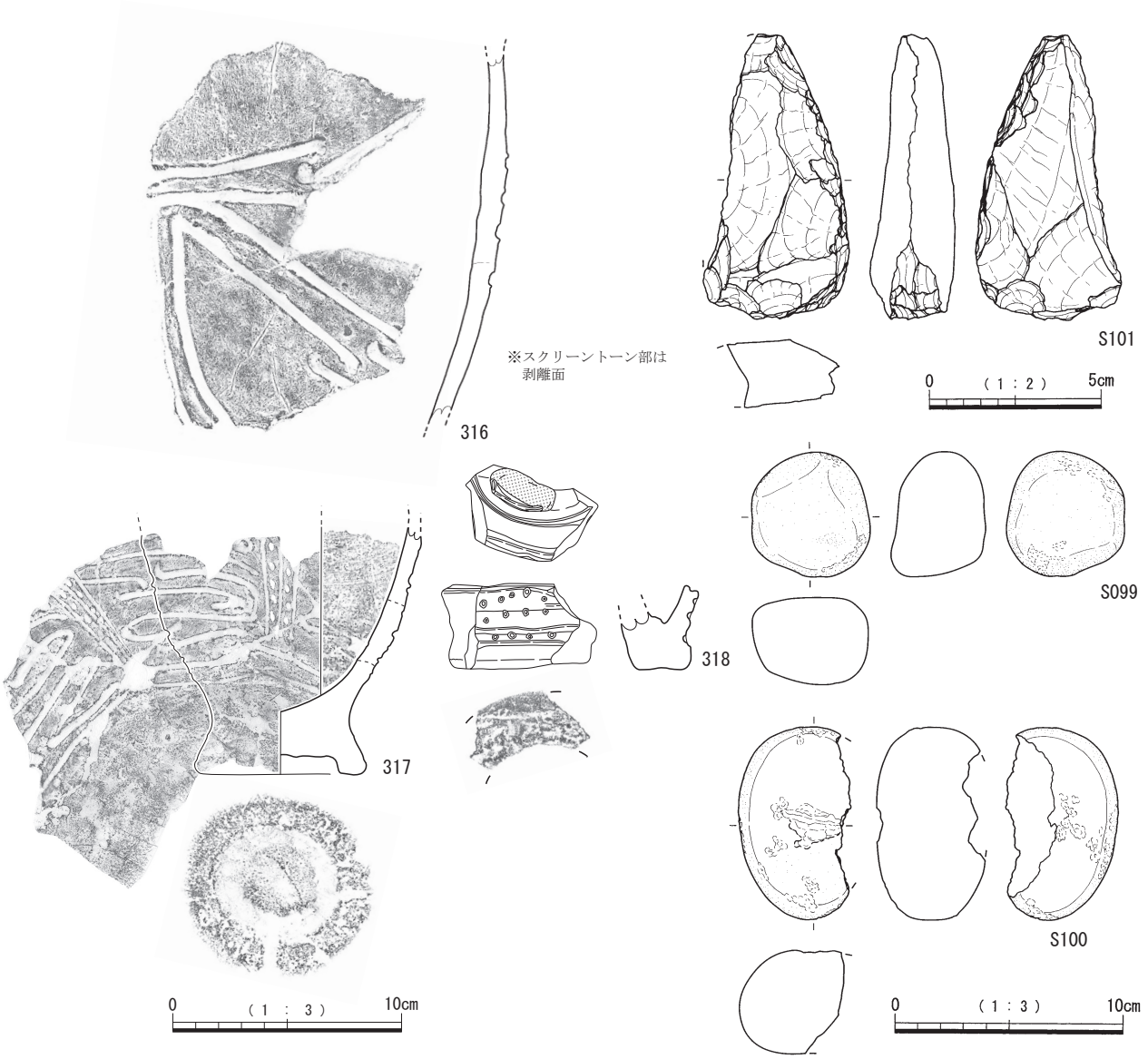
SK19は，D・E－６区のⅥ層で検出された。長軸は0.88m，短軸0.82m，深さ15㎝，推定面積は0.56㎡を測る。



①暗褐色（10YR3/3）
池田降下軽石粒ごくわずかに含む　微粒な白パミス・炭化物粒わずかに含む
粒子がやや粗い
②褐色（10YR4/4）
池田降下軽石含む　微粒の炭化物をごくわずかに含む
①とⅣb層の混土　やや粒子が粗い
③暗褐色（10YR3/3）
池田降下軽石粒ごくわずかに含む　①よりも微粒な白パミスが多い
やや粒子粗い　①より硬質
④黄褐色（10YR5/6）
池田降下軽石を含む　粒子がやや粗い

0　(1:20)　1m

第111図　土坑17号と出土遺物（１）



第112図　土坑17号出土遺物（２）

平面形は楕円率0.93の円形である。遺物は南西隅から土器，石器が出土した。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，暗褐色土単層である。黄パミスの細粒，微粒の白パミスや炭化物を含む。粒子の細かい軟質土である。

出土遺物

322は深鉢の口縁部片で，肥厚させた口縁部外面に斜位の貝殻腹縁刺突文を施す。Ⅷa類と考えられる。

土坑20号（第114図）

検出状況

SK20は，Ｅ－６区のⅥ層で検出された。長軸は1.36m，短軸0.72m，深さ22cm，推定面積は0.74㎡を測る。平面形は楕円率0.53の楕円で，掘り込みはレンズ状の形状である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，にぶい黄褐色土単層である。黄パミスと橙パミスの細粒を含む。粒子の細かい軟質土である。

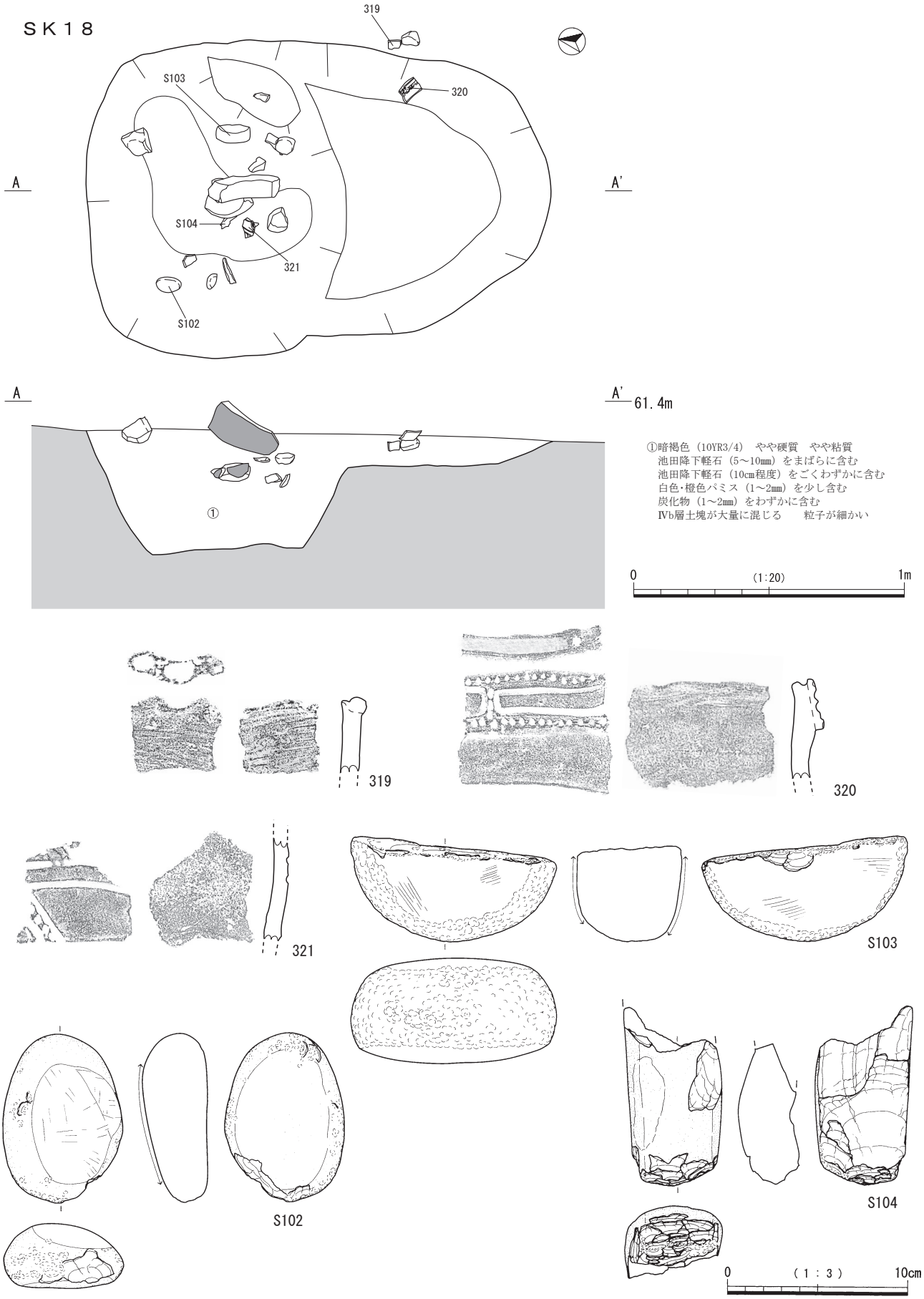
出土遺物

S105は安山岩B製の石錘で，両極打撃によって短径を打ち掻き形成する。掘り込みの外からの出土である。

土坑21号（第114図）

検出状況

SK21は，Ｅ－６区のⅥ層で検出された。長軸は0.61m，短軸0.42m，深さ14cm，推定面積は0.19㎡を測る。平面



第113図　土坑18号と出土遺物

形は楕円率0.69の楕円である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，にぶい黄褐色土単層である。黄パミスの細粒を含む粒子の細かい土である。

土坑22号（第115図）

検出状況

SK22は，E－６区のⅥ層で検出された。長軸は0.92m，短軸0.58m，深さ27㎝，推定面積は0.41㎡を測る。楕円率0.63の楕円である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，にぶい黄褐色土、暗褐色土の２枚である。黄パミスの細粒，微粒の白パミスを含む粒子細かい軟質土である。

土坑23号（第115図）

検出状況

SK23は，B－７・８区のⅤ層で検出された。長軸は1.02m，短軸0.70m，深さ37㎝，推定面積は0.59㎡を測る。平面形は楕円率0.69の楕円である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，褐色土２枚，黄褐色土の計３枚である。白パミス・黄パミスの微粒と微粒の炭化物を含む。Ⅴa層土やⅣb層土が混じる。

出土遺物

323は口縁部最上位とそのやや下方に低い突帯をもうけて円形刺突文を連続させる。突帯間には横長の枠状の文様を横位に連続させると推測される。口唇部には凹線を巡らせる。口縁部文様帯からやや下がる位置に沈線を１条巡らせる。SK18から出土した320に形態が類似する。Ⅷa類と考えられる。

土坑24号（第115図）

検出状況

SK24は，B－７区のⅤ層で検出された。長軸は0.72m，短軸0.64m，深さ34㎝，推定面積は0.35㎡を測る。平面形は楕円率0.89の円形である。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，褐色土単層である。，池田降下軽石，粒微粒の黄色パミスと白色パミス，微粒炭化物を含む火山灰質土である。

出土遺物

324・325は口縁部片である。324は直線的に開き，口縁端部あたりで内外面をわずかに肥厚させる。口唇部にはごく浅い凹線を巡らせる。外面の肥厚帯の直下に平行沈線文を巡らせ，沈線間には同じ工具による斜位の単沈線を連続して施す。325はごくわずかに外反しながら開き口唇部に細沈線と貝殻腹縁刺突文を密に連続させた文様帯を有する。外面には細い沈線文を描くと推測される。Ⅷb類の範疇と捉えた。326は外反する口縁部の内面屈曲部より上位に文様帯を有する。上面施文型である。Ⅸa類と考えられる。

土坑25号（第116図）

検出状況

SK25は，B－７区のⅣb層で検出された。長軸は0.64m，短軸0.20＋αm，深さ11㎝，平面形は楕円と考えられる。掘り込みはレンズ状の形状でごく浅い。遺物は掘り込みの中央部分の上層からまとまって出土した。

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は，暗褐色土１枚である。黄パミス，石粒や炭化物を含む。

出土遺物

328・329は口縁部小片で，前者からⅧb類とⅧa類に該当する可能性がある。330は深鉢で，完形には復元できなかったが口縁部～底部の一部が縦に接合した資料である。明瞭な波状口縁を呈し，頸部で大きく外反し，内面屈曲部以上に文様帯を有する。内面の稜はごく緩い。内外面ともに貝殻条痕で調整され，外面は無文である。底部は平底で白色物質が付着する。胎土には金色の雲母を多く含む。331は上げ底気味の大型の底部片である。

土坑26号（第117図）

検出状況

SK26は，D－７区のⅧ層で検出された。長軸は1.06m，短軸0.75m，深さ67㎝，推定面積は0.60㎡を測る。平面形は楕円率0.71の楕円である。垂直に近い角度で壁面を深く掘り込み，平坦な底面をつくる。遺物は土器の小片や磨・敲石片などが北側にやや偏って出土した。出土層位は底面から上層に散見される。

分類：タイプⅡ

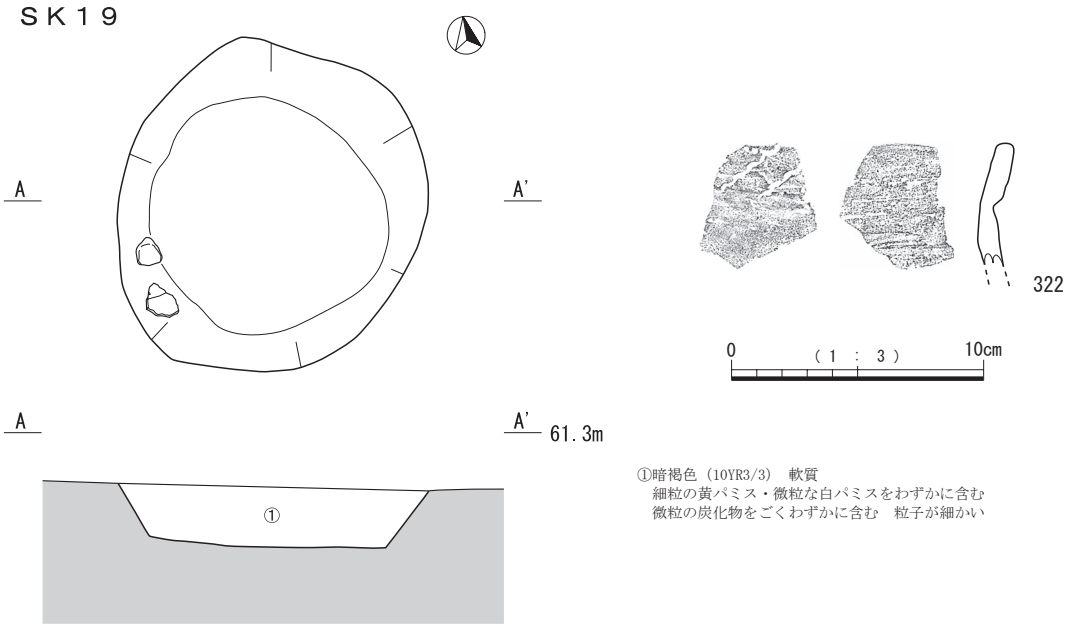
埋土

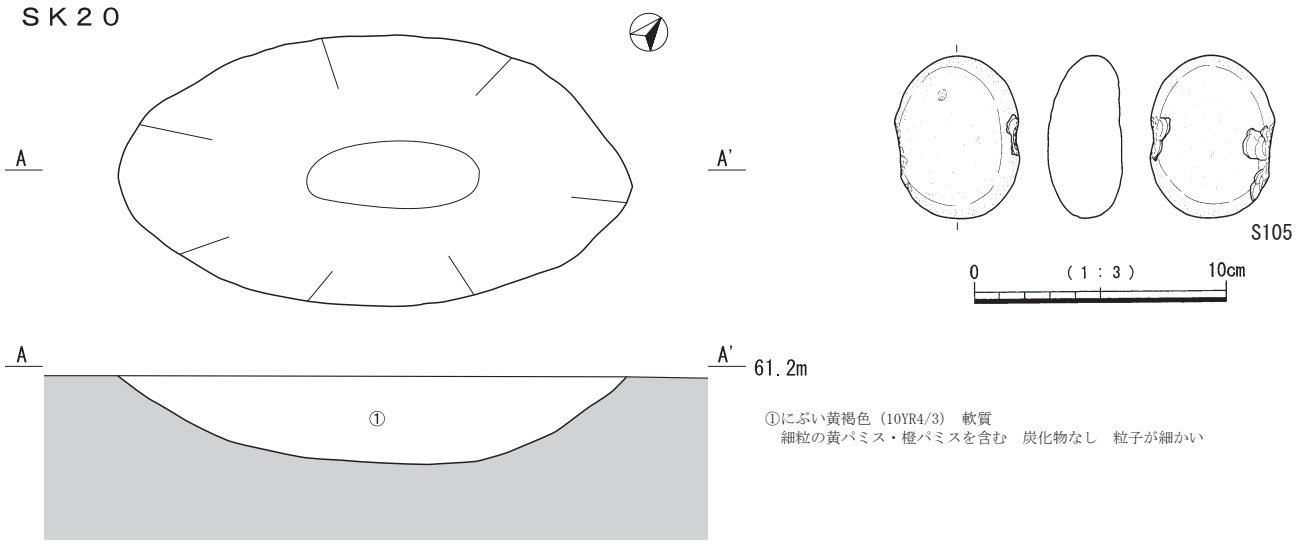
埋土は，暗褐色土１枚である。基本層はⅣb層である。

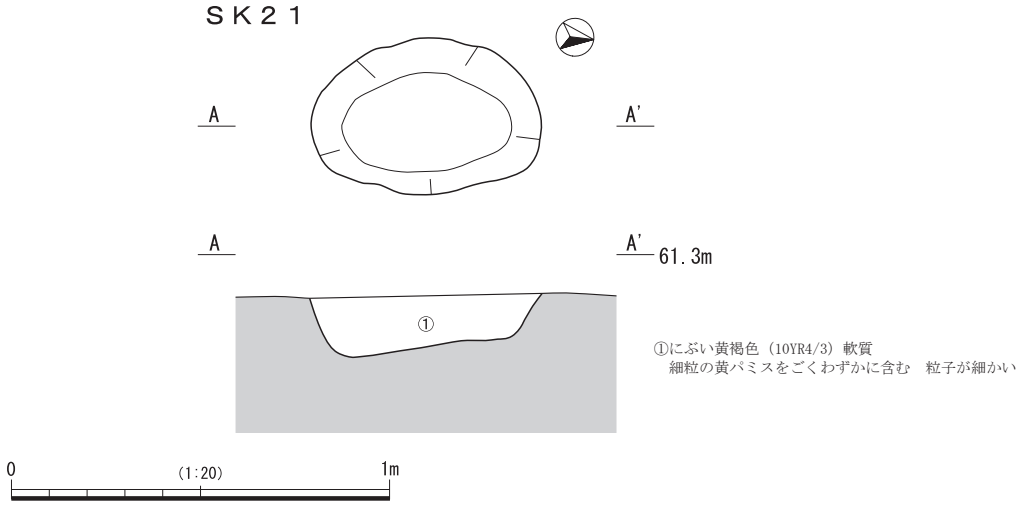
出土遺物

332は無文の胴部片である。胎土から縄文時代後期前半の遺物であると判断した。

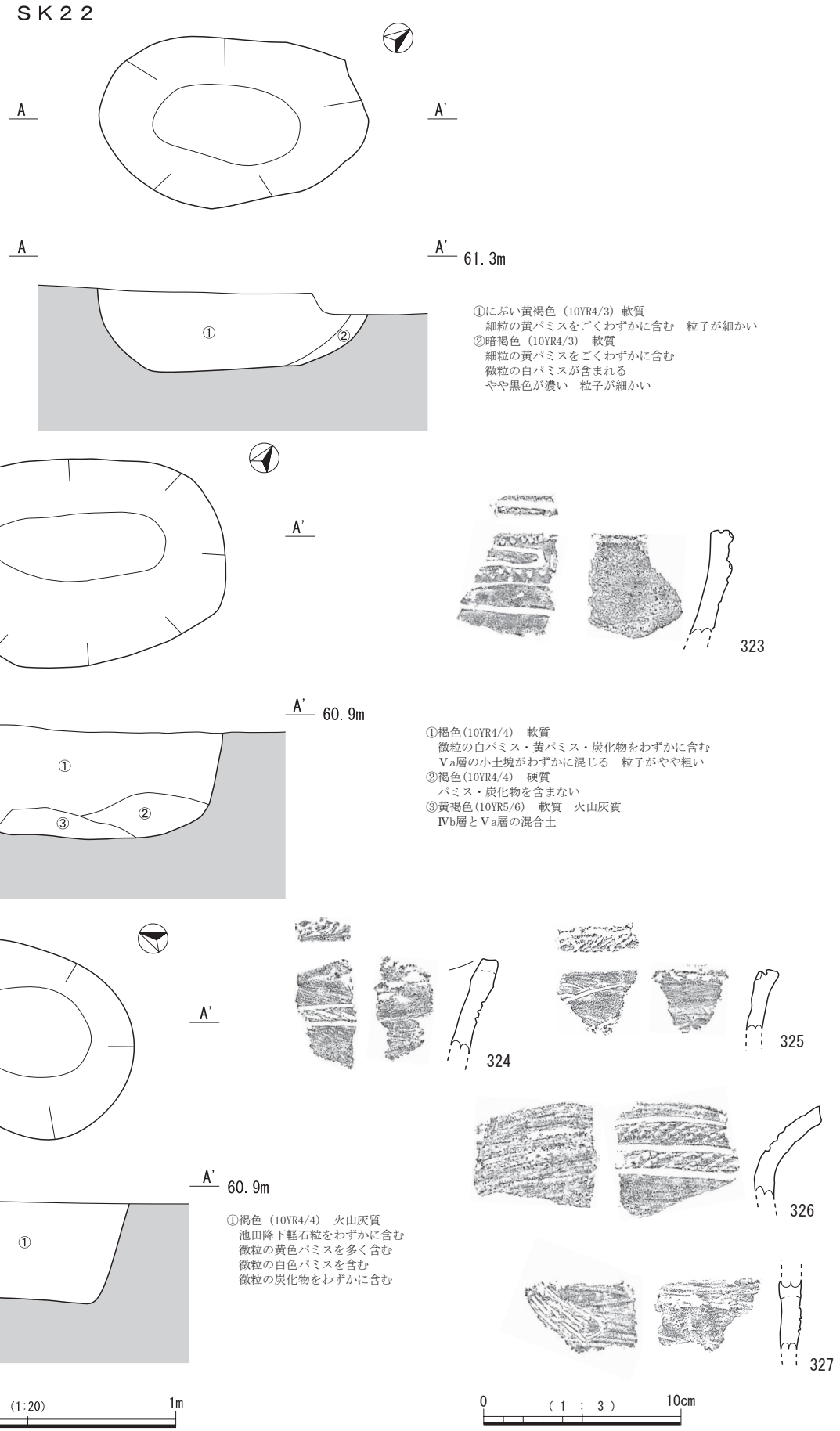
S106は安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅱb類の破片である。破砕後に破断面の角を敲打に使用した痕跡がみられる。







第114図　土坑19～21号と土坑19・20号出土遺物



第115図　土坑22～24号と土坑23・24号出土遺物

土坑27号（第117図）

検出状況

SK27は，Ｅ・Ｆ－７区のⅣa層で検出された。長軸1.15ｍ，短軸0.52ｍ，深さ19㎝，推定面積は0.42㎡を測る。平面形は楕円率0.45の長楕円である。

分類：タイプⅠ

埋土

埋土は，黒褐色土１枚で，炭化物の細粒を含む細かい粒子の軟質土である。

出土遺物

333は底部片で底面は網代痕をナデ消す。

土坑28号（第118図）

検出状況

SK28は，Ｃ－８区のⅣb層で検出された。長軸は1.03ｍ，短軸0.72ｍ，深さ22㎝，推定面積は0.55㎡を測る。楕円率0.70の楕円である。北側は攪乱によって削平される。花崗岩製の石皿片が出土したが残存部分が少なく磨耗が著しいため図化には至らなかった。周辺で検出された花崗岩製の立石遺構と関連する遺構の可能性も考えられる。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，暗褐色土１枚である。黄パミス，白パミスを含む。にぶい黄褐色の斑状土塊が埋土下位に混じる。

出土遺物

334は無文の胴部片で内外面に貝殻条痕を残す。

土坑29号（第118図）

検出状況

SK29は，Ｃ－８区のⅣb層で検出された。長軸は1.28ｍ，短軸0.80ｍ，深さ17㎝，推定面積は0.82㎡を測る。平面形は楕円率0.63の楕円である。底面は平坦である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土の状況については不明である。

出土遺物

335・336は深鉢片で，336は口縁部～胴部下位までが残る。ともに頸部屈曲し，短い口縁部がやや大きく開く。335の口縁端部は厚く丸みを帯び，頸部に棒状工具による浅い沈線文が斜位に描かれる。336は平坦口縁であると推測され，胴部が張り出し，底部に向かって急な角度ですぼまる丸みを帯びたプロポーションである。斜位の平行沈線を基軸とし，その間にアーチ状のモチーフを描いた文様を横位に割り付けて描くと推測され，文様帯は最大径の少し下まで及ぶ。沈線は４～５㎜程とやや太めで，始点と終点を入り組ませる。ともにⅧb類と考えられる。

土坑30号（第119・120図）

検出状況

SK30は，Ｃ－８区のⅣb層で検出された。長軸は1.22＋αｍ，短軸0.92ｍ，深さ46㎝を測る。東側をトレンチによって削平される。北側が一段低く，円形に落ち込む。遺物は落ち込み部分から花崗岩製の石皿，南側の埋土上位から土器片等が出土した。

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は，褐色土・暗褐色土の２枚である。微粒の白パミスと黄パミスと炭化物を含む。

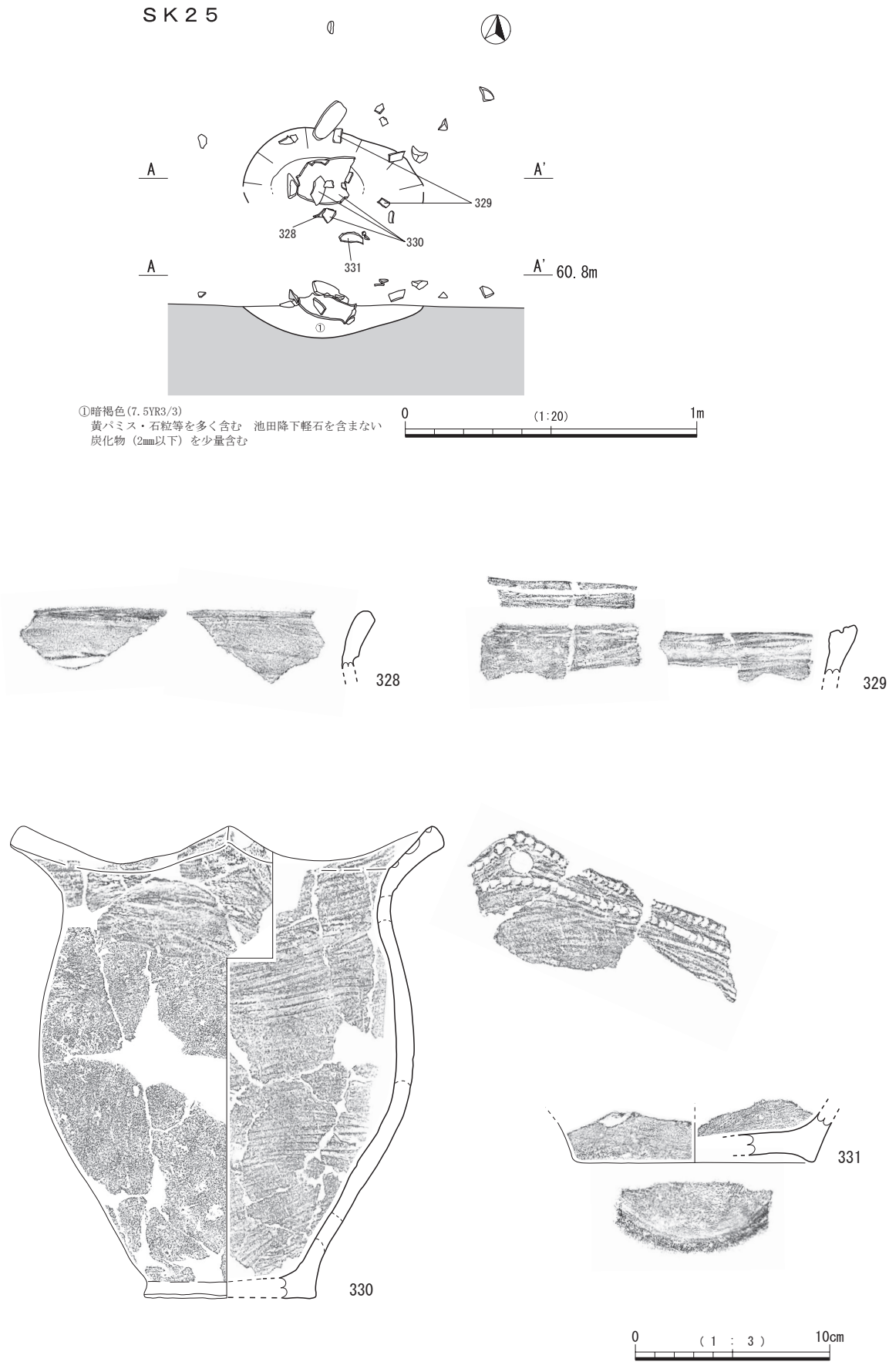
出土遺物

337はSK29から出土した336と文様と胴部形態の特徴が類似する深鉢である。波状口縁を呈し，波頂部には棒状工具による強い押圧を４か所施す。色調は黒色で，焼成が特に良好で硬質である。内外面は丁寧にナデて調整され，内面の調整には篦状の工具を使用している。Ⅷb類と考えられる。338は平坦口縁を呈し，口縁部外面に肥厚帯を有する。肥厚帯には深い沈線を巡らせ，その上下に貝殻腹縁刺突文・円形刺突文を横位に連続させる。胴部には337に雰囲気の似た平行沈線文が描かれるが，線幅はやや細い。Ⅷa類と考えられる。337と338は埋土の上層から混在して出土しており，ほぼ同時期に廃棄された可能性もある。

339・340は胴部片で，形態・胎土の特徴から337・338とは別個体と考えられる。有文の339はⅧ類と考えられる。341は底面から剥離した接地面近くの破片である。部分的に白色付着物がみられる。342は底面に網代痕が残る底部小片である。

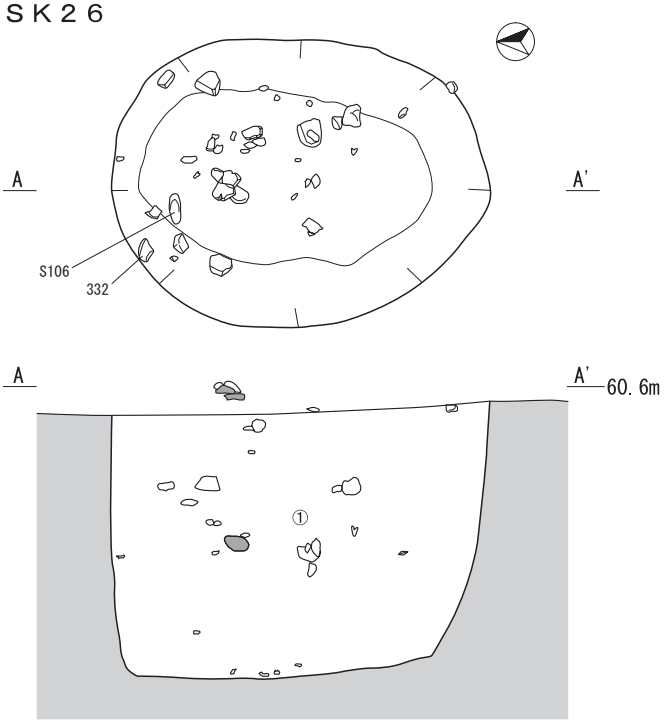
343は胴部を用いた円盤状土製加工品である。残存部が少なく分類は難しく，Ⅵ～Ⅷ類の可能性が考えられる。

S107はホルンフェルス製で短冊型の打製石斧Ⅰ類である。基部を欠損する。左右両側縁中央と・裏面の上半部が擦れて磨耗する。着柄の痕跡と推測される。S108は安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅰ類である。上面下面と側縁に敲打痕が残る。被熱の痕跡が窺える。S109は花崗岩製の石皿Ⅲ類である。左側を欠く。方形を呈すると推測され，中央に凹みを形成する。S110は花崗岩製の石皿Ⅴ類である。左右両面を欠く。中央に凹みを形成する。凹みの中央部分に敲打痕がみられる。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S110は残存デンプン粒子の分析により，磨面以外の部分から四角形状の粒子を検出し，コナラ属のデンプン粒子の可能性が示唆される。S107・S108の２個体は北側の落ち込み部分の底面から立てかけられた状態で出土して，周囲の花崗岩製の立石遺構の検出状況から，関連のある遺構の可能性もある。埋土②を主体とする落ち込み部分が，SK30とは別の遺構であった可能性も捨てきれない。

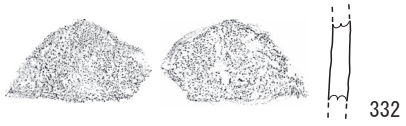


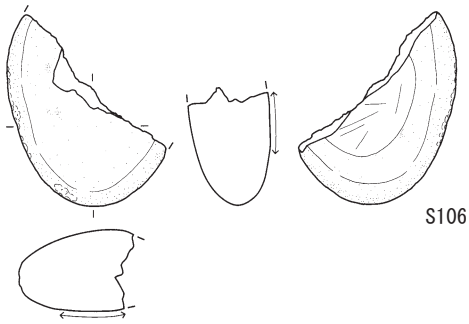
第116図　土坑25号と出土遺物

ＳＫ２６

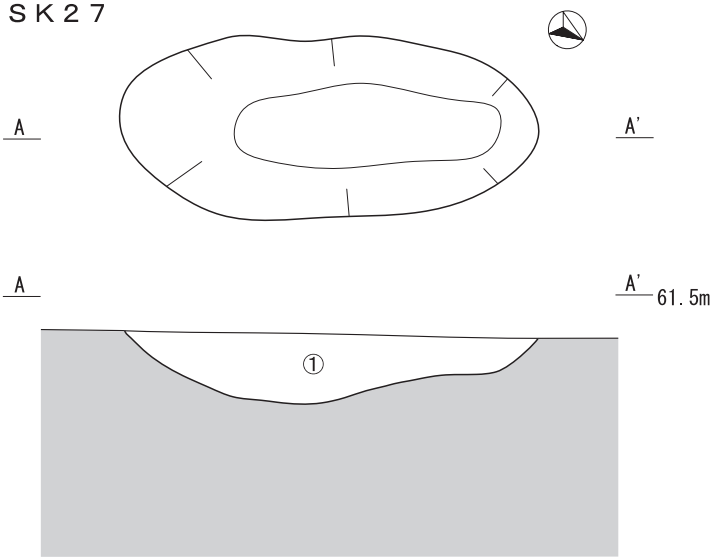


①暗褐色土（10YR3/4）
IVb層の埋土

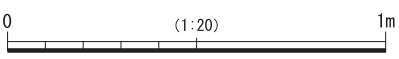


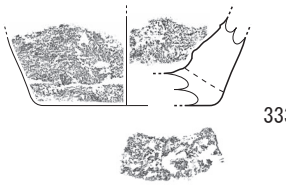


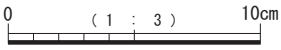
ＳＫ２７



①黒褐色（10YR2/3）軟質
細粒の炭化物をごくわずかに含む　粒子が細かい

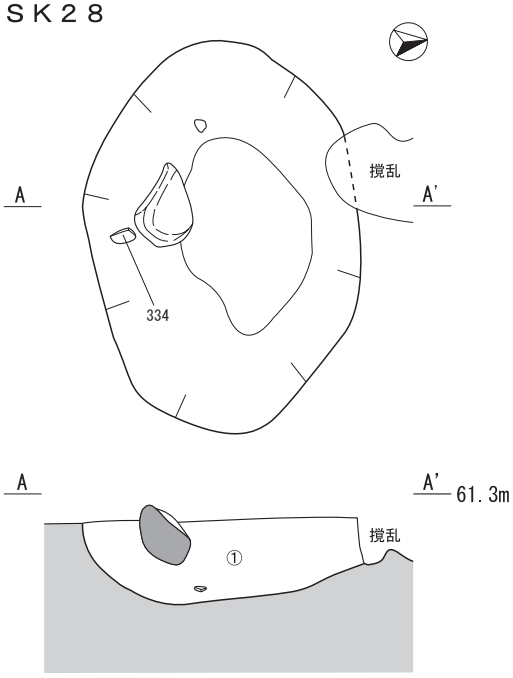




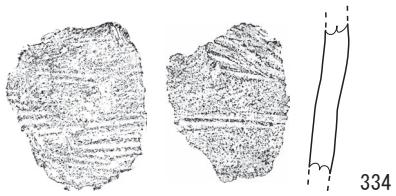


第117図　土坑26・27号と出土遺物

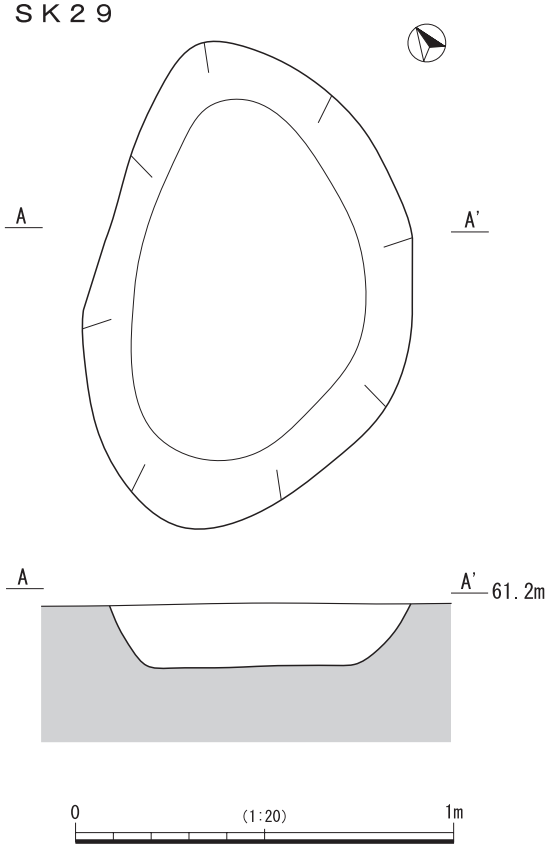
ＳＫ２８

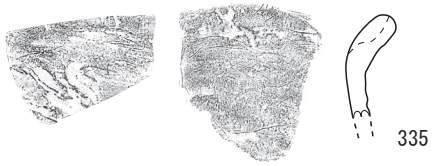


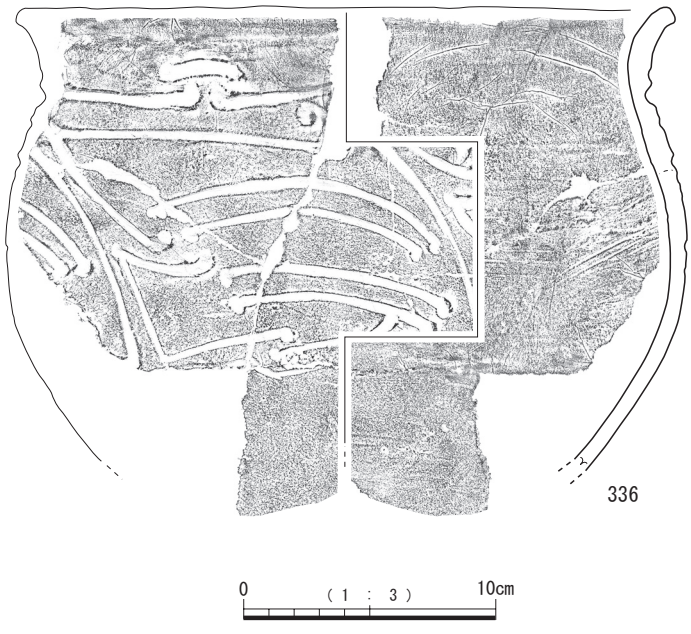
①暗褐色(10YR3/3)
黄パミス粒をごくわずかに含む
細粒の黄パミス・微粒な白パミスをわずかに含む
微粒の炭化物をわずかに含む
にぶい黄褐色(10YR4/3)の斑状土塊が土坑埋土下位に混じる



ＳＫ２９







第118図　土坑28・29号と出土遺物

土坑31号（第121図）

検出状況

SK31は，C・D－８区のⅥ層で検出された。長軸は0.76m，短軸0.30＋αm，深さ46㎝，掘り込みの平面形は長楕円である。遺物は上層から中層にかけて土器，石器が出土した。

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は，暗褐色土単層で，池田降下軽石･橙色パミス･赤色パミスや炭化物を含むやや軟質の砂質土である。

土坑32号（第122図）

検出状況

SK32は，E－８区のⅧ層で検出された。長軸は0.75m，短軸0.65m，深さ17㎝，推定面積は0.38㎡を測る。平面形は楕円率0.87の円形である。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は２枚である。Ⅳ層土とⅧ層土が混ざる層とⅧ層土の薩摩火山灰土塊が混ざる層である。

出土遺物

344・345は深鉢の破片で，344は頸部で345は下胴部である。頸部が緩やかにくびれ，胴部がやや丸みをもつと推測される。345には指頭による文様が薄く描かれる。Ⅴb類と考えられ，胎土が類似することから同一個体の可能性がある。内外面を貝殻条痕によって調整される。

S111～S113は磨・敲石類である。S111・S113は安山岩Ｂ類製で，Ⅰ類である。S111には煤が付着する。S112は石英製で，Ⅴa類である。上面・下面ともによく使用される。

土坑33号（第123図）

検出状況

SK33は，E－８区のⅣb層で検出された。長軸は1.28m，短軸0.84m，深さ15㎝，推定面積は0.87㎡を測る。平面形は楕円率0.66の楕円である。遺物は底面から土器，石器が出土した。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，黒褐色土単層である。黄パミス粒や微粒の炭化物を含む。細かい粒子の軟質の粘質土である。

出土遺物

346は深鉢の口縁部片で，外傾しながら開く。口縁端部はわずかに外反する。口縁部の直下に斜位の短い凹線を連続させ，その下に沈線を巡らせる。胴部上位には平行沈線による凹線文が描かれる。Ⅵb類と考えられる。胎土に金色の雲母を多く含む。

S114は，安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅰ類である。半分程が残存する。被熱が確認できる。正面・裏面に磨面があり，周縁で敲打を行っている。磨面はⅡ類ほど明瞭には形成せず自然礫の丸みを残す。破損後に破断面の角を敲打具として使用する。

土坑34号（第124図）

検出状況

SK34は，E－８区のⅥ層で検出された。長軸は1.35m，短軸1.02m，深さ19㎝，推定面積は0.98㎡を測る。楕円率0.76の楕円である。南側をトレンチによって削平する。北東隅から花崗岩製の石皿が出土した。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，暗褐色土・褐色土の２枚である。微粒の黄パミスと白パミスを含む粒子の細かい軟質土である。

出土遺物

S115は砂岩製の磨・敲石Ⅴa類で，下面を大きく欠損する。欠損後に右側面に残った角を敲打に使用する。S116は花崗岩製の石皿Ⅰa類である。右側面を一部欠く。隅に少し角を残す亜円形の形状である。中央に摩耗痕である凹みを形成し，真下に掻き出し口を作る。

土坑35号（第125・126図）

検出状況

SK35は，Ｂ－９区のⅣb層で検出された。南側はトレンチにより削平され，北側の半分が残る。長軸は0.75m，短軸0.55＋αm，深さ19㎝を測り，平面形状は歪な楕円形状と推測される。花崗岩製の石皿片が数点，掘り込みの東側からまとまって出土した。周辺からは立石遺構が検出されているため，関連する遺構の可能性もある。

分類：タイプⅣ

埋土

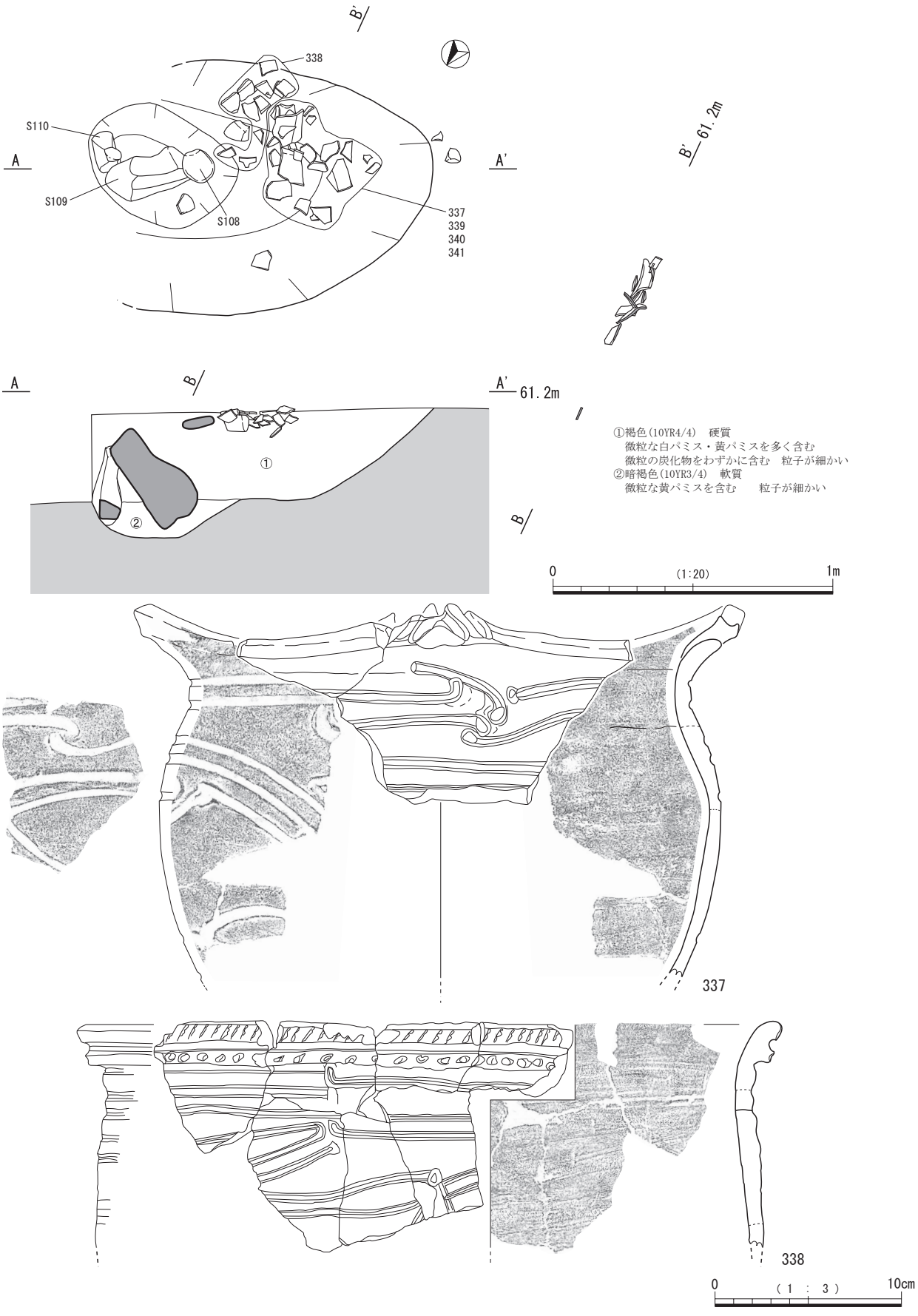
埋土は，暗褐色土単層である。黄パミスの細粒・微粒の白パミスや微粒の炭化物を含む。細かい粒子のやや軟質土である。

出土遺物

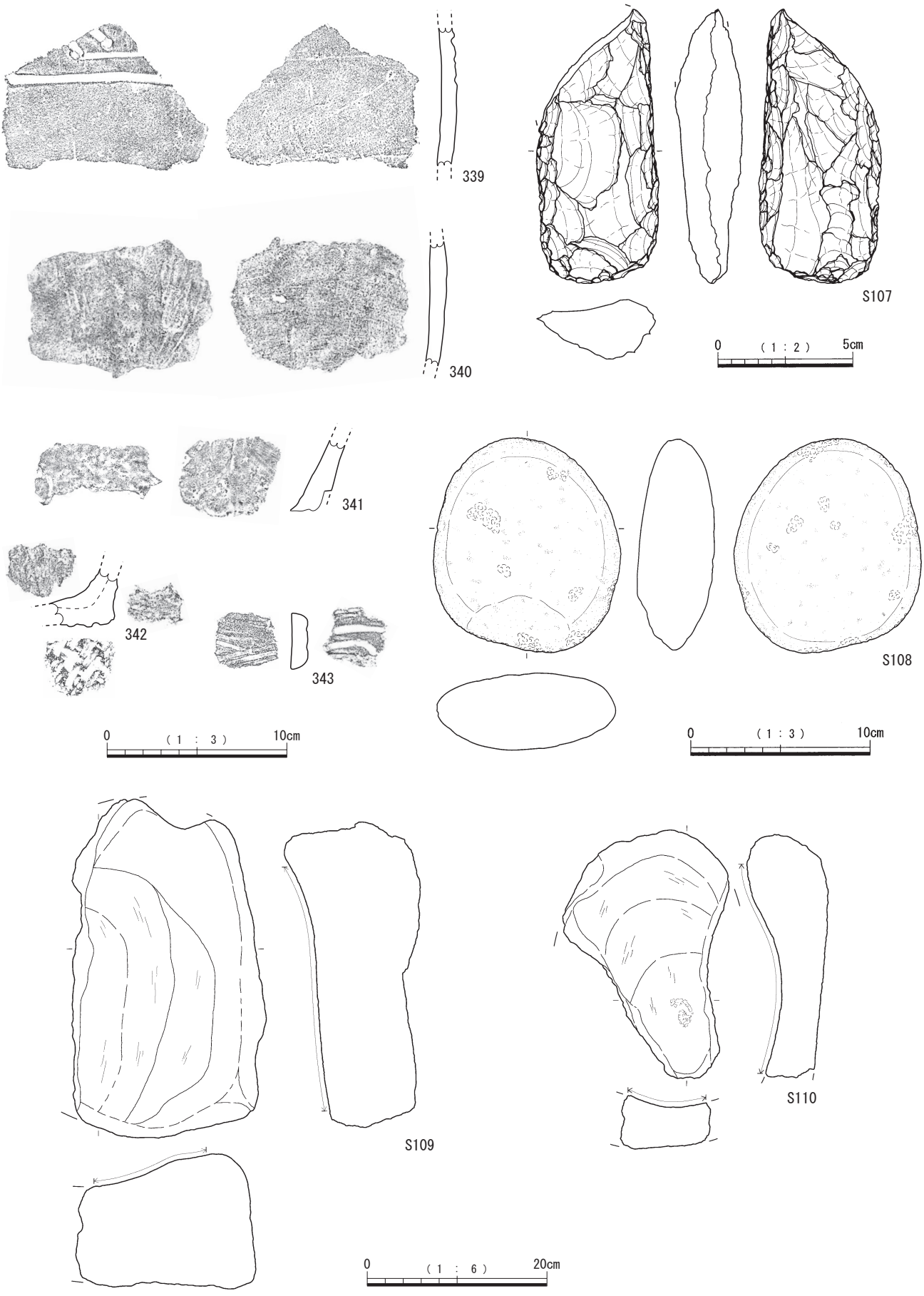
347は深鉢の波頂部を含む口縁部片で，頸部で緩やかに外反しながら開く。波頂部には棒状工具による４個の刻目を施す。胴部の文様の特徴からⅧb類と考えられる。348は胴部片で，外面には平行沈線文が胴部下位に及ぶ。Ⅷ類と考えられる。

S117～S119は花崗岩製の石皿と石皿片である。S117はⅠa類で，上面左側を欠く。中央に凹みを形成し，真下に掻き出し口をつくる。S119はⅥ類である。上半が残存する。中央に凹みを形成し，凹みの中央には敲打痕が残る。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S118は右上の１/４程が残存する。表裏両側ともよく使用され，明瞭な凹みを形成する。表面は被熱が著しい。Ⅰ類もしくは

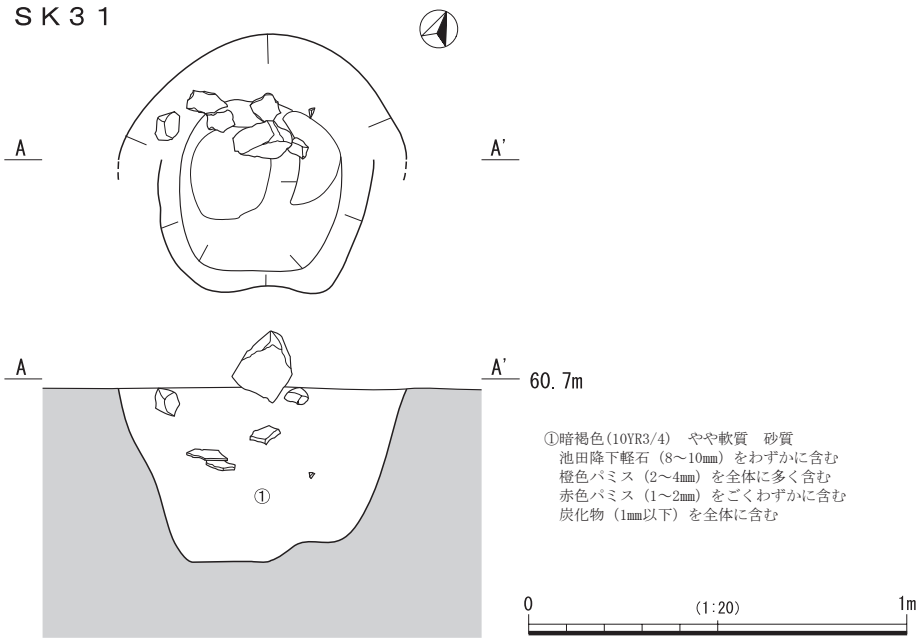
ＳＫ３０



第119図　土坑30号と出土遺物（１）



第120図　土坑30号出土遺物（２）



第121図　土坑31号

Ⅱ類の可能性がある。

土坑36号（第127図）

検出状況

SK36は，D－９区のⅤ層で検出された。長軸は1.23m，短軸0.66m，深さ30㎝，推定面積は0.66㎡を測る。平面形は楕円率0.54の楕円形である。中央部分が一段深く掘り込まれる。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，黒褐色土１枚である。黄色パミスをわずかに含む細かい粒子の軟質の粘質土である。

出土遺物

349は胴部を用いた円盤状土製加工品である。

土坑37号（第127図）

検出状況

SK37は，D－９区のⅤ層で検出された。長軸は0.74m，短軸0.72m，深さ26㎝，推定面積は0.42㎡を測る。楕円率0.97の円形である。掘り込みの断面形状はレンズ状である。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，暗褐色土単層である。池田降下軽石，黄色・白色パミスや炭化物を含むやや軟質のやや粘質土である

土坑38号（第127図）

検出状況

SK38は，C－10区のⅣb層で検出された。長軸は0.28m，短軸0.20＋αm，深さ17㎝，推定面積は0.04㎡を測る。平面形は楕円と考えられる。南側をトレンチによって削平される。花崗岩製の石皿片が出土したが，図化には至らなかった。詳細な形態や，被熱の痕跡等は不明である。石皿片の集積の可能性がある。また，検出地点の周囲の状況や，石皿の石材から立石遺構と関連する遺構の可能性も捨て切れない。

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は，にぶい黄褐色土１枚である。微粒の黄パミスと白パミスを含むが周囲のⅥ層よりもパミス類の入りが少ない。

土坑39号（第128図）

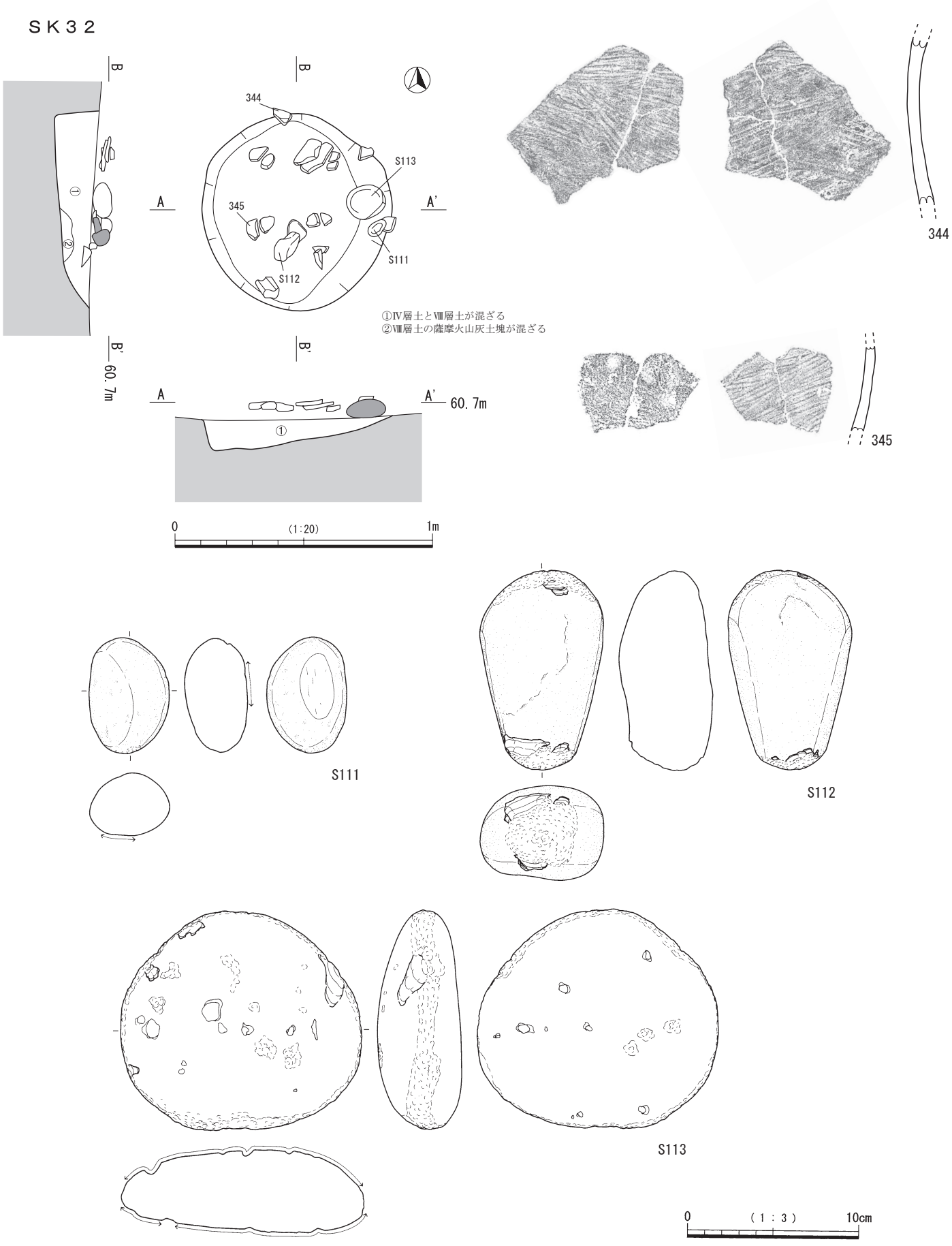
検出状況

SK39は，D－10区のⅧ層で検出された。長軸は1.75m，短軸1.53m，深さ40㎝，推定面積は2.01㎡を測る。平面形は楕円率0.87の円形である。中央部分が明瞭な段を形成して落ち込み，土坑本体とは別の埋土が入るため，中央の落ち込み部分が古手の別遺構の可能性も残る。

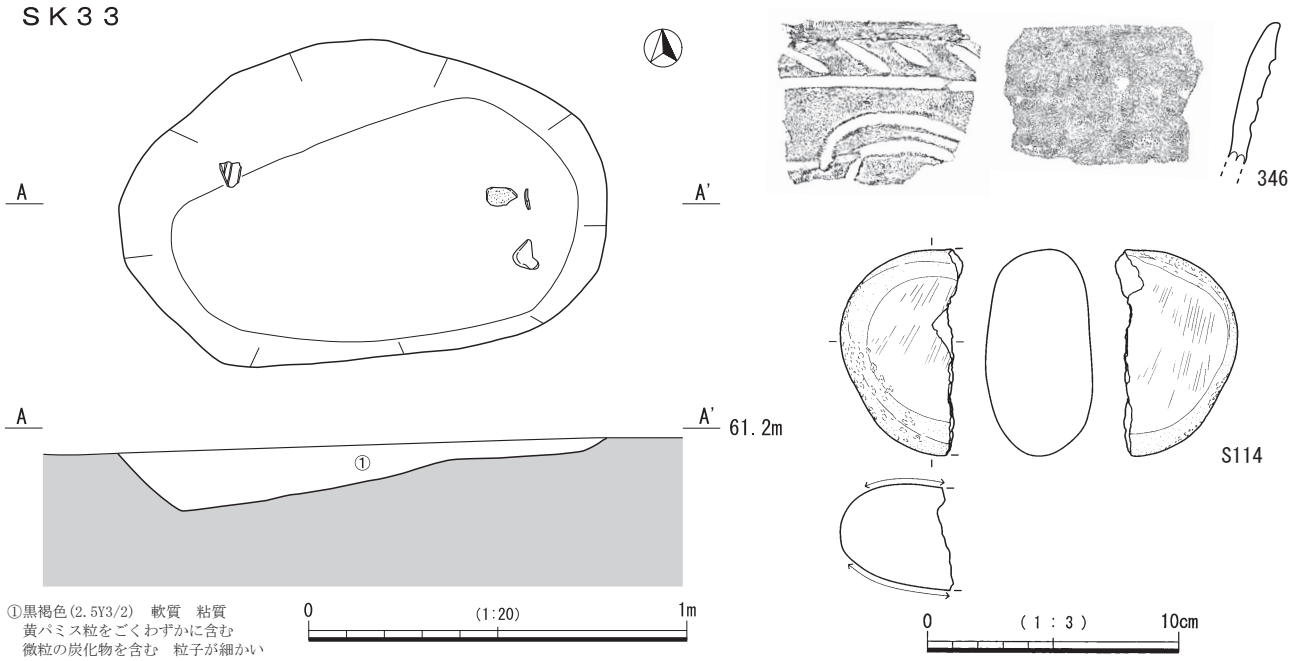
分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，にぶい黄褐色土・暗褐色土の２枚である。池田降下軽石・石粒や炭化物を含み，やや硬質である。



第122図　土坑32号と出土遺物



第123図　土坑33号と出土遺物

出土遺物

350は底部片で，接地面近くが外側に小さく張り出す。やや上げ底気味である。裏に白色付着物がみられる。底面中央部は網代をナデ消す。

土坑40号（第128図）

検出状況

SK40は，Ｆ-10区のⅧ層で検出された。長軸は0.55m，短軸0.45m，深さ12cm，推定面積は0.16㎡を測る。楕円率0.82の円形である。西側はトレンチによって削平される。図化はしていないが，石皿片が数点まとまって出土した。形態，石材，被熱の有無等の特徴は不明である。石皿片の集積の可能性が残る。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，黒褐色土単層である。

土坑41号（第129図）

検出状況

SK41は，Ｃ-11区のⅤ層で検出された。長軸は1.18m，短軸0.66m，深さ21cm，推定面積は0.64㎡を測る。平面形は楕円率0.56の楕円である。長軸はほぼ南北方向に沿う。埋土から石皿片が北側に１点，南側に数点が分散する形で出土した。南側の大きな破片２点（S120，S121）は立った状態で出土している。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，暗褐色土単層である。微粒の黄色パミスと白色パミスと炭化物を含むやや軟質の砂質土である。

出土遺物

S120～S122は花崗岩製の石皿片である。全体的な形状が不明なためⅥ類とした。S120・S121は上半分の大部分が残存する。S120は中央部分が凹み，磨面のカーブがやや緩い。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S120は残存デンプン粒分析によって磨面以外の部分から四角形状のデンプン粒子を検出し，球根類の可能性が示唆される。S121は中央付近が明瞭に凹み，凹みの中央部分には敲打痕がみられる。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S122は中央付近に浅い凹みをつくり，Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S121とS122とは同一個体の可能性もあるが，風化による剥落が著しいため接合点が不明瞭で，断定はできなかった。出土地点や，石皿の石材および検立状況から石皿立石遺構に関連する遺構の可能性もある。

土坑42号（第130図）

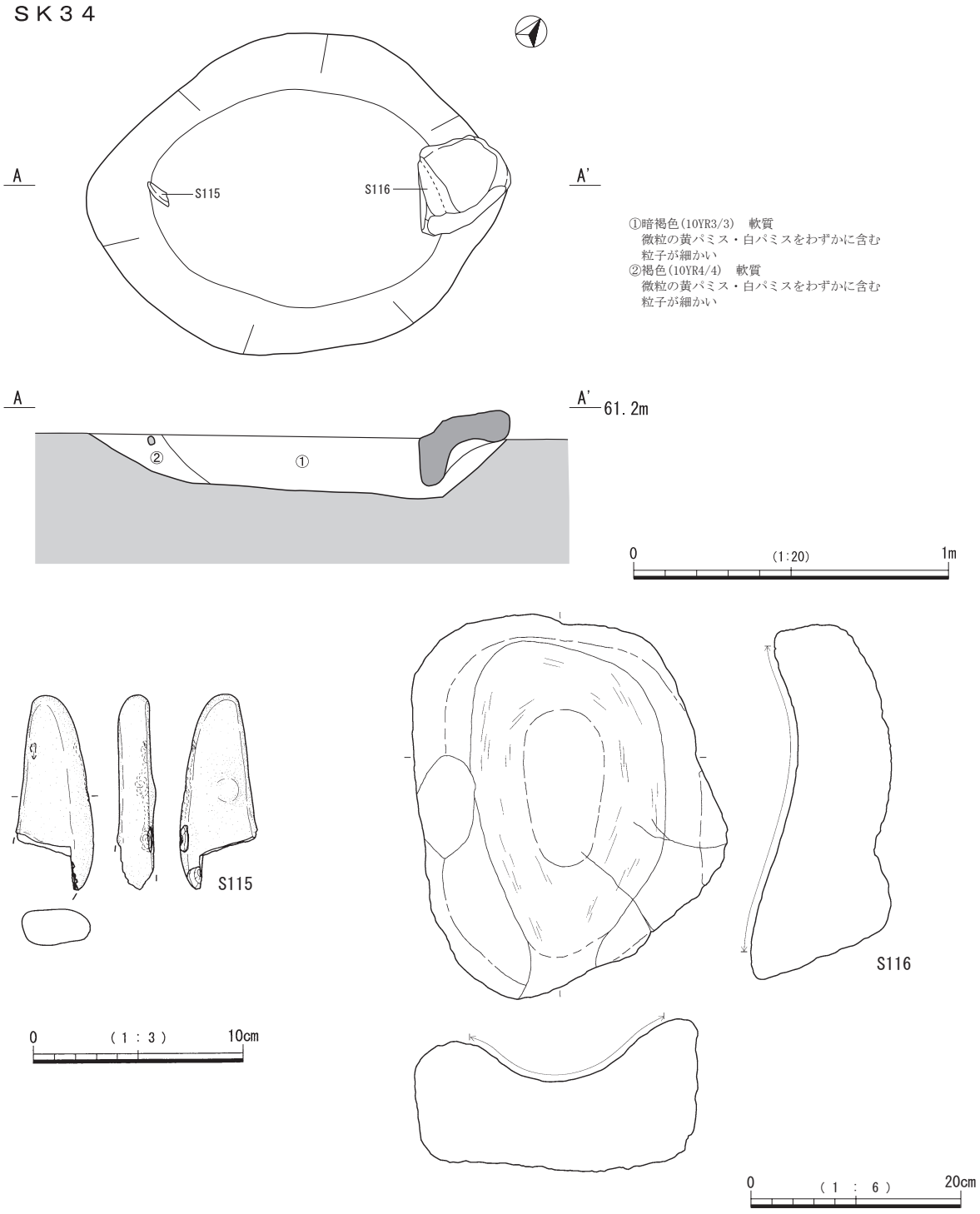
検出状況

SK42は，Ｅ-11区のⅣa層で検出された。長軸は0.67m，短軸0.54m，深さ32cm，推定面積は0.28㎡を測る。平面形は楕円率0.81の円形で，底面は平坦である。底面からの立ち上がりは明瞭で，壁面はほぼ垂直に掘り込まれる。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，にぶい黄褐色土単層である。白色パミスの細



第124図　土坑34号と出土遺物

粒を含むやや軟質土である。炭化物の出土はない。

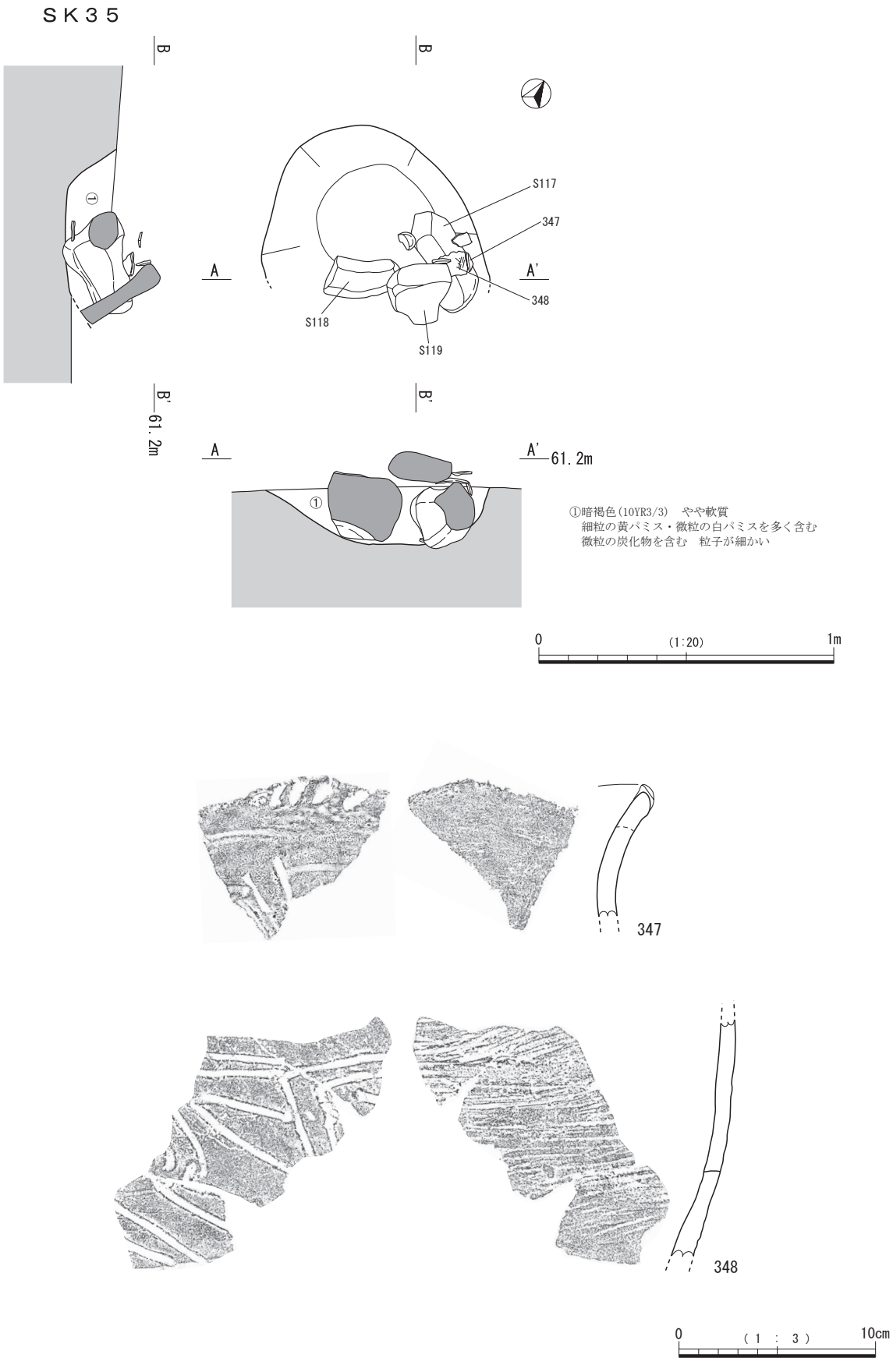
出土遺物

S123は安山岩Ｂ類製の磨・敲石片で，Ⅵ類である。磨り面は判然とせず，所々を敲打に使用する。

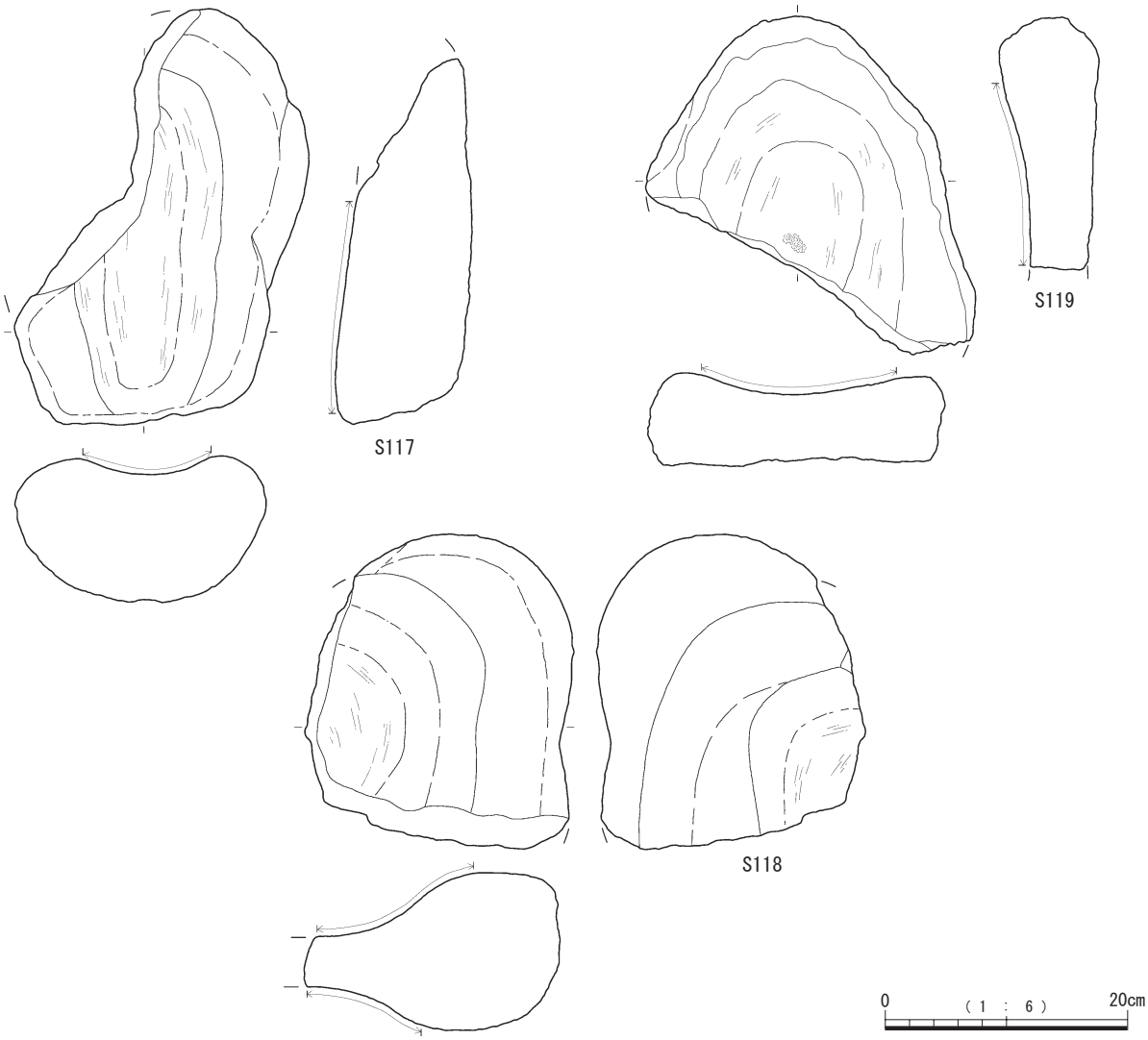
土坑43号（第130図）

検出状況

SK43は，Ｂ-12区のⅣb層で検出された。長軸は1.52m，短軸0.86＋αm，深さ40cmを測る。南側半分は調査区外にある。古墳時代の土器集中２の掘り込みに切られている。



第125図　土坑35号と出土遺物（１）



第126図　土坑35号出土遺物（２）

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は，にぶい黄褐色・褐色の２枚である。池田降下軽石，橙色パミスの微粒，アカホヤ火山灰土塊や微粒の炭化物を含むやや粗い粒子のやや砂質土である。

土坑44号（第130図）

検出状況

SK44は，F-12区のⅧ層で検出された。長軸は0.84m，短軸0.79m，深さ7㎝，推定面積は0.50㎡を測る。平面形は楕円率0.94の円形である。掘り込みの形態は，ごく浅いレンズ状である。石皿が１点正面を上に向けて，床面からやや浮いた状態で出土した。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，黒褐色土単層で，白パミス，黄パミスや微粒の炭化物を含む粒子の粗い硬質の火山灰質土である。

出土遺物

S124は花崗岩製の石皿Ⅳ類（台石）で，方形を呈すると推測され，板状の形態である。磨面は凹みをつくらず面状に抜ける。中央部分に敲打痕がわずかに残る。被熱による列痕がみられる。

土坑45号（第131図）

検出状況

SK45は，B-13区のⅣb層で検出された。長軸は0.92m，短軸0.63m，深さ23㎝，推定面積は0.45㎡を測る。平面形は楕円率0.68の楕円形である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，暗褐色・褐色の２枚で，白色・黄色パミスの細粒を含み，アカホヤ火山灰が混じるやや粘質土である。

出土遺物

351・352は深鉢の口縁部片である。351の口縁部は緩く外反しながら開き，口縁部外面最上位に肥厚帯を形成する。肥厚帯外面には平行沈線を巡らせ平行沈線間に連続刺突を施す。口縁端部を欠損する。胴部上位には指頭による短い凹線を縦位に連続して巡らせる。そのすぐ下に平行な凹線文を曲線的に施し，沈線間に連続刺突を施した部分もみられる。Ⅷa類と考えられる。352は口縁部の両端を突出させ，口唇部に明瞭な平坦面を形成し，貝殻腹縁刺突文をハの字状に施す。口唇部の文様帯はわずかに外傾する。胴部は無文で貝殻条痕により調整される。Ⅸb類と考えられる。

土坑46号（第131図）

検出状況

SK46は，C−14区のⅣb層で検出された。長軸は0.72m，短軸0.48m，深さ16㎝，推定面積は0.27㎡を測る。平面形は楕円率0.67の楕円形である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，にぶい黄褐色土単層である。橙色パミス，白色パミスや炭化物を含む軟質の砂質土である。

出土遺物

353は上胴部片である。口縁部はややすぼまりながら立ち上がり，端部で小さく外反する。口唇部に凹線を持つ。横位の平行沈線を基調とした文様を描くと推測され，残存部下端に何らかのモチーフの端が残存する。胎土に金色の雲母を多く含む。

S125は砂岩製の使用痕剥片である。母岩から１回の打撃により薄く剥ぎ，自然の形状を活かし，主に右側縁部に簡単な加工を施してバチ状の形態に成形する。主に下面側を使用したと考えられるが，使用の痕跡は薄い。

土坑47号（第132図）

検出状況

SK47は，C−15区のⅣa層で検出された。長軸は0.82m，短軸0.51m，深さ25㎝，推定面積は0.35㎡を測る。平面形は楕円率0.62の楕円である。遺物は上層から中層にかけて土器の小片，石器が散在する。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，黒褐色土２枚・暗褐色土２枚・褐色土の計５枚である。橙色・白色パミス細粒や炭化物を含む土である。

出土遺物

354は波状口縁を呈し，口縁部は端部近くで外反する。波頂部を指頭によって円形に凹ませ，口唇部には凹線を巡らせる。外面屈曲部以上に棒状工具による沈線と連続刺突による文様帯を有し，屈曲部あたりにも平行沈線を巡らせ，沈線間に連続刺突を施す。波頂部直下に多重の菱形状のモチーフを描く。Ⅷa類としたが，施文法としてはⅦb類の特徴も併せもつ。355は胴部片で凹線の間に縦位の貝殻腹縁刺突を等間隔に施していると推測される。貝殻腹縁刺突文の下には器面を調整する際についた貝殻条痕をナデ消さずに残す。Ⅶb類と考えられる。356・357は底部で，356は底面に網代痕が残る小片である。357は接地面近くが外側に張り出す形態で，胴部に向かって直線的に開くと推測される。底面は丁寧なナデ調整で平坦に仕上げられる。

土坑48号（第133図）

検出状況

SK48は，C・D−15区のⅣb層で検出された。長軸は1.58m，短軸0.90m，深さ15㎝，推定面積は1.11㎡を測る。平面形は楕円率0.57の楕円である。底面は北側に向かってやや下るがほぼ平坦である。長軸がほぼ南北に沿う。遺物は上層から中層にかけて土器の小片，石器が散在する。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，暗褐色土１枚である。池田降下軽石の細粒・微粒の白色パミスと炭化物を含む硬質のやや火山灰質土である。

出土遺物

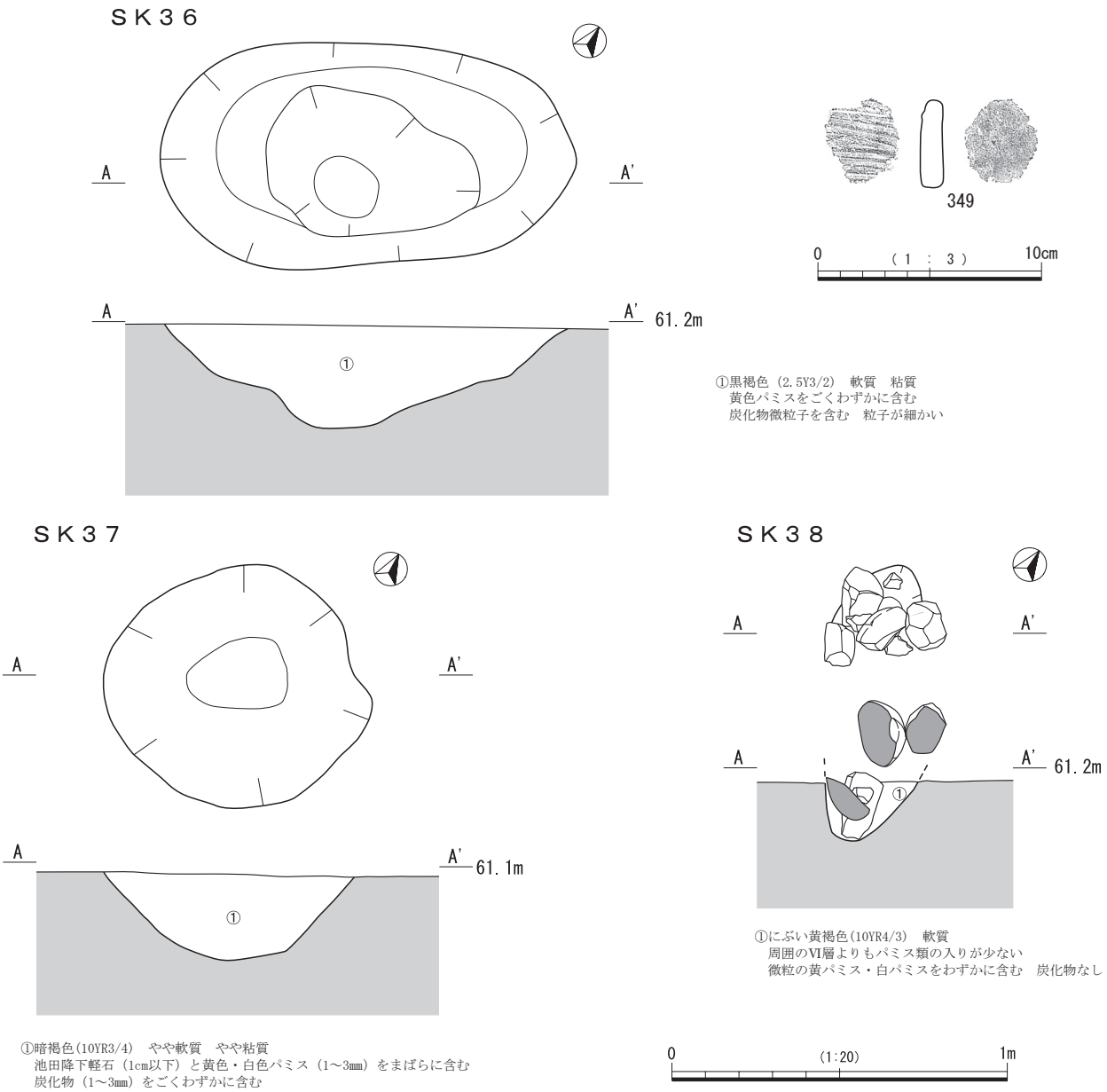
358は口縁部片で，器壁はわずかに外傾しながら直線的に立ち上がる。口縁部内面最上位に沈線と半月状の連続刺突による文様帯を巡らせると推測される。胎土には金色の雲母が多量に混入する。Ⅸa類と推測される。359・360・362は胴部片である。文様を描く線の太さや始点・終点の描き方，想定される文様のパターンから359はⅥ類，360はⅦb類，362はⅧ類に該当すると推測する。361は底面の破片で割り裂き材を使った網代の痕跡が残る。363は厚みのある底部で，底面のほぼ全体が残存する。ごく低い高台を有する上げ底であるといえる。底面は網代の痕をナデ消し，白色付着物がみられる。種子様の圧痕が残るが植物の種類は不明である。364は胴部を用いた円盤状土製加工品で，内外面に平行沈線の一部が確認できる。Ⅷ類と考えられる。

S126はホルンフェルス製の石錘Ⅰa類である。両極打撃によって紐がかりの抉りを作り出した後で角を潰している。

土坑49号（第134図）

検出状況

SK49は，D−15区のⅣb層で検出された。長軸は1.70m，短軸1.20m，深さ42㎝，推定面積は1.60㎡を測る。平面



第127図　土坑36～38号と土坑36号出土遺物

形は楕円率0.70の楕円である。長軸はほぼ南北に沿い，北側がピット状に落ち込む。遺物は主に底面から出土した。

分類：タイプⅡ

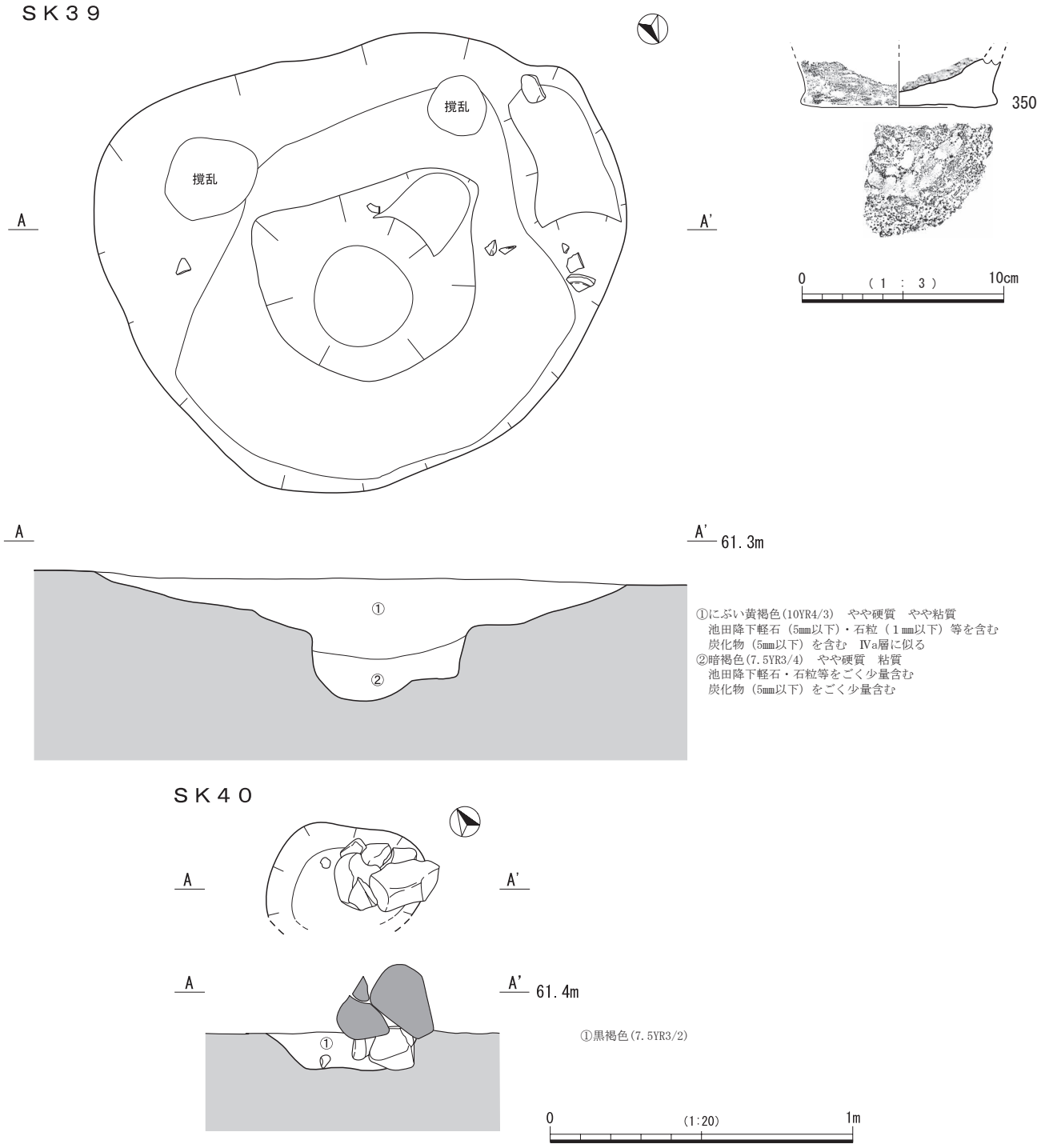
埋土

埋土は，暗褐色土１枚である。池田降下軽石の細粒・白色パミスや微粒の炭化物を含む，硬質のやや火山灰質土である。

出土遺物

365・366は深鉢の口縁部片で，ともにやや内湾する。施文具や文様を描く線の太さ，文様パターンの特徴から365はⅥb類，366はⅥc類に該当すると判断した。367は胴部片で平行な凹線の間に縄文を回転させて施文する。Ⅶa類と考えられる。368は底部片で，底面の網代痕をナデ消す。369は胴部片を使用した円盤状土製品加工で，Ⅵb類と考えられる。

S127はホルンフェルス製の剥片で，主に上面と下面に階段状の剥離がみられる。正面は研磨されるため，磨製石斧の破片を楔型石器として転用したと推測される。楔としては主に上面を上にして使用したことが窺える。S128は頁岩製の使用痕剥片である。下辺に使用による微細剥離がみられ摩耗する。



第128図　土坑39・40号と土坑39号出土遺物

土坑50号（第135～137図）

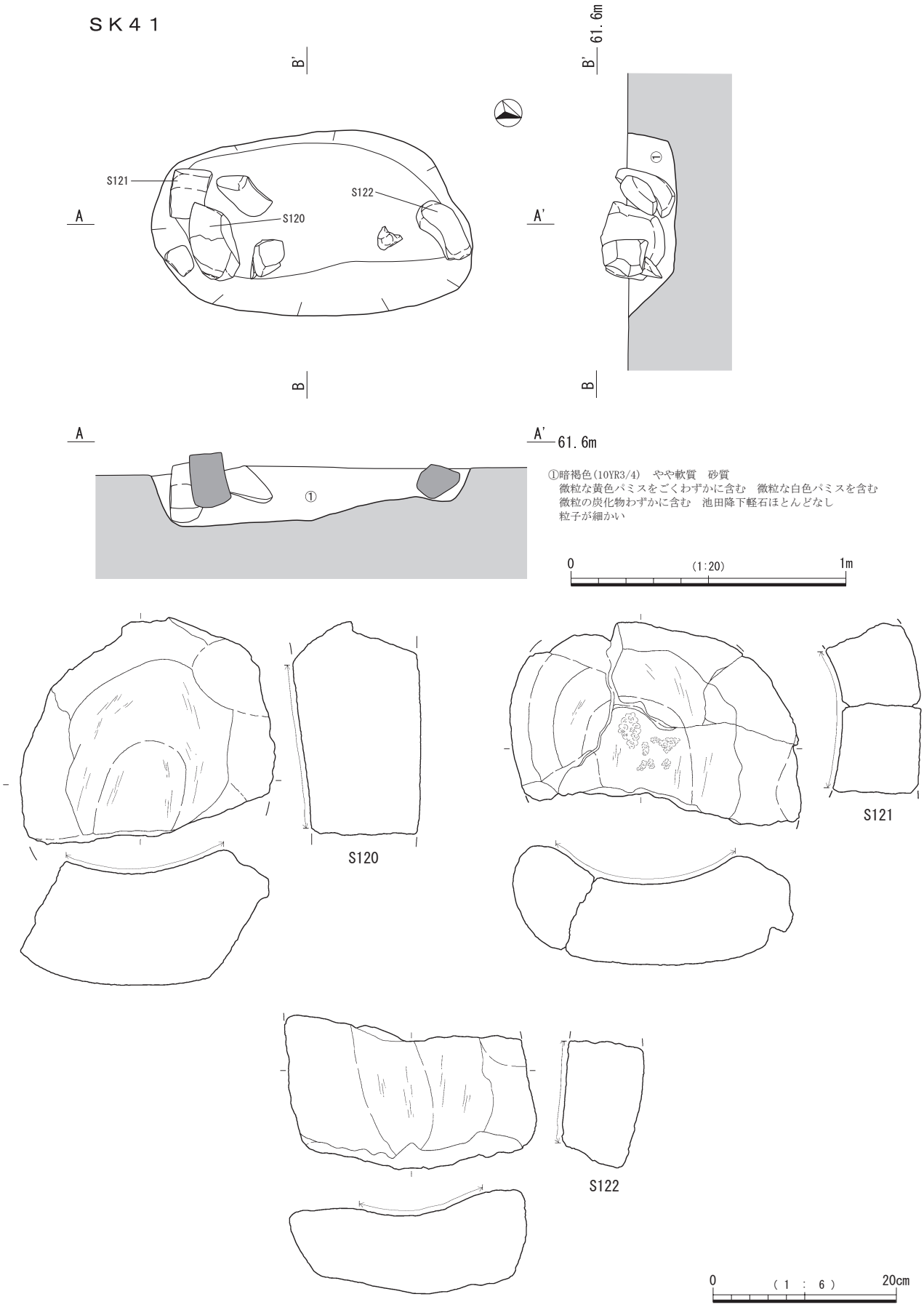
検出状況

SK50は，B-16区のⅣb層で検出された。長軸は1.51m，短軸1.45m，深さ55㎝，推定面積は1.81㎡を測る。平面形は楕円率0.96の円形である。遺物は上層から中層にかけ土器片や円盤状土製加工品が出土する。埋土の下層はややブロック状に堆積し，埋土のそれぞれの特徴も様々である。人為的に埋め戻された可能性も考えられる。

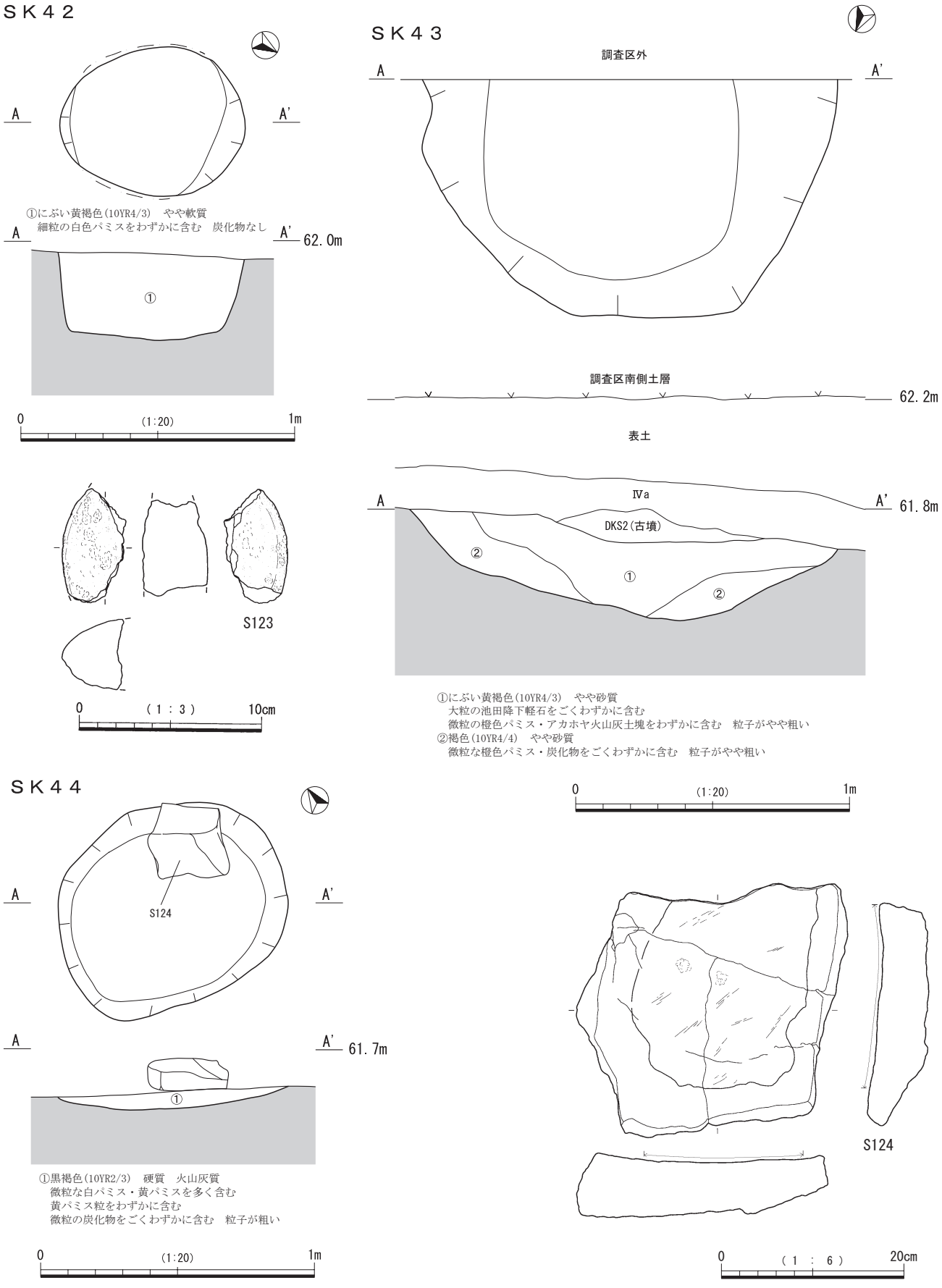
分類：タイプⅢ

埋土

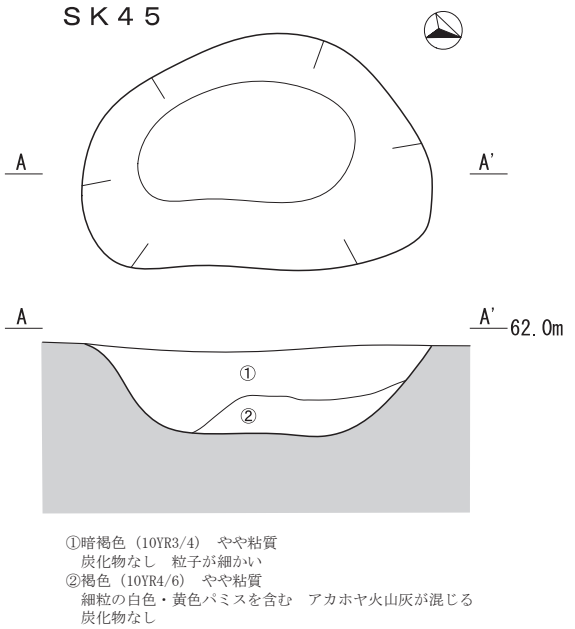
埋土は，暗褐色土６枚・黄褐色土２枚・褐色土２枚・灰黄褐色土の計11枚である。池田降下軽石･白色パミス･アカホヤ火山灰や炭化物などを含むが，Ⅳb層土を主体とする。



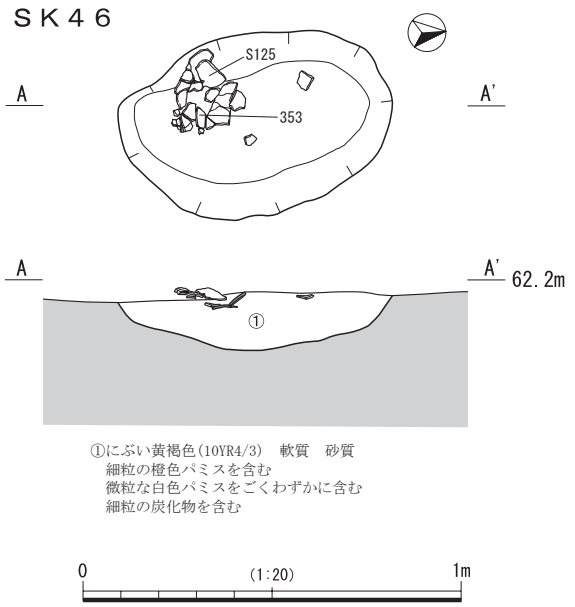
第129図　土坑41号と出土遺物

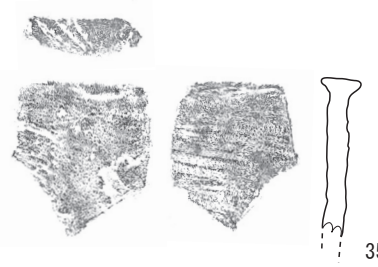


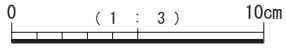
第130図　土坑42～44号と土坑42・44号出土遺物

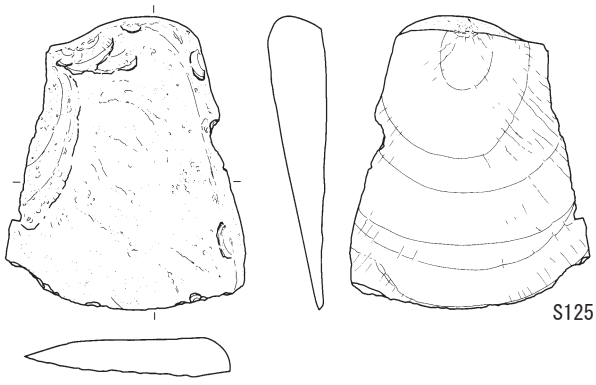


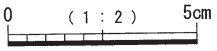
①暗褐色（10YR3/4）　やや粘質
　炭化物なし　粒子が細かい
②褐色（10YR4/6）　やや粘質
　細粒の白色・黄色パミスを含む　アカホヤ火山灰が混じる
　炭化物なし

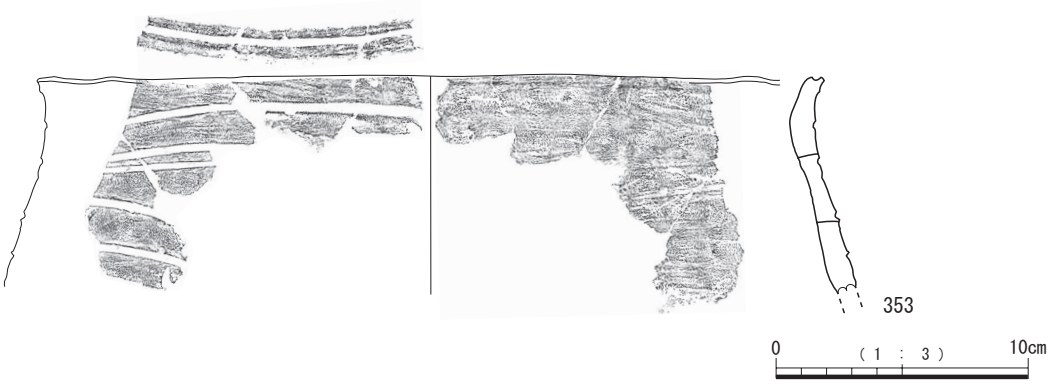




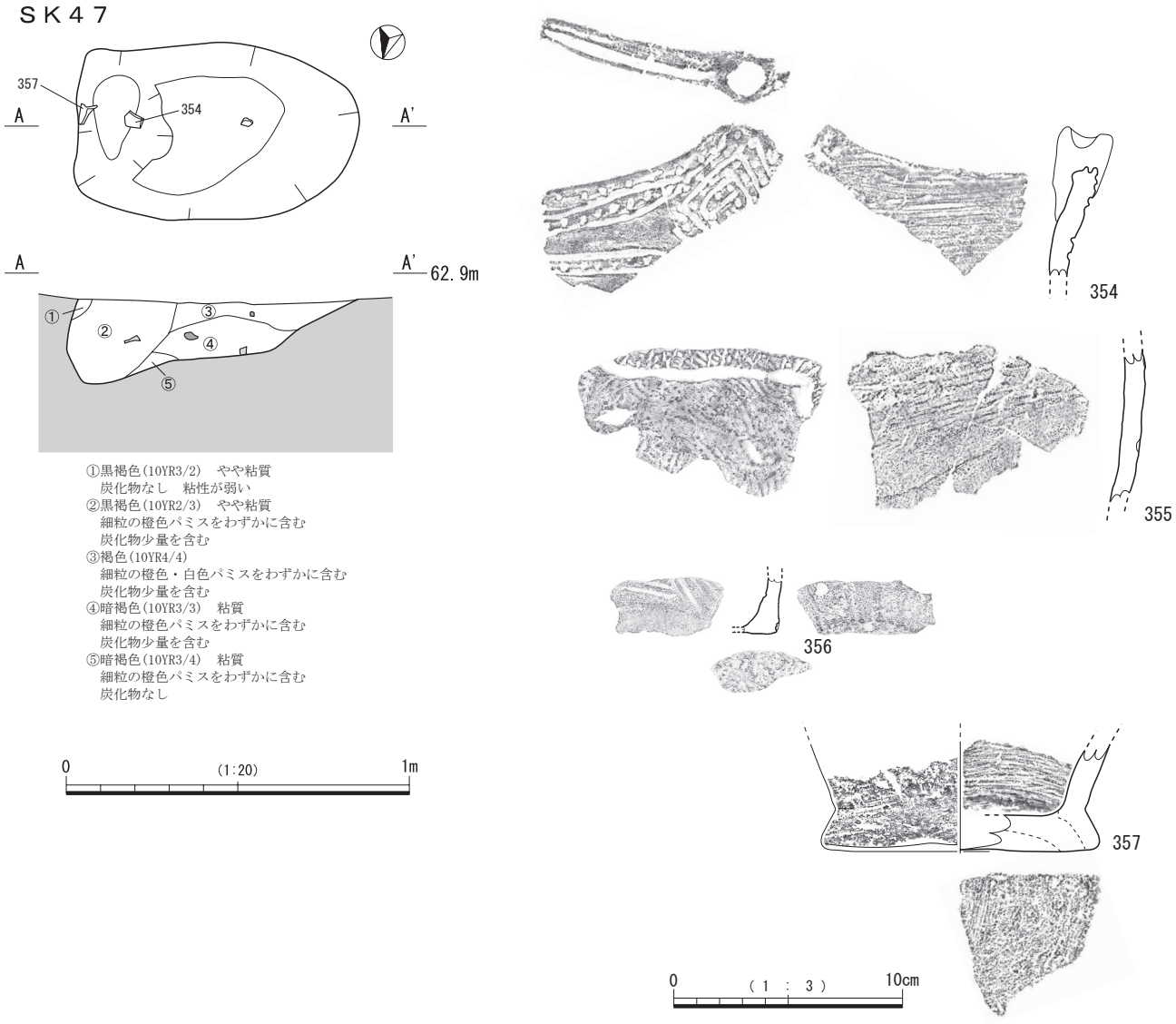








第131図　土坑45・46号と出土遺物

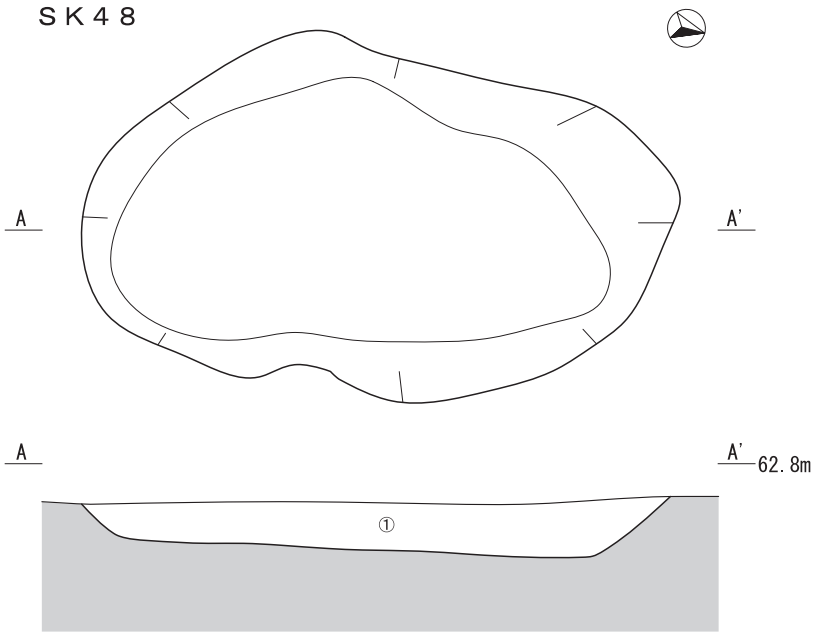


第132図　土坑47号と出土遺物

出土遺物

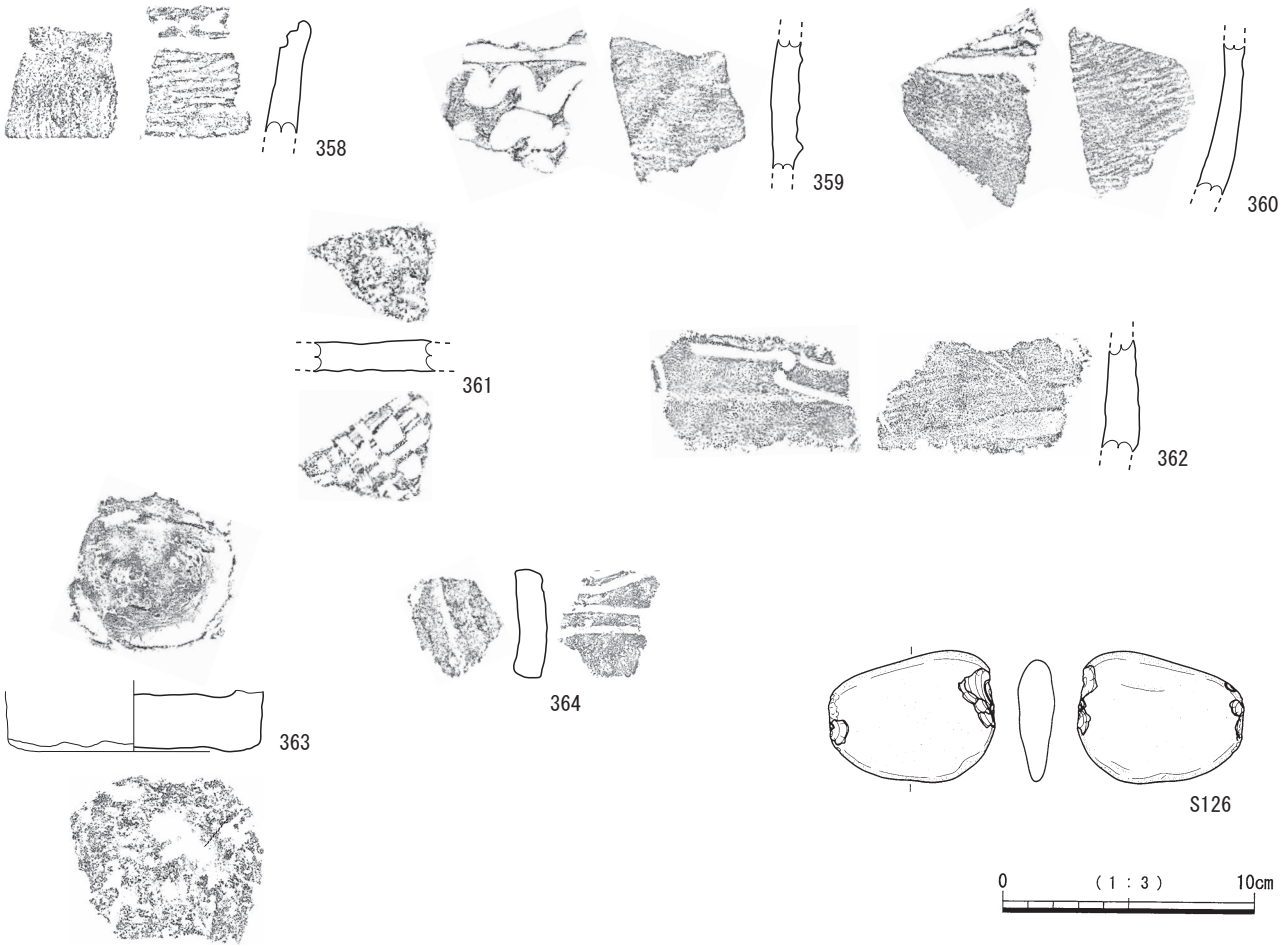
370～374は口縁部片である。370は平坦口縁で，胴部の器壁は直線的に立ち上がり，口縁端部でわずかに内湾する。口唇部外面最上位に粘土紐を貼り付けて肥厚帯を形成し，その上に大きな円形の刺突を連続させる。施文具は貝殻の背面である可能性もある。胴部内外面は無文である。Ⅵ類の範疇と考えられる。372は口縁端部を断面三角形状に肥厚させ，肥厚帯外面に細い沈線を巡らせる。頸部屈曲部に指頭によって縦長の楕円形の刺突文を連続させると推測され，その下にも横位の沈線を施す。373は口縁部外面を明瞭に肥厚させて口唇部をやや内傾させる。口縁端部の稜は丸みを帯びる。374は外反しながら大きく開き，口縁部最上位の外面を肥厚させて肥厚帯に平行沈線文を巡らせる。372～374はⅧa類の範疇と考えられる。371は頸部に鎖様のモチーフを横位に連続させ，線の連結部分を入り組ませる。口唇部には平坦面を形成し凹線を巡らせる。Ⅷc類と考えられる。375・376は口縁部を「く」の字状に外反させて口唇部平坦面を形成し，平坦面に平行沈線や連点文による文様帯を形成する。375は波状口縁を呈し，口唇部文様帯の幅が広い。波頂部外面には成形時の粘土の接合痕が残る。376は平坦口縁で，口縁端部の外面側にも平坦面を作り，貝殻腹縁による刻目を連続させる。胴部上位に３本単位の平行沈線文による文様帯を有し，文様の一部に円形のモチーフを描く。ともにⅨa類と考えられる。

377～380は胴部片である。文様の特徴から377はⅥb類で，378はⅥ類またはⅧ類と考えられる。380は下胴部まで残存し，胴部があまり張り出さず，底部に向かって緩やかにすぼまる器形で，内外面ともに丁寧にナデて仕上げられる。胴部内面に種子様の圧痕が確認される。



①暗褐色（10YR3/4）　硬質　やや火山灰質
　細粒の池田降下軽石・微粒な白色パミスを含む
　微粒の炭化物をわずかに含む

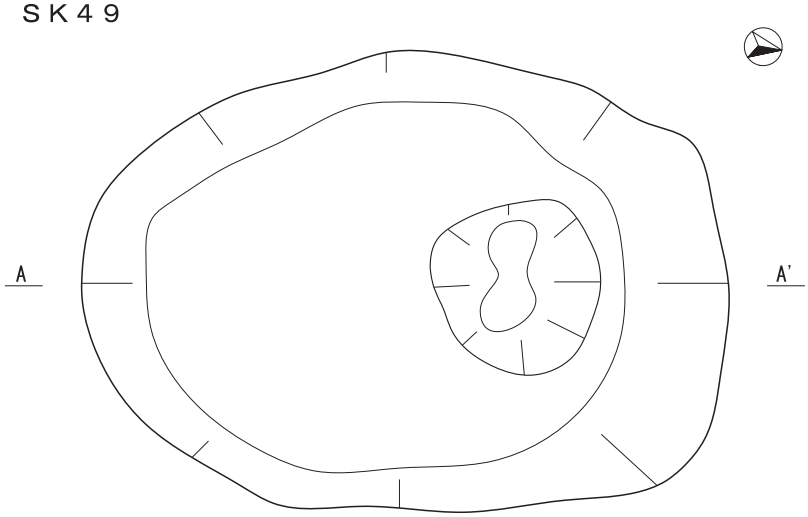
0　(1:20)　1m

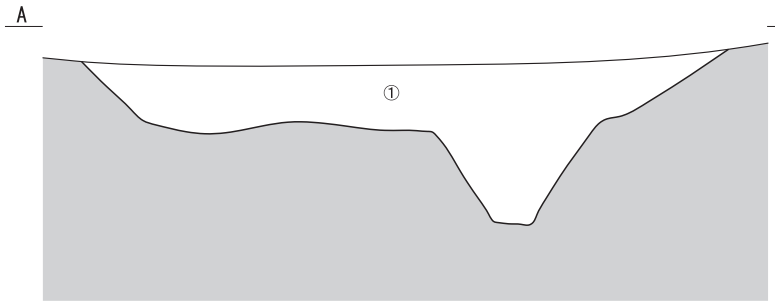


0　(1:3)　10cm

第133図　土坑48号と出土遺物

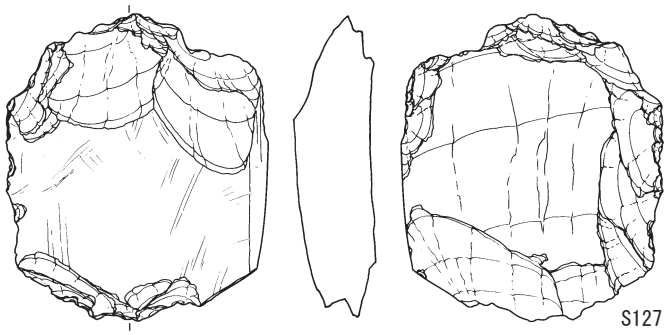
ＳＫ４９

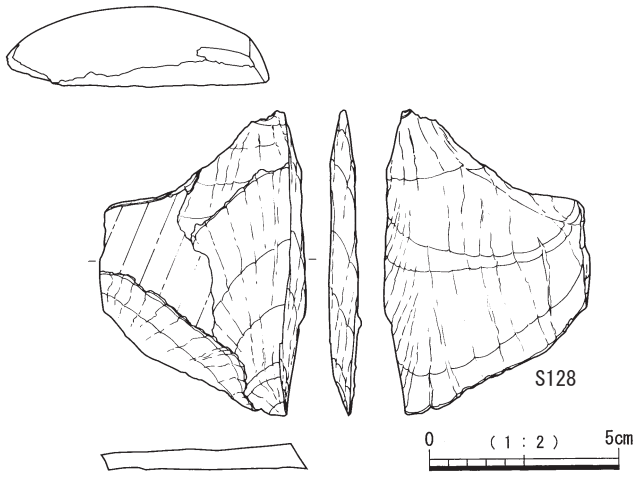




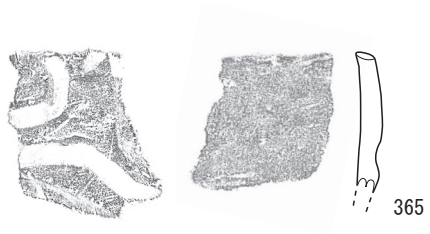
①暗褐色（10YR3/4）　硬質　やや火山灰質
　池田降下軽石の細粒・微粒の白色パミスを含む
　微粒の炭化物をわずかに含む

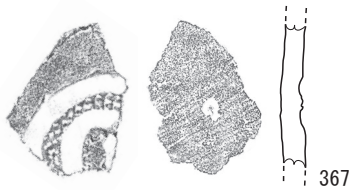
0　(1:20)　1m

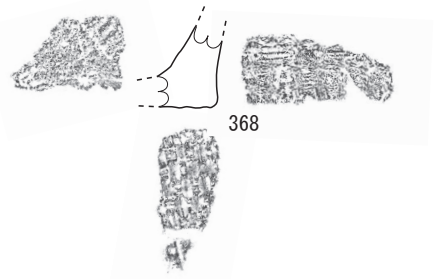


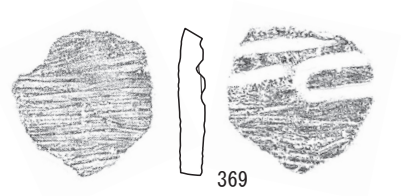


0　(1:2)　5cm





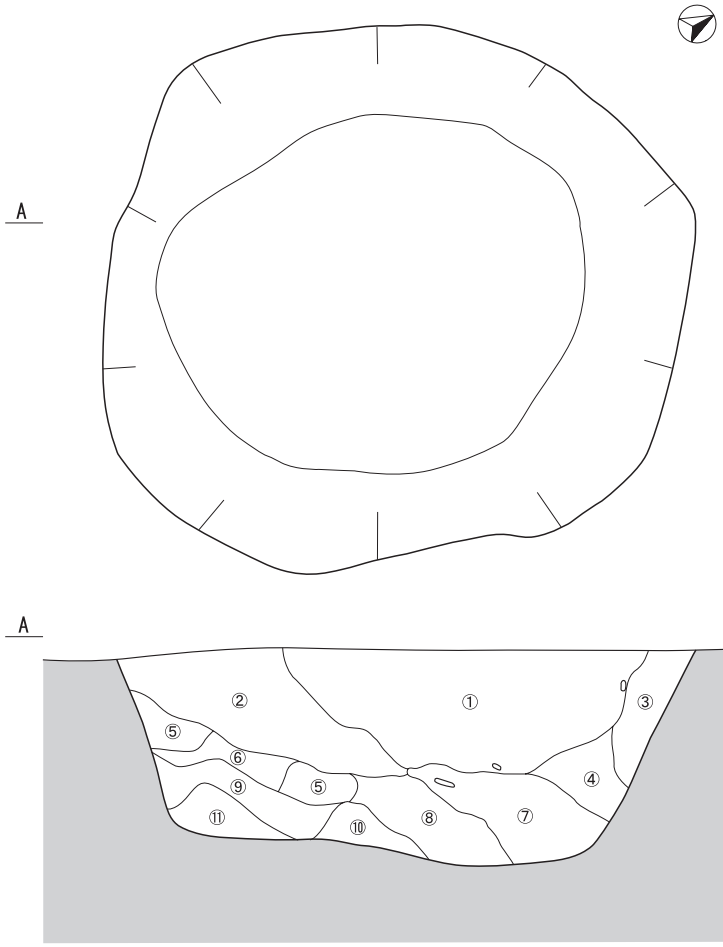




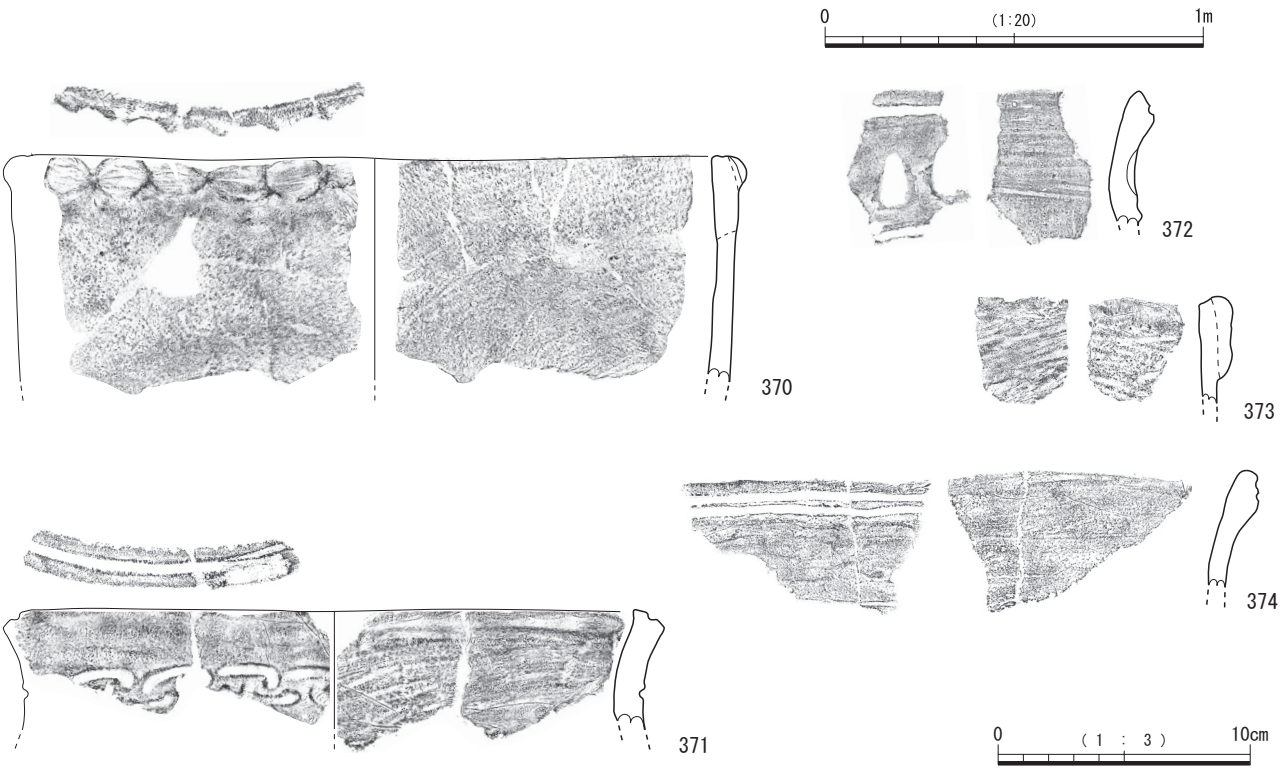
0　(1:3)　10cm

第134図　土坑49号と出土遺物

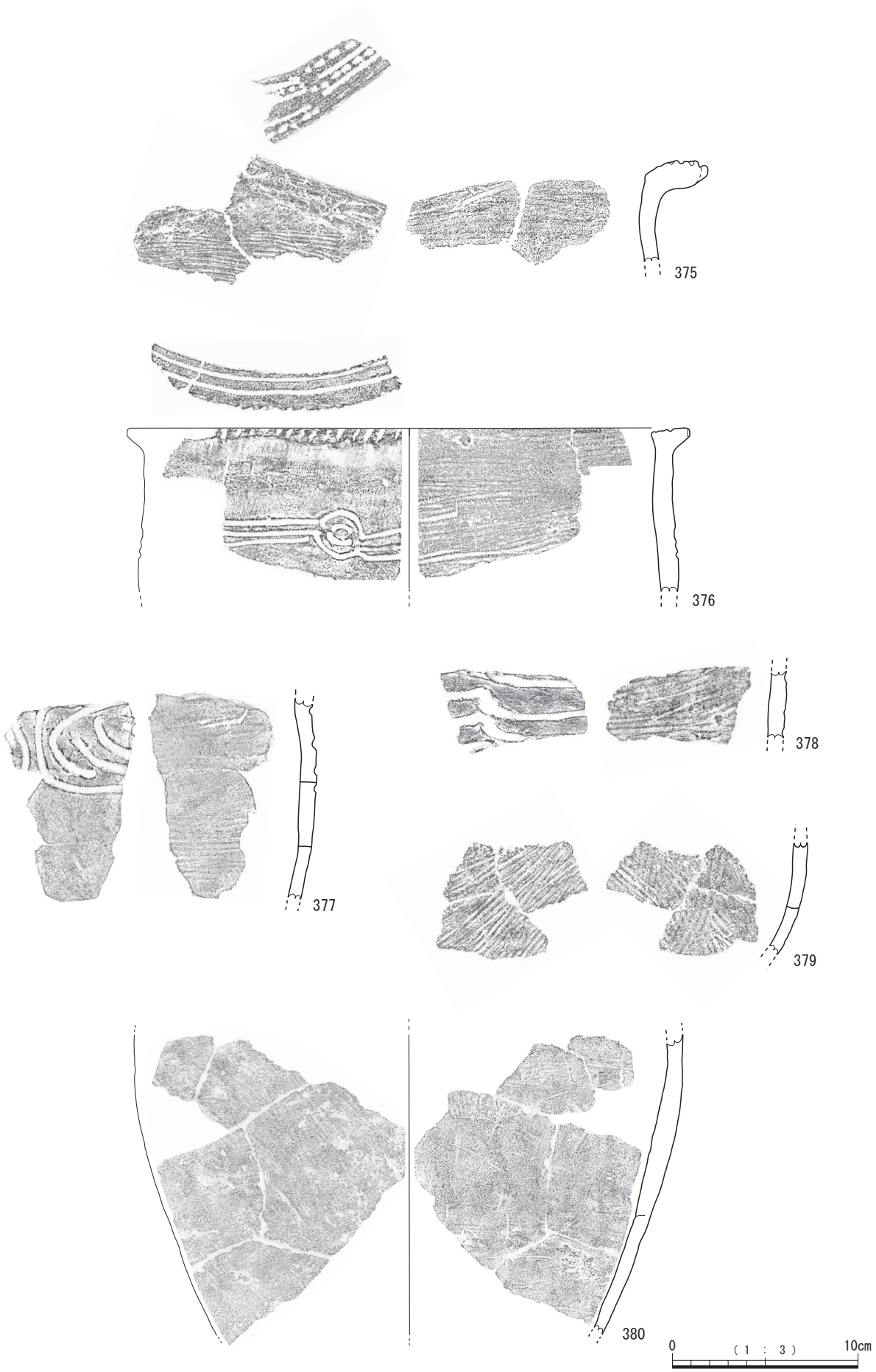
ＳＫ５０



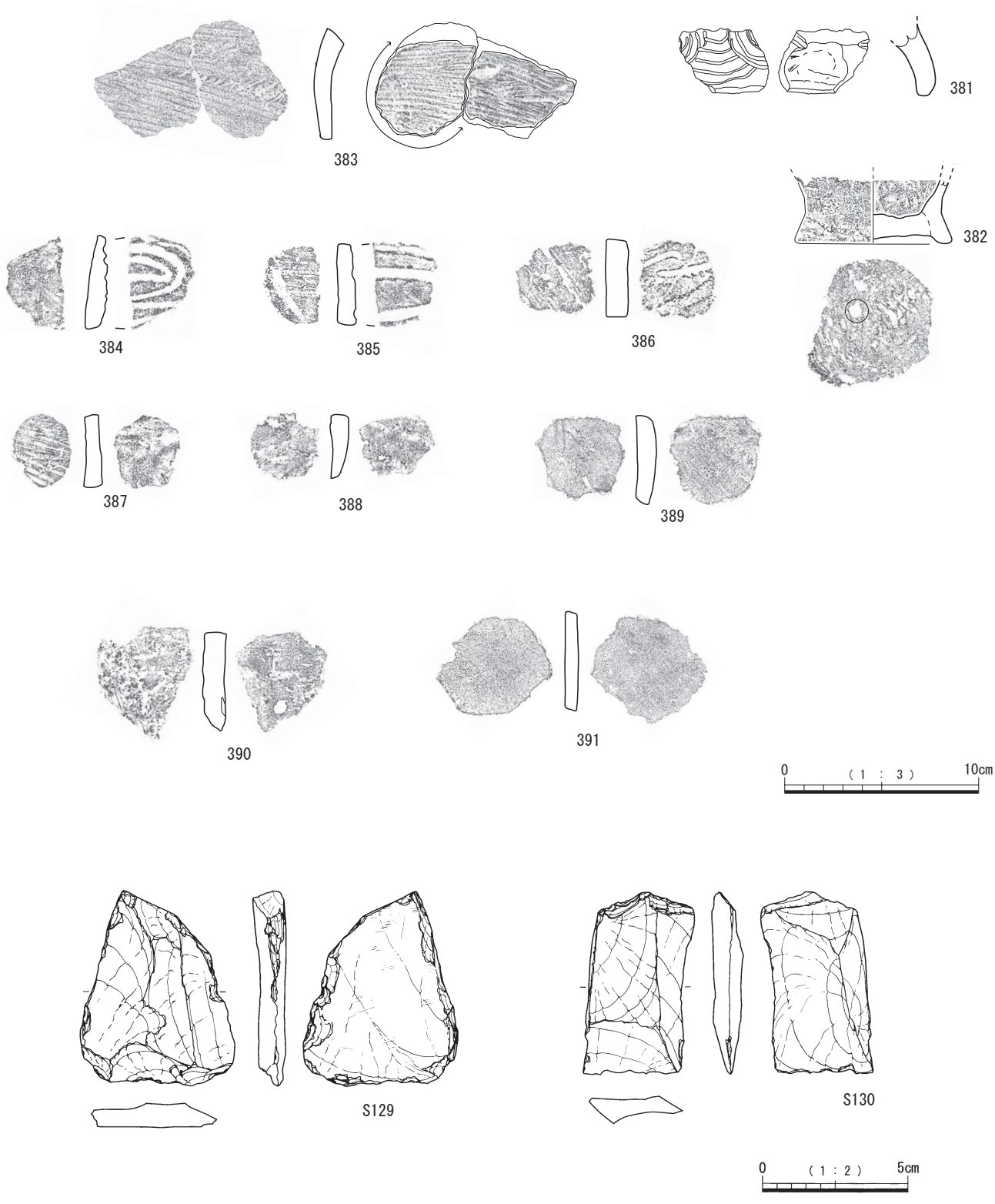
①暗褐色(10YR3/4)　硬質　やや粘質
　池田降下軽石・微粒な白色パミスを多く含む
　微粒の炭化物を含む　粒子は粗い
②暗褐色(10YR3/4)　硬質
　池田降下軽石、白色パミスの量を含む
　炭化物の細粒を多く含む
　Ⅳb層土がモザイク状に混じる
③黄褐色(10YR5/6)　火山灰質
　アカホヤ火山灰を含む　炭化物粒を含む
④褐色(10YR4/4)　やや砂質
　池田降下軽石含む
　アカホヤパミスわずかに含む
　白色パミスなし
⑤黄褐色(10YR5/8)
　アカホヤ火山灰の塊が①②などの埋土に混じる
⑥暗褐色(10YR3/4)　硬質　やや粘質
　池田降下軽石・白色パミスをわずかに含む
　細粒の炭化物を多く含む
⑦暗褐色(10YR3/4)　硬質　粘質
　池田降下軽石・白色パミスをわずかに含む
　炭化物の細粒を多く含む
　Ⅵ層がブロック状に混じる
⑧暗褐色(10YR3/4)　粘質
　池田降下軽石・白色パミスはごくわずかに含む
　炭化物の細粒わずかに含む
⑨褐色(10YR4/4)
　微粒の白色パミス含む
　アカホヤ火山灰とⅣb層の混合土
⑩暗褐色(10YR3/4)　粘質
　パミス・炭化物なし　粒子が細かい
⑪灰黄褐色(10YR4/2)　粘質
　アカホヤ火山灰・Ⅳb層・Ⅵ層の混合土



第135図　土坑50号と出土遺物（１）



第136図　土坑50号出土遺物（2）



第137図　土坑50号出土遺物（３）

383～391は胴部を用いた円盤状土製加工品である。383は２点の接合資料で，無文の頸部片から割り取った土器片の一部を加工した資料である。有文の384・385には凹線・沈線による文様が描かれるが小片のため詳細は不明である。Ⅵ類ないしはⅧ類の時期のものと判断される。390の外面には種子様の圧痕がみられる。381は外面に細沈線による多重の曲線文を描いた脚片である。文様の特徴からⅧ類と推測する。382は低い高台をもつ底部で，接地面近くでくびれを形成する。底面は網代痕をナデ消し，種子様の圧痕がみられる。

S129は頁岩Ｂ類製の打製石斧Ⅳ類を欠損後に二次的に加工・使用したと推測されるものである。裏面には打製石斧としての使用の際についたと考えられる擦痕が観察でき，表面の稜線には摩耗がみられる。着装や使用によるものと考える。S130は頁岩Ｂ類製の使用痕剥片である。上面には階段状の剥離がみられ，下面に微細な剥離痕が確認される。楔として使用された可能性もある。

土坑51号（第138図）

検出状況

SK51は，Ｃ-22区のⅤ層で検出された。長軸は1.10m，短軸1.08m，深さ40㎝，推定面積は0.96㎡を測る。平面形は楕円率0.98の円形である。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，黒褐色土１枚である。池田降下軽石の細粒・白色・橙色パミスや炭化物を含み，粒子がやや粗い。

土坑52号（第138図）

検出状況

SK52は，Ｂ-24区のⅤ層で検出された。長軸は0.47＋αm，短軸0.57m，深さ63㎝を測る。西側のSK53を削平する。SK52・53の南半分は調査区区外であり遺構の全体形は不明である。

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は，暗褐色土・黒褐色土の２枚である。池田降下軽石・黄色パミスと炭化物を含む。やや硬質の粘質土である。

土坑53号（第138図）

検出状況

SK53は，Ｂ-24区のⅤ層で検出された。長軸は0.70＋αm，短軸0.22＋αm，深さ45㎝を測る。東部をSK52によって切られる。

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は，暗褐色土単層である。池田降下軽石と炭化物を含む土である。

土坑54号（第139図）

検出状況

SK54は，Ｆ-25区のⅣb層で検出された。長軸は1.62m，短軸1.07m，深さ36㎝，推定面積は1.43㎡を測る。平面形は楕円率0.66の楕円形である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は，暗褐色土２枚である。池田降下軽石，橙色パミスや炭化物を含む硬質の粘質土である。

出土遺物

S131は頁岩製の石鏃Ⅱ類で二等辺三角形鏃である。体部はやや縦長の形態で，右脚部を欠損する。左右両側縁の刃部は直線的に成形され，そのほぼ中央に小さな突起が作出され，側縁に角を持つロケット状の形態の五角形鏃の可能性もある。

土坑55号（第139図）

検出状況

SK55は，Ｄ-26区のⅣb層で検出された。長軸は0.74m，短軸0.34＋αm，深さ24㎝を測る。西側をトレンチによって削平される。

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は，暗褐色土単層である。池田降下軽石，黄色パミスや炭化物を含む硬質のやや粘質土である。

土坑56号（第139図）

検出状況

SK56は，Ｃ-27区のⅣb層で検出された。長軸は1.00m，短軸0.70m，深さ29㎝，推定面積は0.53㎡を測る。平面形は楕円率0.70の楕円で，掘り込みはレンズ状の形態である。土坑の中央部分は後世の攪乱を受ける。

分類：タイプⅡ

埋土

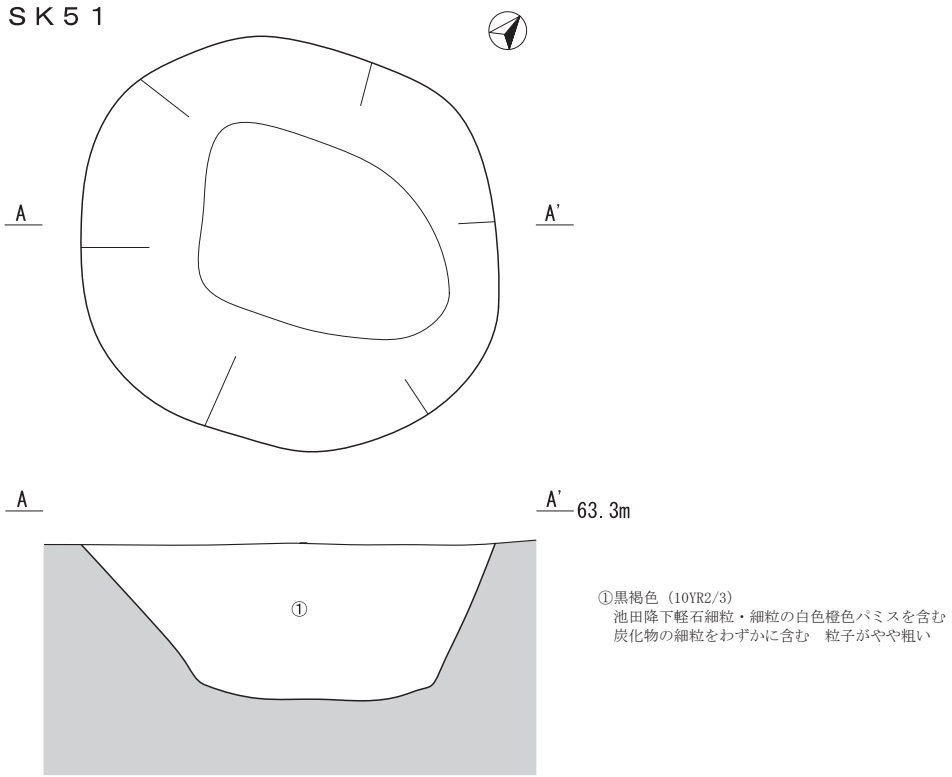
埋土は，暗褐色１枚である。池田降下軽石，白色パミス・黄色パミスと炭化物を含む。Ⅳb層土が混じるやや硬質の粘質土である。

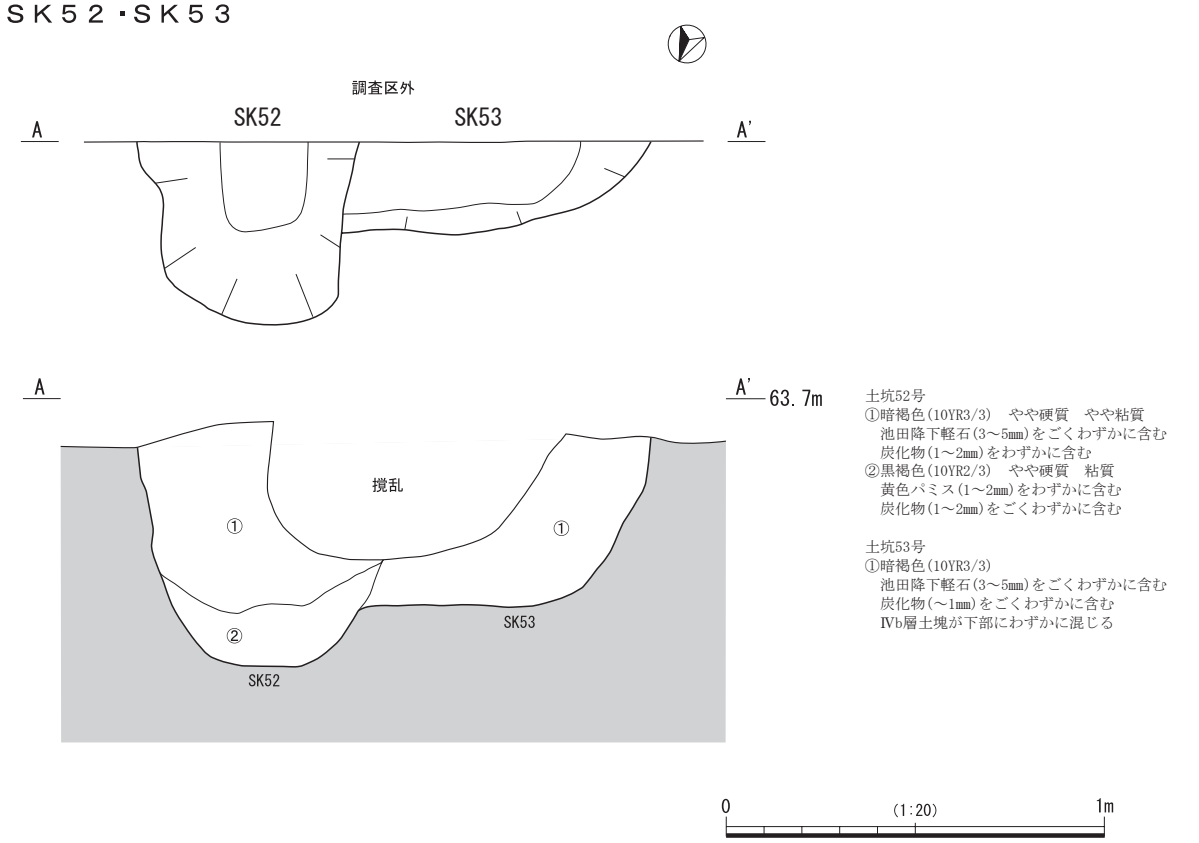
土坑57号（第140図）

検出状況

SK57は，Ｄ-27区のⅣb層で検出された。長軸は0.97m，短軸0.57m，深さ15㎝，推定面積は0.43㎡を測る。平面形は楕円率0.59の楕円形で，掘り込みは浅く，レンズ状の形態である。

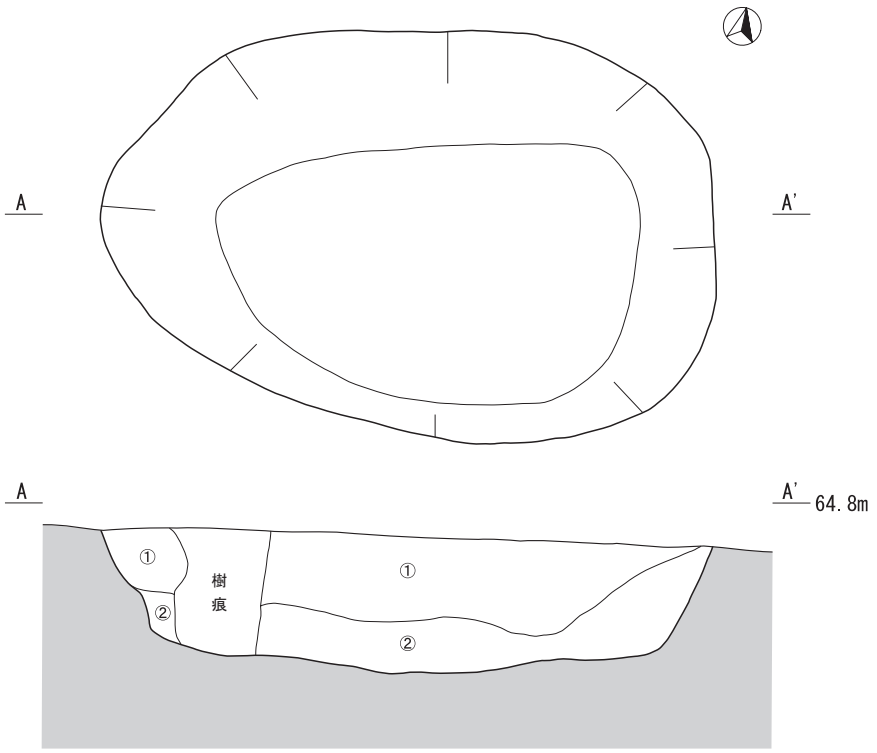
分類：タイプⅡ

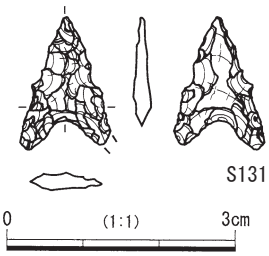




第138図　土坑51～53号

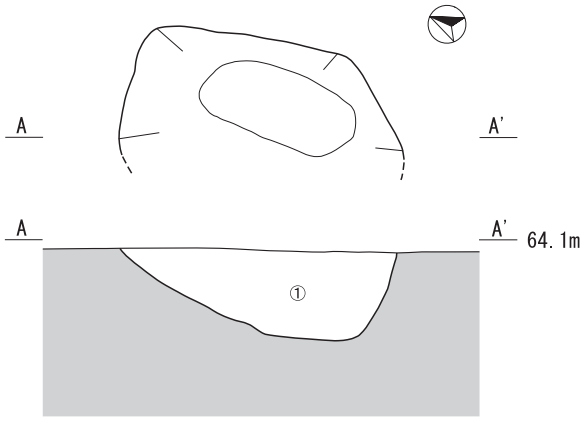
ＳＫ５４





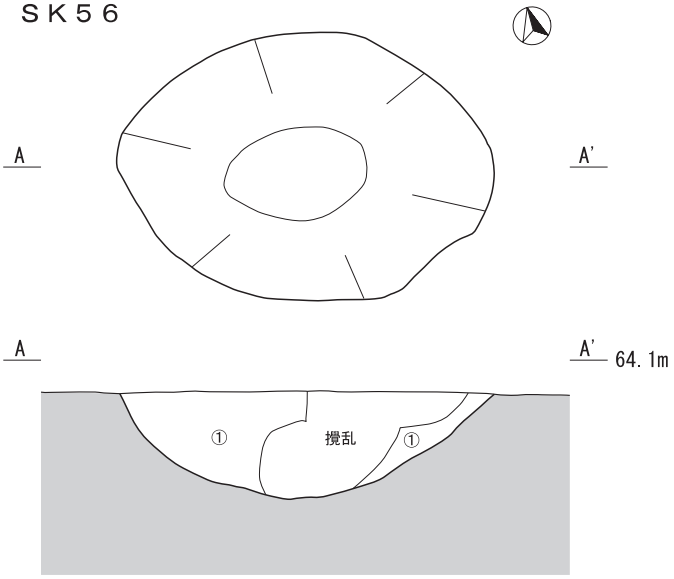
①暗褐色(10YR3/4)　やや硬質　やや粘質
　池田降下軽石(5～10㎜)・橙色パミス(1～3㎜)をわずかに含む
　炭化物(1～3㎜)をわずかに含む
②暗褐色(10YR3/4)　硬質　粘質
　池田降下軽石(1～3㎜)をわずかに含む　炭化物(1～3㎜)を少し含む
　Ⅳb層土塊が多量に混じる

ＳＫ５５

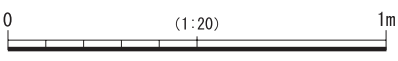


①暗褐色(10YR3/4)　硬質　やや粘質
　池田降下軽石（～10㎜）を外周部にわずかに含む
　黄色パミス（1～3㎜）・炭化物（1～3㎜）をわずかに含む

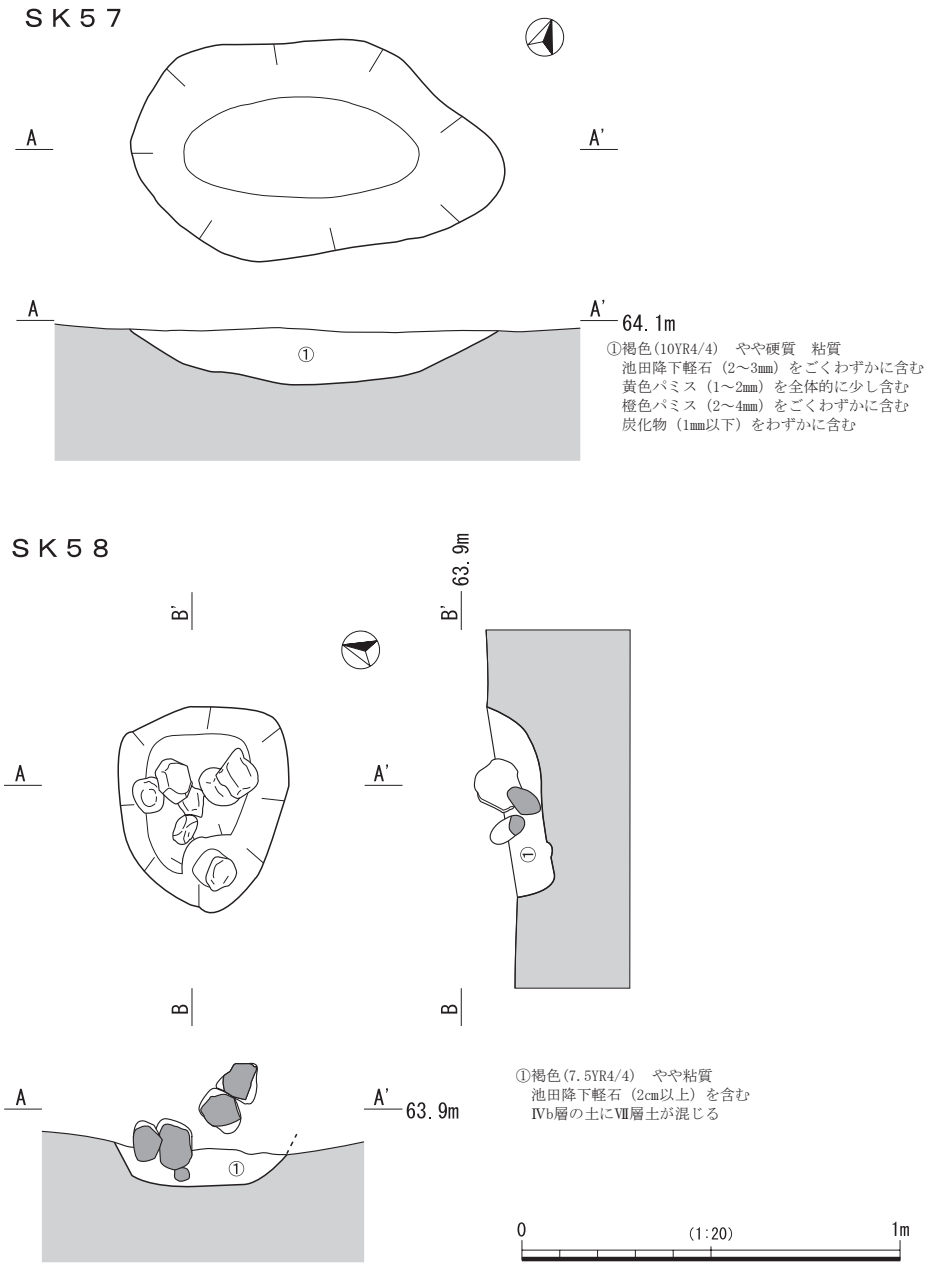
ＳＫ５６



①暗褐色(10YR3/4)　やや硬質　粘質
　池田降下軽石（5～20㎜）をごくわずかに含む
　白色パミス・黄色パミス（1～2㎜）を含む
　炭化物（4㎜以下）をまばらに含む
　Ⅳb層土塊が土坑全体にまばらに混じる　埋土下部には多く混じる



第139図　土坑54～56号と土坑54号出土遺物



第140図　土坑57・58号と出土遺物

埋土

埋土は，褐色１枚である。池田降下軽石，黄色・橙色パミスと炭化物を含むやや硬質の粘質土である。

土坑58号（第140図）

検出状況

SK58は，D・E-28区の層で検出された。長軸は0.55m，短軸0.45m，深さ10㎝，推定面積は0.19㎡を測る。平面形は楕円率0.81の円形である。礫が数点出土したが，石材や被熱の有無については不明である。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は，褐色土の単層である。池田降下軽石を含む。Ⅳb層土とⅦ層土が混じる。

（３）集石（第141～178図）

縄文時代後期前半の集石は，69基が検出された。地点によっては層堆積が不明瞭なため，遺構内遺物により帰属時期を決定している。掘り込みの有無や礫の検出状況によってタイプ別に分類すると，タイプⅠ…17基，タイプⅡ…15基，タイプⅢ…32基，タイプⅣ…５基であった。なお分類基準については，第１分冊P31を参照いただき

たい。

集石５号（第141図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS５は，B－３・４区のⅥb層で検出された。まとまりがあり，掘り込みがある。
規　模
構成礫数は21個で，１個平均の重さが67ｇ，総量1,401ｇであった。礫は，長軸0.32m，短軸0.31ｍの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から深さ14㎝である。石材は，安山岩，砂岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩，ホルンフェルス，軽石等である。埋土は暗褐色でⅣ層に似るが，より軟質でしまりがない。底面はⅣb層に達する。
出土遺物
392は口縁部片で外面に平行沈線を施す。Ⅷb類と考えられる。
S132は安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅵ類で，1/6程度の破片である。使用の痕跡は薄く，被熱による赤色化が認められる。

集石６号（第141図）
分　類：タイプⅠ
検出状況
SS６は，D－３区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は30個であった。礫は，長軸1.74m，短軸0.41ｍの範囲に広がる。散礫状態で掘り込みはない。石材は頁岩，安山岩，砂岩，凝灰岩，ホルンフェルスである。
出土遺物
393は深鉢の胴部を用いた円盤状土製加工品で，外面に沈線が施される。Ⅷ類と考えられる。胎土に金色の雲母を多量に含む。
S133は，砂岩製の磨・敲石Ⅵ類である。使用の頻度は低く，被熱による変色が認められる。

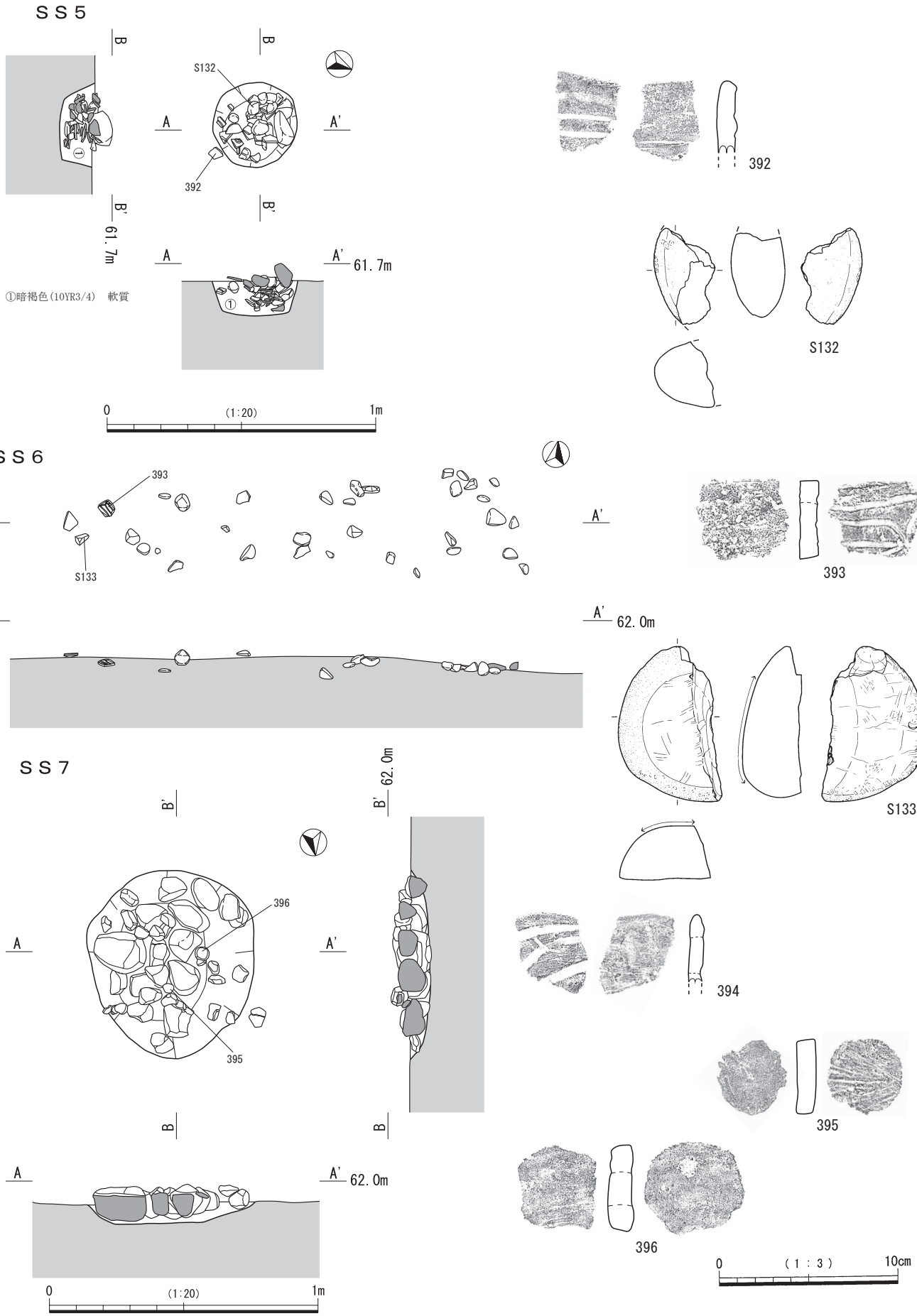
集石７号（第141図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS７は，D－３区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は30個である。礫は，長軸0.70m，短軸0.62ｍの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から深さ９㎝で，ごく浅いレンズ状の形状である。安山岩，砂岩，凝灰岩，ホルンフェルスの大型の亜円礫が掘り込みを充填するように出土しており，約半数に被熱の痕跡が認められた。埋土は少量のため観察できなかった。床面には被熱痕がみられるが炭化物は検出されなかった。
出土遺物
394は凹線文を描いた深鉢の口縁部片でⅥb類と考えられる。395・396は胴部を用いた円盤状土製加工品である。

集石８号（第142図）
分　類：タイプⅠ
検出状況
SS８は，Ｃ－５・６区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は10個である。礫は，長軸1.31m，短軸0.93ｍの範囲に広がる。石材は，安山岩，凝灰岩，ホルンフェルスが混在し，約半数の礫が被熱していた。掘り込みは確認されていない。
出土遺物
397～400は口縁部小片である。口縁部の形態と文様の特徴から，397・400はⅧb類，398はⅧa類，399はⅧc類と考えられる。

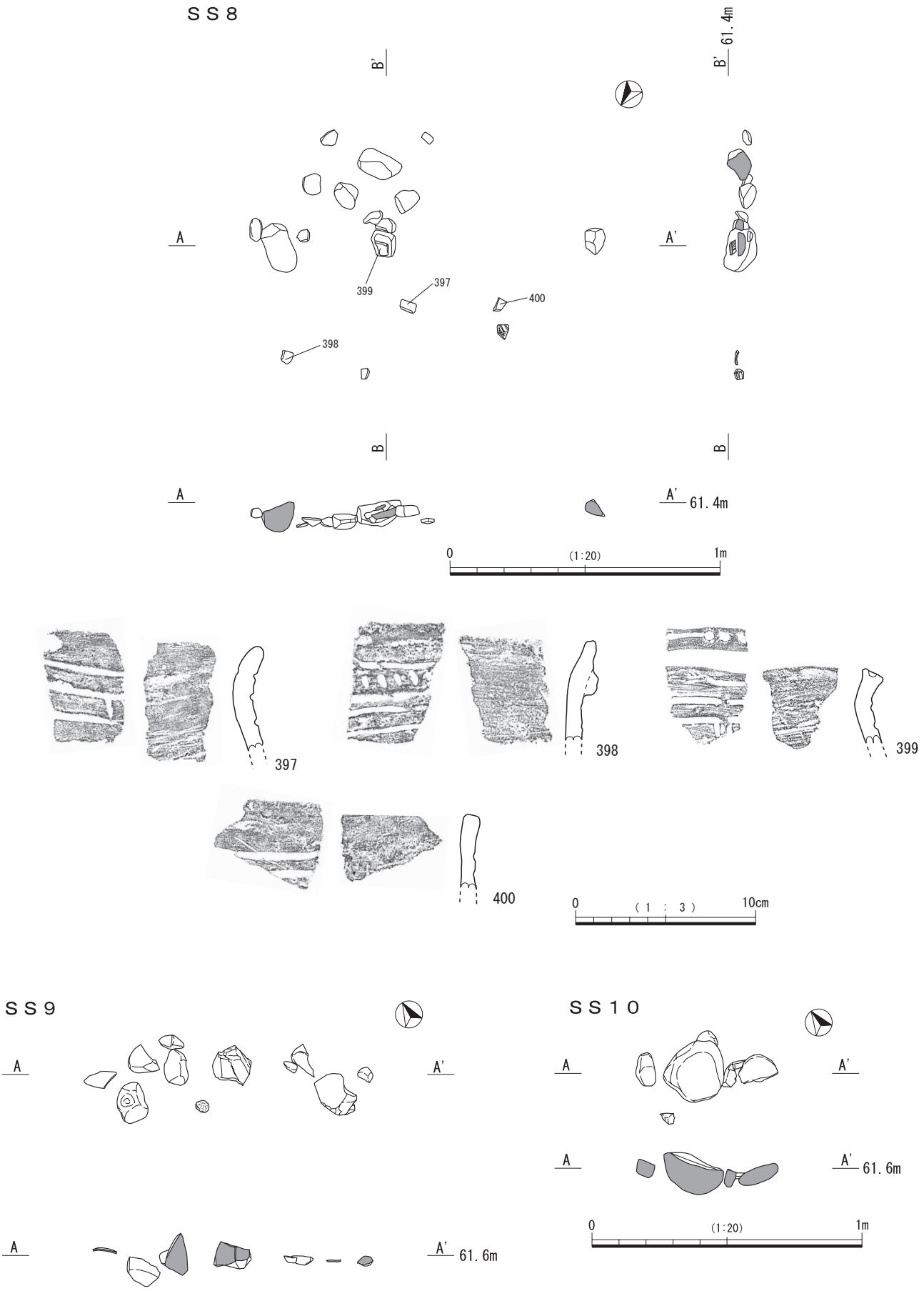
集石９号（第142図）
分　類：タイプⅠ
検出状況
SS９はD－５区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は11個で，１個平均の重さが660ｇ，総量が7,257ｇであった。礫は，長軸1.07m，短軸0.32ｍの範囲に広がる。石材は，安山岩，頁岩，花崗岩，軽石，ホルンフェルスが混在し，数点の礫が被熱していた。炭化物は検出されず，掘り込みも確認されなかった。

集石10号（第142図）
分　類：タイプⅡ
検出状況
SS10は，E－５区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は７個で，１個平均の重さが1,475ｇ，総量10,325ｇであった。礫は，長軸0.53m，短軸0.29ｍの範囲に広がる。石材は，安山岩，頁岩が混在し，構成礫に被熱はない。炭化物はみられず，掘り込みも確認されなかった。

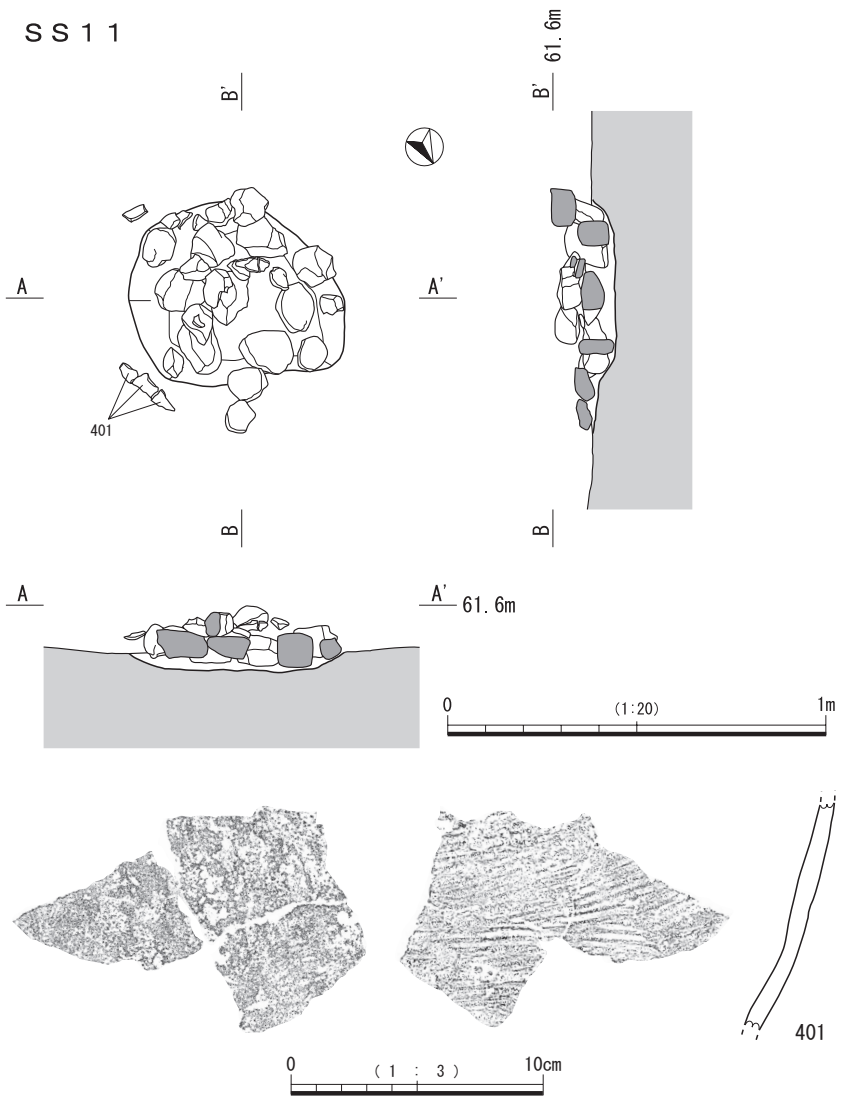
集石11号（第143図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS11は，E－５区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は25個であった。礫は，長軸0.65m，短軸0.59ｍの範囲に広がる。掘り込みの深さはごく浅く，検出面から６㎝の浅いレンズ状の形状である。石材は，安山岩，



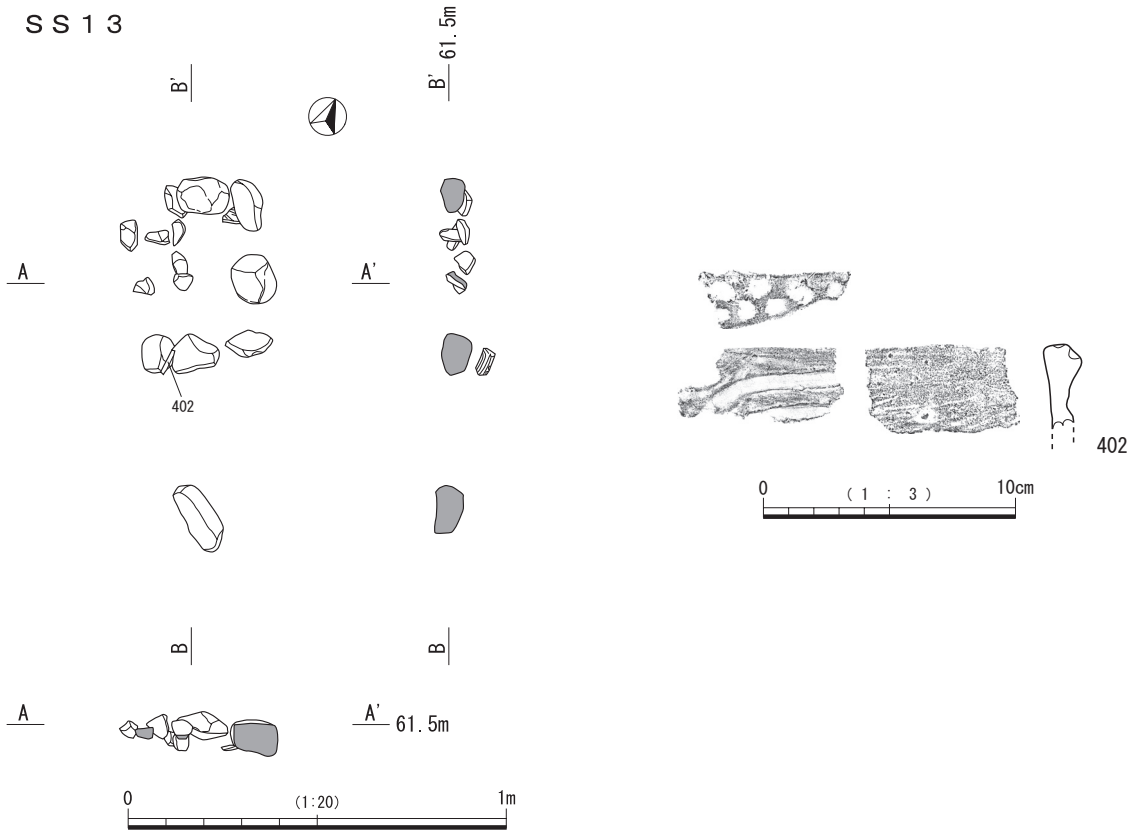
第141図　集石５～７号と出土遺物



第142図　集石８～10号と集石８号出土遺物



第143図　集石11・12号と集石11号出土遺物



第144図　集石13号と出土遺物

砂岩，凝灰岩，花崗岩，ホルンフェルスの大型の亜円礫が掘り込みを充填するように出土した。埋土は少量のため観察することができず，底面の被熱痕跡の確認はできなかった。

出土遺物

401は底部に向かって急にすぼまる下胴部片で，内面に横位の貝殻条痕を残す。

集石12号（第143図）

分　類：タイプⅠ

検出状況

SS12は，Ｅ－５・６区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は６個である。礫は，長軸0.96m，短軸0.22ｍの範囲に広がり，南側に４個，西側に２個散在する。石材は安山岩，砂岩が混在していた。掘り込みは確認されず，南側４個の下が掘り込みからわずかにはみ出す。

集石13号（第144図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS13は，Ｆ－５区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は13個であった。礫は，長軸0.99m，短軸0.42ｍの範囲に広がる。礫は方形に組んだように出土し，中央部分が空くため配石炉の可能性がある。石材は安山岩，砂岩，凝灰岩，ホルンフェルスが混在し，大半の礫が被熱していた。土器片が出土した。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

402は口縁部片で，ごく緩い波状口縁と推測される。口縁部外面をやや肥厚させ上面に連点文を施す。外面上位には凹線文を描く。Ⅵb類と考えられる。

集石14号（第145図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

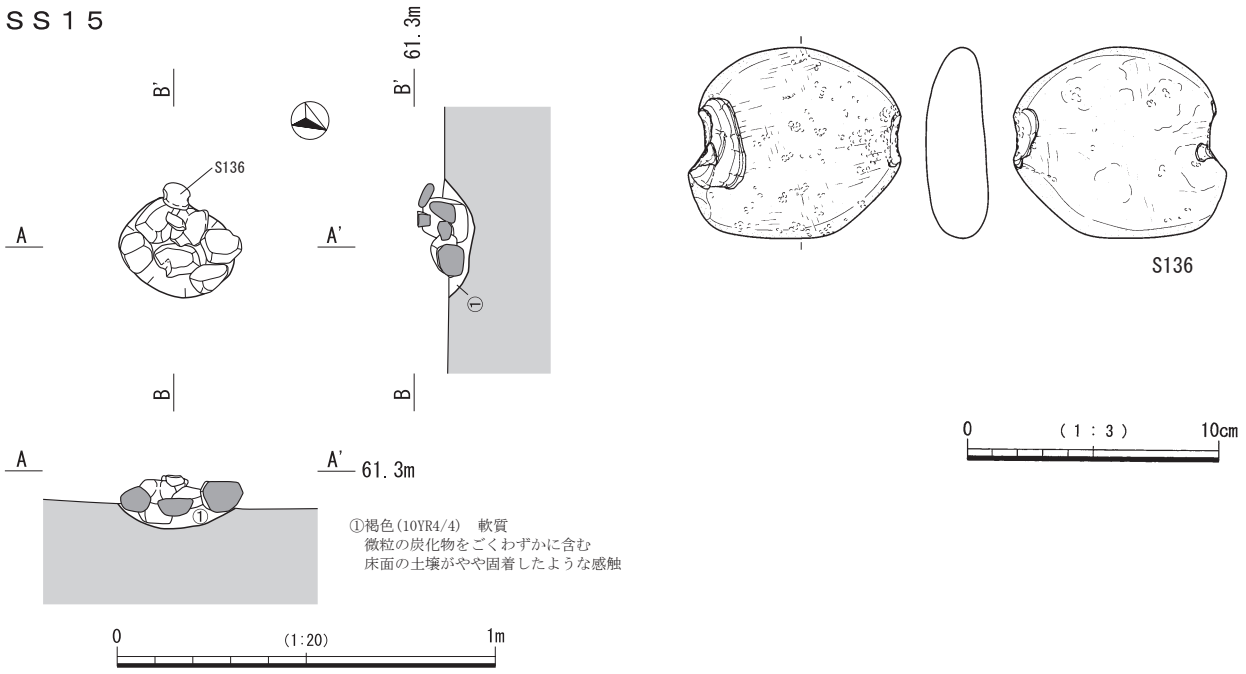
SS14は，Ｃ－６区のⅣb層で検出された。石皿と磨・敲石が検出されている。

礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規　模

構成礫数は22個であった。礫は，長軸1.44m，短軸1.17ｍの範囲に広がる。石材は，凝灰岩，頁岩，花崗岩，砂岩が混在した。掘り込みは確認されなかった。

第145図　集石14号と出土遺物



第146図　集石15号と出土遺物

出土遺物

404・405は口縁部小片である。405は口唇部に粘土紐をねじり合わせた装飾を貼り付ける。胴部上位に凹線文を描き，口唇部装飾の下に円形のモチーフを描く。403は直線的に立ち上がり，平坦に形成した口唇部には円形の刺突を施す。胴部上位には指頭によって曲線文を描く。404は口縁部内面を明瞭に屈曲させる。細い粘土紐を口唇部にナデ付けて巡らせる。これらはⅥb類と考えられる。

S134は，花崗岩製の磨・敲石Ⅱa類である。上面を欠損する。被熱の痕跡が窺える。風化が著しい。S135は花崗岩製の石皿Ⅳ類（台石）である。右側を欠く。中央付近に浅い凹みを形成する。凹みの内側の広範囲に敲打痕がみられる。

集石15号（第146図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS15は，C－６区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は８個であった。礫は，長軸0.33m，短軸0.29mの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から深さ５cmの浅いレンズ状の形状である。凝灰岩，頁岩，安山岩の大型の亜円礫が掘り込みを充填する。埋土は褐色で微粒炭化物を含む軟質土である。

出土遺物

S136は，砂岩製の石錘である。長軸に両極打撃を加えて抉りを作り，敲打によって角を潰す。正裏面の左右端に薄い擦痕がみられ，紐擦れの痕跡である可能性も考えられる。

集石16号（第147図）

分　類：タイプⅠ

検出状況

SS16は，C－６区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は６個で，１個平均の重さが1,102ｇ，総量で6,611ｇであった。礫は，長軸0.44m，短軸0.40mの範囲に広がる。石材は，安山岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩，ホルンフェルスが混在し，掘り込みは確認されなかった。微粒炭化物は認められるが，散見される程度であり，集石に伴うものかは不明である。

集石17号（第147図）

分　類：タイプⅠ

検出状況

SS17は，C－６区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は５個で，１個平均の重さが915ｇ，総量が4,574ｇであった。礫は，長軸0.40m，短軸0.21mの範囲に広がる。石材は，凝灰岩，頁岩が混在しほとんどに被熱の痕跡がみられた。掘り込みは確認されなかった。

集石18号（第147図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS18は，C・D－6区のⅣb層で検出された。

礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規　模

構成礫数は21個で，1個平均の重さが1,782ｇ，総量が37,432ｇであった。礫は，長軸0.68m，短軸0.59mの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から9㎝の浅い皿状の形状である。安山岩，凝灰岩，頁岩の大型の角礫が掘り込みを充填する。石皿片を含む。埋土は褐色で微粒炭化物をごくわずかに含む軟質の砂質土である。パミス等は含まれない。出土した石皿片（掲載番号S181：下側2個）が，SS70の石皿片（上側）と接合している。

出土遺物

S137は，花崗岩製の石皿Ⅲ類である。上面側・左側を欠く。方形を呈すると推測される。表裏両面が著しく被熱する。

集石19号（第148図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS19は，D－6区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は17個で，1個平均の重さが293ｇ，総量が4,976ｇであった。礫は，長軸0.56m，短軸0.49mの範囲に広がる。中心が空き，円形を組んだように石が配置されているため配石炉の可能性がある。石材は安山岩，頁岩，花崗岩が混在し，数点の礫が被熱していた。礫下の土壌に被熱痕跡は確認はできなかった。

集石20号（第148図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS20は，D－6区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は6個で，1個平均の重さが589ｇ，総量が3,536ｇであった。礫は，長軸0.35m，短軸0.17mの範囲に広がる。石材は安山岩で，数点の礫が被熱していた。掘り込みや炭化物は確認されなかった。

集石21号（第148図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS21は，D－6区のⅣb層で検出された。

礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規　模

構成礫数は17個であった。風化が著しい取り上げ不能1個を除くと1個平均の重さが1,482ｇ，総量が23,717ｇであった。礫は，長軸0.66m，短軸0.64mの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から8㎝の浅いレンズ状である。石材は，安山岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩が床面からやや浮いた状態で重層的に出土する。埋土は暗褐色で，微粒な白パミス・微粒炭化物を含む軟質の粒子の細かい土である。

集石22号（第148図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS22は，E－6区のⅣa層で検出された。

規　模

構成礫数は28個で，1個平均の重さが346ｇ，総量が9,698ｇであった。礫は，長軸1.11m，短軸0.95mの範囲に散礫状に広がる。石材は，安山岩，砂岩，頁岩，ホルンフェルスが混在する。掘込みはないと判断した。炭化物は出土していない。

出土遺物

406・407は深鉢の底部片で，裏面はナデ調整によって仕上げられ，白色付着物がみられる。406は外面には横位のケズリ調整を行う。407は底部の器壁が薄いことが想定され，器壁は胴部に向かって大きく開く。

集石23号（第149図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS23は，E－6・7区のⅣ層で検出された。

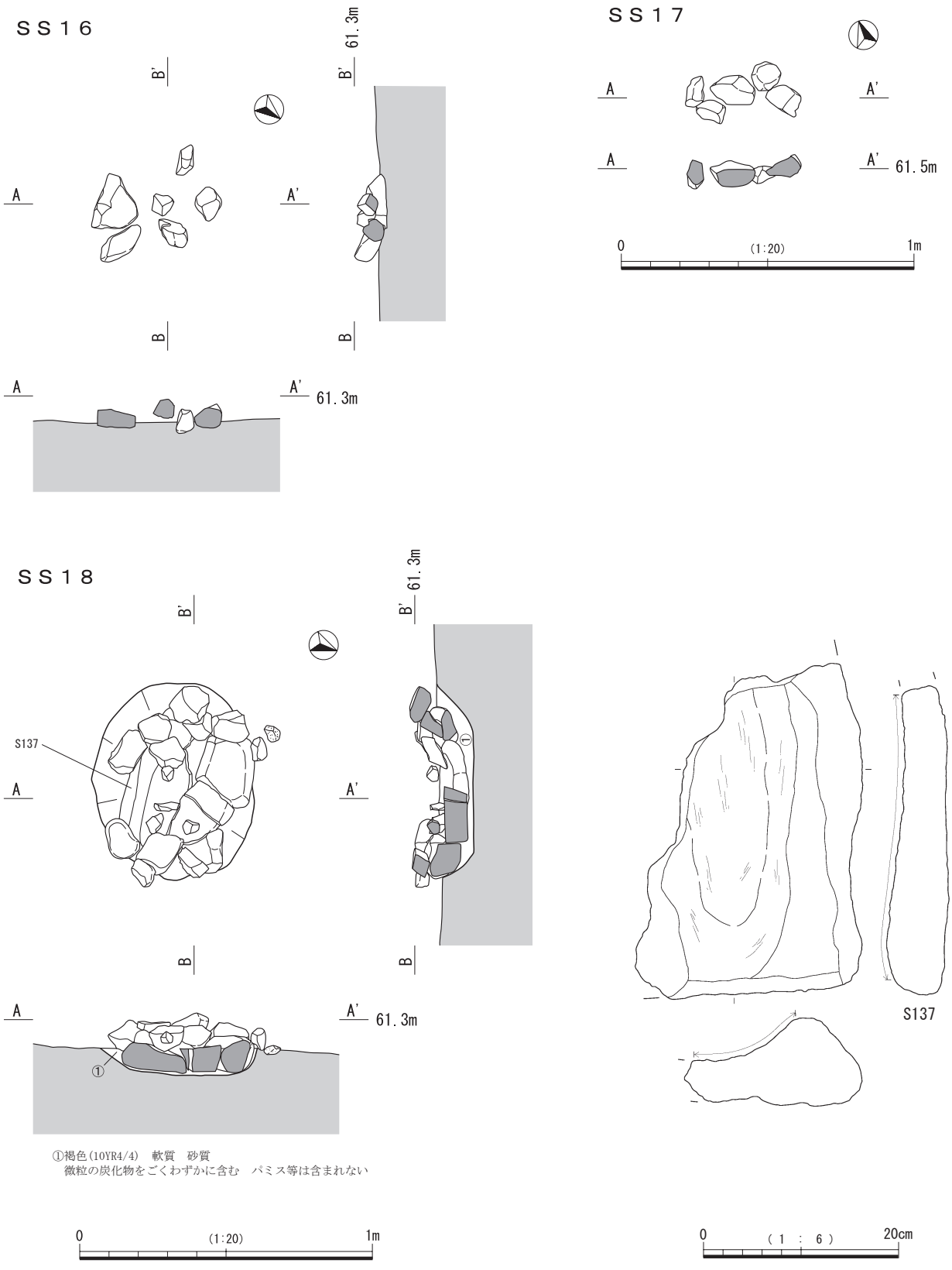
規　模

構成礫数は21個であった。礫は，長軸0.95m，短軸0.95mの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から深さ45㎝と深い。掘り込みの中央部分の上層で大型の礫が数個まとまって出土し，その周りや土坑の埋土の中～上位に土器片が少数散在する。土坑の廃絶後にできた凹みに礫や土器等の遺物が溜まった可能性もある。石材は，凝灰岩，花崗岩，軽石が出土する。埋土は単層で，特徴は不明である。

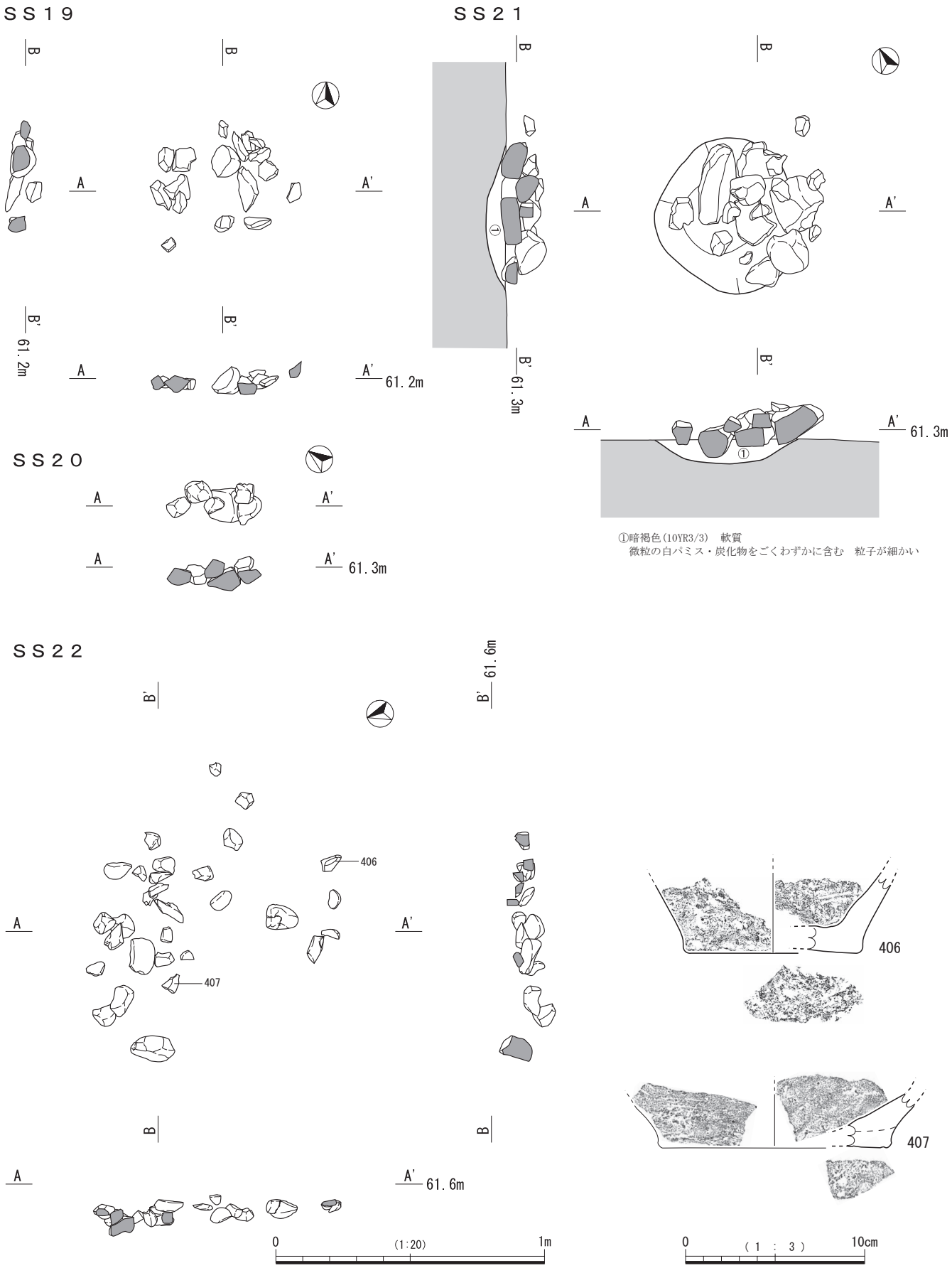
出土遺物

408は深鉢の口縁部片で，わずかに内湾する。口縁部直下とその下に凹線によって区画された単節縄文を回転させる。Ⅶa類と考えられる。409・410は無文の胴部片で器壁は直線的に立ち上がる。409は金色の雲母を多く含む。411はモジリ編み痕が残る底部で裏に白色付着物がみられる。胎土に金色の雲母を多く含む。

S138は，ホルンフェルス製の磨製石斧Ⅱ類である。全面が風化によって磨耗する。両側面は明瞭に面取りされて成形された定角式である。基部欠損後，両極石器に転用されている。被熱による変色が確認される。



第147図　集石16～18号と集石18号出土遺物



第148図　集石19～22号と集石22号出土遺物

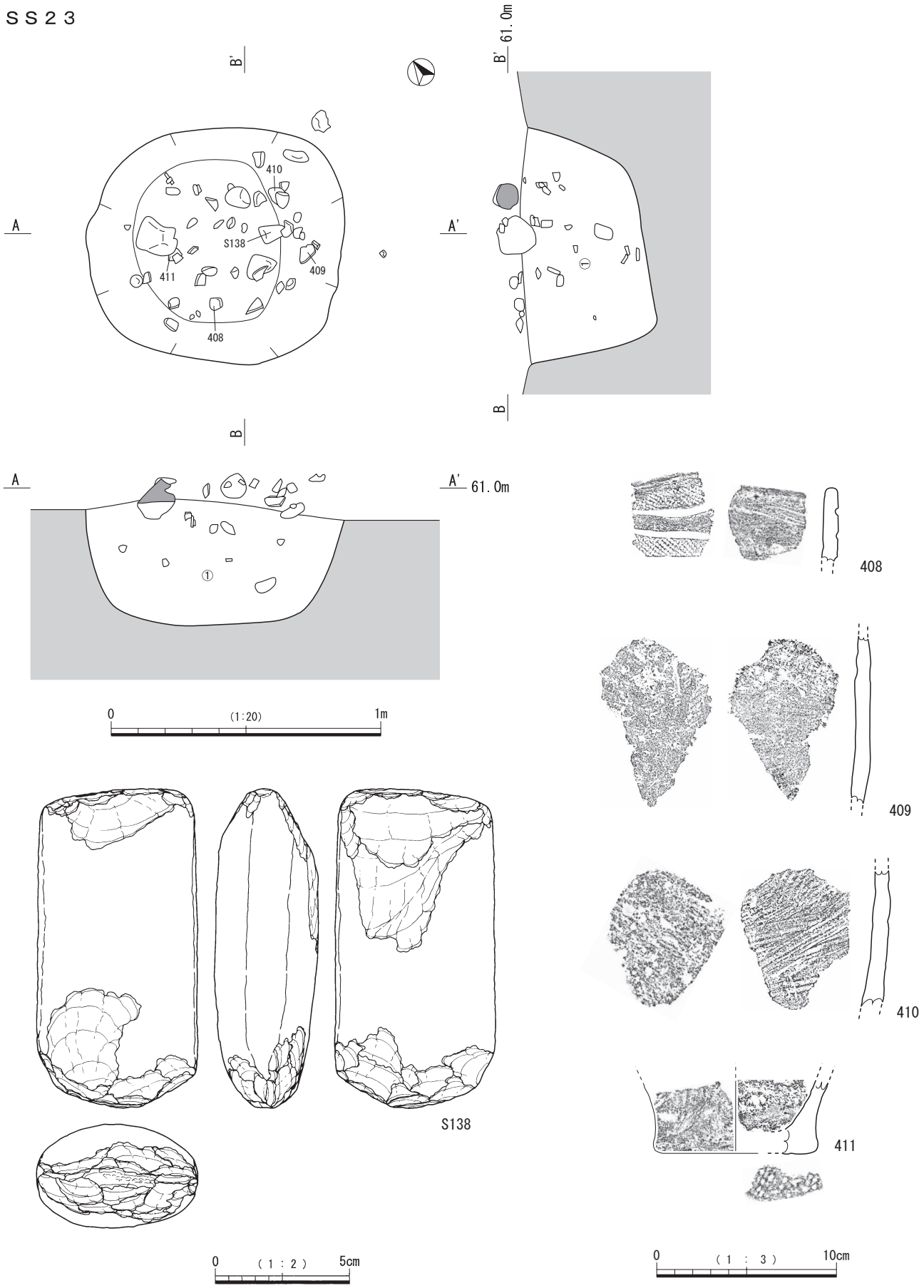
集石24号（第150図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS24は，E－６区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は50個であった。礫は，長軸1.65m，短軸1.28mの範囲に広がる。掘り込みは，検出面から深さ10cmの浅いレンズ状の形態で，大型の角礫・円礫が，掘り込みの底面よりやや浮いた位置で，重層的にまとまって検出された。石材は，安山岩，凝灰岩，砂岩，頁岩，花崗岩である。埋土は暗褐色で微粒炭化物をわずかに含む硬質土である。パミス類を含まない。
出土遺物
S139は，ホルンフェルス製の礫器である。母岩から剥いだ剥片の下辺と左側縁部を主に正面側から粗く打ち欠いて刃部を形成する。

集石25号（第150図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS25は，E－６区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は11個であった。礫は，長軸0.45m，短軸0.44mの範囲に広がる。掘り込みは，検出面から深さ７cmの浅いレンズ状の形状である。安山岩，凝灰岩，花崗岩製の大型の礫や石器類が充填する。埋土の特徴は不明である。
出土遺物
S140は，花崗岩製の磨・敲石Ⅱa類である。石鹸形を呈する。正面・裏面のほかに，周縁部も全面的によく磨られる。被熱による赤色化が認められる。

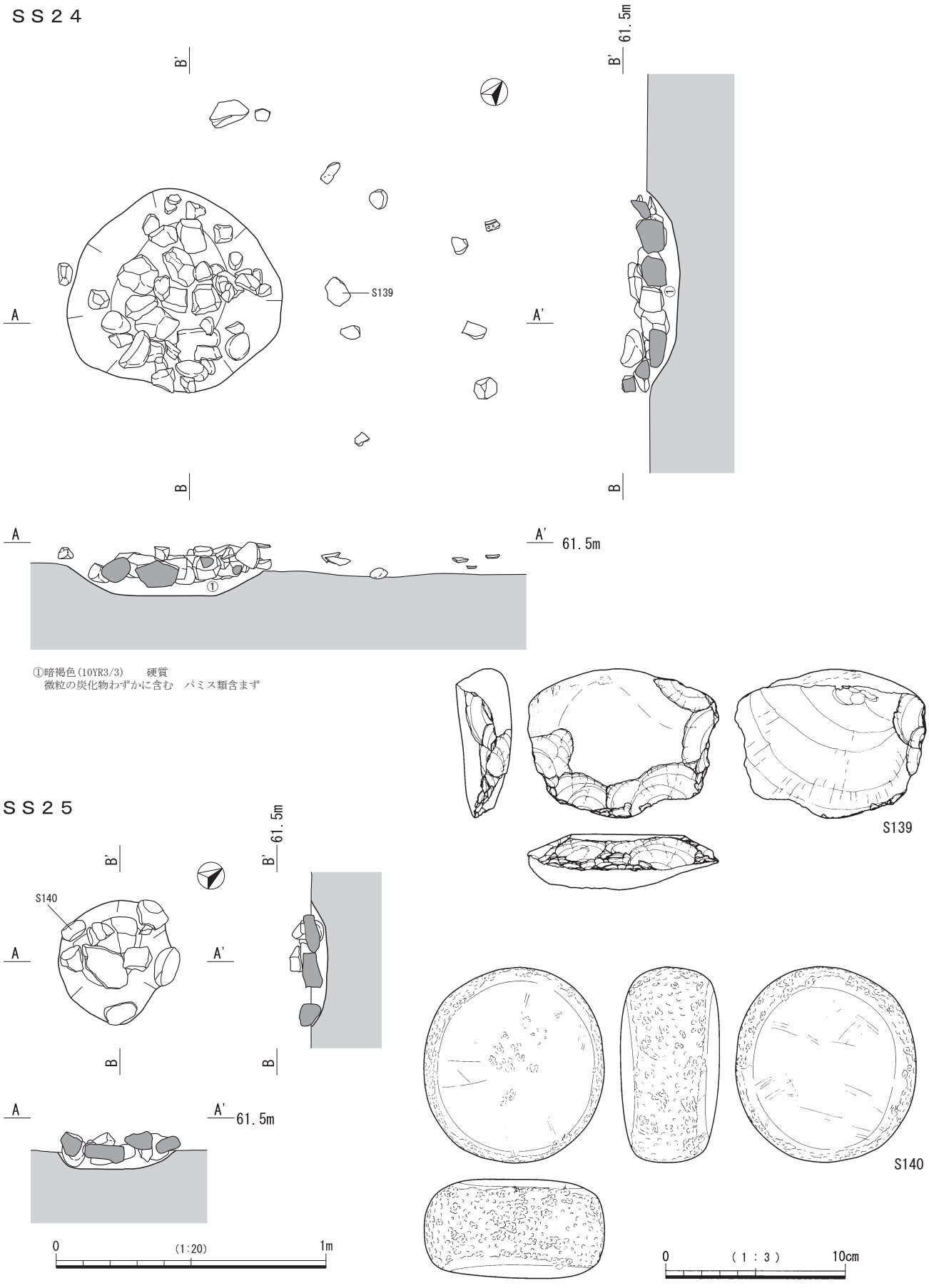
集石26号（第151図）
分　類：タイプⅣ
検出状況
SS26は，E－６・７区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は14個で，１個平均の重さが943ｇ，総量が13,206ｇであった。長軸1.14m，短軸0.77mの範囲にやや大型の角礫が広がる。南側に検出面から深さ10cmの小さな皿状の掘り込みを有し，礫は掘り込みのやや上層に放射状に広がる。石材は安山岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩が出土する。埋土は，黒褐色微粒炭化物を含む軟質土である。

集石27号（第151図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS27は，B－７区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は24個であった。礫は，長軸0.62m，短軸0.50mの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から22cmである。安山岩，砂岩，ホルンフェルスが出土する。埋土は褐色２枚・暗褐色の計３枚である。橙色・黄色・白色のパミスや軽石・アカホヤの塊を含む軟質のやや粘質土である。礫は長軸方向を上にした状態で検出されているものもみられ，埋土の堆積状況からも，意図は不明だが，柱穴痕の窪みに人為的に礫を集積させた可能性も考えられる。
出土遺物
412は深鉢の口縁部片で，Ⅵc類と考えられる。413は口縁部が外反しながら開く深鉢の上胴部片で平坦口縁と推測する。口縁部が強く外反し，胴部が張り出す器形であると推測される。口縁部直下は無文で，頸部以下にやや太めの凹線によって横位の弧状の曲線を多重に描く。線の始点と終点を強く押圧する。文様帯は胴部下位に及ぶと推測される。器壁は薄く，内外面および断面は黒色を呈する。器面の調整も丁寧で，黒色磨研土器の雰囲気がある。混和材の種類が少ない。搬入品の可能性も考えられる。
S141は，砂岩製の磨・敲石Ⅴa類である。主に下面が敲打に多用される。自然礫の形状を活かしたハンマーである。

集石28号（第152図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS28は，C－７区のⅣb層で検出された。石皿や磨・敲石が検出されている。
遺物と礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。
規　模
構成礫数は10個で，１個平均の重さが2,056ｇ，総量が20,559ｇであった。礫は，長軸0.74m，短軸0.52mの範囲に広がる。掘り込みは小さく，その深さは検出面から７cmで，ごく浅い。石材は，安山岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩で，数点に被熱の痕跡がみられた。埋土はごく少量で特徴は不明である。周辺に炭化物は出土していない。石皿は主な使用面を上に，掘り込みにほぼはまるような状態で出土しており，花崗岩製立石遺構と関連のある遺構である可能性もある。
出土遺物
S142は，花崗岩製の磨・敲石Ⅱa類である。被熱の痕跡が窺え，風化が著しい。S143は，花崗岩製の石皿Ⅰb類である。上半を欠く。中央に凹みを形成し，真下及び左下の２方向に掻き出し口を作る。著しく被熱する。

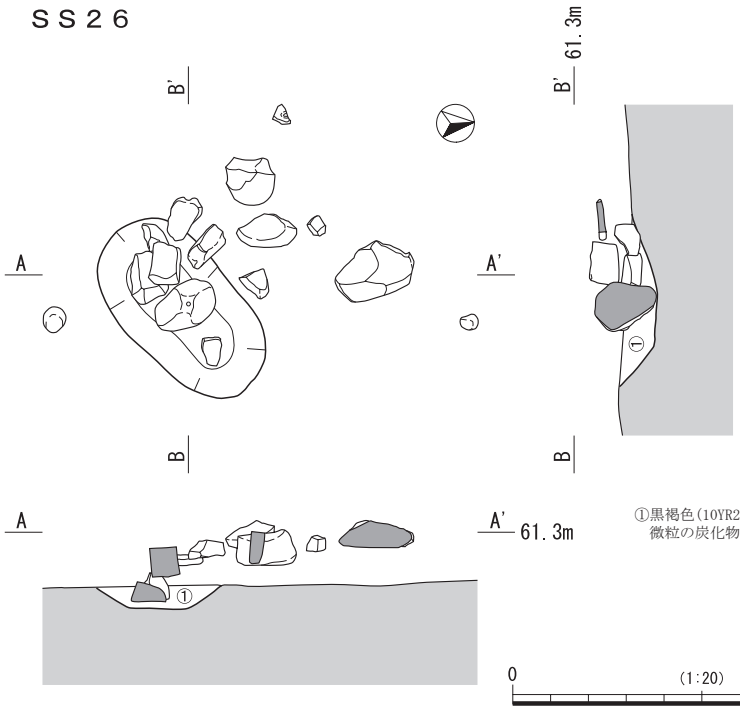


第149図　集石23号と出土遺物



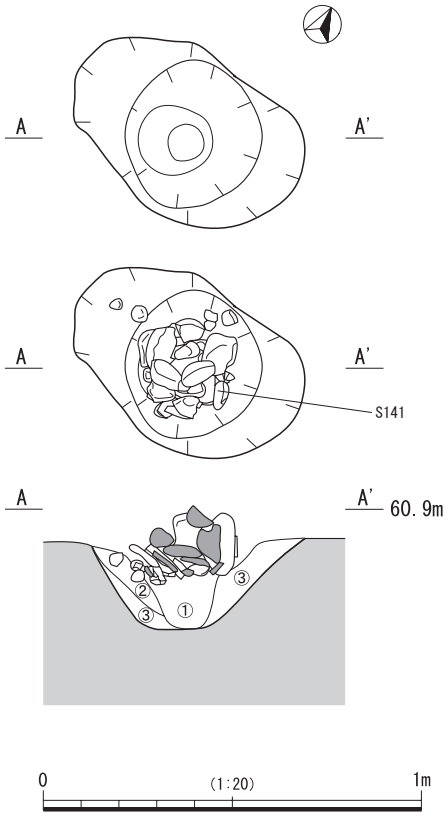
第150図　集石24・25号と出土遺物

ＳＳ２６

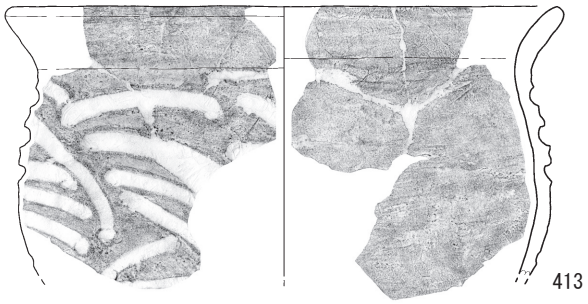


①黒褐色(10YR2/3)　軟質
　微粒の炭化物をごくわずかに含む

ＳＳ２７



①暗褐色(7.5YR3/4)　軟質　やや粘質
　橙色パミスや軽石を含む　黒や明赤褐色の点がわずかに見られる
　アカホヤ火山灰の塊を含む　褐色の土がまだらに混じる　Ⅳb層に似る
②褐色(10YR4/4)　　軟質　やや粘質
③褐色(10YR4/4)　　軟質　やや粘質
　黄色・白色のパミスを含む



第151図　集石26・27号と集石27号出土遺物

集石29号（第152図）
分　類：タイプⅠ
検出状況
SS29は，C－７区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は７個であった。礫は，長軸0.51m，短軸0.30mの範囲に広がる。石材は，安山岩，凝灰岩，花崗岩，ホルンフェルスが混在し，数点が被熱していた。掘り込みは確認されなかった。
出土遺物
414は深鉢の口縁部片で，平坦口縁と推測される。外傾しながら開き，口縁端部はわずかに外反する。口唇部には平坦面を形成する。口縁部直下に二条の凹線を巡らせ，その直下に渦巻き状の四角のモチーフを横位に展開させると推測される。Ⅵb類と考えられる。胎土には３～５㎜大の小礫が混じる。

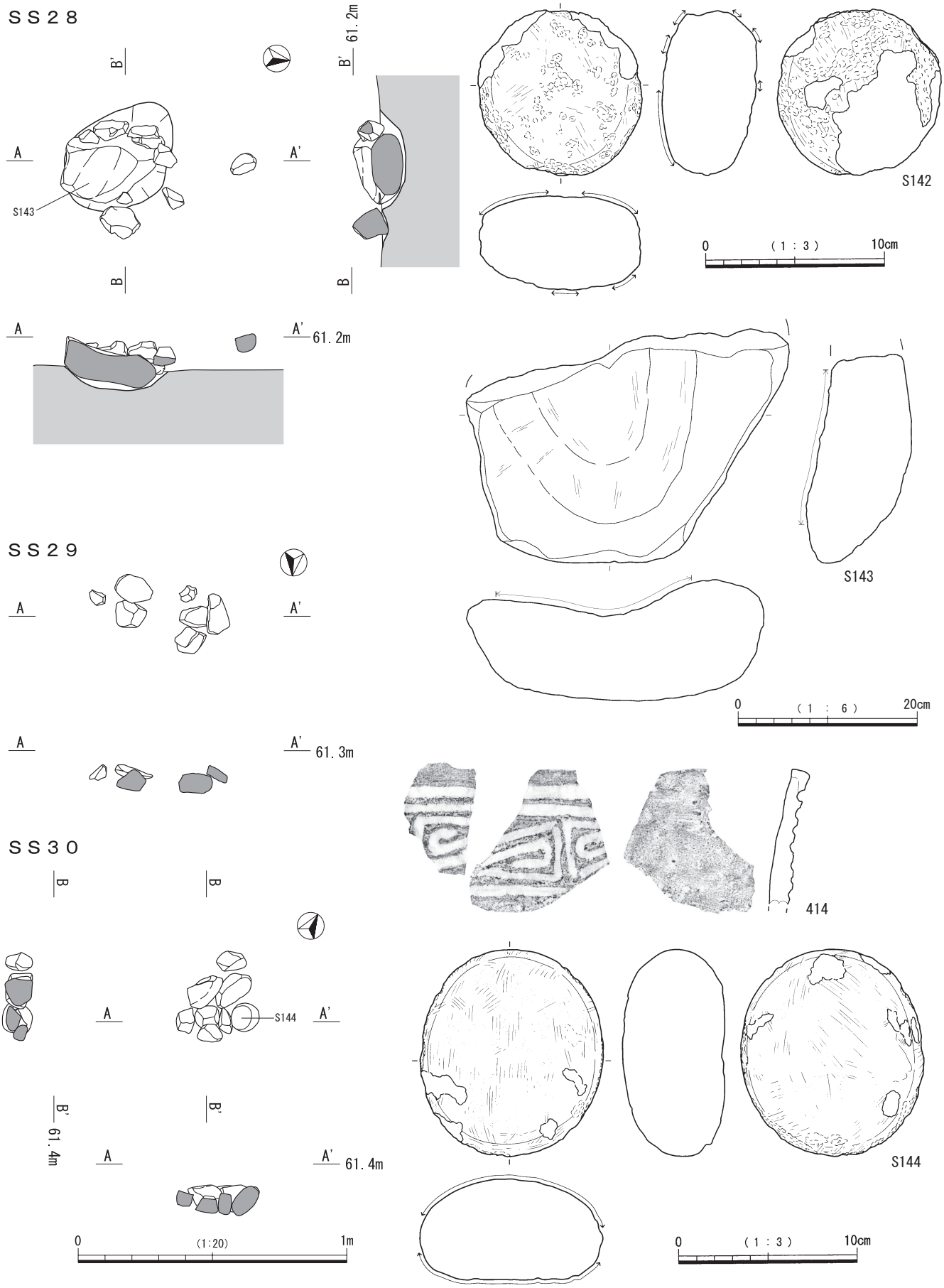
集石30号（第152図）
分　類：タイプⅡ
検出状況
SS30は，C－７区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は８個で，１個平均の重さが753ｇ，総量が6,025ｇであった。やや大型の礫が，長軸0.34m，短軸0.31mの範囲にまとまって出土した。石材は，凝灰岩，花崗岩が混在し，掘り込みや炭化物は確認されなかった。
出土遺物
S144は，花崗岩製の磨・敲石Ⅱa類である。縁辺に敲打痕や磨面がみられる。

集石31号（第153図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS31は，C－７区のⅣb層で検出された。
遺物や礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。
規　模
構成礫数は33個であった。礫は，掘り込みの中央部分に長軸0.72m，短軸0.63mの範囲で広がる。掘り込みの深さは，検出面から23㎝である。石材は，安山岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩，ホルンフェルスで，約半数に被熱の痕跡がみられた。埋土は褐色で黄パミスや微粒炭化物を含む軟質の砂質土である。
出土遺物
415は胴部を用いた円盤状土製加工品で，一部が欠損する。
S145は凝灰岩製の石皿Ⅵ類である。下半分を欠く。中央に凹みを形成する。

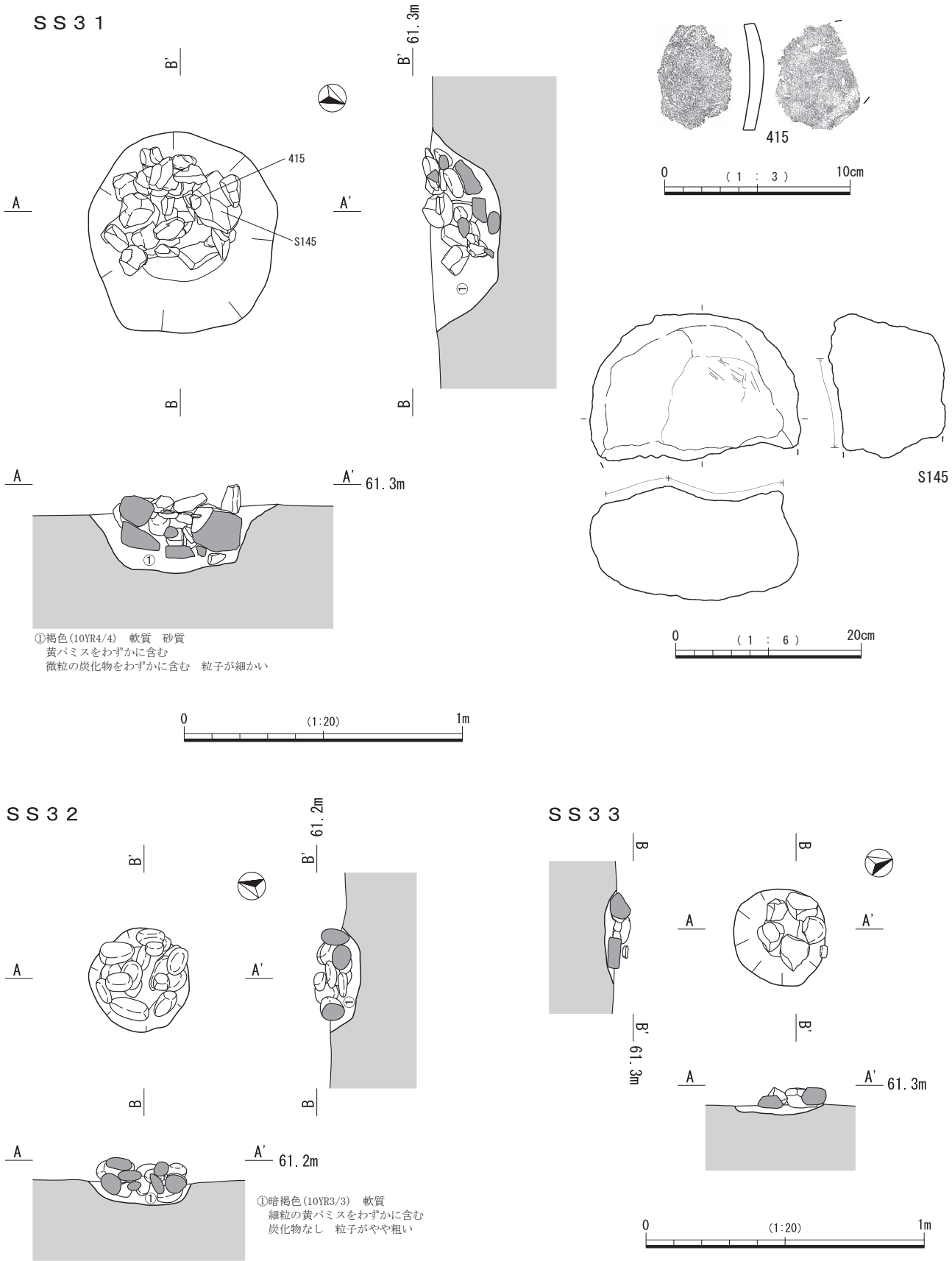
集石32号（第153図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS32は，D－７・８区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は18個であった。礫は，長軸0.37m，短軸0.36mの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から深さ８㎝で皿状の形態である。構成礫は円礫を主体とし，掘り込みを充填し重層的に検出される。石材は，安山岩である。埋土は暗褐色で黄パミスを含む粒子がやや粗い軟質土である。

集石33号（第153図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS33は，D－７区のⅥ層で検出された。
規　模
構成礫数は６個で，１個平均の重さが693ｇ，総量が2,771ｇであった。礫は，長軸0.35m，短軸0.33mの範囲に広がる。掘り込みはごく浅いレンズ状の形状である。検出面からの深さは４㎝である。石材は，凝灰岩，頁岩である。埋土の特徴は不明で，炭化物は出土しなかった。

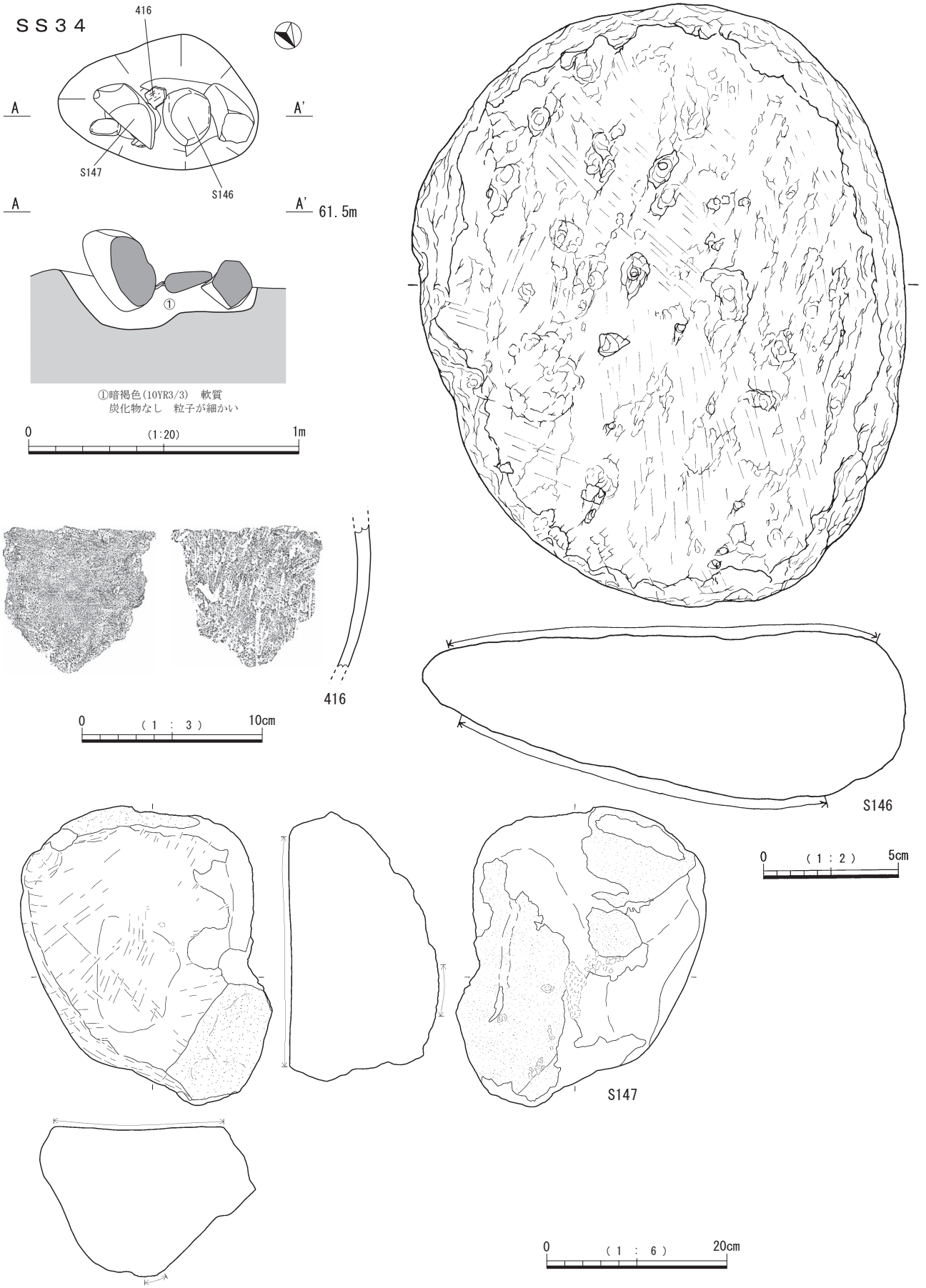
集石34号（第154図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS34は，F－７区のⅥb層で検出された。
規　模
構成礫数は６個であった。礫は，長軸0.74m，短軸0.50mの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から20㎝で，土坑の東側が一段深く落ち込む。石材は，安山岩，頁岩，花崗岩，軽石である。埋土は暗褐色で粒子が細かく，周囲のⅥ層より軟質土である。炭化物は出土しなかった。
出土遺物
416は深鉢の胴部片で，底部に向かって丸みを帯びながらすぼまる。胎土は灰色がかった桃色で，角閃石・石英を多く含む。薄手で焼成は硬質である。南薩地方に特徴的な胎土である可能性があり，本遺跡で類例が出土したⅧ類の範疇であると判断した。
S146は軽石製品で，正裏両面に擦痕がみられる。S147は，砂岩製の石皿Ⅳ類（台石）である。全面に被熱による赤化がみられる。白抜けた部分は被熱によるものとみられる。平坦な使用面に発達した磨面，裏面には稜上の一部に敲打痕がみられる。S147は，残存デンプン粒子の分析により磨面から円形のデンプン粒子を検出し，堅果類の可能性が示唆された。



第152図　集石28～30号と集石28・30号出土遺物



第153図　集石31～33号と集石31号出土遺物



第154図　集石34号と出土遺物

第155図　集石35号と出土遺物

集石35号（第155図）

分　類：タイプⅠ

検出状況

SS35は，B－８区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は24個であった。礫は長軸1.14m，短軸1.05mの範囲に広がる。小形の礫が多い。石材は，安山岩，砂岩，頁岩，花崗岩，ホルンフェルスが混在し，数点が被熱していた。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

417は深鉢の頸部片である。器面を貝殻条痕により調整する。

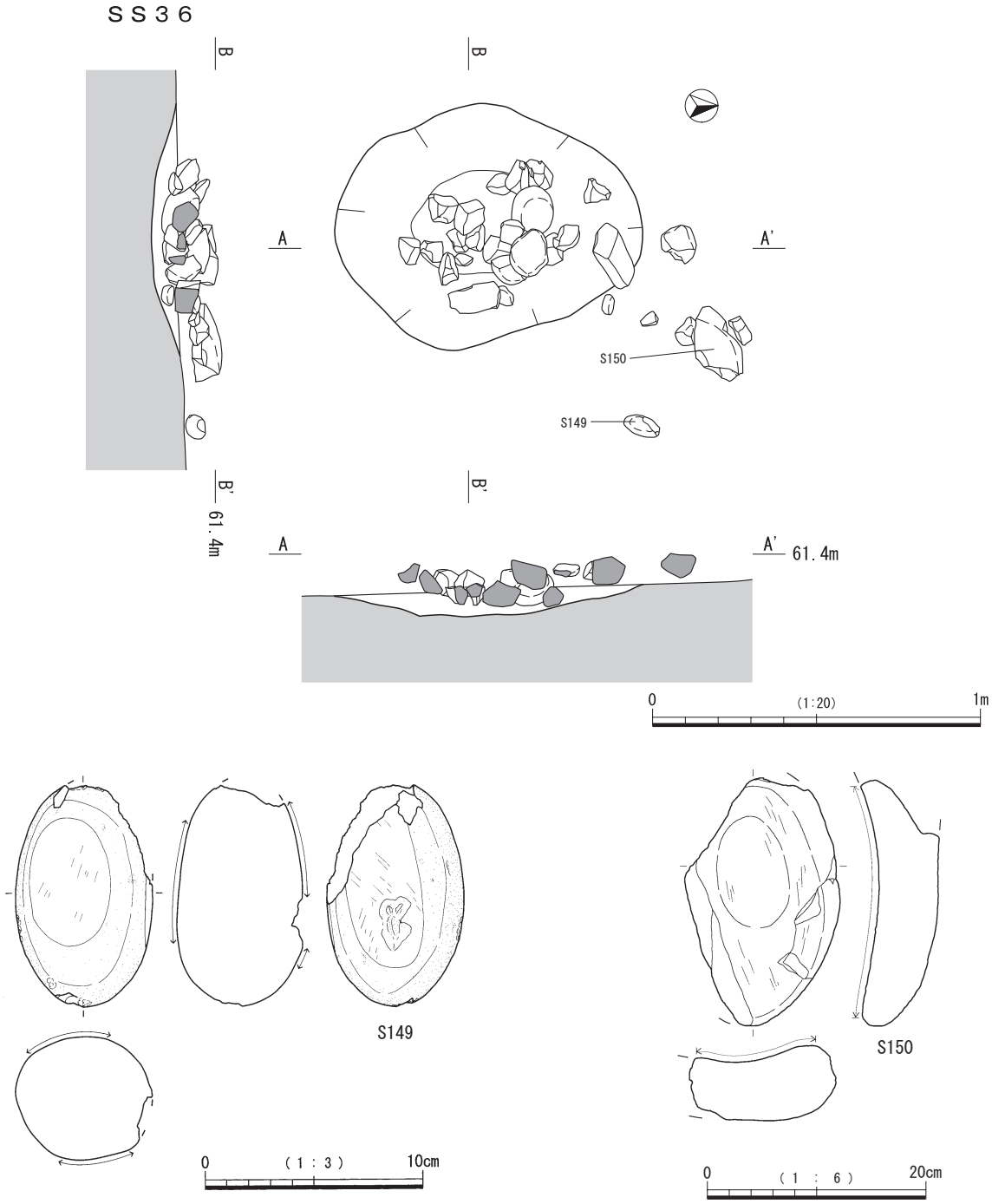
S148は，砂岩製の磨・敲石Ⅱa類である。表裏両面に顕著な磨面を形成し，周縁に敲打と擦痕が観察できる。

集石36号（第156図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS36は，C－８区のⅣa層で検出された。石皿と磨・敲



第156図　集石36号と出土遺物

石とが一緒に検出されている。

規　模

構成礫数は30個で，礫は，長軸1.28m，短軸1.03mの範囲にやや散礫状に広がる。掘り込みの深さは，検出面から10cmである。石材は，砂岩，頁岩，凝灰岩，花崗岩である。埋土の特徴については不明である。

出土遺物

S149は，安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅰ類である。右側上部が欠損する。正面裏面に弱い磨面がある。下面は敲打によく使用されている。被熱による変色が認められる。S150は，砂岩製の石皿Ⅱ類である。左側上・下を欠く。中央にやや広く，浅い凹みを形成する。

集石37号（第157図）

分　類：タイプⅣ

検出状況

SS37は，C－８区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は16個で，１個平均の重さが599ｇ，総量が9,586ｇであった。礫は，長軸0.68m，短軸0.62mの範囲に広がる。掘り込みの平面形状は正円に近く，深さは，検出面から25㎝である。多くは掘り込み中央の上層に中間を空けた状態で検出され，下層からも数個検出されている。石材は安山岩，頁岩で，数点が被熱する。埋土は暗褐色で白パミスや炭化物を含む粒子の細かい硬質土である。

集石38号（第157図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS38は，C－８区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は16個であった。浅いレンズ状の掘り込みを有し，礫は掘り込みを充填する状況で，長軸0.69m，短軸0.52mの範囲にまとまって重層的に検出された。石材は砂岩，凝灰岩，頁岩で周辺からは土器片も出土した。埋土の特徴は不明である。

出土遺物

418は深鉢の口縁部片で波頂部に指頭による押圧を４個施し，胴部にはやや太めの平行沈線文を描き，線の始点と終点を刺突する。Ⅷb類と考えられる。掘り込みの南側のやや離れた位置で出土しているため，SS37とは時期差がある可能性も考えられる。419は低い高台をもつ底部である。

集石39号（第158図）

分　類：タイプⅠ

検出状況

SS39は，C－８区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は11個で，１個平均の重さが790ｇ，総量が8,685ｇであった。礫は，長軸1.44m，短軸0.46mの範囲に，西側と東側に分かれて検出される。東側のまとまりは，方形に組んで配置された配石炉の可能性がある。礫は，安山岩，頁岩，軽石が混在し，掘り込みは確認されなかった。

集石40号（第158図）

分　類：タイプⅣ

検出状況

SS40は，C－８区のⅣb層で検出された。

礫の検出状況から，立石遺構に該当する可能性もある。

規　模

構成礫数は14個で，１個平均の重さが1,059ｇ，総量が14,819ｇであった。礫は，長軸1.18m，短軸0.50mの範囲に広がる。掘り込みが２か所確認されたが，切り合いの状況を捉えることはできなかった。時期差のある遺構の可能性も捨てきれない。西側の掘り込みは長軸0.42m，短軸0.37mの楕円形を呈し，検出面からの深さは推定で25㎝程である。大型の角礫を充填する。東側の掘り込みは0.27m×0.27mの円形を呈し，検出面から７㎝のレンズ状の形状である。角礫のほかに磨・敲石を含む礫が充填する。石材は，凝灰岩，花崗岩，頁岩，砂岩である。埋土は褐色で周辺のⅤ層よりやや黒く炭化物をわずかに含む。

出土遺物

S151は，砂岩製の磨・敲石Ⅱa類である。完形で石鹸型を呈する。被熱の痕跡がみられ煤が付着する。

集石41号（第159・160図）

分　類：タイプⅠ

検出状況

SS41は，D・E－８区のⅥ層で検出された。

石皿の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規　模

構成礫数は28個であった。礫は長軸3.09m，短軸2.50mの範囲に散礫状に広がる。小礫のほかに，石皿片が目立つ。石材は安山岩，花崗岩，頁岩で，土器片も出土した。掘り込みは確認できなかった。

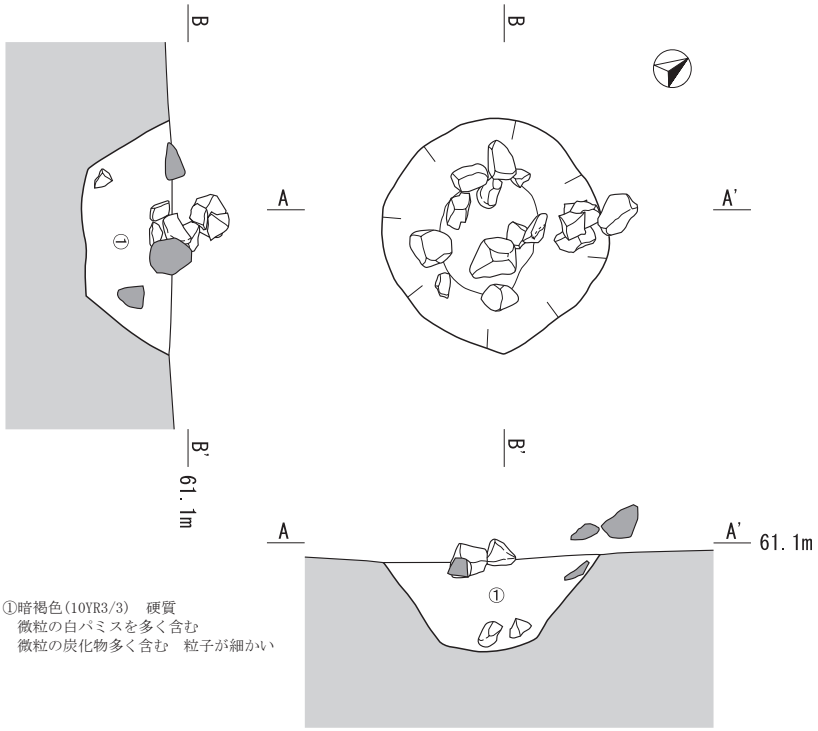
出土遺物

420・421は深鉢の底部片で，底面に網代痕が残る。

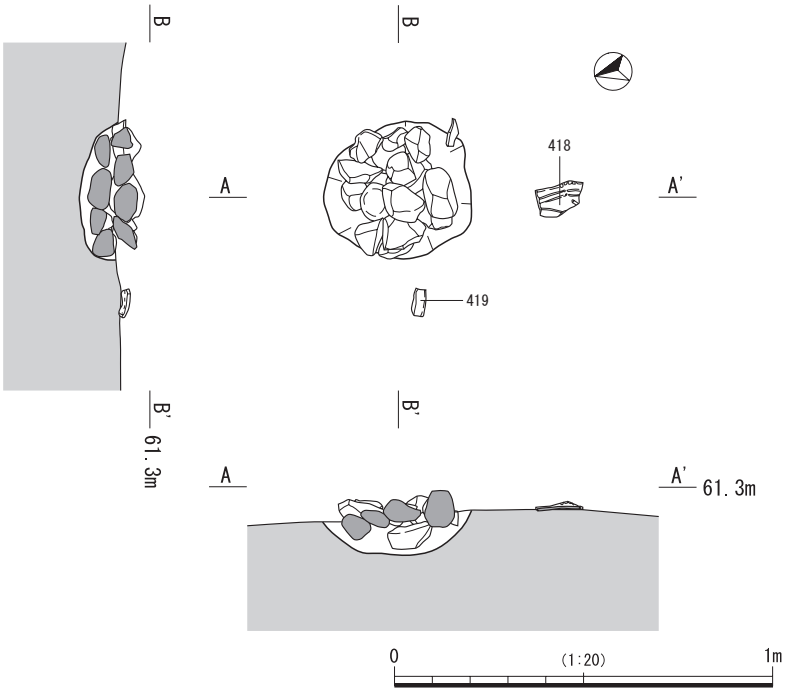
S152は，外面の擦痕から，磨製石斧Ⅵ類の体部から刃部の破片で，主に裏面側から加工されたものである。硬質な砂岩製である。右側縁は正面側からも微細な剥離を施して凸状の刃部を形成する。円形のスクレイパーとして再使用した可能性も考えられる。また両側縁は敲打にも多用され，稜が潰れる。S153は，安山岩Ｂ類製の石錘Ⅰc類である。S154～S157は花崗岩製の石皿である。S154は石皿Ⅰb類である。右上を欠く。中央の凹みが顕著である。真下と左下の二方向に掻き出し口を形成する。S154は残存デンプン粒子の分析によって磨面２か所から，円・楕円などの形状のデンプン粒子が22個検出され，球根類や堅果類の可能性を示唆する。S155は石皿Ⅲ類である。上面・下面を欠く。中央付近にやや浅い凹みを形成する。風化が著しい。

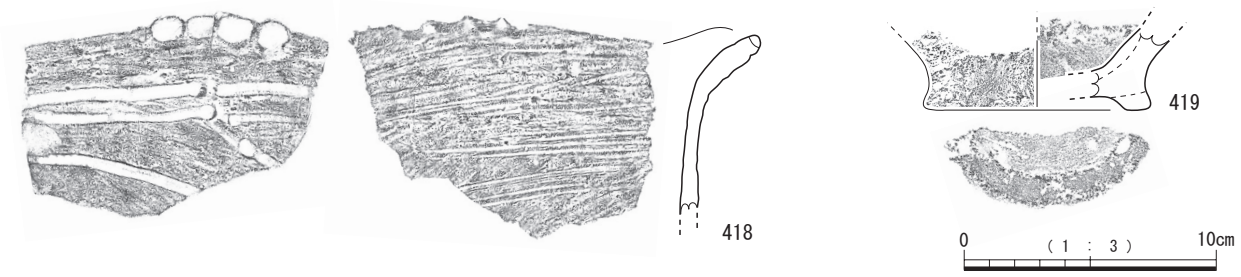
S156は石皿のⅢ類である。方形に成型していると判断し，Ⅲ類としている。中央に明瞭な凹みを形成する。S157は石皿Ⅵ類である。上部を欠く。中央は浅く凹み，磨面の境目には明瞭な稜を形成する。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。

ＳＳ３７



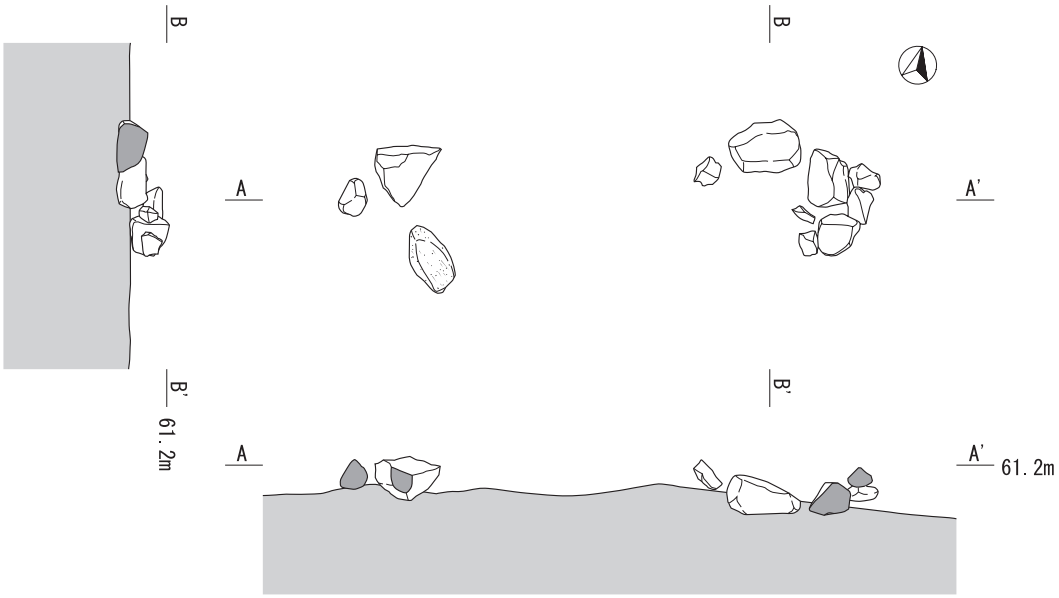
ＳＳ３８



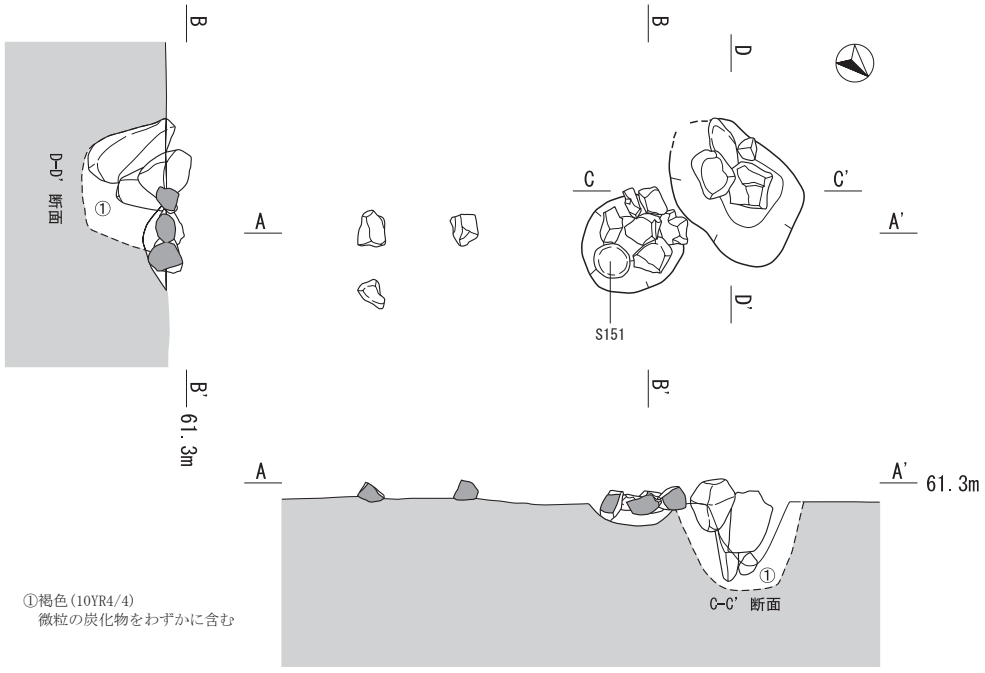


第157図　集石37・38号と集石38号出土遺物

ＳＳ３９

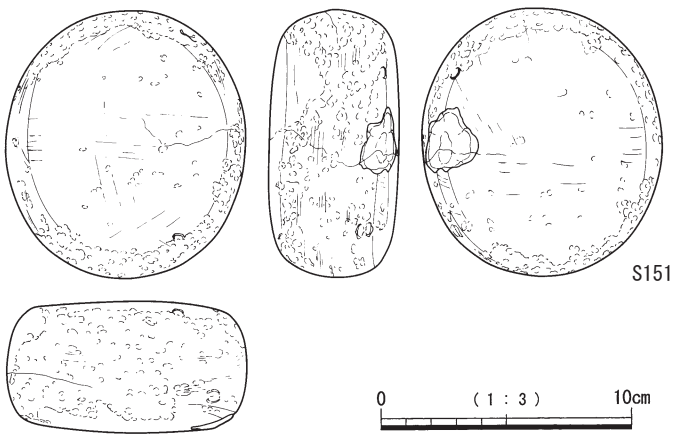


ＳＳ４０



①褐色(10YR4/4)
微粒の炭化物をわずかに含む

0 (1:20) 1m



0 (1:3) 10cm

第158図　集石39・40号と集石40号出土遺物

集石42号（第161図）
分　類：タイプⅣ
検出状況
SS42は，E－８区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は９個で，１個平均の重さが2,019ｇ，総量が18,168ｇであった。礫は，長軸0.96m，短軸0.60mの範囲に広がる。大型の亜円礫を主体とする。南側の小さな掘り込みの深さは，検出面から15cmである。石材は安山岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩，ホルンフェルスである。掘り込みの埋土は暗褐色で黄色パミス，炭化物を含む軟質のやや粘質土である。
出土遺物
S158は花崗岩製の磨・敲石Ⅱa類である。石鹸形を呈する。風化が著しい。

集石43号（第161図）
分　類：タイプⅠ
検出状況
SS43は，E－８区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は11個であった。礫は，長軸1.17m，短軸1.17mの範囲に散礫状に広がる。石材は，安山岩，砂岩，頁岩，花崗岩である。掘り込みは確認されなかった。
出土遺物
422は口縁部肥厚帯がほぼ横向きに形成され，口唇部は平坦に面取りされる。Ⅸb類と考えられる深鉢の口縁部小片である。423は平行沈線文間に単節縄文を回転させて施文したⅦa類の胴部片である。424は外面が反り返ることから，深鉢の頸部片を使用した円盤状土製加工品である。
S159・S160は安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅰ類である。S160には煤が付着する。

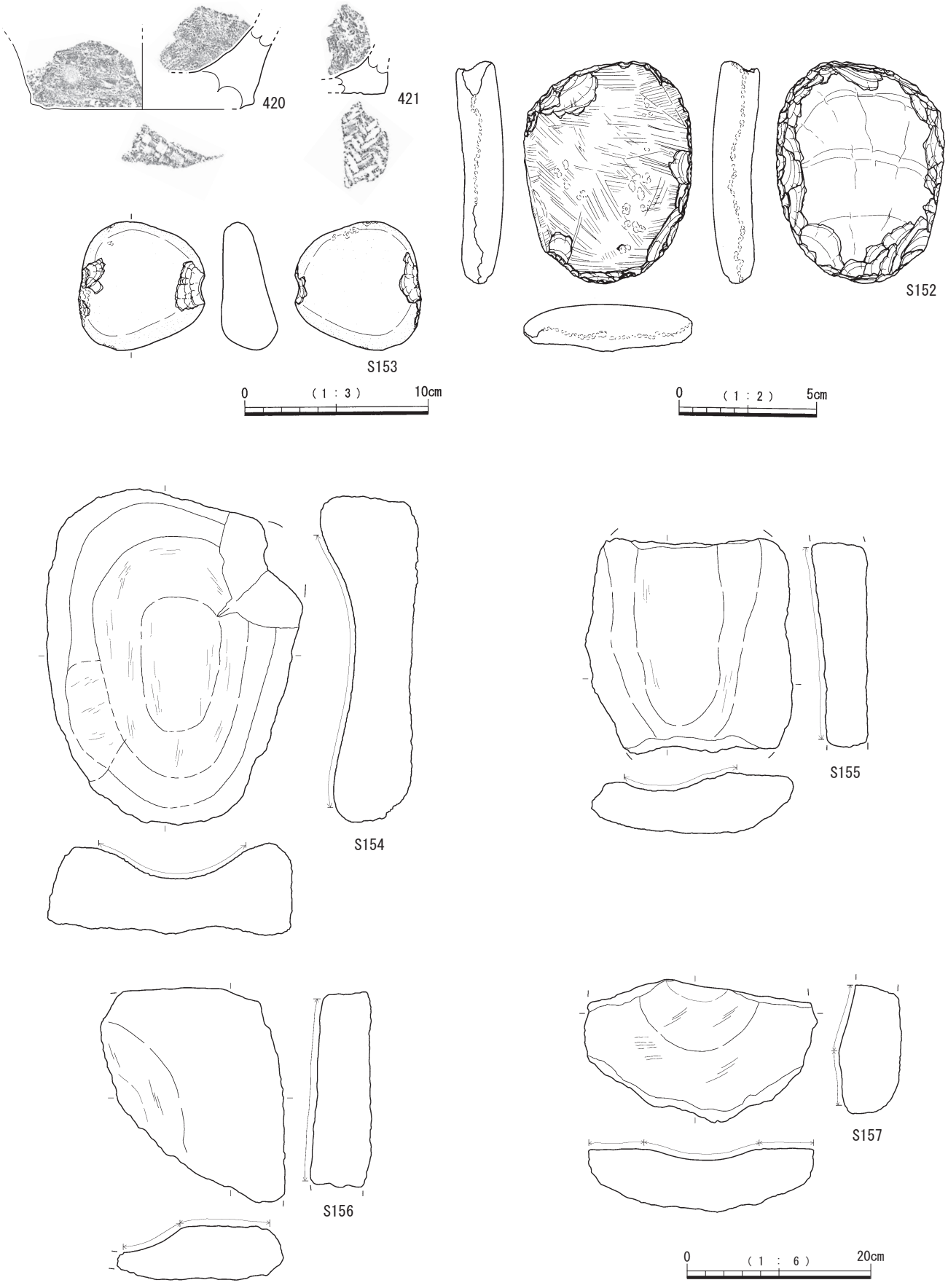
集石44号（第162図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS44は，E－８区のⅣa層で検出された。
石皿や礫などの検出状況から，石皿配石の可能性がある。
規　模
構成礫数は11個で，１個平均の重さが3,885ｇ，総量が42,737ｇであった。やや大型の角礫を中心とした構成礫が，掘り込みの上層にまとまって，長軸0.50m，短軸0.49mの範囲に検出された。掘り込みの深さは，検出面から27cmである。石材は，安山岩，凝灰岩，花崗岩で，土器片も出土したが形態は不明で，図化には至らなかった。石皿片も含む。埋土は暗褐色で黄パミスや炭化物を含む粒子のやや粗い硬質土である。
出土遺物
S161は，花崗岩製の石皿Ⅰb類である。上半を欠く。中央に浅い凹みを形成し，凹みの中央には敲打痕がみられる。真下及び左下の２方向に掻き出し口を形成する。

集石45号（第163図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS45は，Ｂ・Ｃ－９区のⅣb層で検出された。
石皿や礫などの検出状況から，石皿配石の可能性がある。
規　模
構成礫数は11個で，１個平均の重さが2,119ｇ，総量が23,310ｇであった。礫は掘り込みの中央に長軸0.59m，短軸0.55mの範囲にまとまる。礫は床面からはわずかに浮く。掘り込みの東側からは，石皿片が出土した。掘り込みの深さは検出面から12cmで皿状の形状である。石材は，頁岩，凝灰岩である。埋土は褐色で粒子のやや細かなやや軟質土である。
出土遺物
425は口縁部が屈曲し，短く外反する。文様はやや太めの沈線により描かれ，胴部最大径のあたりにアーチ状のモチーフを多重に描き，線の始点と終点を一部入り組ませる。Ⅷb類と考えられる。内外面は丁寧なナデ仕上げで，器壁が薄く精緻な作りである。
S162は砂岩製の磨・敲石Ⅴa類である。正面・裏面を研磨する。断面形は歪な三角形状である。上面には平坦面を有し，下面側は敲き潰れる。S163は花崗岩製の石皿Ⅰa類である。上半を欠く。やや縦長の形態であると推測され，中央に浅い凹みを形成し，その真下に掻き出し口をつくる。

集石46号（第164図）
分　類：タイプⅠ
検出状況
SS46は，E－９区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は７個であった。礫は，長軸0.57m，短軸0.25mの範囲に散礫状に広がる。構成礫は凝灰岩，安山岩，砂岩，頁岩，ホルンフェルスである。数点が被熱していた。掘り込みは確認されなかった。埋土の特徴については不明である。
出土遺物
426は深鉢の口縁部で外面最上位に貝殻腹縁刺突を巡らせ，胴部に沈線文を施す。Ⅵc類と考えられる。

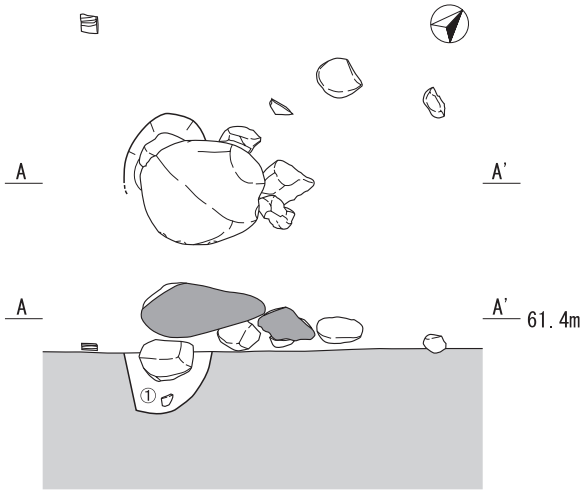
ＳＳ４１
B'
B' 61.2m
S153
S155
420
S152
S154
S157
A
A'
421
S156
B
B
A
A' 61.2m
0
(1:20)
1m

第159図　集石41号

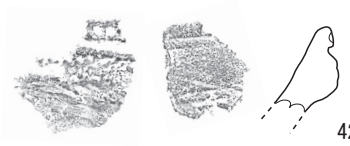


第160図　集石41号出土遺物

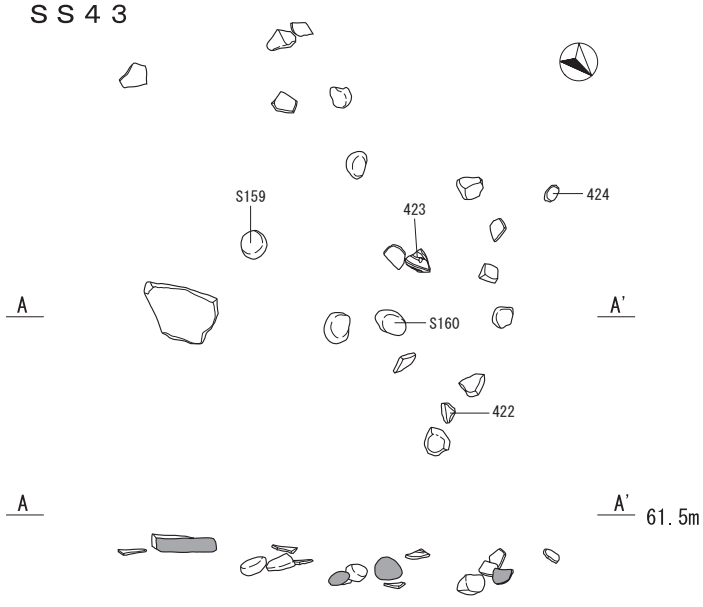
ＳＳ４２

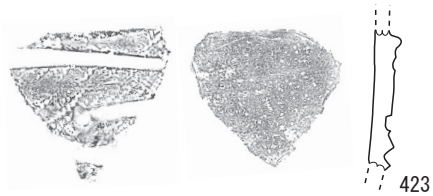


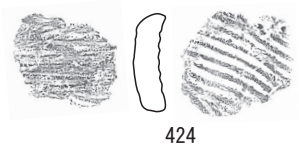
①暗褐色(10YR3/4)　軟質　やや粘質
　黄色パミス（1～2㎜）をわずかに含む
　微粒の炭化物をごくわずかに含む　周囲の包含層に比べ若干暗い

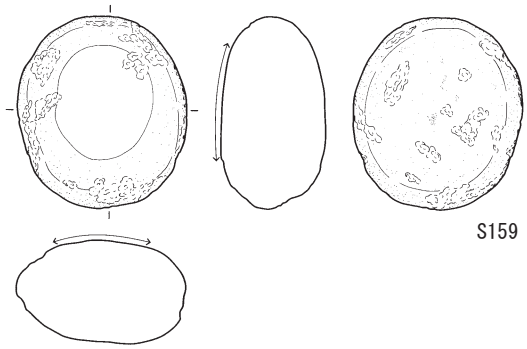


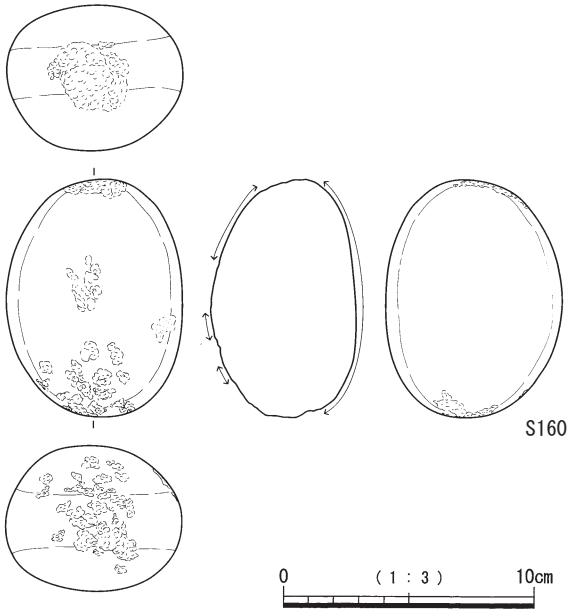
ＳＳ４３



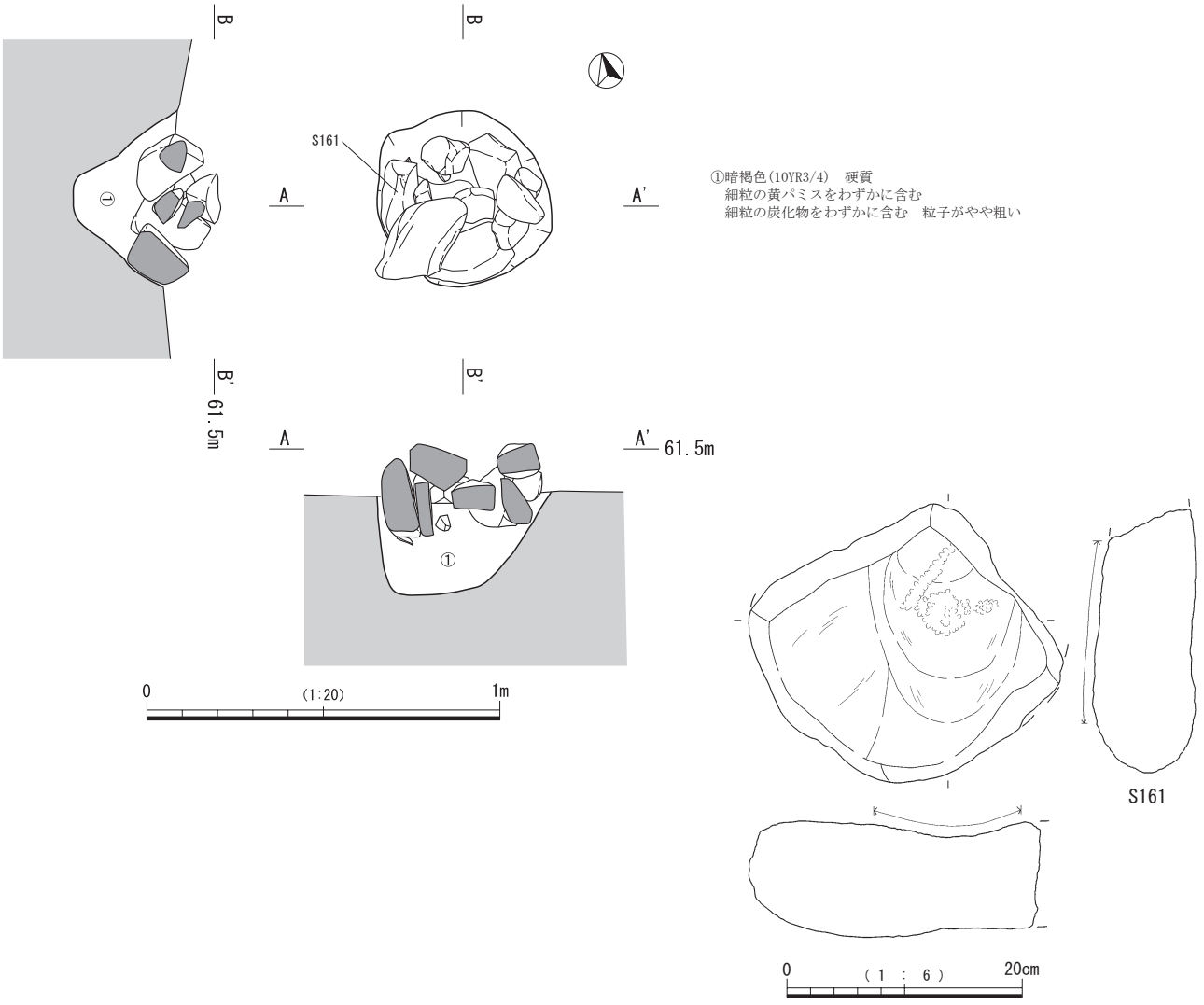








第161図　集石42・43号と出土遺物



第162図　集石44号と出土遺物

集石47号（第164図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS47は，Ｆ－９区のⅣa層で検出された。

規　模

構成礫数は31個であった。やや大型の亜円礫や角礫が，掘り込みをほぼ充填する状態で，長軸0.80m，短軸0.67mの範囲にまとまって検出された。礫の断面形状からは石皿片等の石器類を含む可能性も考えられる。掘り込みの深さは，検出面から10cmで，浅い皿状の形状である。石材は，安山岩，砂岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩である。数点の礫が被熱していた。埋土の特徴については不明である。

集石48号（第165・166図）

分　類：タイプⅣ

検出状況

SS48は，Ｂ－10区のⅣb層で検出された。

石皿や礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

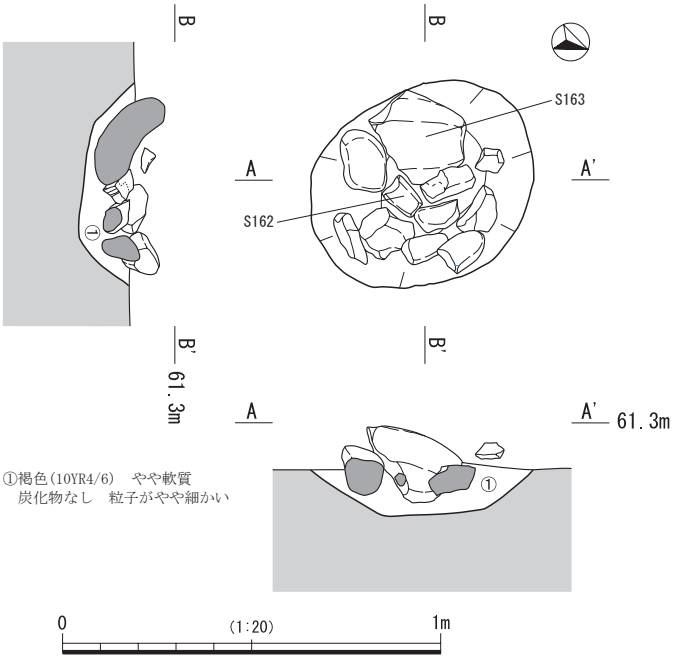
規　模

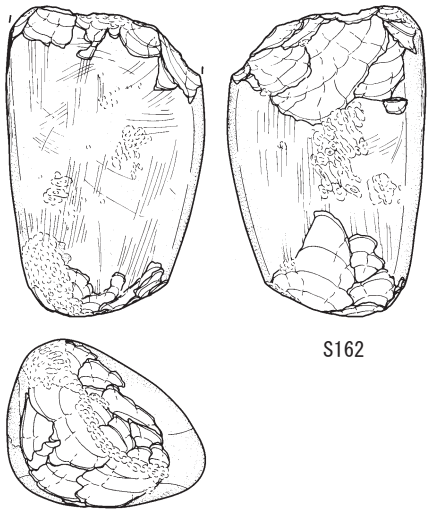
構成礫数は23個で，１個平均の重さが1,942ｇ，総量が44,668ｇであった。礫は，長軸2.00m，短軸1.29mの範囲に広がる。北東に，検出面からの深さが15cm程の不定型な円形状の掘り込みが検出された。石皿片などが充填される。掘り込みの西側と南側にも散礫状に広がって検出された状況である。礫は安山岩，凝灰岩，頁岩，砂岩，花崗岩が出土する。埋土は暗褐色で炭化物を含む粒子の細かい軟質土である。パミス類は含まれない。

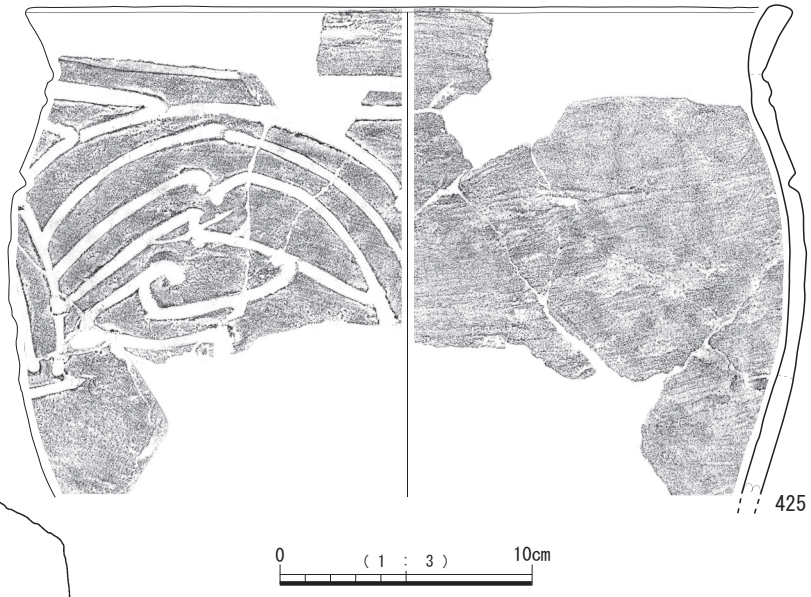
出土遺物

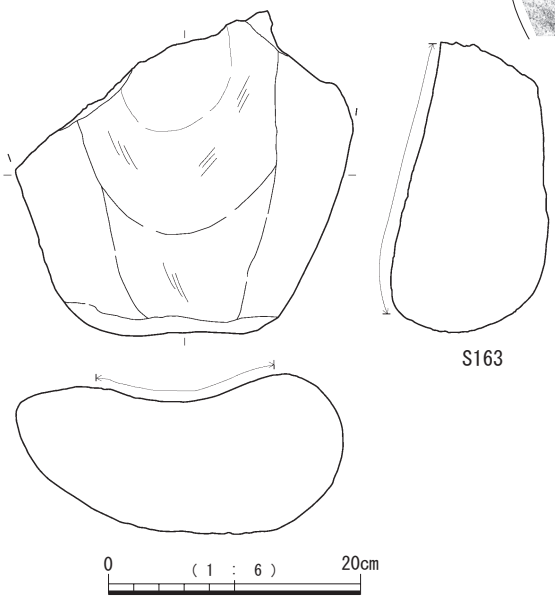
427・428は胎土や調整の特徴から同一個体の深鉢片であると判断した。胴部～口縁部が直線的な印象のプロポーションであると推測される。平坦口縁で，やや内傾

ＳＳ４５

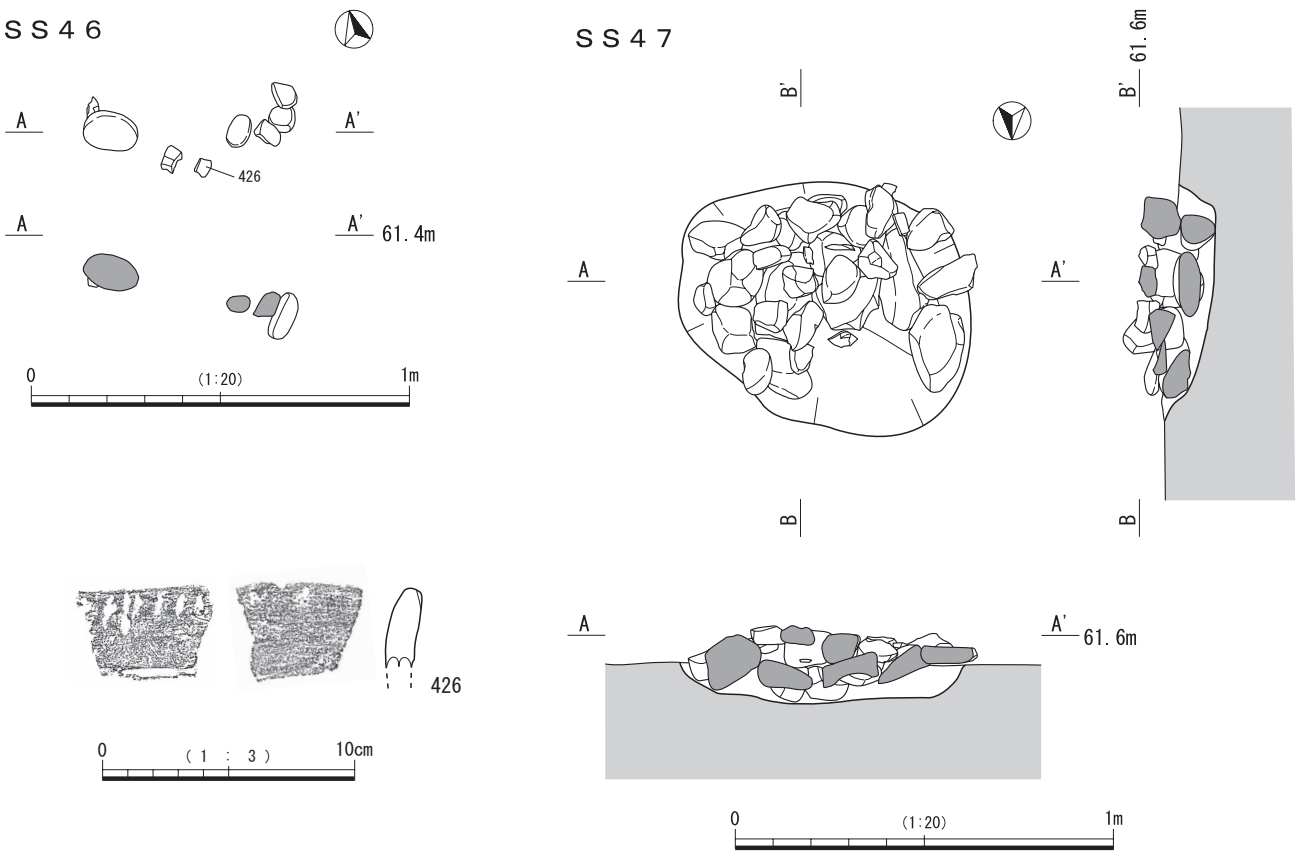








第163図　集石45号と出土遺物



第164図　集石46・47号と集石46号出土遺物

する口唇部平坦面に，沈線を貝殻腹縁刺突による文様帯を有する。口縁端部の稜は緩い。胴部の内外面を貝殻条痕によって調整する。Ⅸa類と考えられる。

S164は，砂岩製の磨・敲石Ⅱa類である。表裏面および周縁部にに顕著な擦痕が確認されよく使用される。S165は花崗岩製の石皿Ⅰa類である。上部を欠く。中央に浅い凹みを形成する。

集石49号（第167図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS49は，Ｂ-10区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は13個であった。大型の角礫を中心とした礫が，掘り込みの中央部分の長軸0.56m，短軸0.50mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは，検出面から８cmでレンズ状の形状である。石材は，安山岩，凝灰岩，頁岩で，土器も出土した。埋土は暗褐色で炭化物を含む粒子の細かい軟質土である。

出土遺物

429は底部片で底面の網代痕をナデ消す。白色付着物がみられる。

集石50号（第167図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS50は，Ｂ-10区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は10個であった。大型の礫が長軸0.58m，短軸0.25mの範囲で，ほぼ南北の軸に沿い，縦長にまとまって検出された。SS50の北側が深く落ち込む。石材は，安山岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩で，土器片も出土した。数点に被熱の痕跡が窺える。掘り込みや炭化物は確認されなかった。

出土遺物

430は網代痕が残る底部片である。断面にも煤が付着する。

集石51号（第167図）

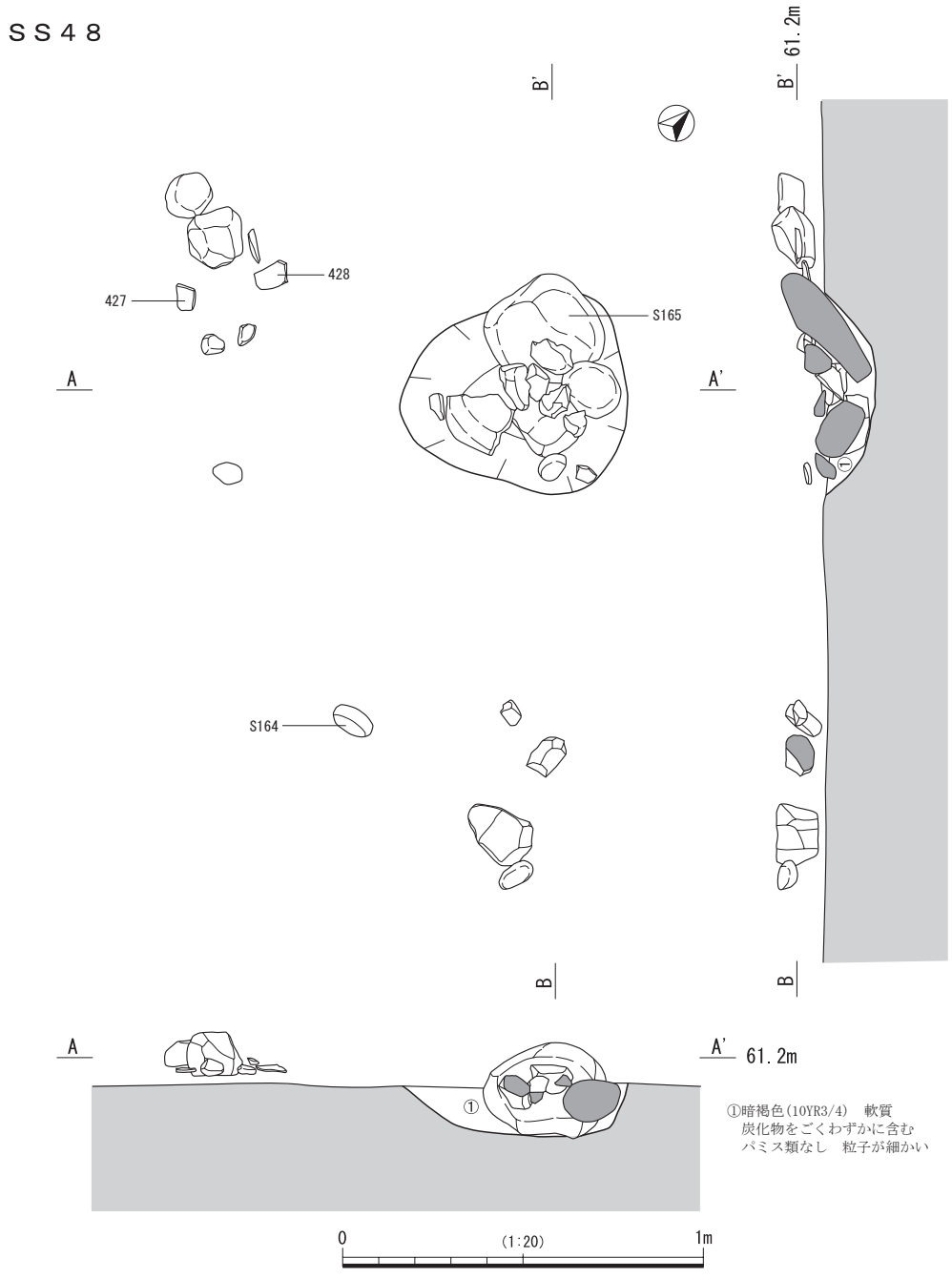
分　類：タイプⅠ

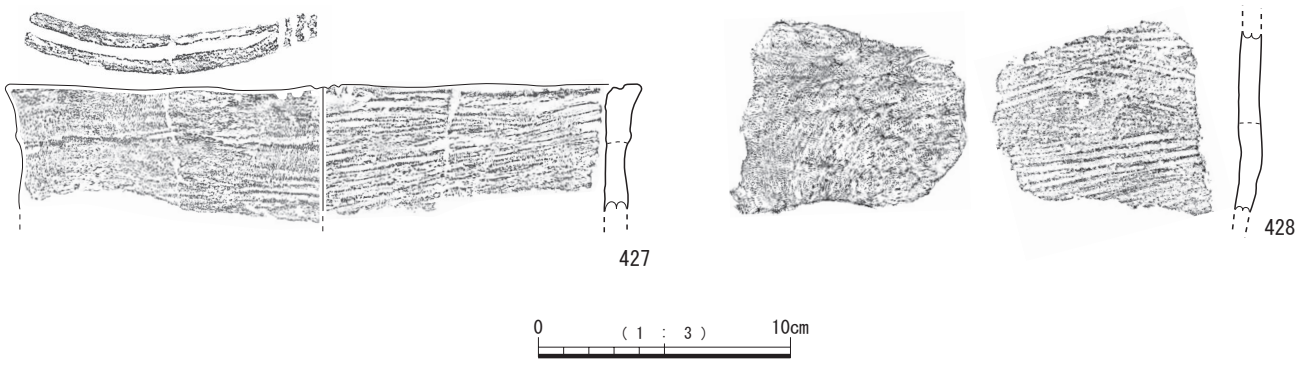
検出状況

SS51は，Ｃ-10区のⅣb層で検出された。

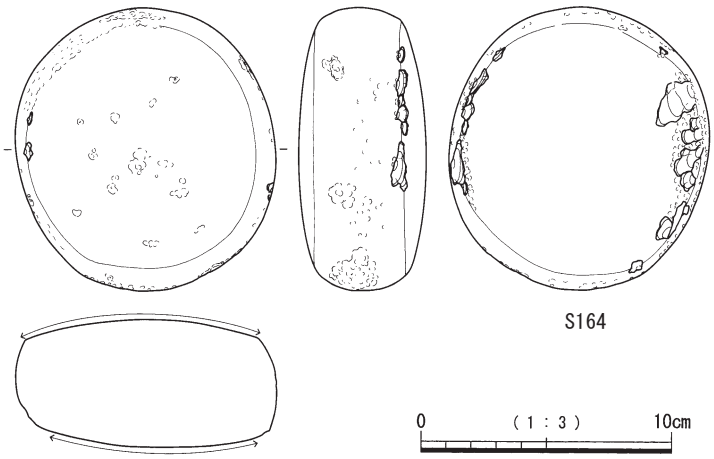
規　模

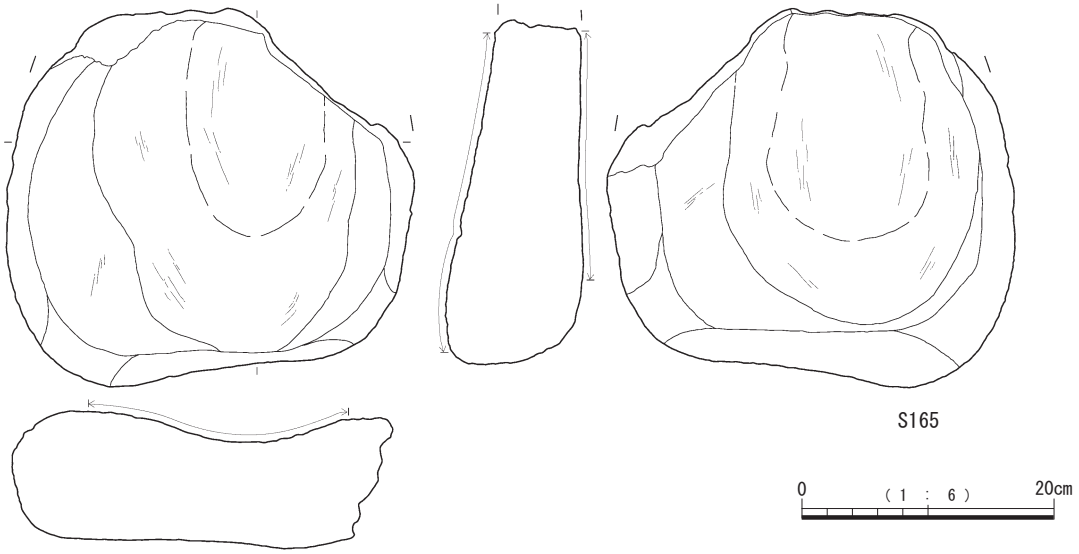
構成礫数は４個で，１個平均の重さが399ｇ，総量が1,594ｇであった。礫は，長軸0.34m，短軸0.18mの範





第165図　集石48号と出土遺物（１）



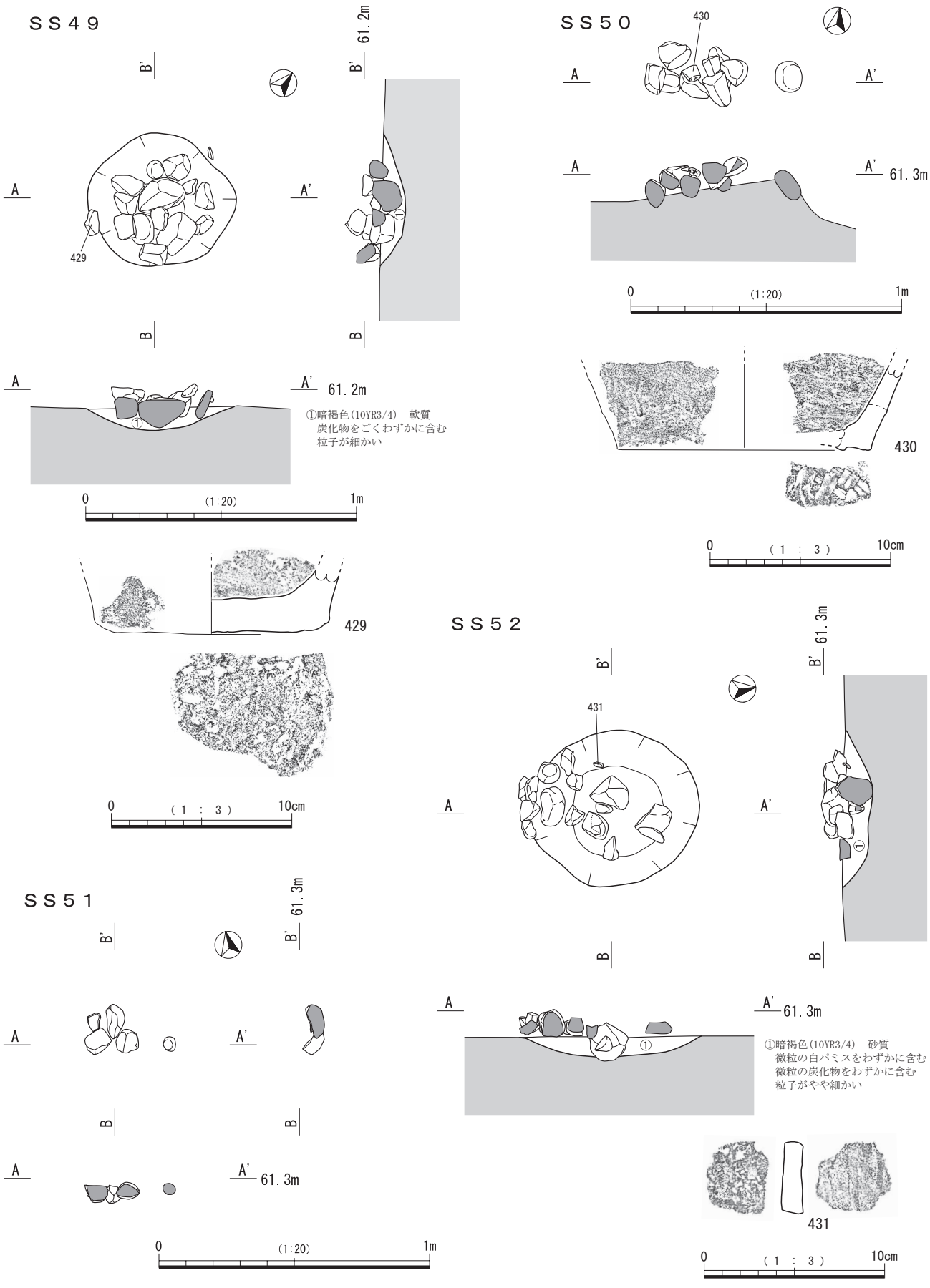


第166図　集石48号出土遺物（２）

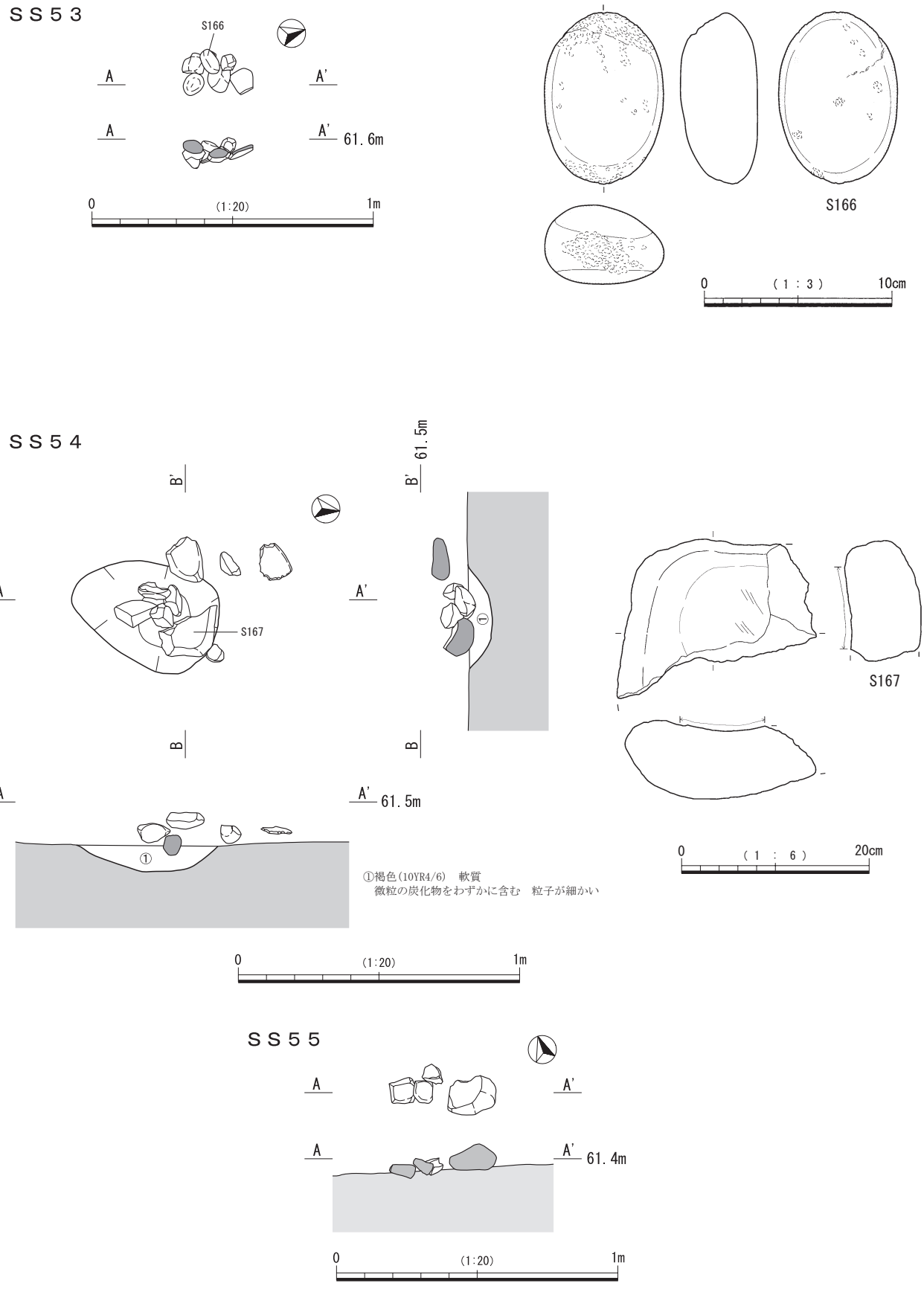
囲にまとまって検出された。石材は，安山岩，頁岩で，数点に被熱の痕跡が認められた。土器が混在する。掘り込みや炭化物は確認されなかった。

集石52号（第167図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS52は，C-10区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は15個であった。礫は，長軸0.67m，短軸0.57mの範囲で掘り込みの北側の上層に偏って検出された。中央部から検出された最も大型の礫は底面着である。掘り込みの深さは検出面から８㎝で，浅い皿状の形状である。石材は，頁岩，安山岩，凝灰岩，ホルンフェルスで，数点に被熱の痕跡が窺えた。土器片も含まれる。埋土は暗褐色で白パミスや炭化物を含む粒子のやや細かい砂質土である。
出土遺物
431は深鉢の胴部を用いた円盤状土製加工品である。

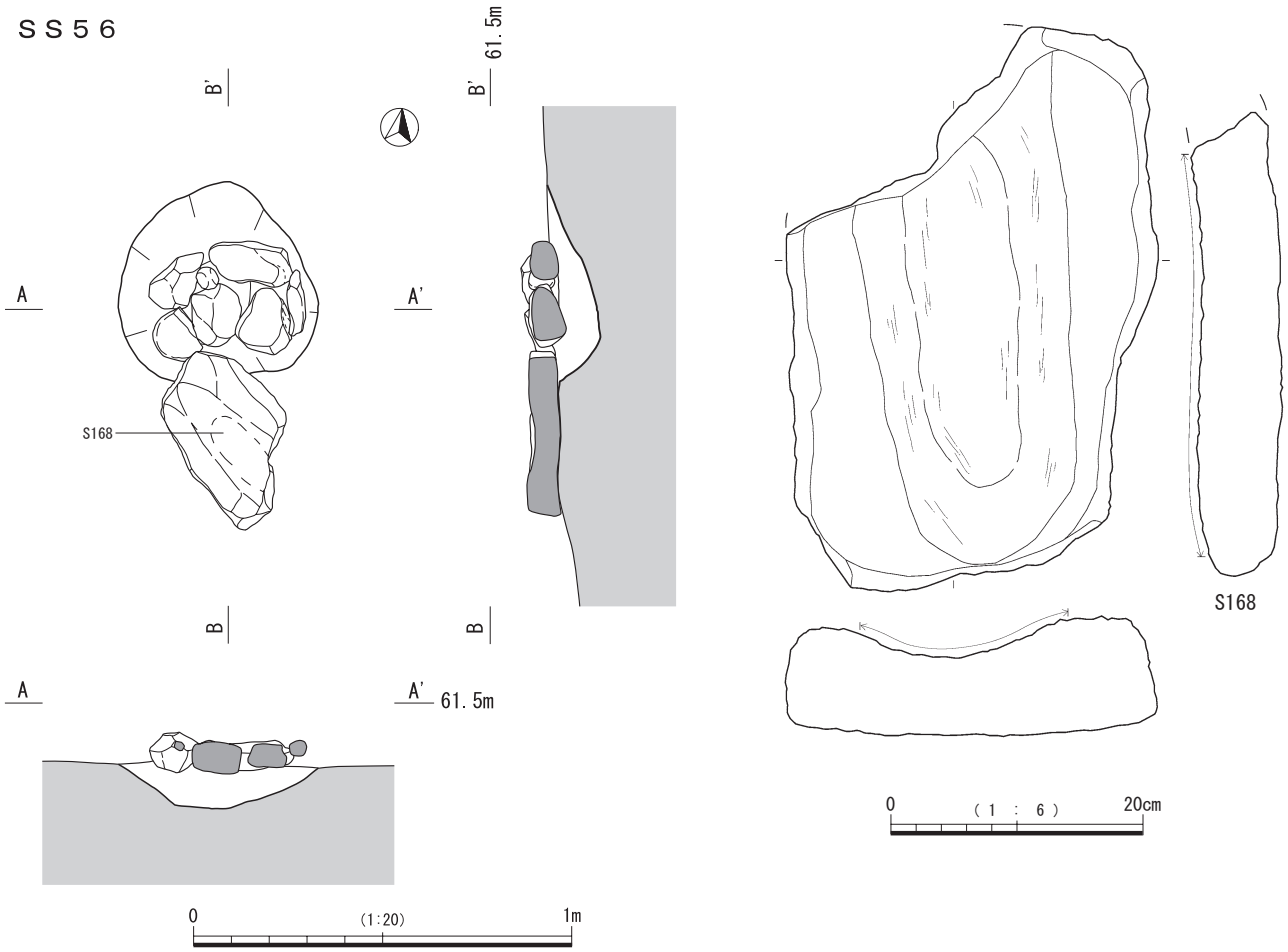
集石53号（第168図）
分　類：タイプⅡ
検出状況
SS53は，C-10区のⅣa層で検出された。
規　模
構成礫数は５個で，１個平均の重さが347ｇ，総量が1,736ｇであった。礫は，長軸0.25m，短軸0.17mの範囲にまとまり検出された。石材は，安山岩，砂岩，ホルンフェルスが混在し，掘り込みは確認されなかった。
出土遺物
S166は安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅰ類である。主に正面の上部と下面を敲打に使用する。



第167図　集石49～52号と集石49・50・52号出土遺物



第168図　集石53～55号と集石53・54号出土遺物



第169図　集石56号と出土遺物

集石54号（第168図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS54は，C-10区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は９個であった。礫は，長軸0.79m，短軸0.48mの範囲に広がる。掘り込みの埋土上層に石皿片を含む構成礫の多くがまとまって検出された。掘り込みの深さは，検出面から深さ８cmである。石材は，凝灰岩，花崗岩が出土する。埋土は褐色で炭化物を含む粒子の細かい軟質土である。
出土遺物
S167は，凝灰岩製の石皿のⅥ類である。下面と右側を欠く。中央付近に浅い凹みを有すると推測される。残存部が少なくⅥ類としたが上面右側の残存状況から形態はⅢ類のように方形を呈した可能性もある。

集石55号（第168図）
分　類：タイプⅠ
検出状況
SS55は，C-10区のⅣb層で検出された。
規　模
構成礫数は４個で，１個平均の重さが866ｇ，総量が3,464ｇであった。礫は，長軸0.37m，短軸0.18mの範囲に広がる。石材は，安山岩，花崗岩が混在し，掘り込みは確認されなかった。

集石56号（第169図）
分　類：タイプⅢ
検出状況
SS56は，C-10区のⅣb層で検出された。
石皿や礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。
規　模
構成礫数は７個であった。礫は，長軸0.93m，短軸0.52mの範囲に広がる。掘り込みの深さは，検出面から深さ13cmである。礫は掘り込み中央部分の埋土上層にまとまって検出された。また，掘り込みの南側に大きくはみ出す状況，且つ使用面を上に向けた倒位の状況で石皿が

出土した。石材は，安山岩，頁岩，凝灰岩，花崗岩である。埋土の特徴については不明である。

出土遺物

S168は，花崗岩製の石皿Ⅲ類である。左上を欠き，板状に薄い形態で，方形を呈すると推測される。中央に浅い凹みを形成する。

集石57号（第170図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS57は，C-10区区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は７個で，１個平均の重さが372ｇ，総量が2,601ｇであった。礫は，長軸0.29m，短軸0.24mの範囲にまとまって検出された。掘り込みは確認されなかった。中心が空き，礫がサークル状に組まれた配石炉の可能性も考えられる。石材は，凝灰岩，頁岩，花崗岩が混在し，数点にわずかな被熱の痕跡が窺えた。周辺で微粒炭化物が確認されたが，集石に伴うものかは不明である。

集石58号（第170図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS58は，C-10区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は５個であった。礫は,長軸0.25m,短軸0.24mの範囲にまとまって検出された。石材は，花崗岩，頁岩が混在し，約半数の礫に被熱の痕跡が窺えた。掘り込みは確認されなかった。

集石59号（第170図）

分　類：タイプⅠ

検出状況

SS59は，C-10区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は９個で，１個平均の重さが1,448ｇ，総量が13,028ｇであった。礫は，長軸0.85m，短軸0.68mの範囲に散礫状に広がる。石材は，安山岩，ホルンフェルス，砂岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩が混在し，掘り込みや炭化物は確認されなかった。

出土遺物

432は口縁部片で緩い波状を呈すると推測される。口縁部形態と文様の特徴からⅧa類と考えられる。

S169は，砂岩製の磨・敲石Ⅱb類である。扁平な大型の礫を使用し，主に正面中央と下面を敲打に使用する。裏面に弱い磨面を形成する。被熱による赤色化が顕著である。検出面に対し，直立して出土した。配置された可能性も考えられる。

集石60号（第171図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS60は，D-10区のⅣb層で検出された。

石皿や礫などの検出状況から石皿配石の可能性がある。

規　模

構成礫数は34個で，１個平均の重さが1,142ｇ，総量が38,828ｇであった。構成礫は石器を含む大型のものを主体とし掘り込みを充填する状況で，長軸0.88m，短軸0.88mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは，検出面から17㎝の浅い皿状の形状である。石材は，砂岩，頁岩，凝灰岩，花崗岩，軽石が出土しており，数点が被熱していた。ほかに土器片も含まれたが小片のため図化には至らなかった。埋土は暗褐色で黄・白パミスや炭化物を含むやや粒子の粗い軟質土である。

出土遺物

S170は，花崗岩製の石皿Ⅰa類である。上半分程度を欠く。中央に浅い凹みを形成し，その真下に掻き出し口を有する。S171は，大型の軽石加工品である。掘り込み中央の底面から裏面を上に向けた倒位の状態で出土した。正面は面取りによる平坦面を形成し深く凹ませ，裏面にも浅い凹みを形成する。３片に割れ，割れ口にも擦られた痕跡が窺える。裏面に赤色顔料が付着する可能性がある。正面・裏面の凹みは滑らかではなく，磨面あるいは砥面として使用されたものか，その他の用途のために形成されたものかは不明である。

集石61号（第172図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS61は，E-10区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は13個で，１個平均の重さが171ｇ，総量が2,219ｇであった。構成礫は小形の角礫を主体とし，長軸0.43m，短軸0.37mの範囲にまとまって検出された。石材は，砂岩，頁岩，凝灰岩，花崗岩，軽石が混在し，掘り込みは確認されなかった。

集石62号（第172図）

分　類：タイプⅢ

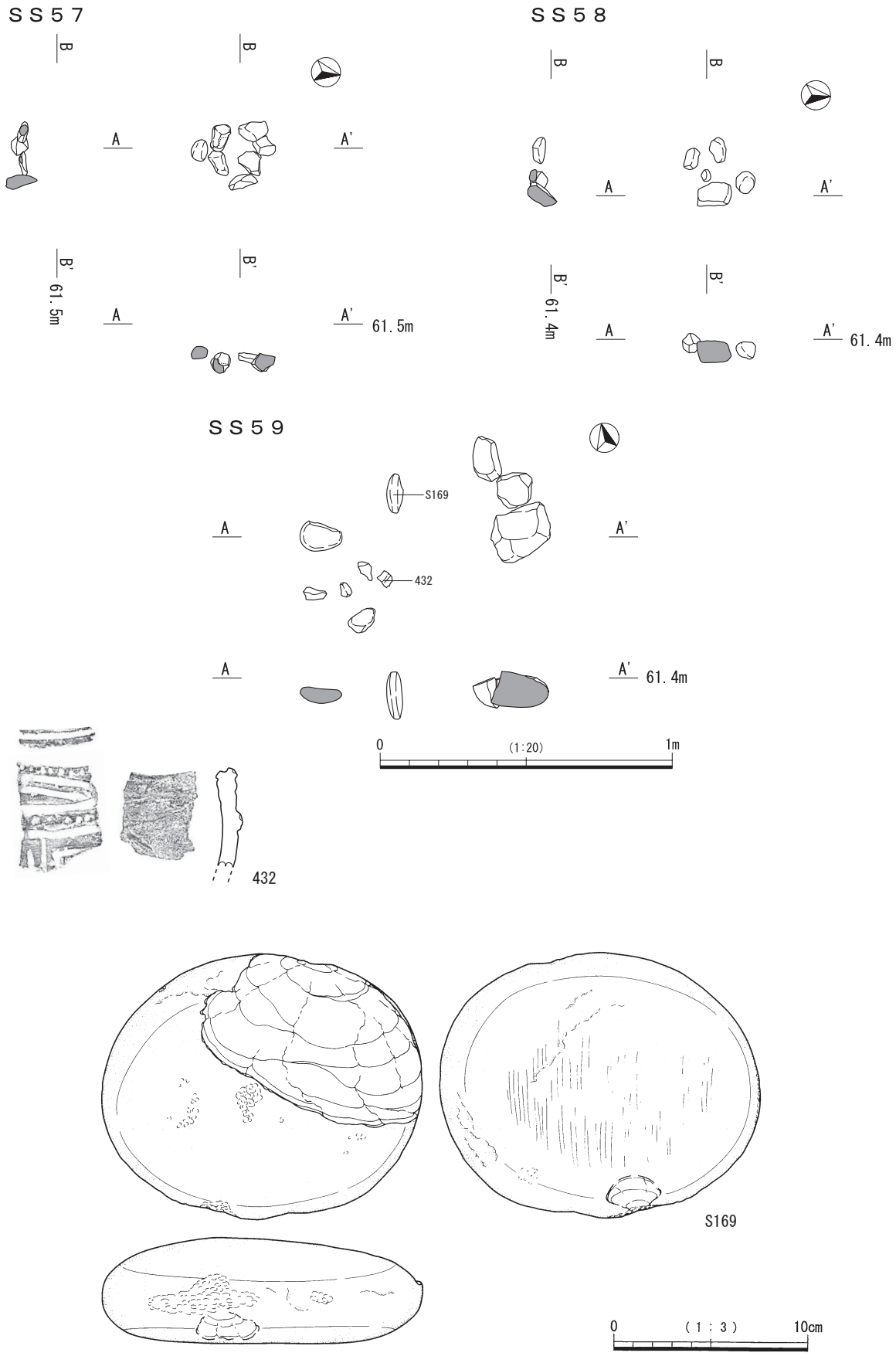
検出状況

SS62は，C-11区のⅣ層で検出された。

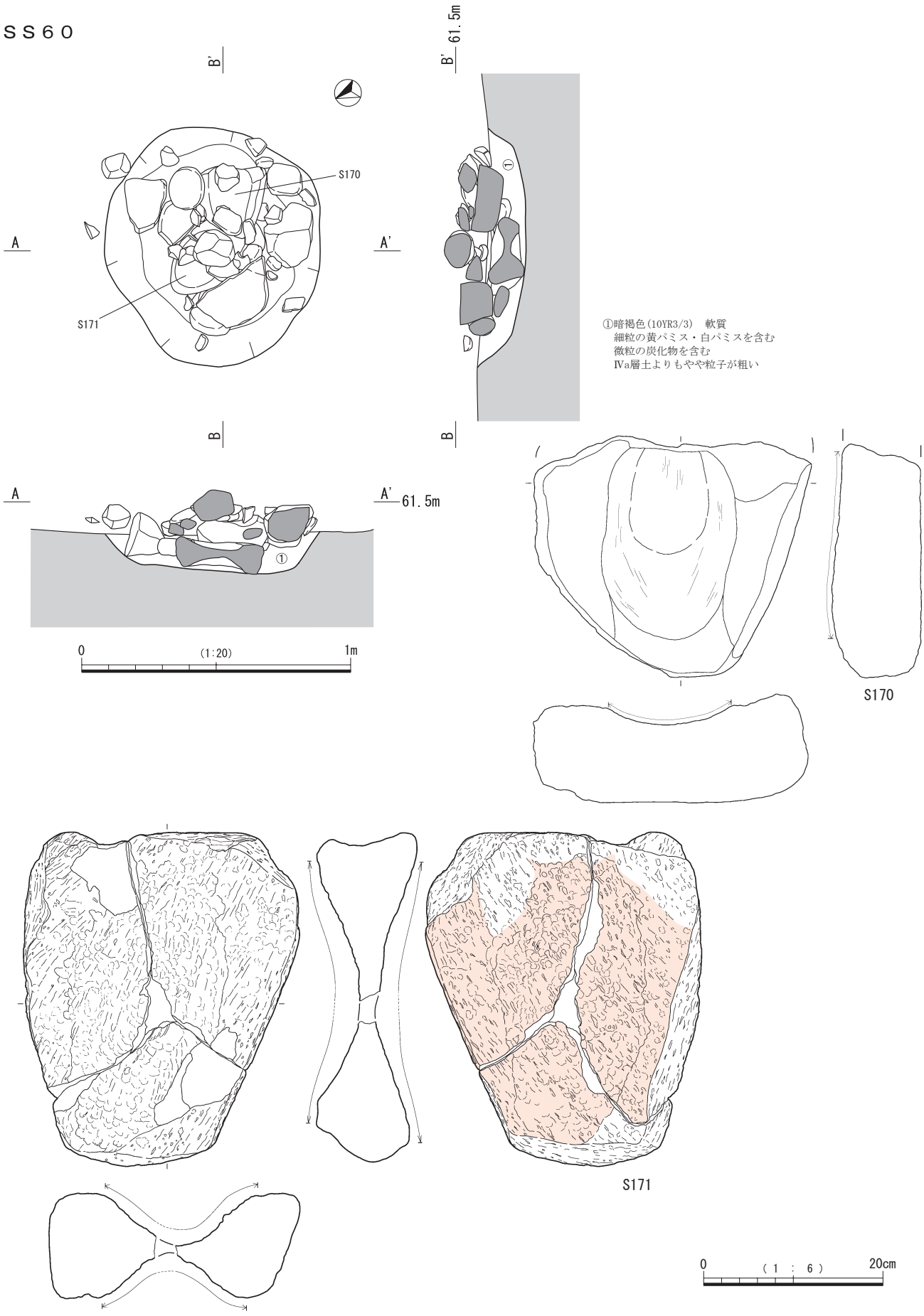
石皿や礫などの検出状況から，石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

規　模

構成礫数は25個で，１個平均の重さが1,187ｇ，総量が29,684ｇであった。礫は掘り込みを充填する状況で，長軸0.64m，短軸0.55mの範囲に広がる。大形の礫を床



第170図　集石57～59号と集石59号出土遺物



第171図　集石60号と出土遺物

に敷き詰めたような状態であった。掘り込みの深さは検出面から10㎝で，レンズ状の形状である。石材は，頁岩，凝灰岩，安山岩，砂岩，ホルンフェルスである。埋土は黒褐色で，炭化物を含む軟質の火山灰質土である。黄・白パミスが周囲の包含層より少ない。

出土遺物

S172は，砂岩製の石皿Ⅳ類（台石）である。正面の平坦な使用面に発達した磨面をもつ。全面が被熱により赤色化する。上面・右面・裏面の破断面は被熱によるものと推測される。

集石63号（第172図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS63は，C-11区のⅥ層で検出された。

規　模

構成礫数は６個で，１個平均の重さが2,192ｇ，総量が13,149ｇであった。構成礫は大型のものを主体とし，掘り込みの立ち上がり面に放射状に沿わせた状態で，長軸0.55m，短軸0.54mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは，検出面から12㎝で浅い皿状の形状である。中心に隙間があり，配石炉の可能性がある。石材は，花崗岩，安山岩，凝灰岩である。埋土の特徴については不明である。

石皿や礫などの検出状況から，石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

出土遺物

S173は凝灰岩製の石皿Ⅱ類で，右半分を欠く。中央に浅い凹みを形成し，凹みの中央に敲打痕が確認できる。

集石64号（第173図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS64は，C-11区のⅥ層で検出された。

石皿や礫などの検出状況から，石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

規　模

構成礫数は10個で，１個平均の重さが412ｇ，総量が4,119ｇであった。礫の検出状況はSS63と類似する。長軸0.80m，短軸0.65mの掘り込みの範囲内にまとまって検出された。掘り込みの深さは，検出面から10㎝の浅い皿状の形態で，配石炉の可能性がある。石材は，安山岩，ホルンフェルス，頁岩である。埋土の特徴については不明である。

出土遺物

S174は，砂岩製の砥石である。方形で，六面全面に砥面を有する。裏面の剥離面には敲打痕や擦痕がみられる。石皿片を破損後も再利用したものである可能性も考えられる。S175は，安山岩Ｂ類製の石皿片で，残存部が少なく形状が判断できないことから，Ⅵ類とした。正面に皿状，裏面に緩い凸面状の使用面がある。正面には敲打により整形した痕跡がみられる。

集石65号（第174図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS65は，C-11区のⅥ層で検出された。

規　模

構成礫数は33個で，１個平均の重さが786ｇ，総量が25,939ｇであった。礫は掘り込みの中に，長軸0.66m，短軸0.59mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは，検出面から14㎝のレンズ状の形状である。石材は，安山岩，砂岩，頁岩，凝灰岩，ホルンフェルスである。礫は掘り込みの底面からはわずかに浮いた状況で出土している。埋土は黒褐色で炭化物を含む軟質の砂質土である。周辺のⅦ層に比べてパミス類をほとんど含まない。石皿や礫などの検出状況から，石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

出土遺物

S176は砂岩製の磨・敲石Ⅱa類である。完形で石鹸形を呈する。煤がわずかに付着し，被熱による変色も確認される。S177は，砂岩製の砥石である。砥面は正面は全面的に浅く凹み，裏面には幅６㎝程の「U」の字状の浅い溝状に形成され，いずれも自然面との境界の稜が明瞭である。磨製石斧を磨いた痕跡である可能性も考えられる。被熱による赤色化が顕著に認められる。S178は，凝灰岩製の石皿Ⅱ類である。表面の中央部分が磨耗面で，ごく浅く凹む。裏面は緩い凸面状で，擦痕や敲打痕がみられる。

集石66号（第175図）

分　類：タイプⅢ

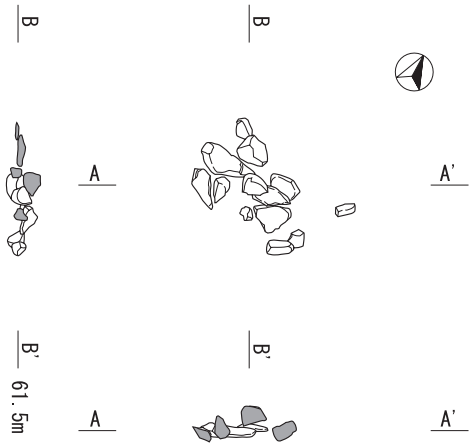
検出状況

SS66は，D-11区のⅥ層で検出された。

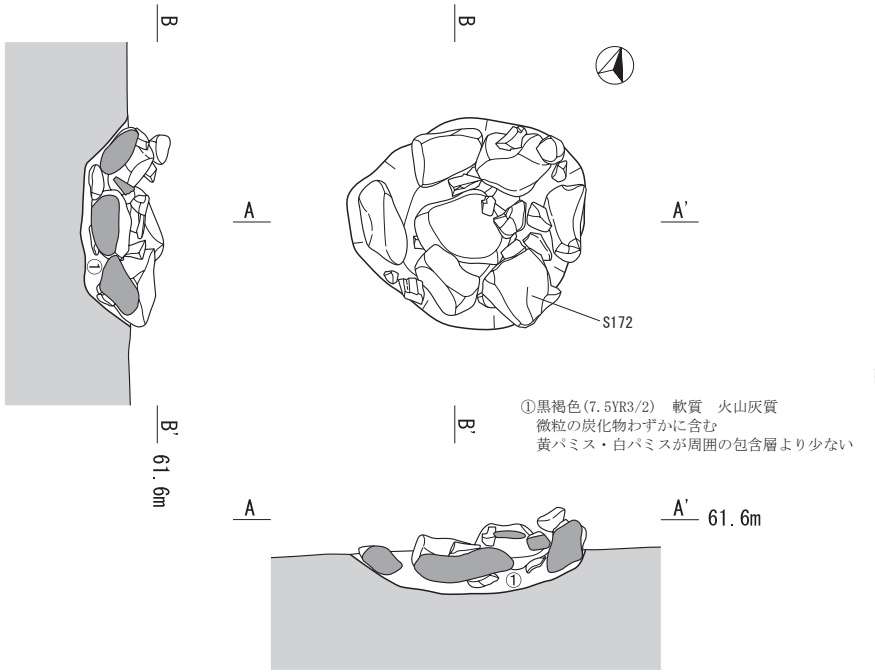
規　模

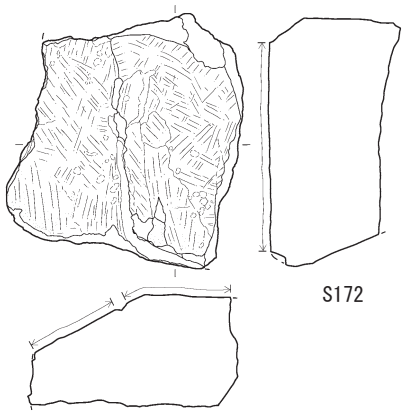
構成礫数は10個で，１個平均の重さが1,326ｇ，総量が13,264ｇであった。礫は，長軸0.62m，短軸0.53mの範囲に広がり，殆どが掘り込みの上面からまとまって検出された。掘り込みの北側にも数個が流れたような状況である。掘り込みの深さは，検出面から深さ８㎝で，浅い皿状の形状である。石材は，安山岩，砂岩，花崗岩である。SS63やSS64と構成礫の特徴や検出状況が共通し，配石炉の可能性がある。埋土は黒褐色で白・黄パミスを含む粒子細かい軟質土である。

ＳＳ６１

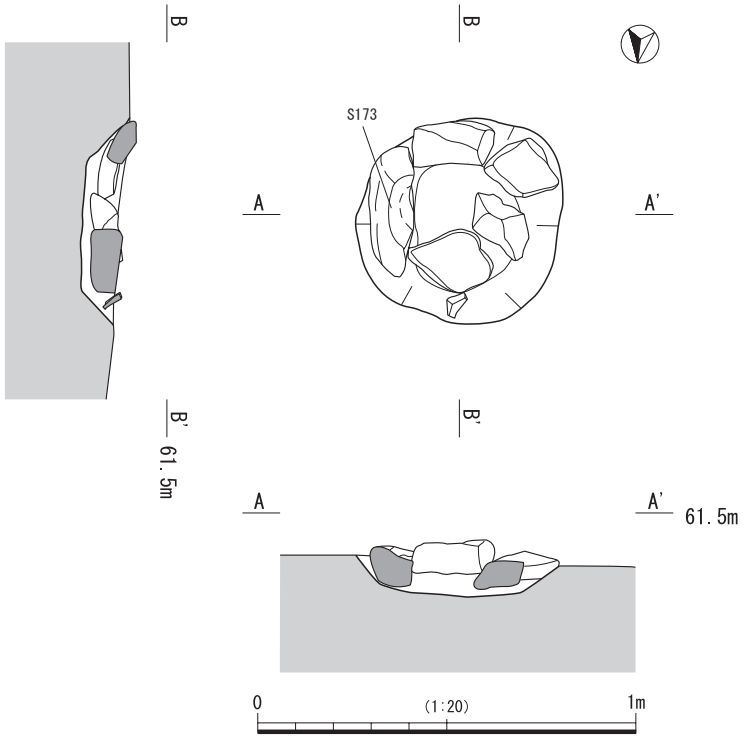


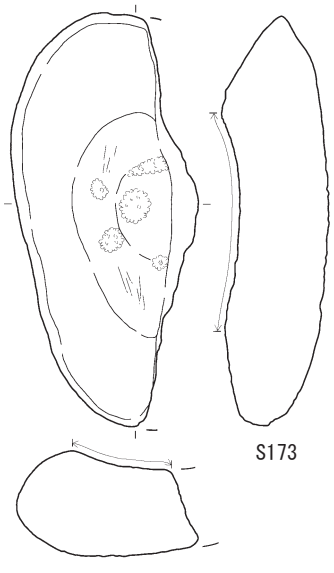
ＳＳ６２





ＳＳ６３

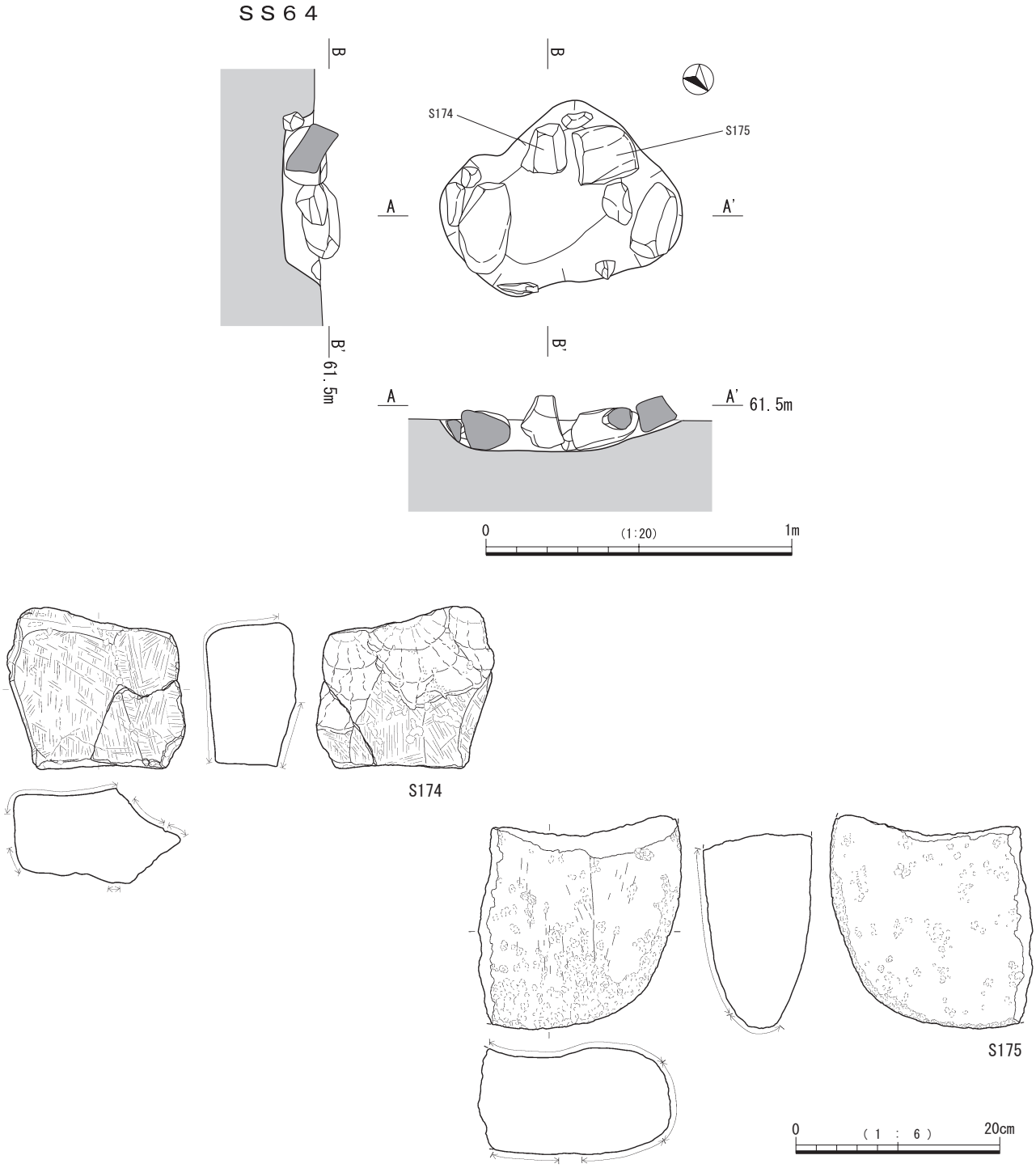




0　(1:20)　1m

0　(1 : 6)　20cm

第172図　集石61～63号と集石62・63号出土遺物



第173図　集石64号と出土遺物

集石67号（第175図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS67は，B-12区のⅣa層で検出された。

規　模

構成礫数は９個で，１個平均の重さが980ｇ，総量が8,820ｇであった。礫は，長軸0.55m，短軸0.38mの範囲にまとまって検出された。石材は，安山岩，砂岩，頁岩である。掘り込みは確認されなかった。

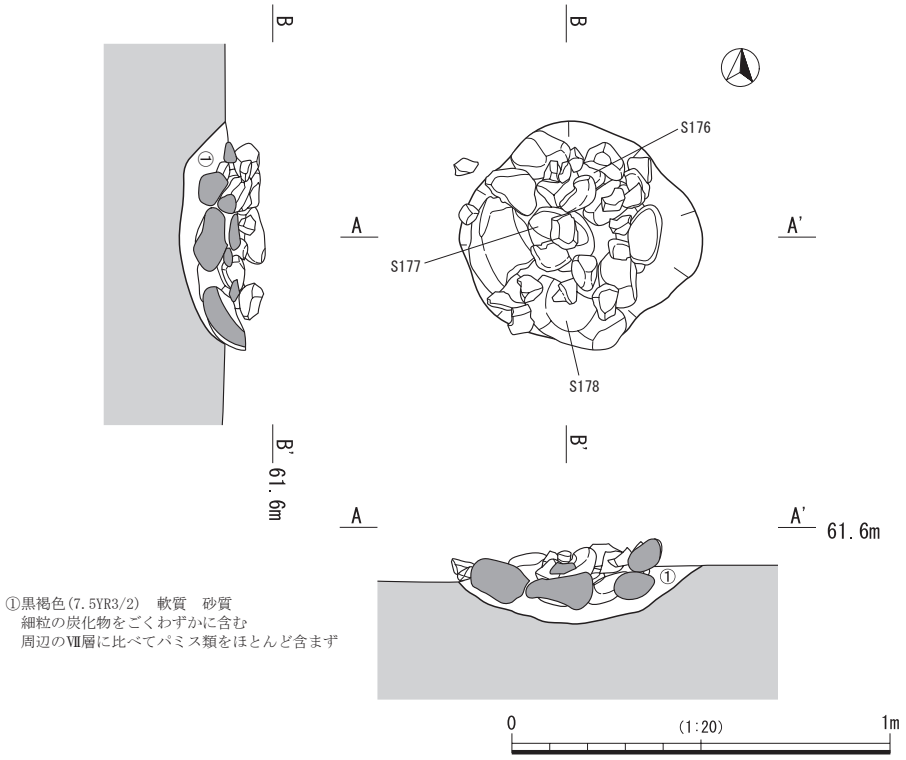
集石68号（第175図）

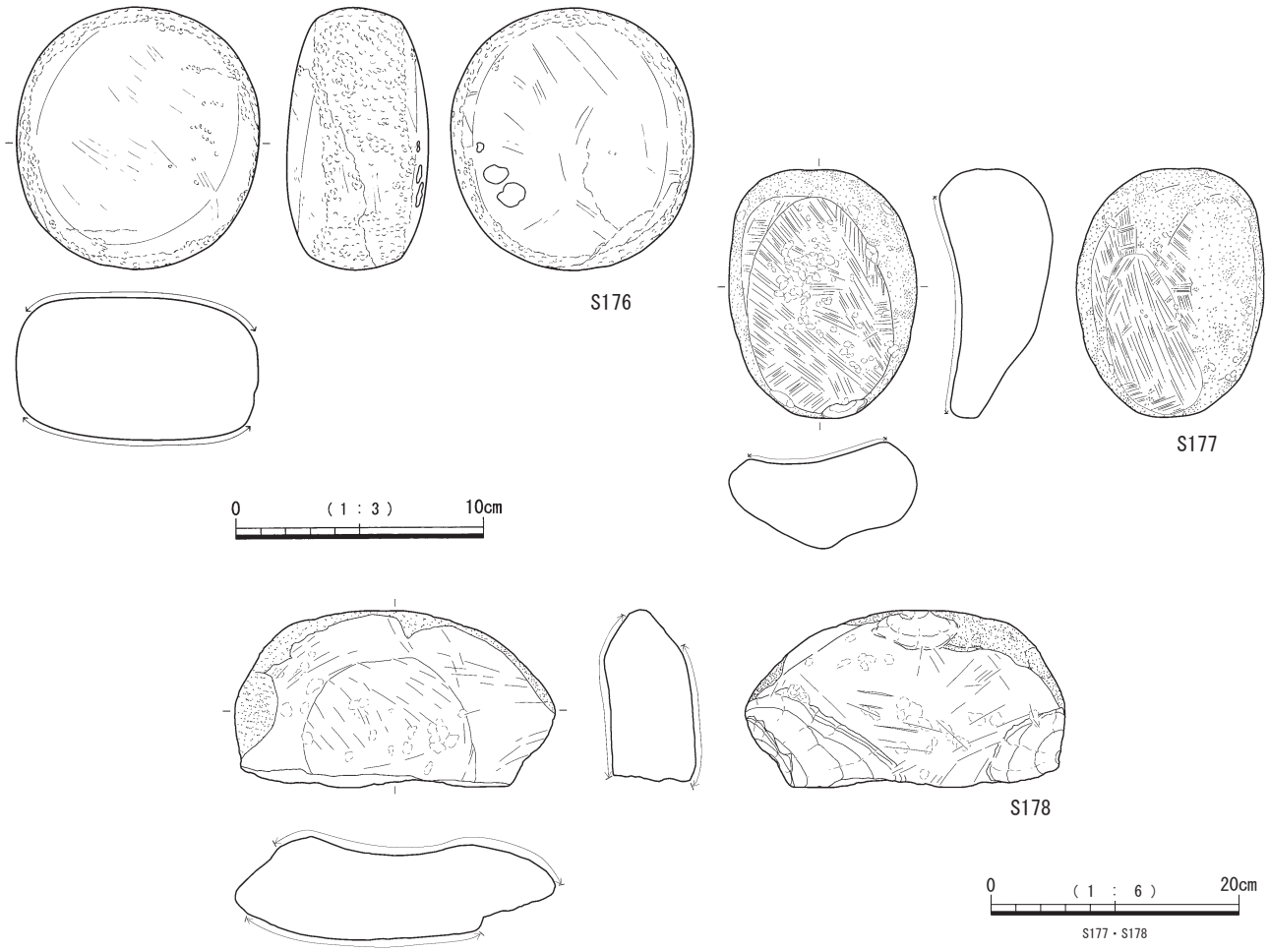
分　類：タイプⅡ

検出状況

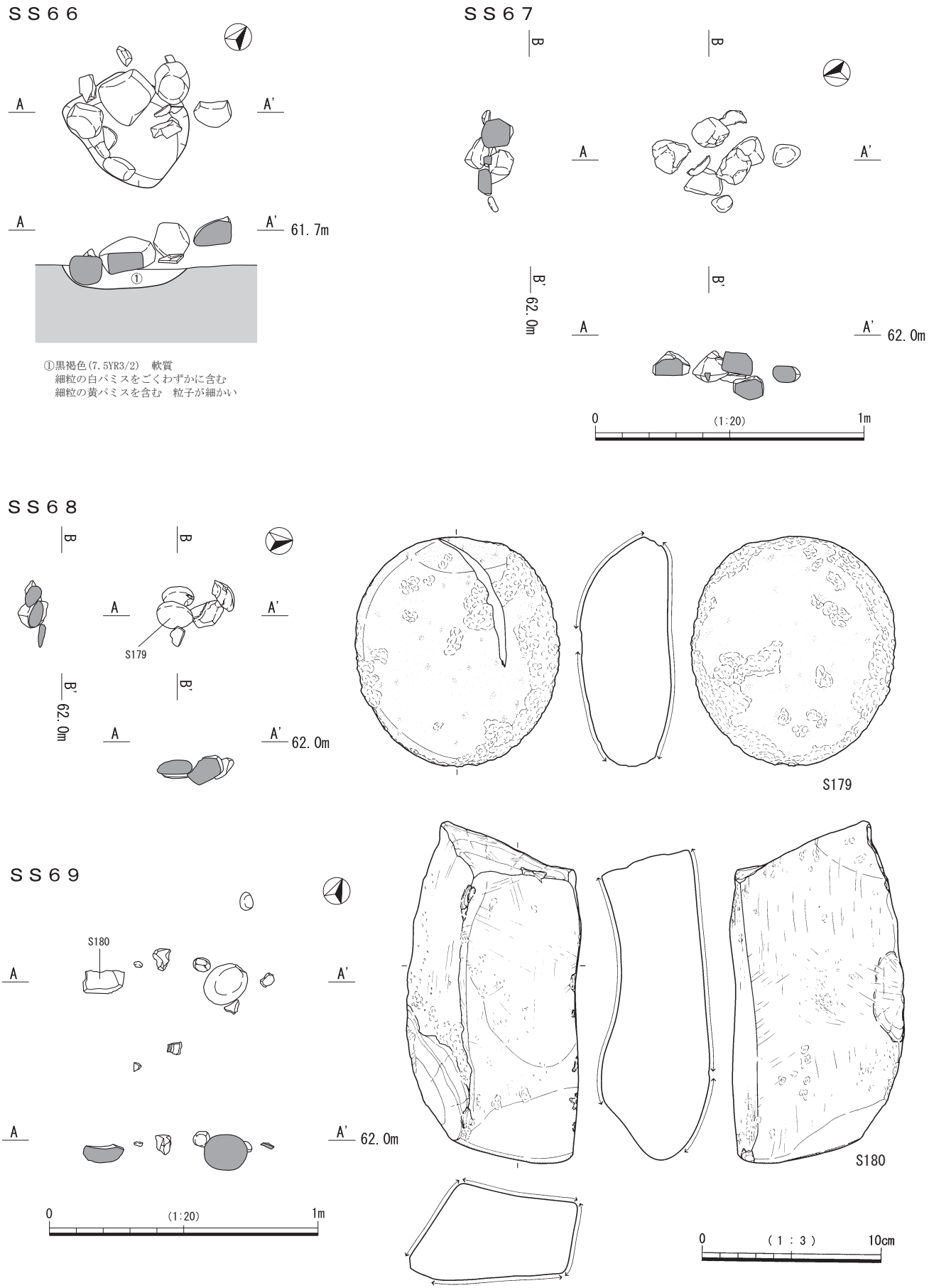
SS68は，C-12区のⅣa層で検出された。

ＳＳ６５

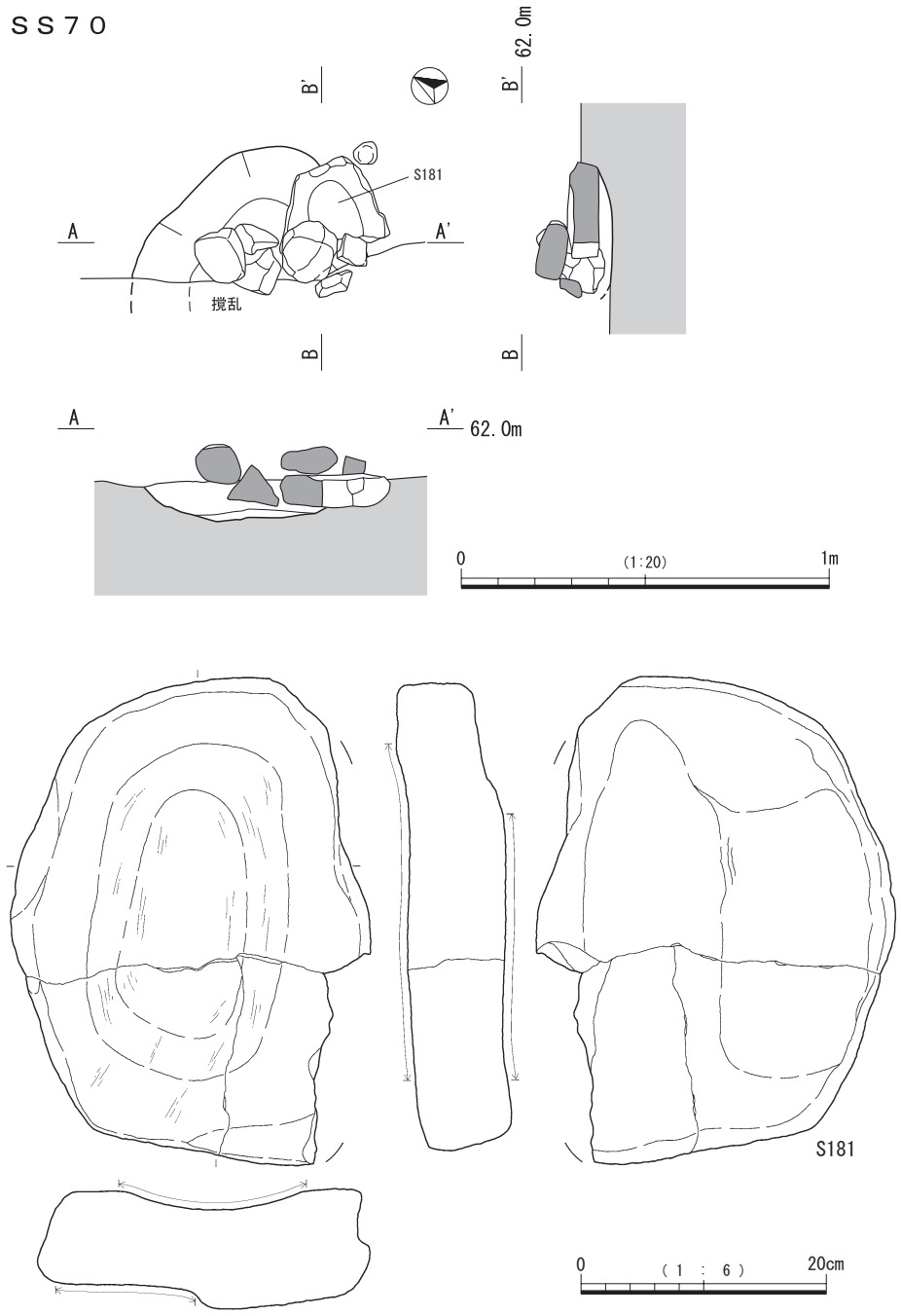




第174図　集石65号と出土遺物



第175図　集石66～69号と集石68・69号出土遺物



第176図　集石70号と出土遺物

規　模

構成礫数は５個で，１個平均の重さが816ｇ，総量が4,080ｇであった。礫は，長軸0.30m，短軸0.25mの範囲にまとまって検出された。石材は，安山岩，砂岩，頁岩，花崗岩，ホルンフェルスが混在し，掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

S179は，花崗岩製の磨・敲石Ⅲa類である。周縁を中心に敲打痕がみられ，裏面には凹状に浅い凹みを形成し，よく使用されている。被熱の痕跡が認められる。

集石69号（第175図）

分　類：タイプⅠ

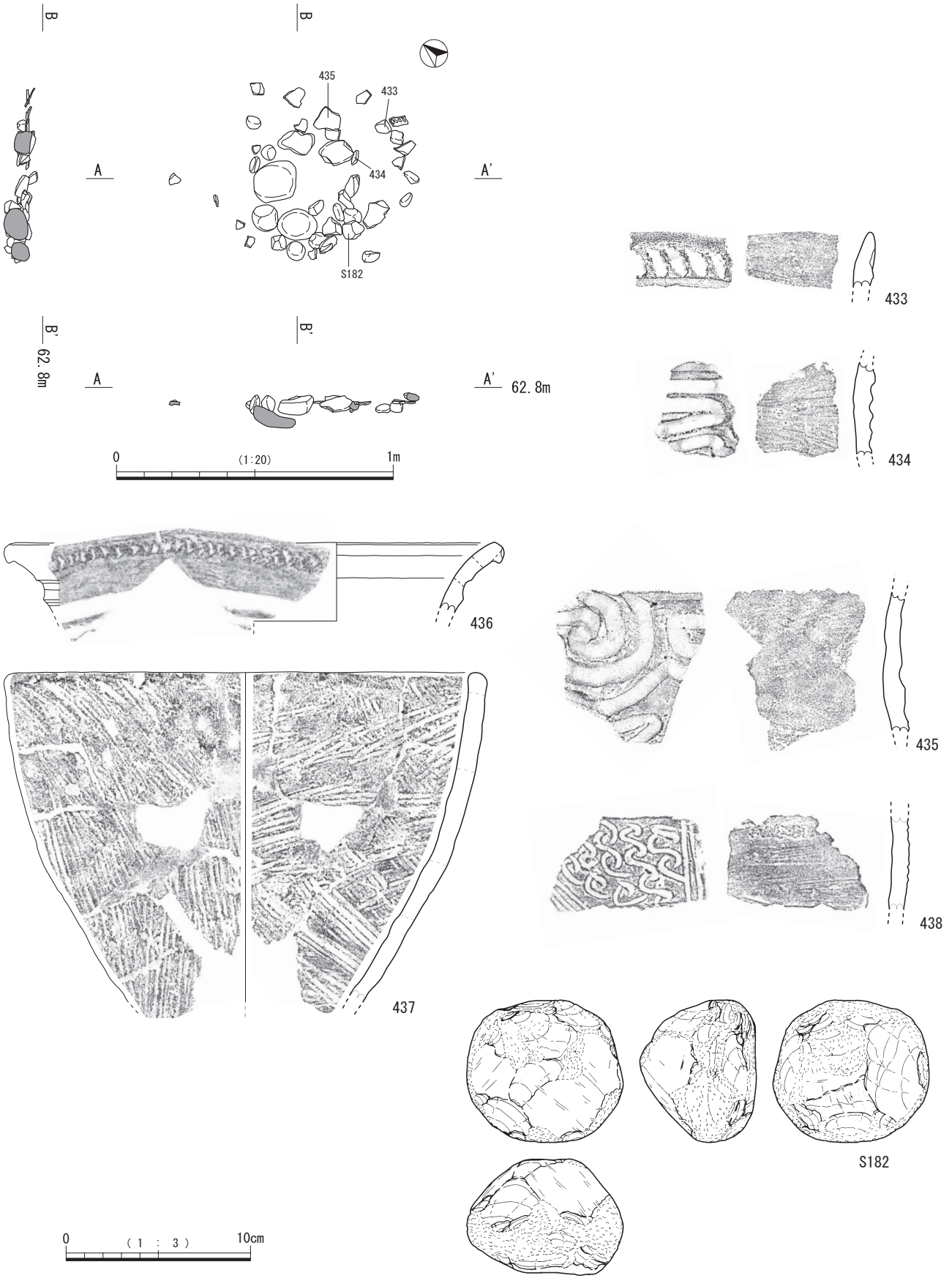
検出状況

SS69は，Ｃ-12区のⅣa層で検出された。

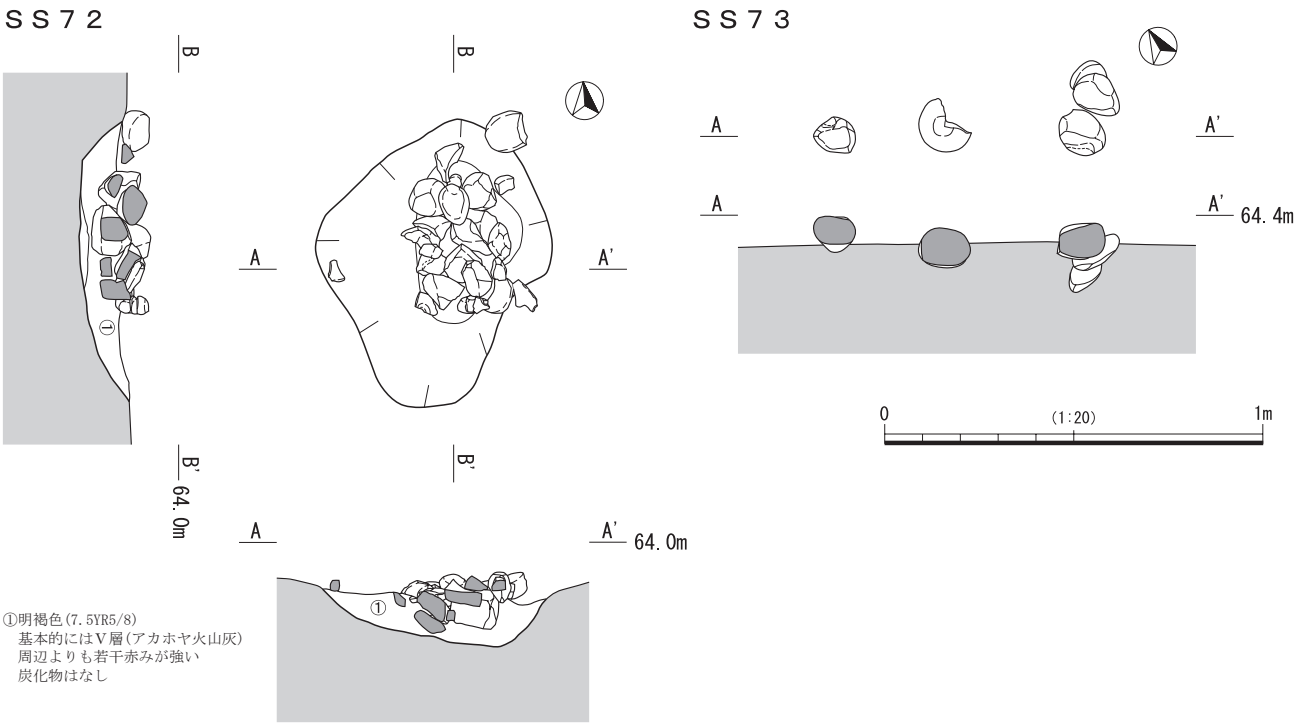
規　模

構成礫数は６個で，１個平均の重さが1,213ｇ，総量が7,280ｇであった。礫は，長軸0.71m，短軸0.67mの範囲に散礫状に広がる。石材は安山岩，砂岩，凝灰岩，花崗岩で，少数に被熱の痕跡が認められた。掘り込みは確認されなかった。

ＳＳ７１



第177図　集石71号と出土遺物



第178図　集石72・73号

出土遺物

S180は，砂岩製の砥石である。被熱の痕跡が顕著に認められる。上面は破断後にも使用される。

集石70号（第176図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS70は，D-12区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は８個で，１個平均の重さが2,360ｇ，総量が18,876ｇであった。礫は掘り込みの東側の長軸0.70m，短軸0.43mの範囲にまとまる。掘り込みの深さは，検出面から10cmである。南西側を攪乱によって削平される。石材は，安山岩，花崗岩，ホルンフェルスが出土しており，大半が被熱していた。埋土は２枚であるが，いずれも特徴は不明である。

石皿や礫の出土状況から石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

出土遺物

S181は，安山岩Ｂ類製の石皿Ⅳ類（台石）である。右側をわずかに欠く。正面中央に浅い凹みを形成し，裏面にも小さな磨面が形成される。なお，SS70から出土した上半分の破片と集石18号から出土した下半分２個の破片が接合し，接合した状態で図化している。

集石71号（第177図）

分　類：タイプⅡ

検出状況

SS71は，C-14区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は29個で，１個平均の重さが93ｇ，総量が2,687ｇであった。礫は，長軸0.90m，短軸0.64mの範囲にサークル状に広がる。石材は，安山岩，砂岩，凝灰岩，頁岩，花崗岩が混在し，数点が被熱していた。また同じ範囲から，土器片も多数出土した。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

433～435は胎土，文様，調整の特徴から同一個体と判断した。口縁部はごくわずかに外反し，外面最上位に貝殻腹縁刺突文を連続させる。胴部外面には指頭による曲線文を描き，渦巻き状のモチーフが確認できる。内外面はナデ調整である。Ⅵc類としたが，Ⅴa類の範疇である可能性も考えられる。436は大きく開く形態の口縁部片で，平坦口縁と推測される。口縁部は丸く成形される。口縁部最上位にやや下垂する細い突帯を貼り付け，突帯上には貝殻腹縁刺突による刻目を巡らせる。口縁部直下に太い凹線文を施す。Ⅵc類と考えられる。437は平坦口縁で，底部に向かって急にすぼまる砲弾状のプロポーションである。内外面に粗い条痕を施す。胎土の特徴から縄文時代後期前半の土器と判断したが，それよりもやや古い形

態である可能性もある。438は胴部片で,細い沈線によって「S」字状のモチーフを斜位に連続させる。線の始点と終点を入り組ませる。Ⅷa類に多くみられる意匠である。

S182は，砂岩製の磨・敲石Ⅲb類である。自然礫の形状を活かして磨敲に多用し，多面体を呈する。傷状の敲打痕が随所に確認され，石器の製作に使用された可能性も考えられる。

集石72号（第178図）

分　類：タイプⅢ

検出状況

SS72は，E-21区のⅣb層で検出された。まとまりがあり，掘り込みを有する。

規　模

構成礫数は29個で，１個平均の重さが325ｇ，総量が9,430ｇであった。礫は，掘り込みの最深部上層の長軸0.79m，短軸0.62mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは，検出面から12cmである。石材は，安山岩，砂岩，凝灰岩，頁岩で，約半数が被熱していた。埋土は明褐色で基本層はⅤ層のアカホヤ火山灰である。周辺よりも若干赤みが強い。炭化物はみられなかった。

集石73号（第178図）

分　類：タイプⅠ

検出状況

SS73は，D・E-28区のⅣb層で検出された。

規　模

構成礫数は５個である。礫は，長軸0.81m，短軸0.25mの範囲に散り南側に３個が重層的に検出される。石材は，安山岩，凝灰岩が出土した。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

磨石５点が出土したが，図化に至らなかった。磨石を集積した可能性もある。

（４）土器集中及び埋設土器（第179～206図）

縄文時代後期前半の土器集中は17か所，埋設土器が３か所検出された。土器集中１号～10号と埋設土器１号・３号は，調査区西端の崖際近くに位置し，このエリアからは竪穴建物跡などの遺構が集中して検出されている。土器集中13号～17号と埋設土器２号は15区～17区の調査区中央に位置し，このエリアからは竪穴建物跡２基と土坑が数基散見される。包含層から出土した土器とも分布域が重なる（第39～44図）。

繰り返し述べるが，後世の攪乱により層堆積の状況が不安定な箇所もあるため，遺構内遺物により帰属時期を推定している。土器集中及び埋設土器については，分類を行っていない。

土器集中１号（第179図）

検出状況

DKS１は，B－３区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸0.80cm，短0.56cmの範囲にまとまって出土した。土器集中の西側に440の底部が出土しており，さらに東側にかけて440の胴部の破片が散乱した状態で検出された。ただし別個体の破片も混じる。

出土遺物

439は深鉢の口縁部片である。器壁は薄手で内湾気味に立ち上がる。口縁部上位に細沈線による矩形の文様を粗く描き，横位に連続させる。焼成は硬質で，内面を調整する横位の貝殻条痕のストロークは長い。Ⅷb類と考えられる。440は中型の深鉢で，ほぼ完形に復元できた。胴部はあまり張らず，底部に向かってすぼまる器形である。口縁部は内湾気味に立ち上がり，「く」の字状に明瞭に屈曲させて，平坦な口唇部を形成する。口縁部上面には平行沈線文を巡らせ波頂部上面に多条の沈線を縦位に施す。口唇部の４か所を対角線状に外側に大きく張り出させる。口唇部はやや内傾し，口縁端部に平坦面を形成し，貝殻腹縁による刻目を施す。胴部上位に指頭による不規則的な曲線文を薄く描く。平底で，底面は網代痕をナデ消す。Ⅸa類と考えられる。441は胴部で，縦位の平行沈線の一部が確認できる。442は底部片で接地面近くに明瞭なくびれを形成する。割り裂き材を使用した網代底の痕跡が明瞭に残る。

土器集中２号（第180・181図）

検出状況

DKS２は，C－３区のⅣb層で検出された。

規　模

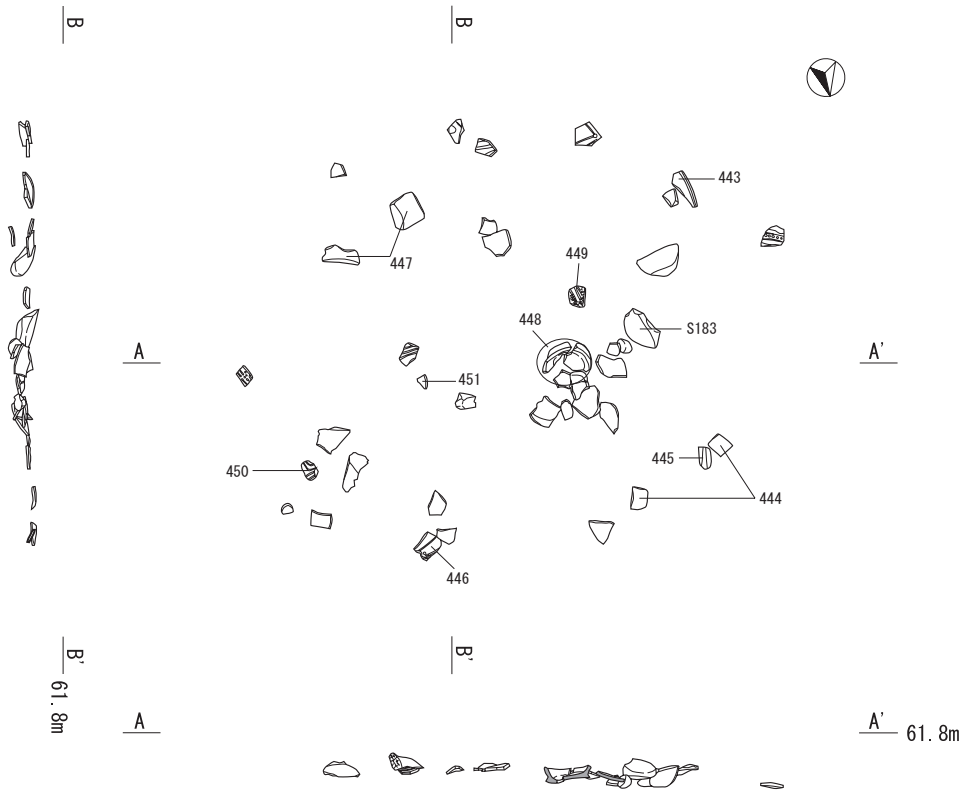
土器は長軸1.45cm，短軸1.17cmの範囲に広がる。

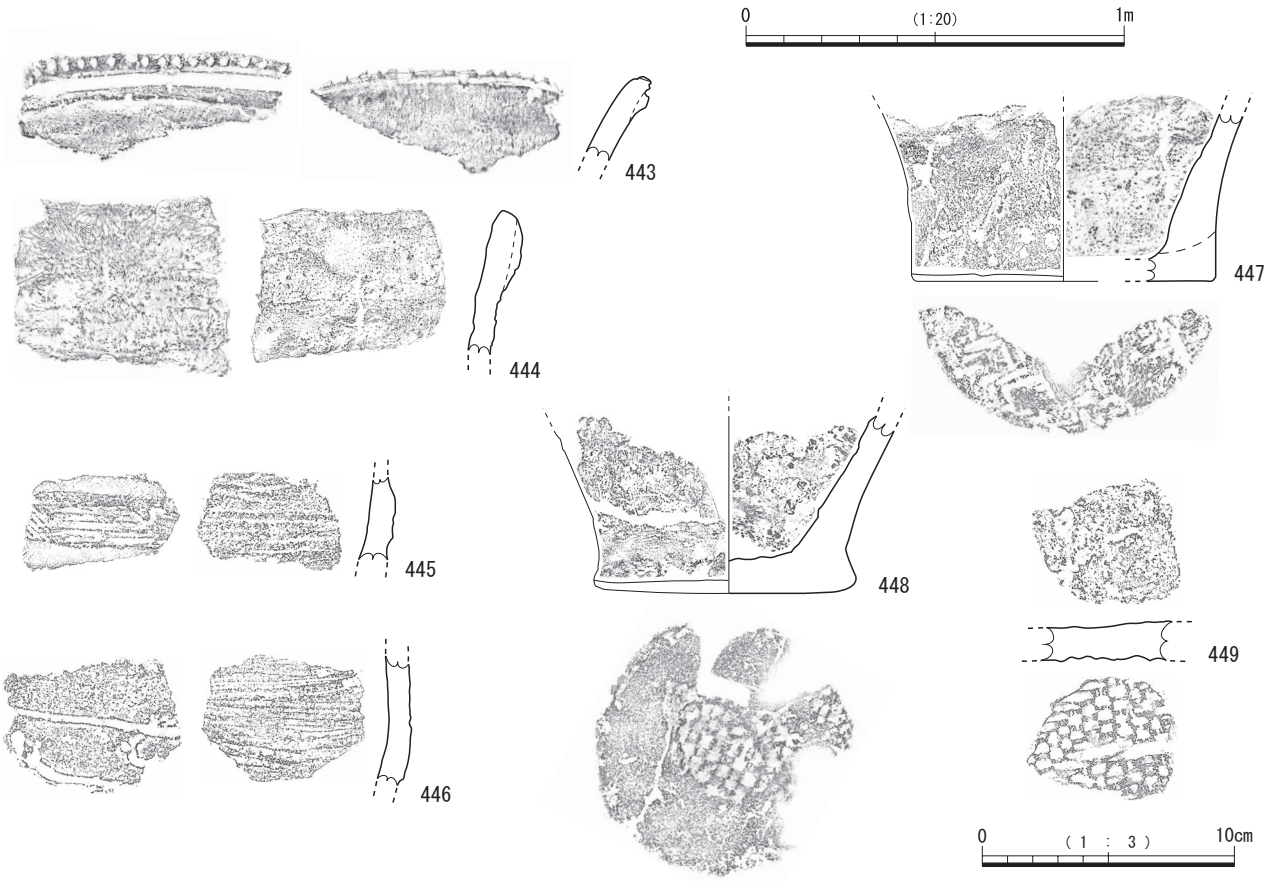
出土遺物

443・444は口縁部片で，口縁部の外面に肥厚帯を形成する。443は肥厚帯に凹線を巡らせ口唇部に棒状工具による連続刺突を施し，口縁端部内側のやや下がった位置に沈線を巡らせる。ともにⅧa類と考えられる。445・446は胴部片で，445は指頭による凹線が描かれ内外面に条痕を残す。Ⅴb類と考えられる。446は棒状工具による細い沈線文が描かれ，線の始点を深く刺突する。Ⅷ類と考えられる。447・448は底面に網代痕が残る底部である。447は半分が残存し，底面中央の粘土が剥落する。448は接地面近くでくびれを形成する。底面の外周をナデて網代を消し，底面には円形状に網代痕を残す。447・448は輪状に設置させたパーツを作り，胴部の粘土を積み上げ，その接地面を調整し，後から丸い板状のパーツを充填した製作の工程がわかる資料である。449は底面中央が剥落したもので，底面に網代痕を残す。450・451は胴部片

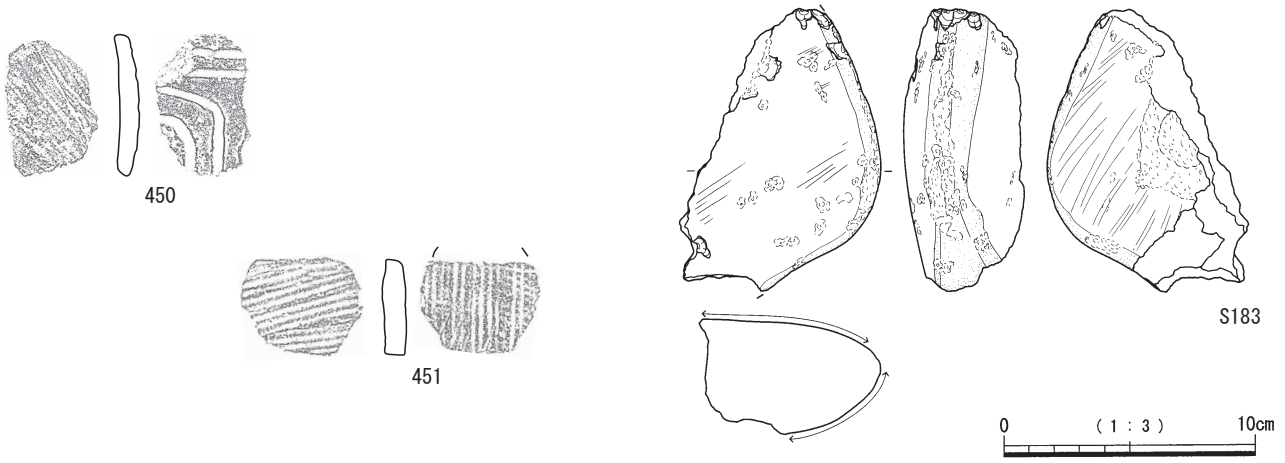
第179図　土器集中１号と出土遺物

ＤＫＳ２





第180図　土器集中２号と出土遺物（１）



第181図　土器集中２号出土遺物（２）

を使用した円盤状土製加工品である。450は楕円状の形態で，Ⅷ類の特徴をもつ平行沈線文を描き，451は円形で，内外面に貝殻条痕を残す。

S183は安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅰ類である。側面と裏面中央が敲打に多用され，裏面中央部に浅いくぼみを有する。被熱が確認される。上部を欠き，破面の角も敲打に使用される。

土器集中３号（第182・183図）

検出状況

DKS２は，Ｄ－３区のⅣb層で検出された。。

規　模

土器は長軸2.52m，短軸1.95mの範囲に広がる。数箇所にまとまりを持った状況で出土した。

出土遺物

452・453は深鉢片で，文様・胎土の特徴から同一個体と判断した。口唇部平坦面をやや内傾させ，細い沈線を巡らせる。口縁部直下と胴部には間隔の狭い平行沈線間に貝殻腹縁刺突文を連続させた文様帯を数条巡らせると推測される。454は口縁部がすぼまりながら立ち上がり，口縁端部を小さく外反させる。屈曲部には連点文を巡らせる。外面には平行凹線による文様を描く。Ⅷa類と考えられる。455～457は平坦口縁を呈し，口縁部外面を肥厚させる。口縁部・口唇部・胴部上位を施文するタイプで，Ⅷa類と考えられる。455・456は形態や文様の特徴が共通する。復元径や，胎土の違いから別個体と判断した。大小の規格で同時期につくられた遺物の可能性もある。457は455・456より細い工具により施文される。斜位の平行沈線文を大胆に描き主体として文様を展開させると推測される。458は波状口縁を呈する。口唇部を肥厚させて波頂部上面に凹凸をつくり装飾する。口縁部文様帯下部を薄い突帯により区画する。胴部には矩形と曲線状のモチーフの一部が確認できる。波頂部裏にも施文される。Ⅷa類と考えられる。459・460は文様の特徴からⅧ類土器の胴部片と考えられ，ともに大型であることが推測される。461・462は底部片である。462は低い高台を有し，高台内面の付け根を指頭によって強くナデ付ける。463はⅧ類の深鉢の口縁部に装飾された橋状把手である。外面にはＶ字状の文様を連続させ，いちばん上位に逆「Ｃ」の字状のモチーフを描く。文様の沈線間に赤色顔料が微量付着する。

土器集中４号（第185図）

検出状況

DKS４は，Ｄ－３区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸0.90m，短軸0.58mの範囲にまとまりをもって出土した。まとまりの中央部分に隙間がある。

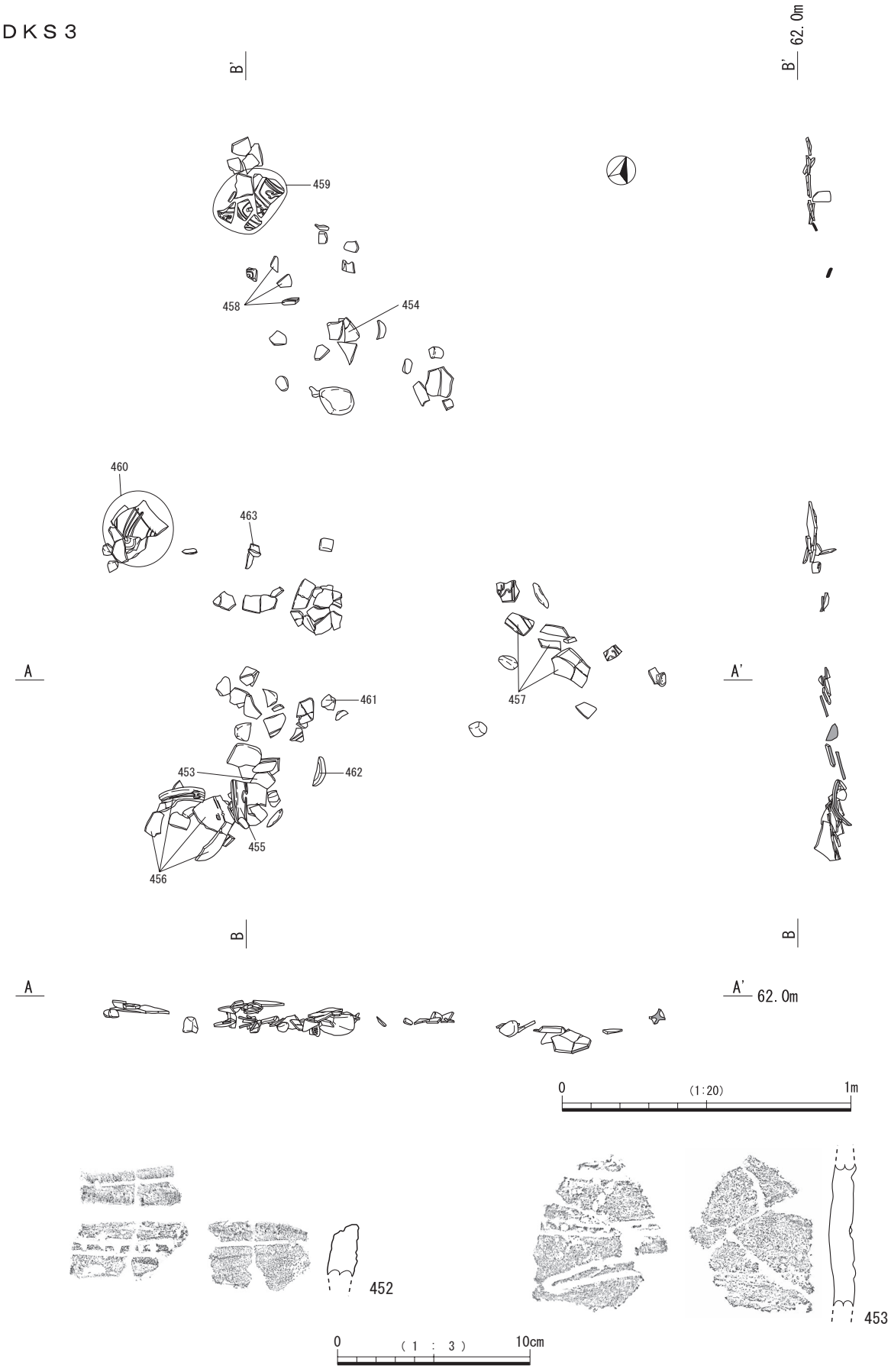
出土遺物

464は口縁部を含む上胴部片で，平坦口縁と推測され，頸部で大きく開く。やや丸みを帯びた胴部に，間隔の狭い横位の平行沈線文を数条施す。線の始点ないし終点を直線でつなぐ。頸部屈曲部に渦巻き状のモチーフの一部が残存し，渦巻きの直下に多条の縦位の沈線が胴部下位まで描かれることが推測される。Ⅷa類と推測される。内面上部に種子圧痕が残る。465は緩い波状口縁を呈する。口縁部を大きく外反させ，その内側に凹線・貝殻腹縁刺突・棒状工具による円形刺突を組み合わせた幅広い文様帯を形成する。波頂部を外側に大きく張り出させる。胴部は無文で，緩く張り出す丸みを帯びた器形である。Ⅸa類と考えられる。466は胴部片を使用した円盤状土製加工品である。

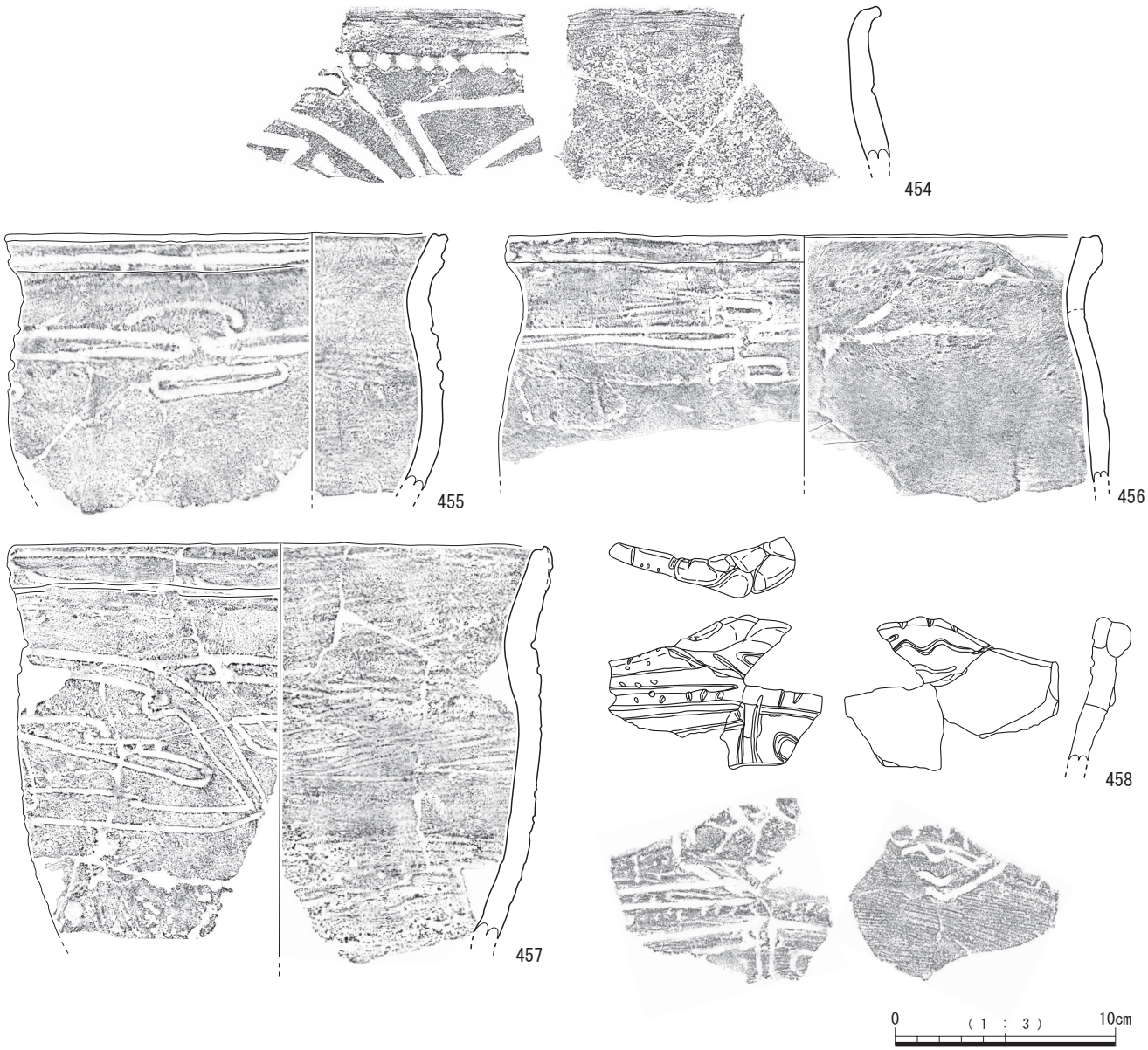
土器集中５号（第186図）

検出状況

DKS５は，Ｄ－３区のⅣb層で検出された。



第182図　土器集中３号と出土遺物（１）



第183図　土器集中３号出土遺物（２）

規　模

土器は長軸0.62m，短軸0.43mの範囲に，一個体（467）がまとまって出土し，やや離れてS184が出土した。

出土遺物

467は大型の深鉢で，平坦口縁である。口縁部はわずかに外反し，口縁端部は少し内側に張り出す。口唇部に装飾の痕跡がある。胴部～底部にかけて直線的にすぼまる器形である。胴部上位には，凹線間に斜位の貝殻腹縁刺突文を施した平行沈線による幾何学文を横位に連続させると推測される。凹線の一部を結節させる。底面には網代痕が残る。内外面に貝殻条痕を残す。Ⅶb類と考えられる。胎土の色調はやや灰色がかって青みがあり焼成は比較的に硬質である。胎土に金色の雲母を含まないことから搬入品の可能性もある。

S184は安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅰ類である。全面的に少量の煤が付着する。

土器集中６号（第187図）

検出状況

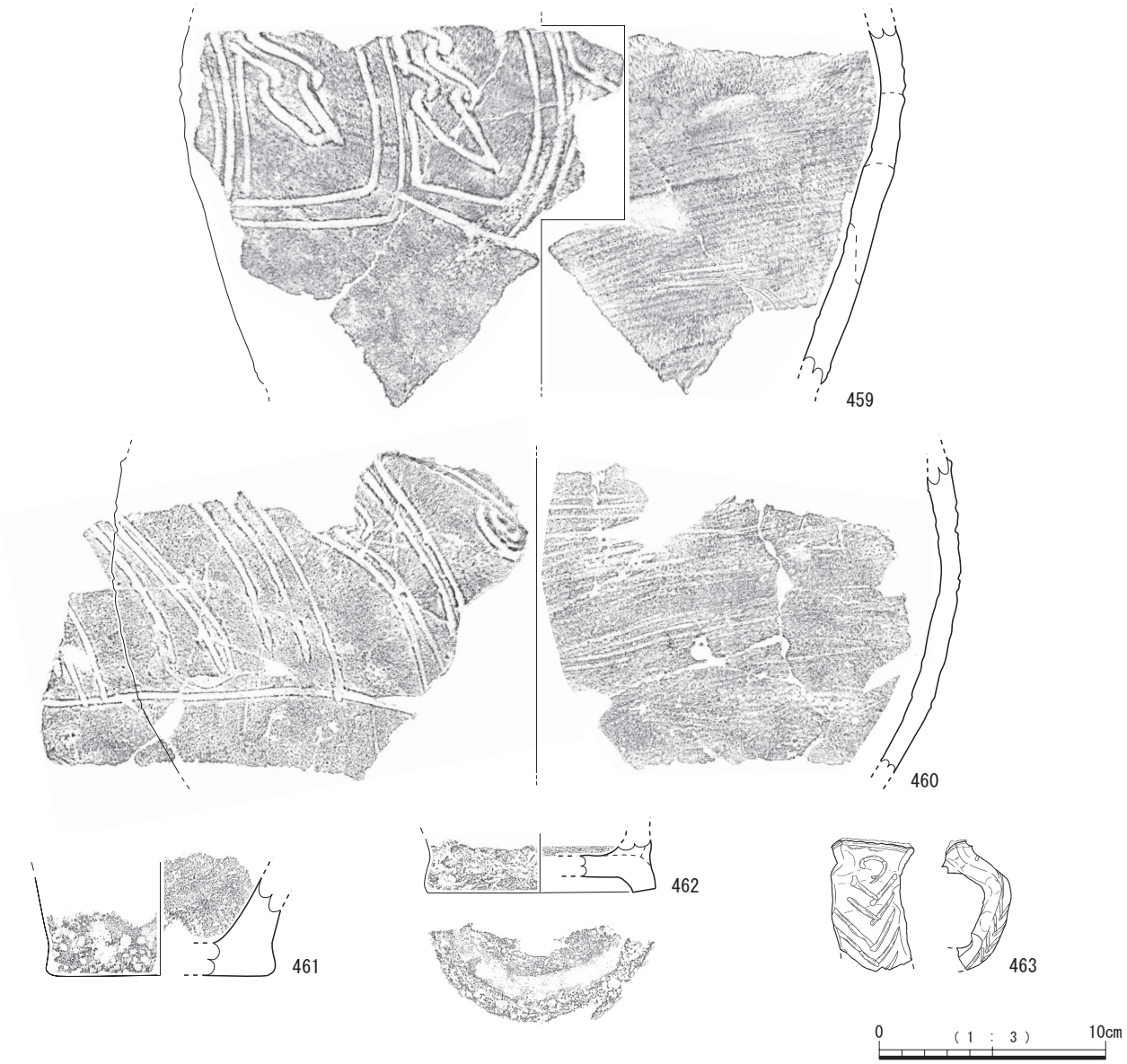
DKS６は，Ｄ－３区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸0.25m，短軸0.21mの範囲に，ほぼ１個体が固まって検出された。

出土遺物

468・469は器面の調整や胎土の特徴から同一個体の可能性をもつ深鉢である。口縁部は直線的に立ち上がる。胴部は張り出さず，底部に向かい直線的にすぼまる。口縁部外面に横位の４条の凹線が施され，内外面を貝殻条



第184図　土器集中３号出土遺物（３）

痕により調整する。Ⅵb類と考えられる。

土器集中７号（第187図）

検出状況

DKS７は，C－４区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸0.34m，短軸0.29mの範囲にほぼ１個体の破片が検出された。

出土遺物

470は口縁部を含む深鉢の胴部片である。平坦口縁で，やや長胴気味の形態であると推測される。文様は口縁上端に指頭による押圧を，その下に指頭による縦位の刺突を，更にその下にフリル状の窪みと蛇行する沈線を巡らせる。内外面を貝殻条痕により調整する。Ⅵa類と考えられる。

470の付着炭化物の放射性炭素年代測定は，3911±27yrBP，暦年較正で2473－2334calBC（確率89.6％）という結果が出ている。

土器集中８号（第188図）

検出状況

DKS８は，D－４区のⅣb層で検出された。

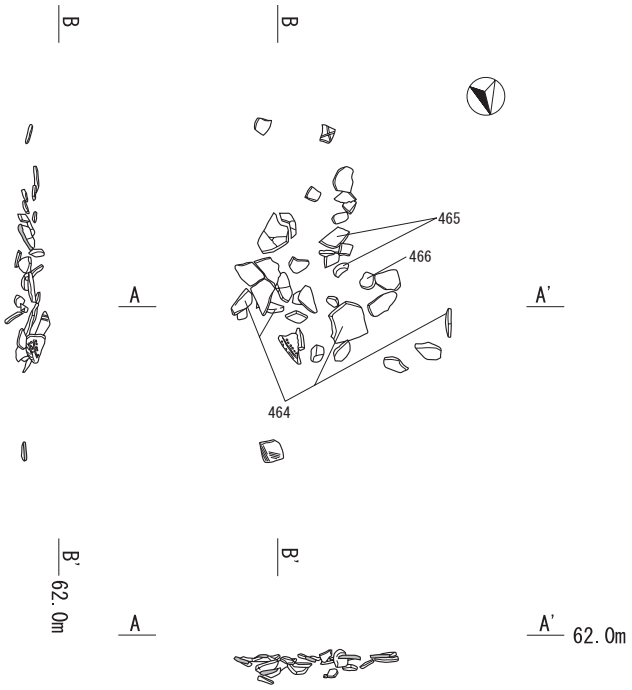
規　模

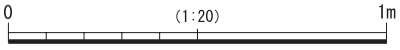
土器は長軸1.90m，短軸0.30mの範囲に４か所にまとまって検出される。

出土遺物

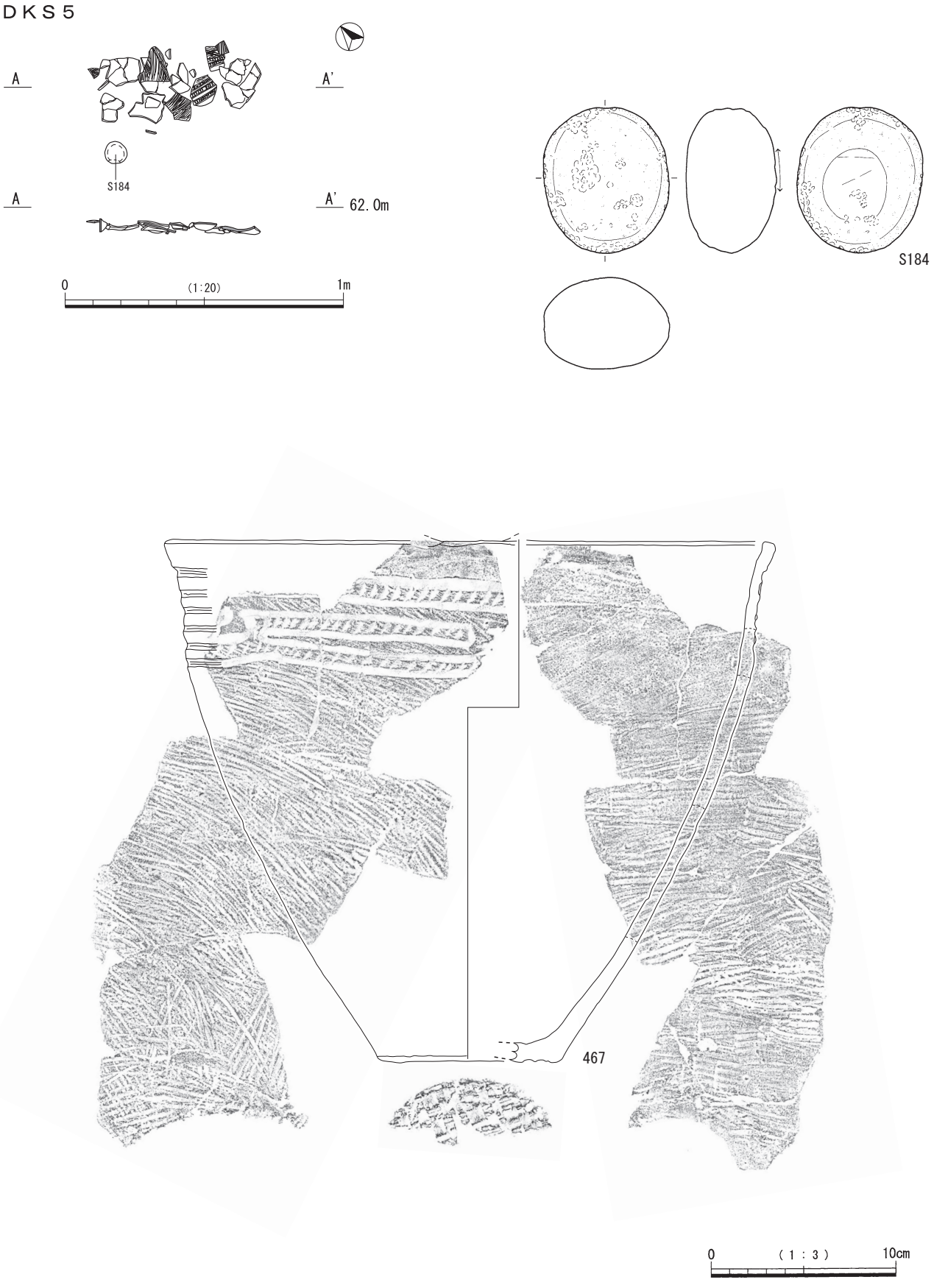
472～474は口縁部を含む上胴部片である。３点とも口縁部が内湾気味に立ち上がり，底部に向かってやや急な

ＤＫＳ４



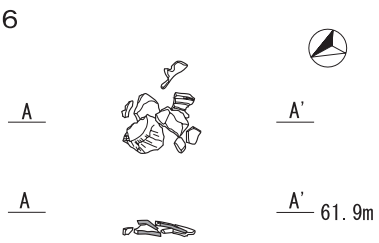


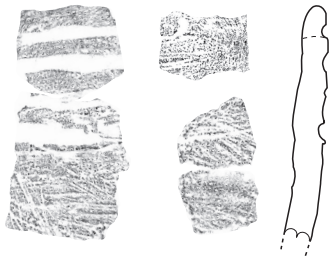
第185図　土器集中４号と出土遺物



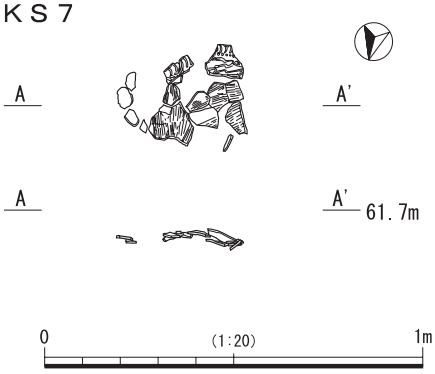
第186図　土器集中５号と出土遺物

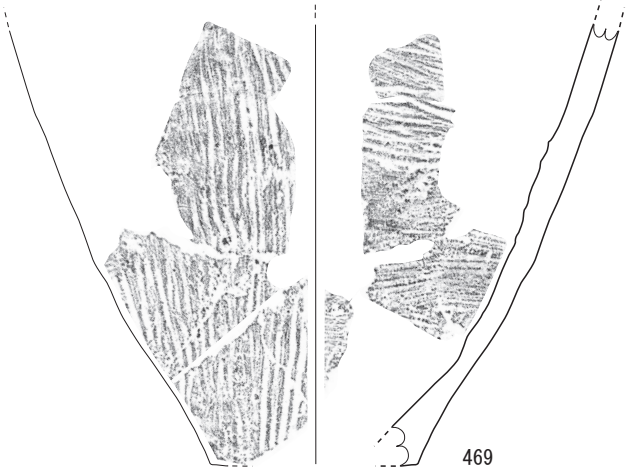
ＤＫＳ６

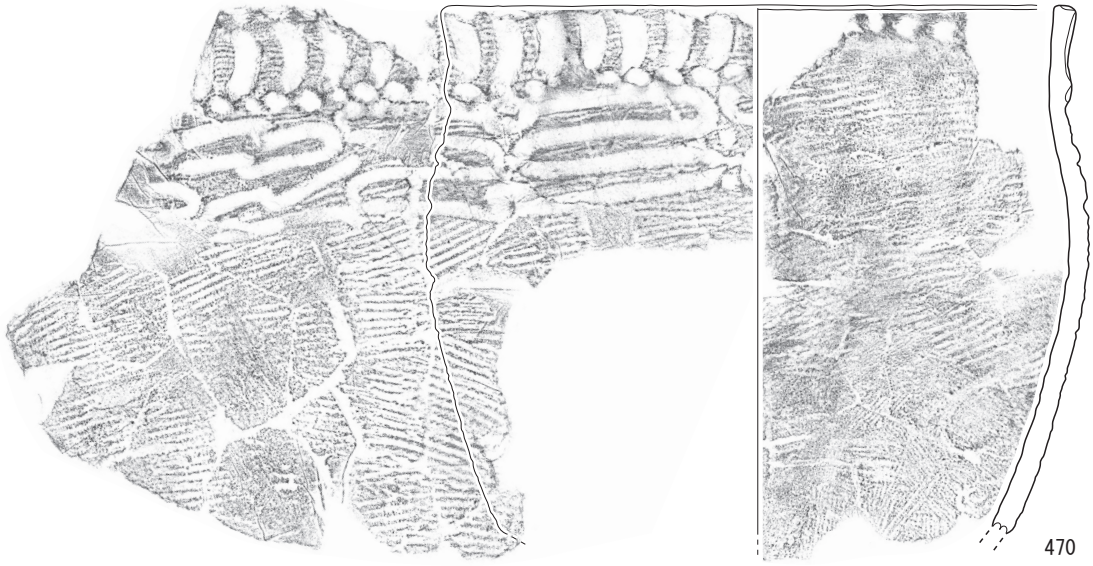




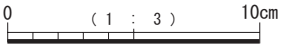
ＤＫＳ７





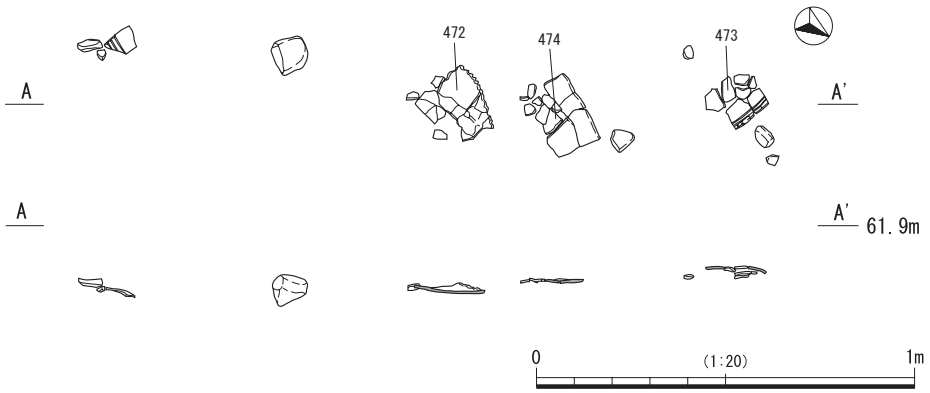


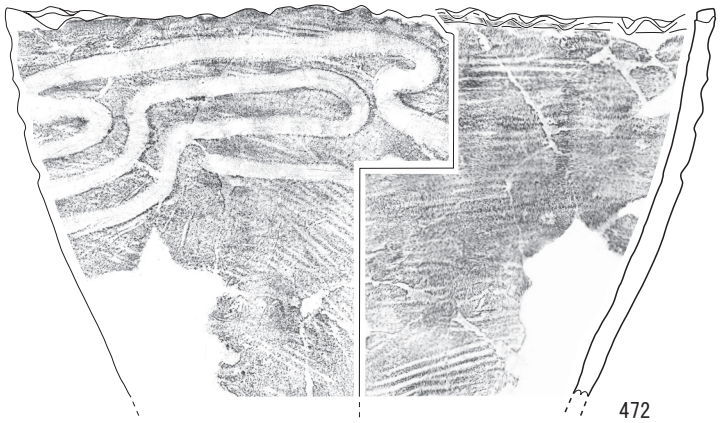
年代測定 2473-2334 cal BC

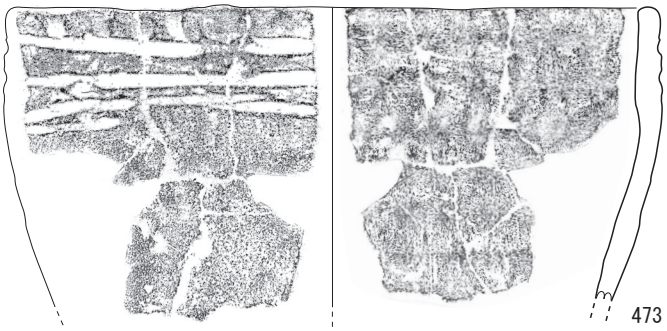


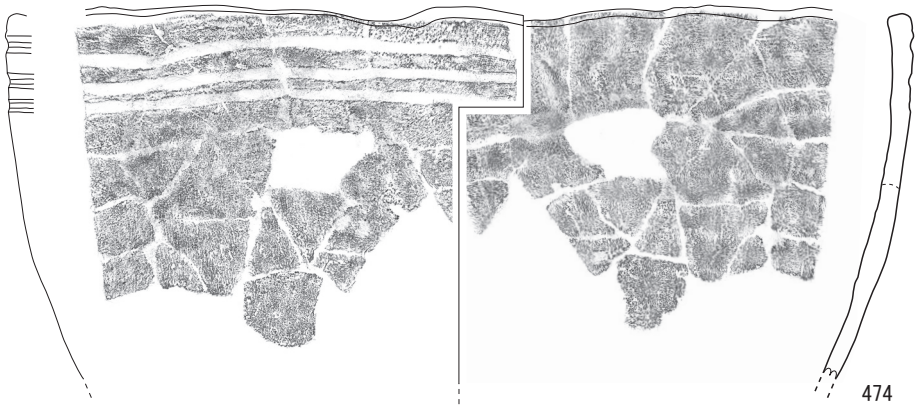
第187図　土器集中６・７号と出土遺物

ＤＫＳ８





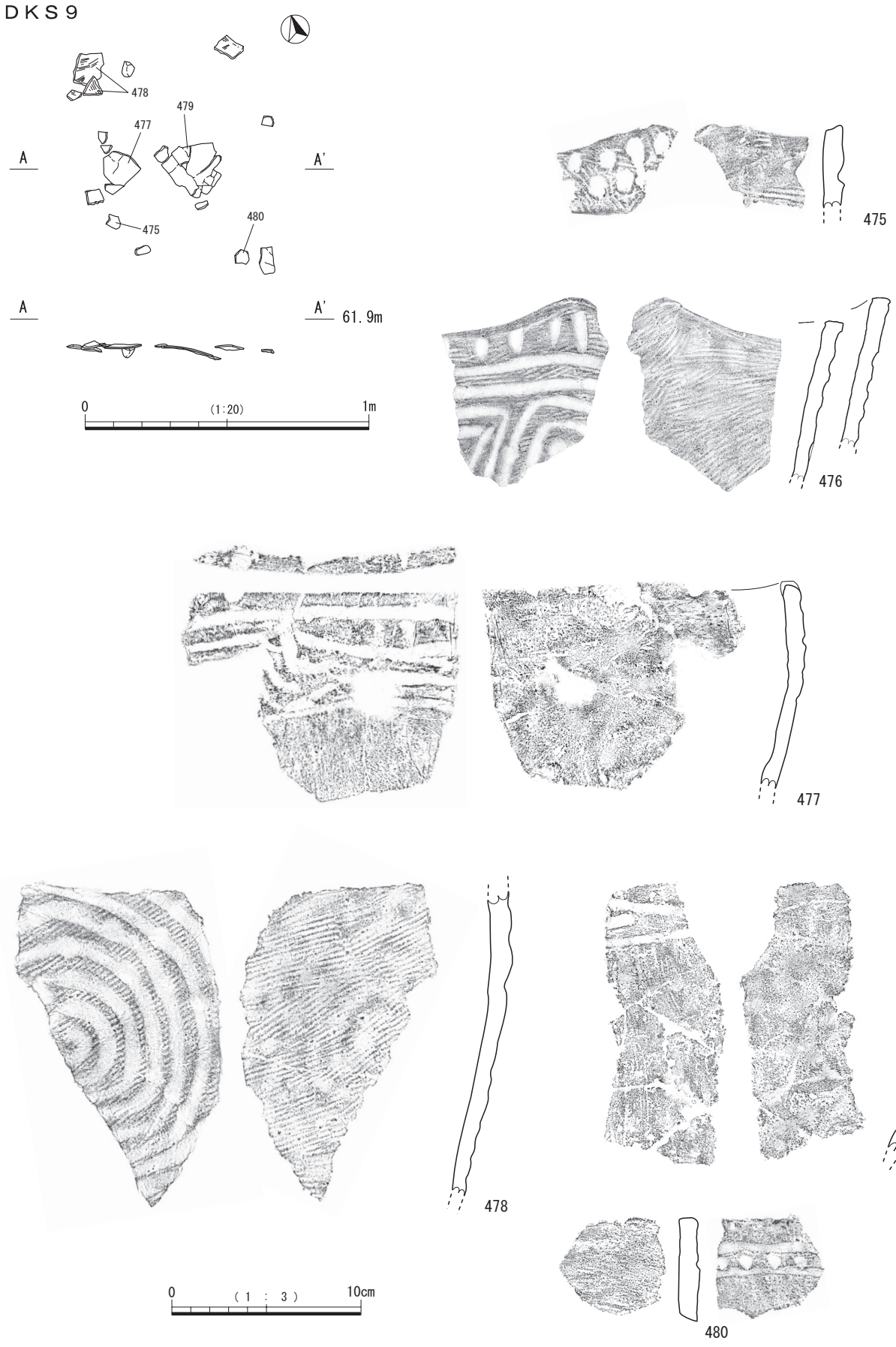




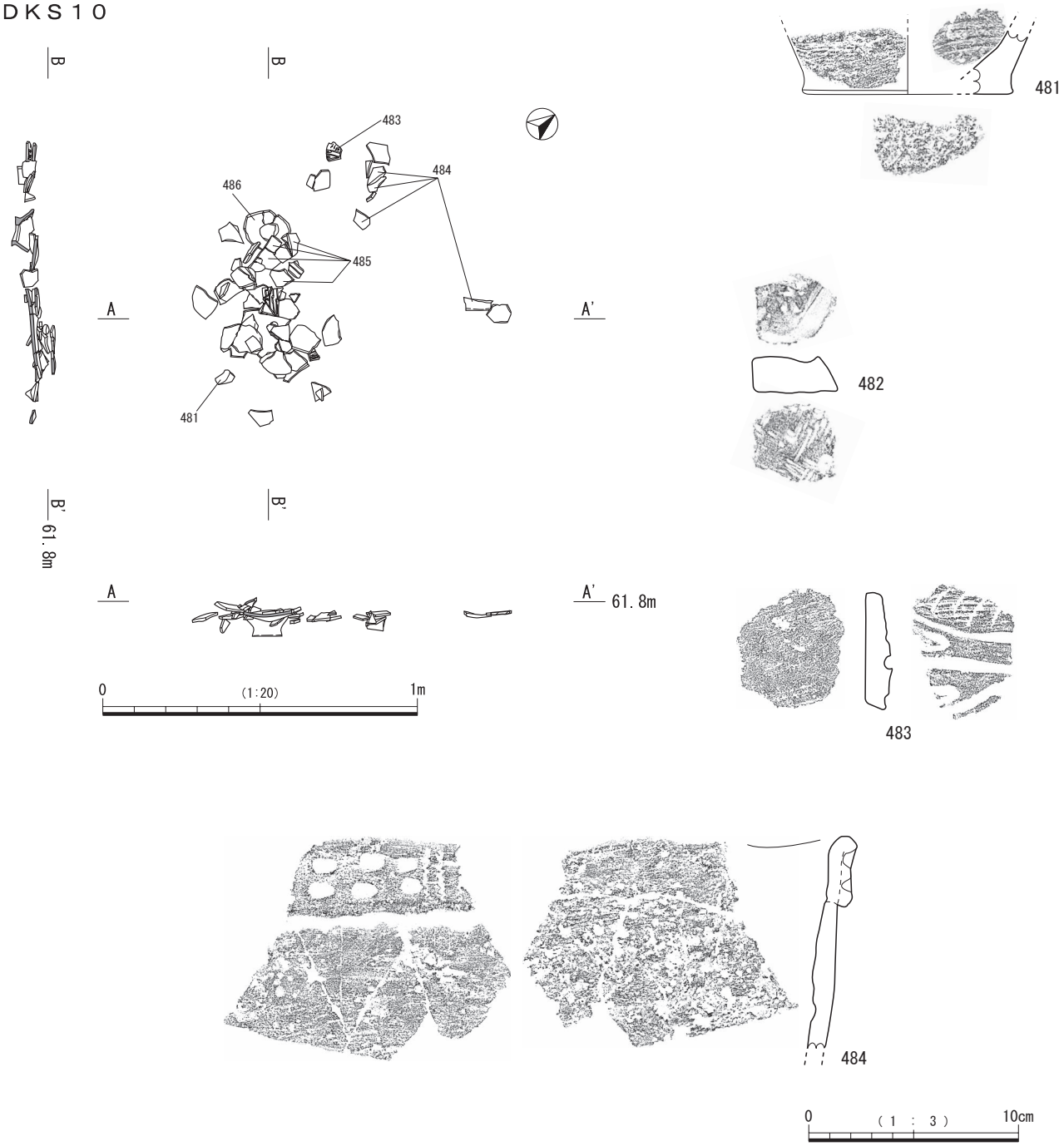
年代測定 2461-2296 cal BC

0 (1 : 3) 10cm

第188図　土器集中８号と出土遺物



第189図　土器集中９号と出土遺物



第190図　土器集中10号と出土遺物（１）

角度ですぼまる。472は口唇部を指頭によって強く押圧するため，波状を呈する。胴部上位に太い凹線文を描く。内外面を貝殻条痕によって調整する。473・474は472と比較するとやや丸みを帯びた形態である。ともに平坦口縁で，胴部上位に凹線を数条巡らせる。内外面はナデ調整である。473は口縁直下にも縦位の凹線を指頭によって薄く描いて巡らせる。473はⅥa類，472・474はⅥb類と考えられる。474の付着炭化物の放射性炭化物年代測定は3888±22yrBP，暦年較正で2461－2296calBC（確率95.45％）という結果が出ている。

土器集中９号（第189図）

検出状況

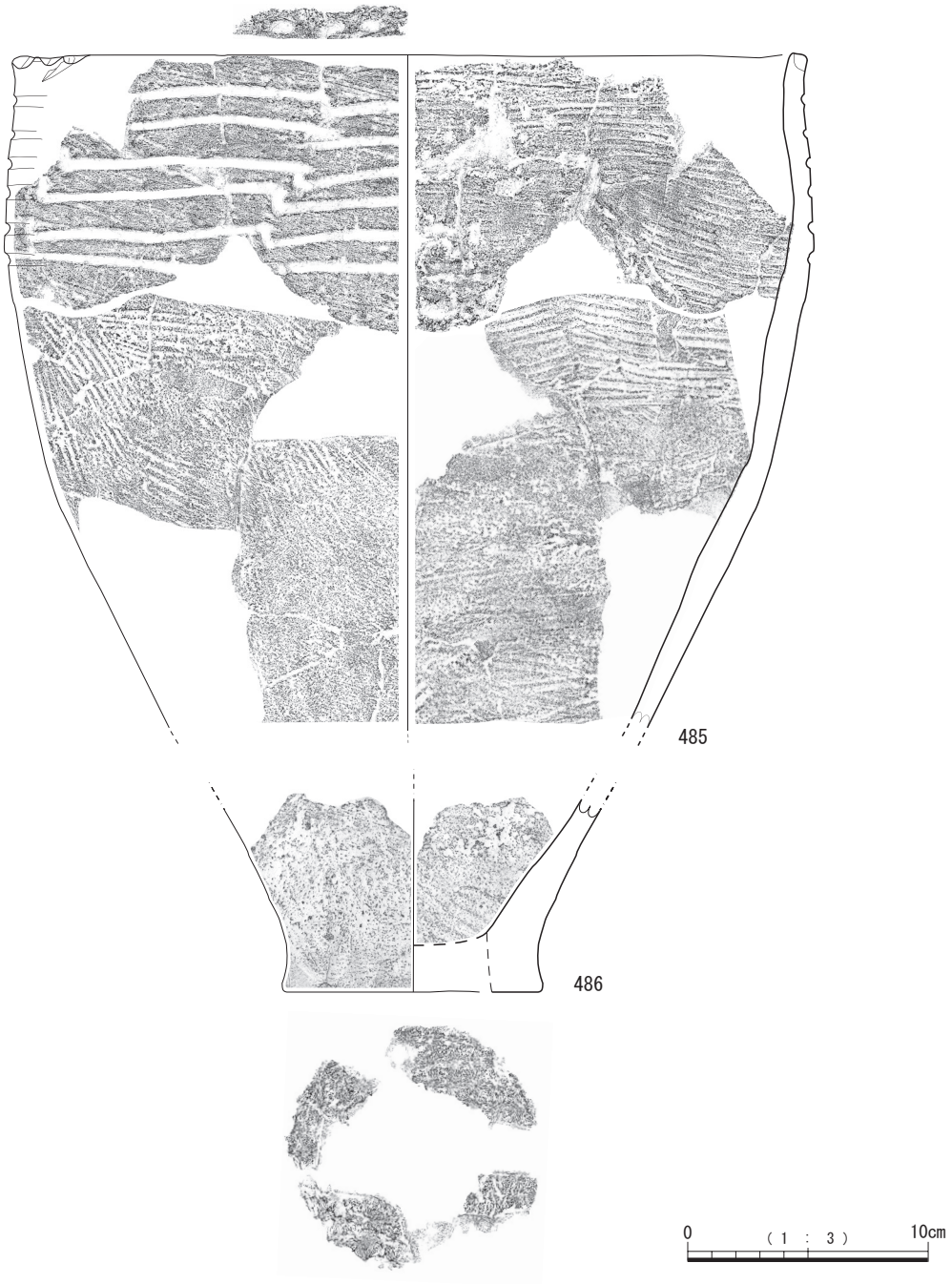
DKS９は，D－５区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸0.85m，短軸0.80mの範囲に広がる。

出土遺物

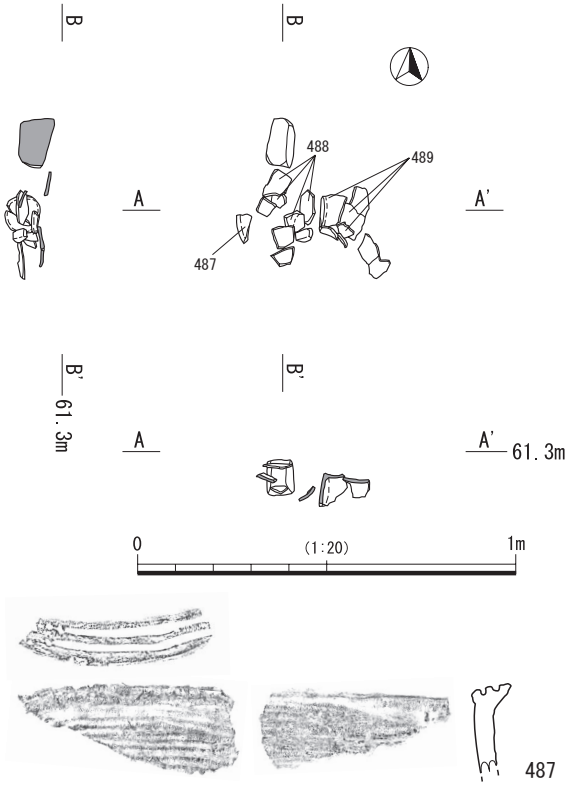
475～477は口縁部片である。475・476は口縁部は外傾

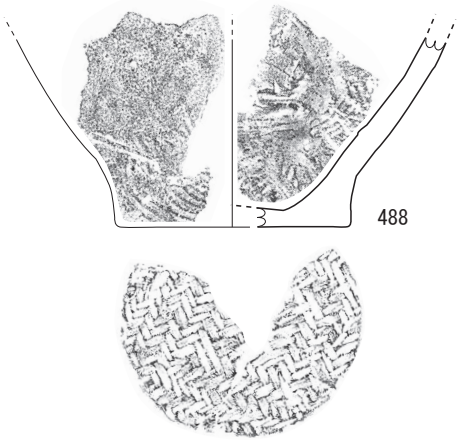


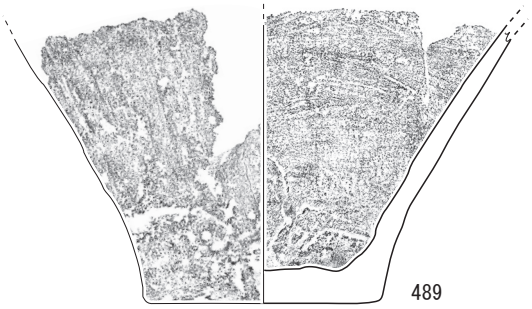
第191図　土器集中10号出土遺物（2）

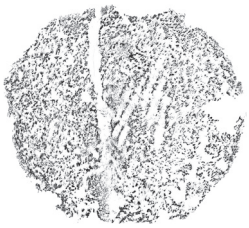
しながら直線的に開く。ともに口縁部直下に棒状工具による円形あるいは縦位の刺突を巡らせ，内外面に貝殻条痕を残す。Ⅵa類と考えられる。476は赤みが強く角閃石を多く含む胎土である。口縁端部の角も明瞭で焼成も良い。精緻なつくりであったことが窺える。477は丸みをもつ形態で，口縁部上位に多条の凹線を波状に描く。口唇部の一部に棒状工具による押圧がみられる。文様帯の上位に縦位の凹線を浅く連続させる。Ⅵa類の範疇と捉えた。478・479は胴部下半の破片である。478は指頭による渦巻き状のモチーフを大胆に描いており，文様は裏面にも浮き出る。内外面に貝殻条痕を残す。Ⅴb類と考えられる。479は内外面ともにナデ調整である。輪積みの痕跡を残した凹凸のみられる断面である。文様の凹線の特徴からⅥ類の範疇と捉えた。480は円盤状土製加工品で，Ⅷ類の胴部片を使用した可能性がある。

DKS１１

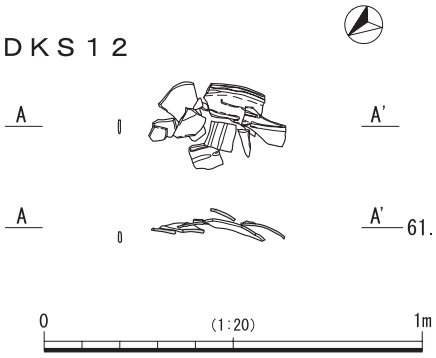


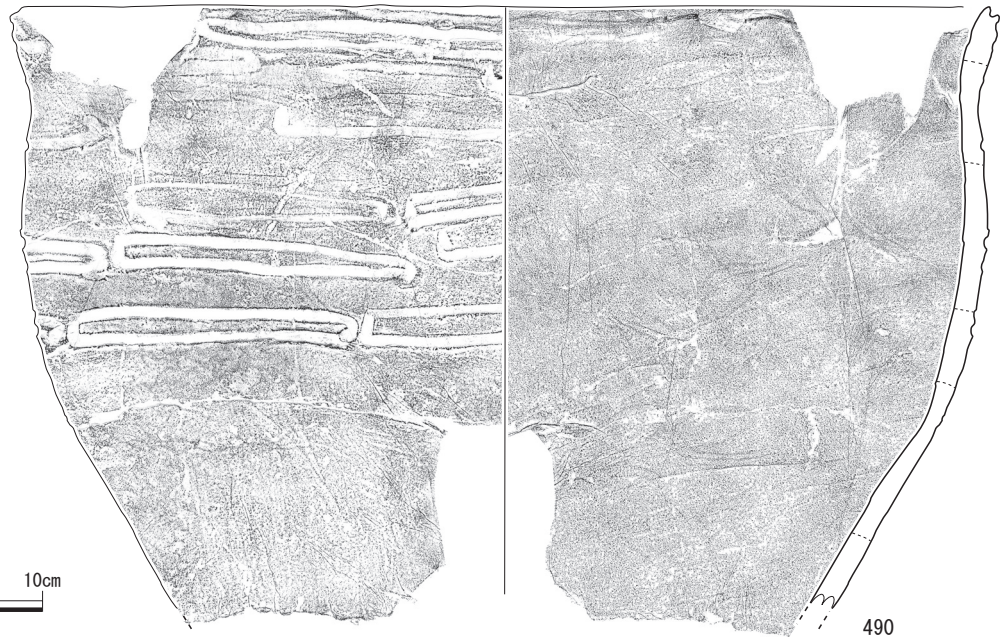






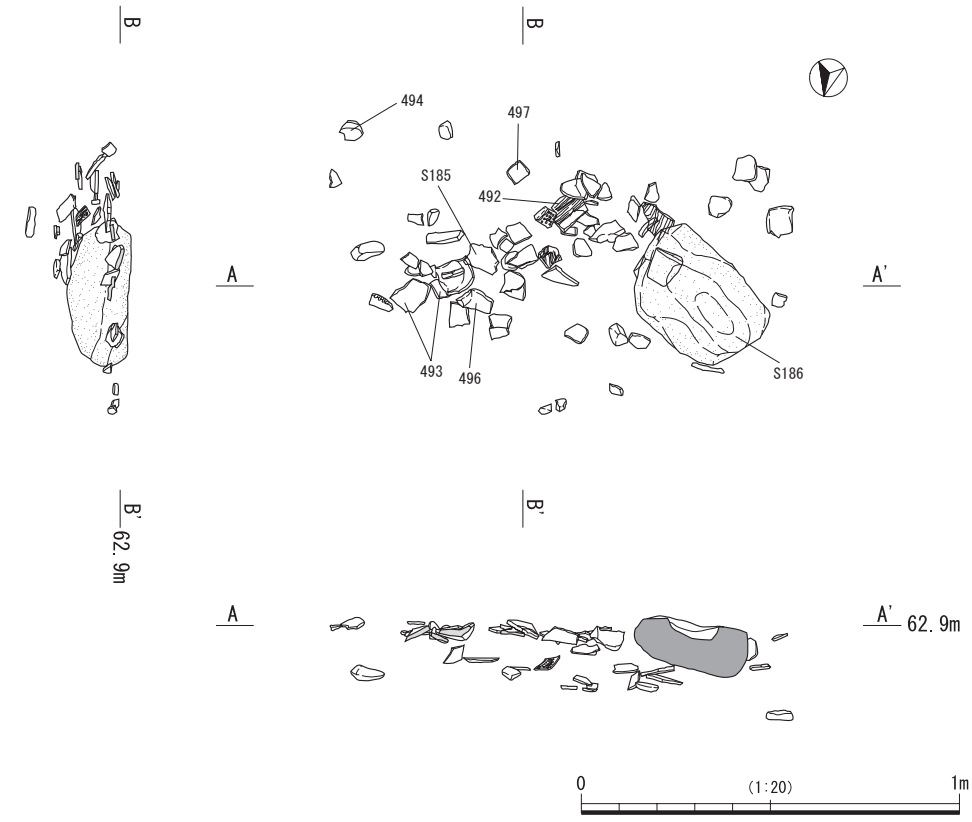
DKS１２

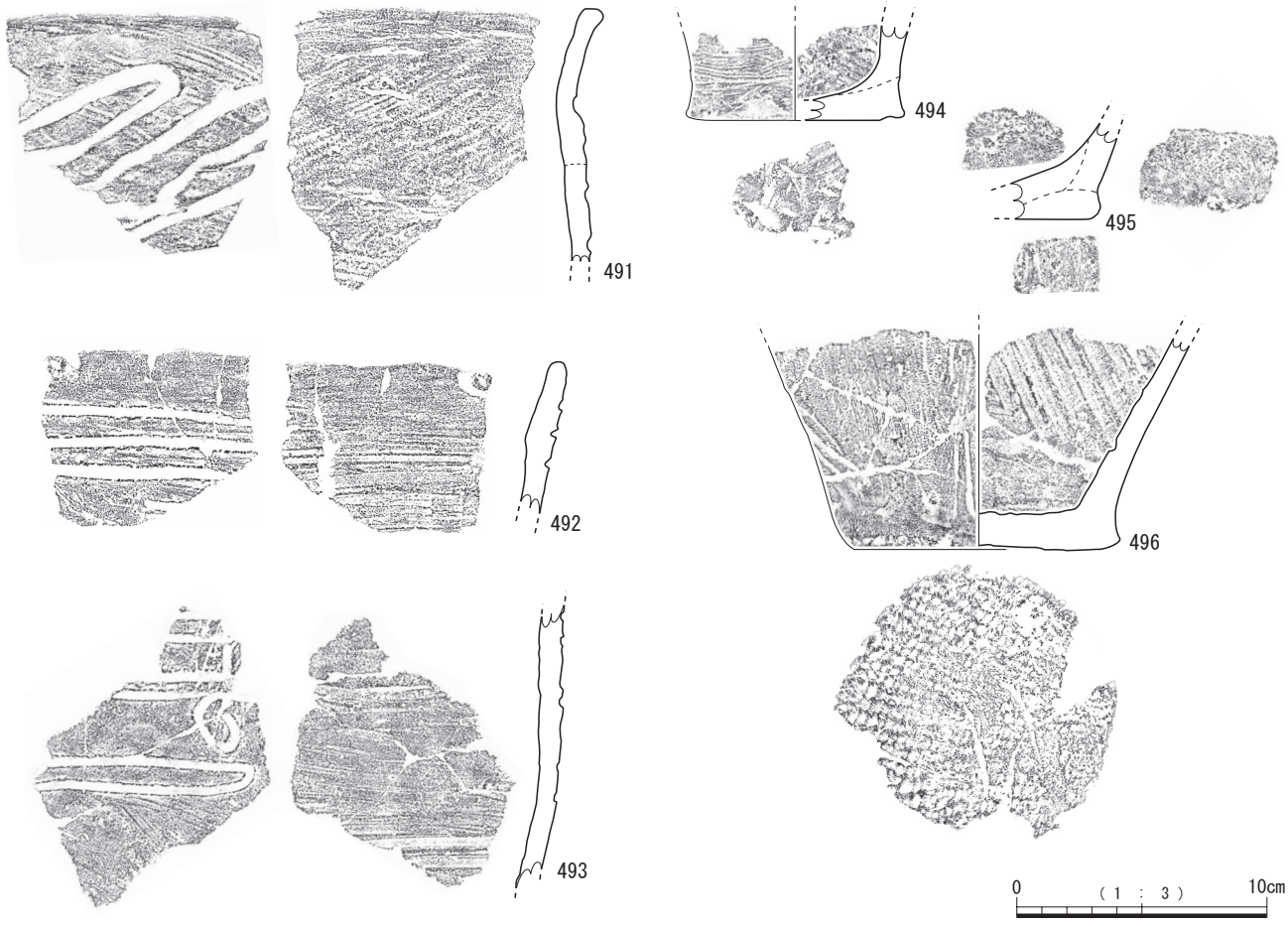




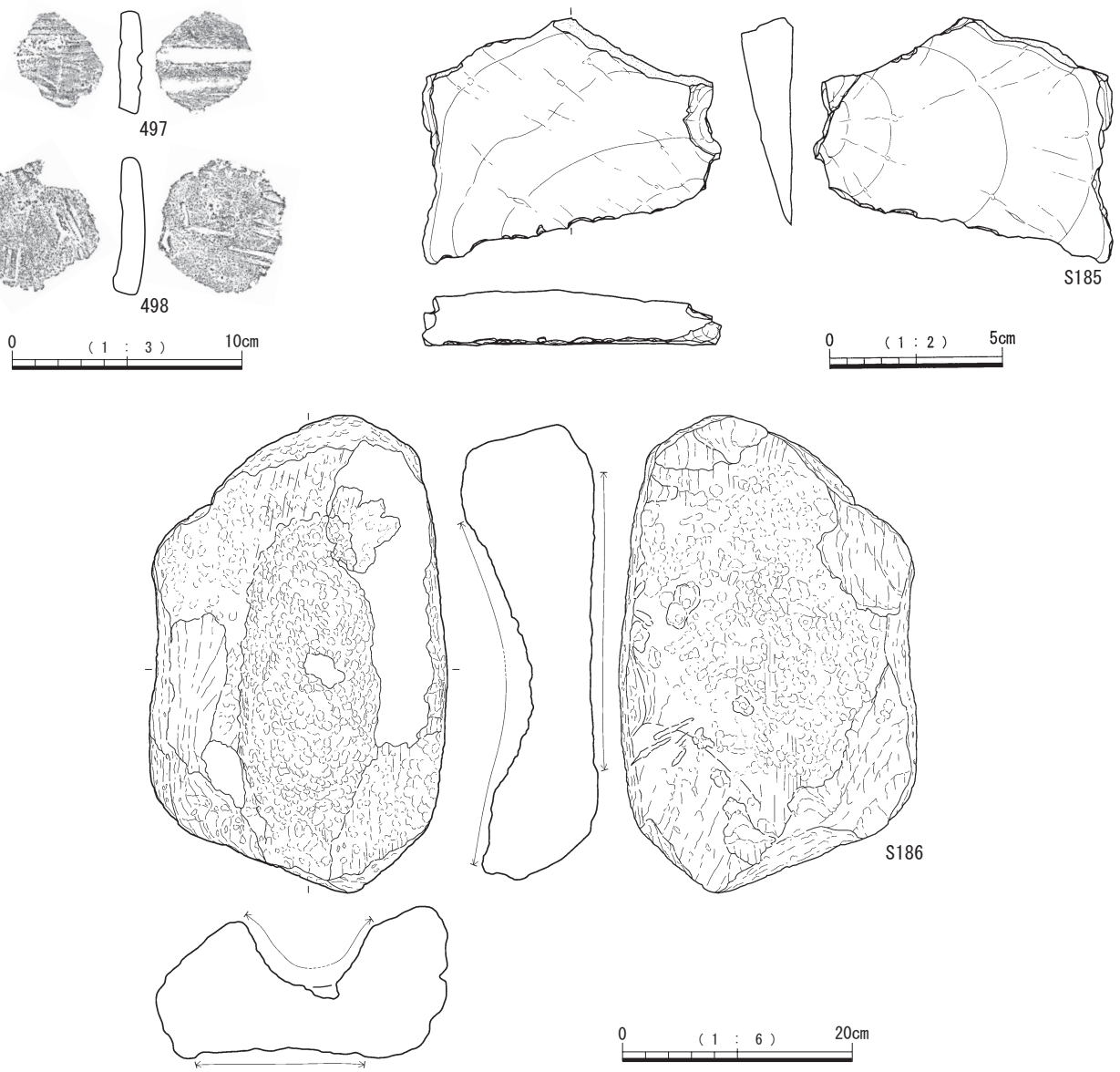
第192図　土器集中11・12号と出土遺物

ＤＫＳ１３





第193図　土器集中13号と出土遺物（１）



第194図　土器集中13号出土遺物（２）

土器集中10号（第190・191図）

検出状況

DKS10は，E－５区のⅣb層で検出された。

規　模

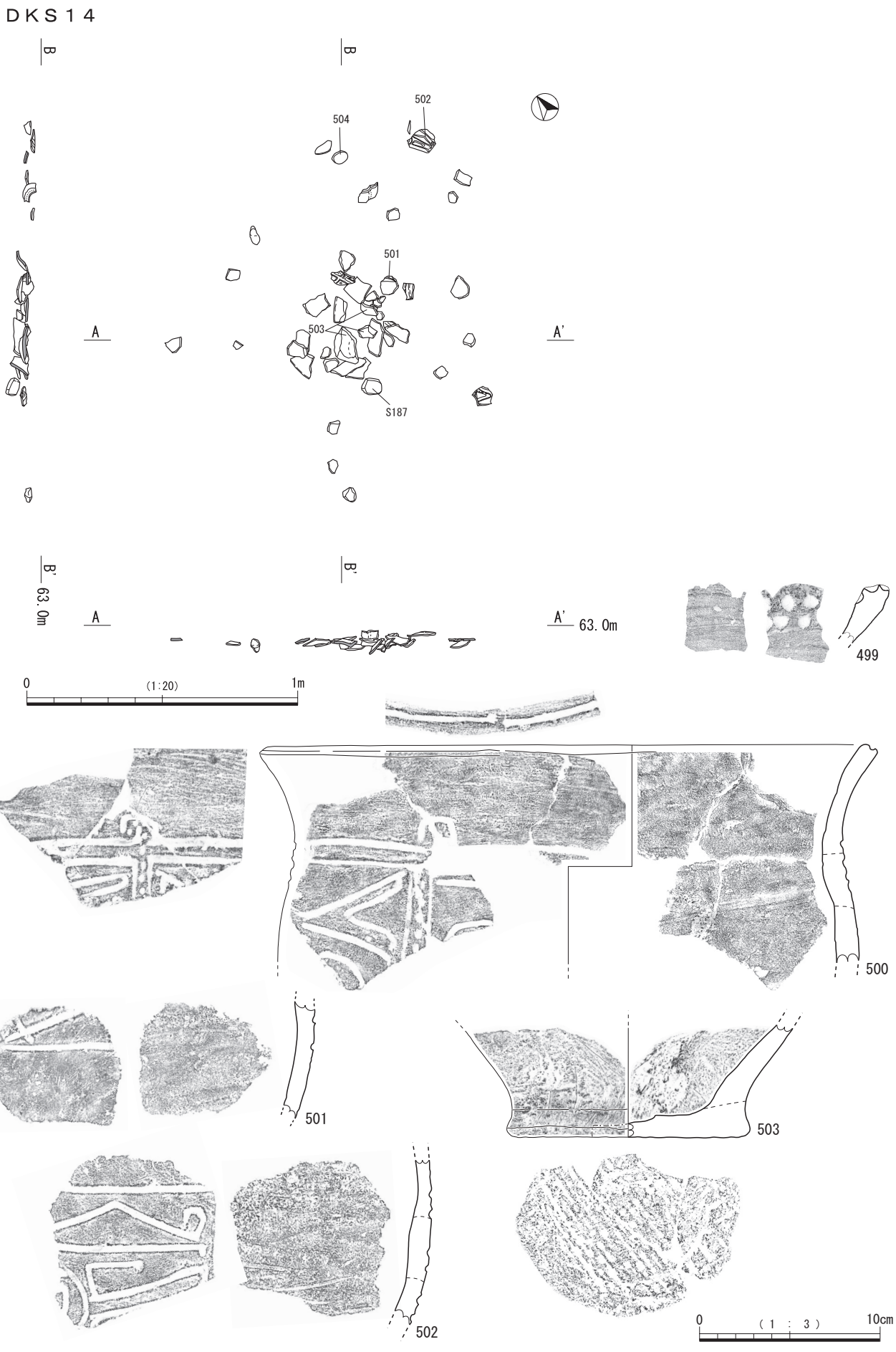
土器は長軸1.02m，短軸0.89mの範囲に広がり，485を中心とした多数の土器片がまとまりをもって検出された。

出土遺物

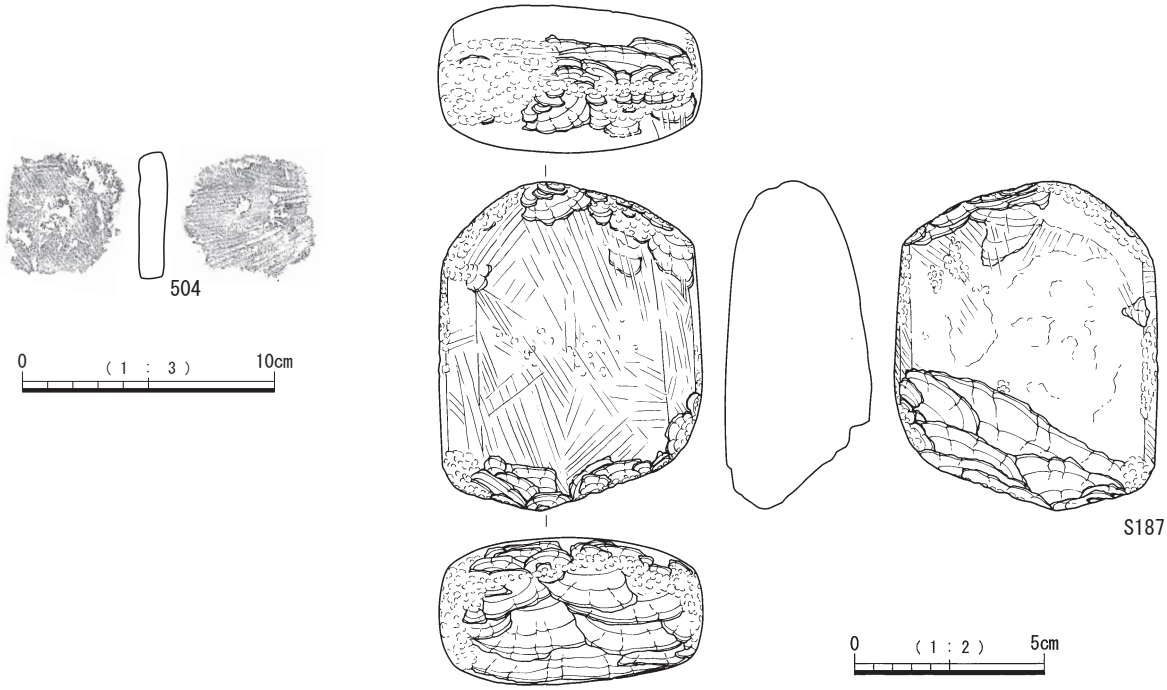
484は深鉢の口縁部片で，口縁部外面に扁平な肥厚帯を巡らせる。肥厚帯には棒状工具による２段の連点文と縦位の貝殻腹縁刺突文を施す。内外面はナデ調整である。Ⅵb類の範疇と考えられる。481は底部で，底面に白色付着物がみられる。

482は網代痕が残る底部を用いた円盤状土製加工品と考えられ，底面には白色物質が付着する。483は円盤状土製加工品で，Ⅵc類土器の口縁部近くの破片を使用して製作される。

485，486は胴部と底部は接合しないが，形態・胎土の特徴から同一個体と判断した大型の深鉢である。残存率が高い。口縁部はわずかに外反する。胴部はあまり張らず，底部に向かって直線的にすぼまるやや縦長のプロポーションである。平坦口縁で，口唇部を平坦に成形する。口唇部の外面側に篦状工具によって切目状の刻目を巡らせるが，その間隔はランダムである。胴部上位に多条の平行な凹線文を階段状に描く。底部は輪状に残存し，底面中央に充填した粘土塊が剥落している。Ⅵb類と考えられる。内外面に貝殻条痕を明瞭に残す。胎土には金色の雲母が多量に混入する。



第195図　土器集中14号と出土遺物（１）



第196図　土器集中14号出土遺物（２）

土器集中11号（第192図）

検出状況

DKS11は，D－６区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸0.46m，短軸0.41mの範囲にまとまって検出された。

出土遺物

487は深鉢の口縁部片で，口唇部を肥厚させて平坦面を形成し，そこに２条の沈線と刺突による文様帯を施す。口唇部はやや内傾し，Ⅸa類と考えられる。488・489は底部でともに底付きのよい平底である。488は胴部に丸みを帯び，489はやや外反気味に大きく開く。488は網代痕を明瞭に残し，489は網代痕を指と貝殻によりなで消す。

土器集中12号（第192図）

検出状況

DKS12は，C・D－７区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸0.44m，短軸0.24mの範囲に，490の破片がまとまって検出された。

出土遺物

490は深鉢の口縁部から胴部で，平坦口縁である。口縁部は小さく外反し，口縁部最上位をわずかに肥厚させて凹線文を平行に描く。口唇部には沈線が巡る。頸部直下を鉤の手状の凹線で区画し，さらにその直下に細い枠状のモチーフを横位に３段連続させる。DKS３から出土した455・456と形態や文様の特徴が類似しⅧa類と考えられる。底部に向かって急な角度ですぼまると推測される。内外面はナデ調整である。

土器集中13号（第193・194図）

検出状況

DKS13は，C－15区のⅣa層で検出された。

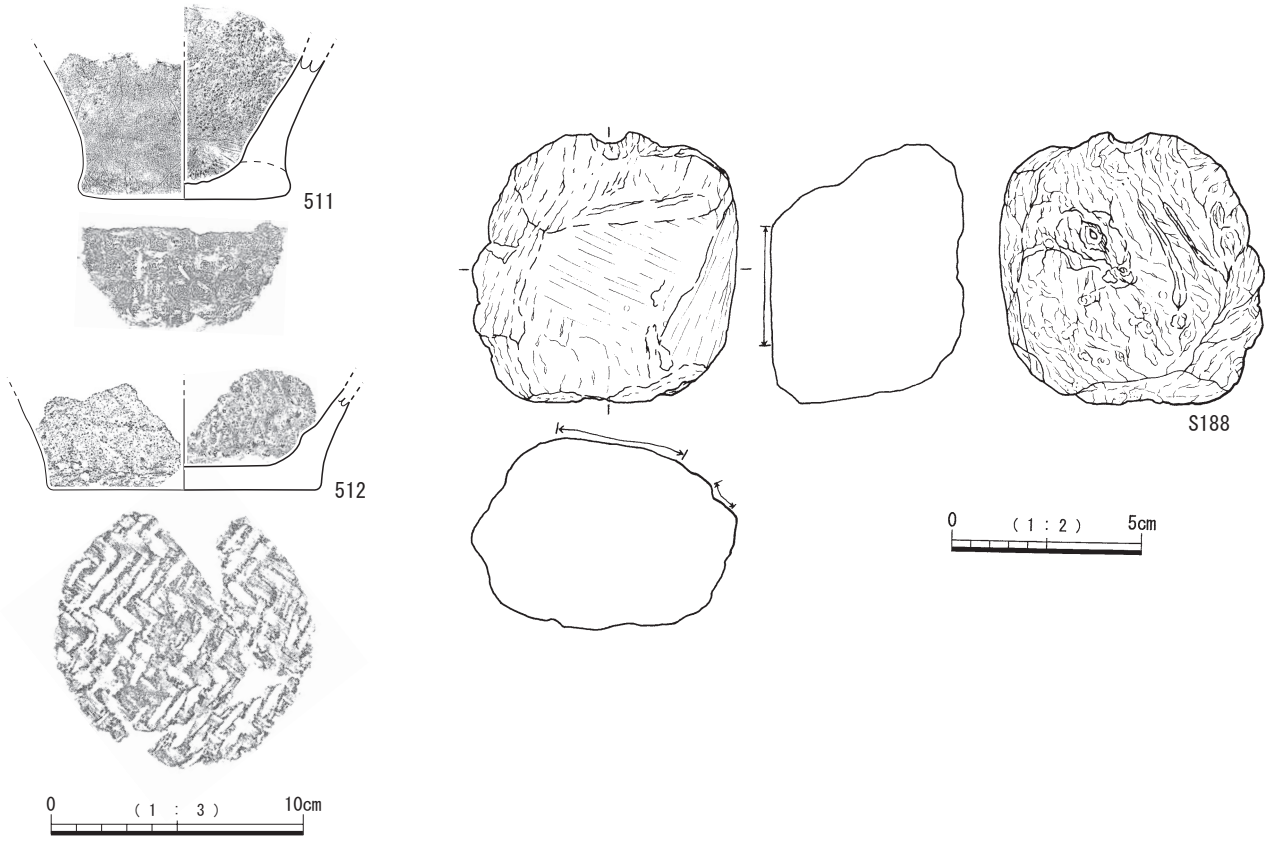
規　模

土器は長軸1.25m，短軸0.86mの範囲に広がる。土器の小破片，円盤状土製加工品が検出され，接合・復元を試みたが，僅かな破片を除いて接合できるものはなかった。そのほかに大型の軽石加工品が出土した。

出土遺物

491・492は口縁部片で，493は胴部片である。492・493は胎土の特徴から同一個体と判断した。491は緩く外反しながら開く口縁部片で，曲線文（大波文）を横位に展開させると推測される。器面には貝殻条痕を残す。Ⅵb類と判断される。492・493は直線的に開く口縁部で，口縁端部を丸くおさめる。口縁部内面に小さな段を形成する。口縁部よりやや下がる位置に３本の平行沈線を巡らせ，胴部にも横位の平行沈線文を主体とした文様帯を有する。胴部と口縁部の内外面に円形のモチーフを描く。内面にはやや幅の広い貝殻条痕を長いストロークで施す。Ⅷb類と考えられる。494～496は底部および底部片である。接地面近くにくびれを形成する。496は493と同様の条痕を内面に施し，胎土の特徴から492・493の底部である可

第197図　土器集中15号と出土遺物（１）



第198図　土器集中15号出土遺物（２）

能性が高い。496の底面にはモジリ編みの痕が残る。

497，498は円盤状土製加工品である。

S185は，安山岩Ｃ類製の使用痕の残る剥片で，下辺に微細剥離痕及び摩耗痕が確認される。S186は軽石加工品である。正面・裏面を平坦に成形した後，正面に深い皿状，裏面に浅い皿状の凹みを形成する。裏面にはうっすらと赤味を帯びた箇所が肉眼で確認され，赤色顔料が付着している可能性もある。

土器集中14号（第195・196図）

検出状況

DKS14は，Ｃ-16区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸1.41cm，短軸1.14cmの範囲に広がり，そのうち多数の破片が中央に集まる。その集積部の中心がやや空く。

出土遺物

499は口縁部が大きく倒れる器形で，口縁部内面の上位に径約７㎜の棒状工具によると思われる２列の連続刺突文を施す。内外面は工具による丁寧なナデ調整を横位に施す。台付皿に類似する浅い杯型の特殊な器種の可能性もある。500は上胴部の多くが残存している。口縁部は緩く外反しながら開く。口唇部には太めの沈線が巡らされ，線の始点と終点を深く刺突する。胴部文様帯は口唇部と同じ棒状の工具により描かれる。残存部の状況から，鉤手状の文様の真下に連点を連続させた縦位の平行沈線を５か所割り付けて，その周りに平行沈線による幾何学文を描いたと推測される。Ⅷc類に該当する。501と502は丸みを帯びた胴部片で，文様や調整，胎土は500と類似するが，施文具が違うことが推測されることと，線の始点・終点の描き方に違いがみられることから別個体と判断した。503は底部で接地面近くでくびれ，胴部に向かって大きく開く。底面には網代痕が残り，胴部器壁と中央の円盤状のパーツとの接合痕が観察できる。504は無文の深鉢の胴部を使用した円盤状土製加工品である。

S187は，ホルンフェルス製の磨製石斧Ⅱ類の刃部片を敲石に転用している。左右両面をよく擦って面取りしており，定角式の磨製石斧の可能性が高い。敲打具としてもよく使用される。

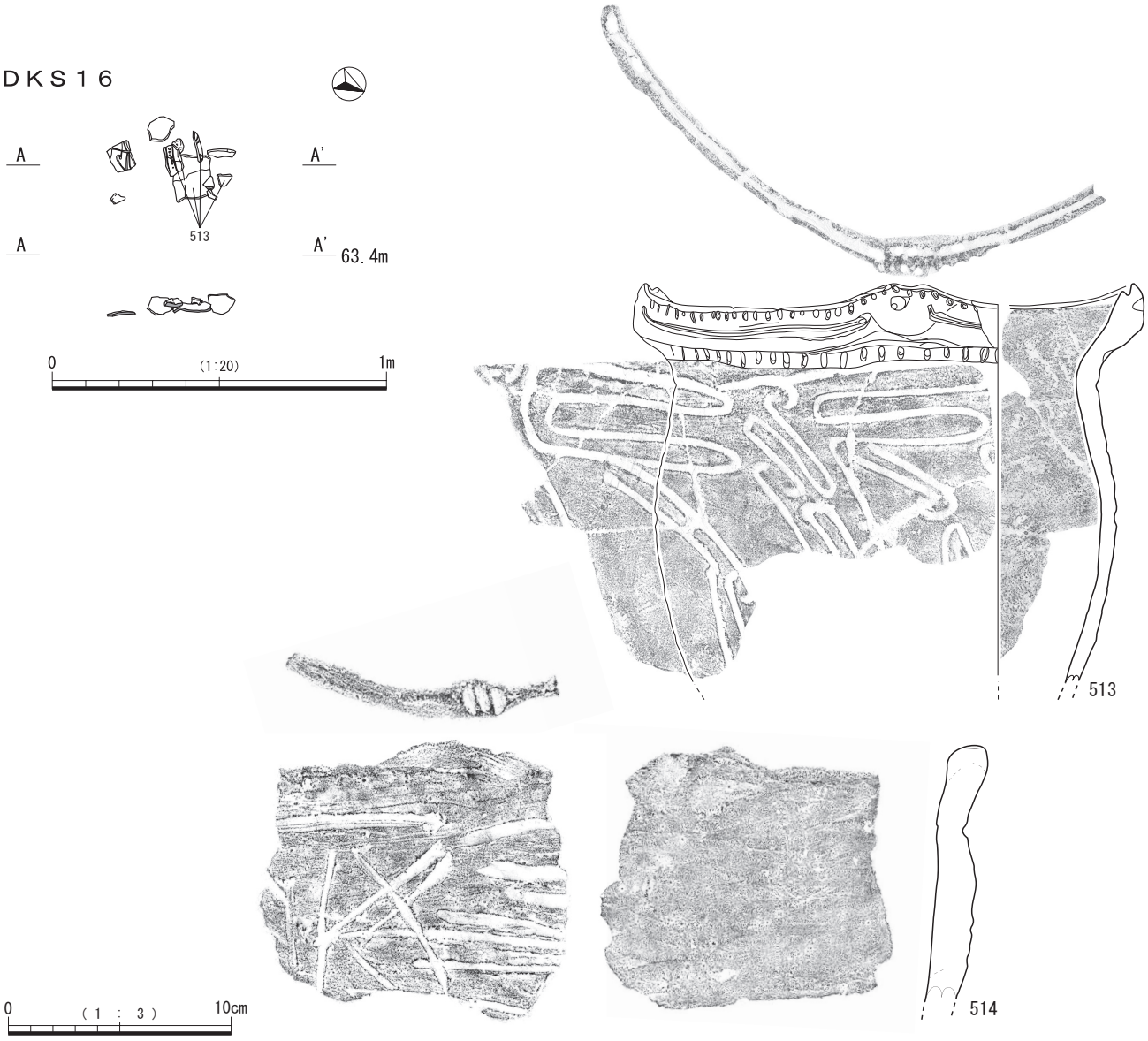
土器集中15号（第197・198図）

検出状況

DKS15は，Ｄ-16区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸1.20m，短軸0.81mの範囲に広がる。

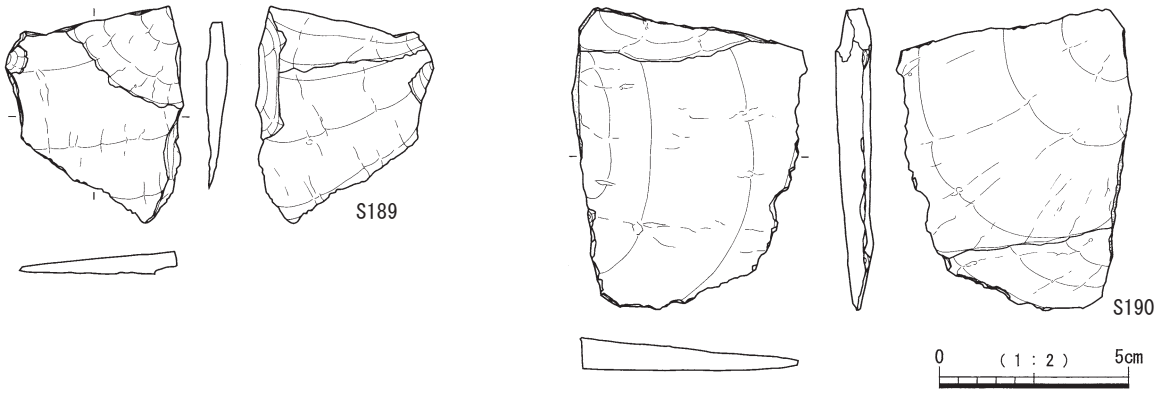


第199図　土器集中16号と出土遺物

出土遺物

505・506は深鉢の口縁部から胴部下位である。505は波状口縁で，波頂部上面を指頭によって数箇所円形に押圧する。文様帯はやや太めの平行な凹線によってアーチ状のモチーフを横位に展開させ，線の始点と終点を入り組ませる。底部に向かって丸みを帯びながら急な角度ですぼまる。内外面の調整は丁寧なナデ調整で，色調は黒色を呈する。Ⅷb類と考えられる。506は砲弾状にすぼまる器形である。口縁部外面を肥厚させ，口縁部肥厚帯に凹線を巡らせる。内面の口縁端部より少し下がった位置に細い沈線を巡らせる。胴部上位に枠状の凹線文を横位に描く。Ⅷa類と考えられる。DKS３とDKS12に口縁部の形態や文様が類似するものが出土している。外面に粗い貝殻条痕を残す。507は肥厚させた口縁部片で肥厚帯とその直下に凹線を巡らせ，内面の口縁端部より少し下がった位置に細い沈線を巡らせる。508は胴部は丸みを帯び，底部に向かいやや急な角度ですぼまることから，浅い鉢型と判断した。最大径のあたりに巡らせた平行沈線から鉤手文を垂下させ，鉤手の向きは右向きのものと左向きのものが向き合うと推測される。Ⅵb類の範疇である可能性もある。510は507と同類の鉢の胴部片である。上位が外反することから口縁部に近いと考えられる。508と比較すると文様は整った線で描かれ，器面の仕上げも丁寧であり，胎土の特徴も異なるため別個体と判断した。509は脚で底部の一部と底面の器壁との剥離面が観察できる。底面の角度とミガキ様のナデ調整から，台付皿等の特殊な器種と推測される。平行沈線による曲線文が描かれる。下面は磨耗が著しく，接地するか別のパーツと接合するかは不明である。511・512は底部である。511は網代を丁寧にナデ消す。白色付着物がみられる。

第200図　土器集中17号と出土遺物（１）



第201図　土器集中17号出土遺物（２）

512は底面に矢羽根編みの網代痕が明瞭に残る。

S188は，用途不明の軽石製品である。正面には明瞭な平坦面が形成され，砥石として使用された可能性がある。裏面には浅い孔と線状の溝を２本施す。

土器集中16号（第199図）

検出状況

DKS16は，D-16区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸0.38m，短軸0.26mの範囲にほぼ１個体がまとまって出土した。

出土遺物

513は深鉢の胴部片で，波状口縁を呈する。波頂部は，２つの頂点の間隔から対角上に4箇所存在したと考える。波頂部の下の頂点からわずかにずれた位置に深さ約８㎜ほどの孔を施す。口縁部外面を幅広く肥厚させ，肥厚帯の上下を棒状工具による連点により装飾し，中央に深い凹線を巡らせる。凹線の始点と終点を強く刺突している。胴部には左上がりの斜位の平行沈線を基調とした文様帯が胴部下位に及ぶ。口唇部は，波頂部上面で内外面側に肥厚し，凹線を巡らせる。胴部は鈎の手と蛇行する沈線の組み合わせで施文される。Ⅷa類と考えられる。

514はDKS５と重なる地点で出土した深鉢の口縁部片である。粗い平行沈線文が不規則に描かれる。平坦口縁の一部を丘状に隆起させており，見た目は波状口縁に近い。頂部上面に棒状工具による縦位の刺突を３個刻む。器壁は特に厚い。Ⅷb類と考えられる。

土器集中17号（第200・201図）

検出状況

DKS17は，D-16区のⅣb層で検出された。

規　模

土器は長軸1.26m，短軸0.83mの範囲に広がる。520については口縁部が真西に向き，破砕後に並べて置かれたように，整然と並んだ状態で検出されている。

出土遺物

515～519は口縁部小片で，文様や形態の特徴から516はⅥb類，515はⅧb類，518と519はⅧa類と考えられる。517口縁部の器壁は直線的で少し外傾しながら立ち上がる。口縁端部は内面側がナデられ先細る。外面にはナデ調整の後で貝殻腹縁による条痕で斜格子状ないし三角形状の文様が描かれる。内面には横位の貝殻条痕が施され，上位に文様を有する可能性があるが残存部分が少なく判然としなかった。縄文時代後期前半の土器と判断しⅪ類とする。520はごく緩い波状口縁を呈し，胴部には同心状のアーモンド形のモチーフを主体とした文様帯を幅広く形成する。波頂部には指頭による押圧を２個施す。Ⅷb類と考えられる。521～524は胴部片でほとんどがⅧ類の範疇と推測されるが，522は内外面ともに摩滅が著しく分類が難しかった。525は円盤状土製加工品である。

S189・S190は安山岩Ｃ類製の使用痕剥片である。ともに周縁部に微細な剥離が確認できる。S189の正面上部は円形に剥離している可能性があり，母岩が被熱によってはじけた可能性もある。

埋設土器１号（第202～204図）

検出状況

埋設土器１号は，Ｂ－３区のⅣb層で検出された。526・527の２個体がほぼ完形で出土した。526を上位に，入れ子の状態で埋納された可能性をもつ。底部は土坑北側の床面から重なった状態で検出され，胴部土器片の検出状況からやや倒位に置かれたことが推測される。

規　模

土器は長軸0.65m，短軸0.60mの範囲に広がる。土坑の中で，二個体の土器が重なった状態で検出された。また，埋土上層～下層に数個の礫も出土するが，使用の痕

跡があるかは不明である。

埋土

掘り込みの上層と下層で埋土の違いがみられたが，その境は不明瞭であった。図中には上層を①，下層を②として示す。

出土遺物

526は大型の深鉢で波状口縁を呈する。頸部を明瞭に屈曲させ口縁部は急な角度で立ち上がる。胴部が大きく張り出し，底部に向かってすぼまる器形である。頸部をやや細めの平行沈線により区画し，胴部上位に「M」字を横にしたようなモチーフを横位に連続させ，その直下にも平行沈線を巡らせる。また，波頂部外面には６条単位の縦位の沈線を施す。底面には矢羽根編みの網代痕がみられ，その中央部をなで消す。使用時の煤が上胴部に水平に付着する。胴部下半には527を重ねたために付いたと考えられる，下方からの浅い抉りがほぼ水平に数箇所確認できる。526はⅧb類に該当すると考えられる。

527は小ぶりの鉢で，円錐状の形態である。口唇部に広い平坦面をつくり，棒状工具によって平行沈線と縦位の刺突を組み合わせた文様帯を有する。平坦口縁で口唇部のラインは大きくゆがむ。内外面は丁寧なナデ調整で仕上げる。底面はやや丸みを帯びて形成され，外周に４か所の剥離痕が確認される。本遺跡の包含層からはドーナツ状の台座の上に棒状の支脚が付いた土器片（第２分冊第２－73図 470・471）が出土しており，そのような脚台を有すると推測される。口縁部はやや外傾しⅨb類の特徴をもつ。ただし，口縁端部の稜は丸みを帯び，本遺跡出土の他のⅨb類と比較しても緩い。526と同時期に存在した可能性が高いことや，Ⅷ類土器を出土土器の構成の主体とする中原遺跡（志布志市）に類似する形態の鉢（底部は平底である）が報告されることなどを鑑みてⅧ類の時期の鉢型土器（Ⅷc類）と判断したい。

528・529は底部片で530・531は円盤状土製加工品である。531は棒状工具を刺突することにより施文される。

埋設土器２号（第205図）

検出状況

埋設土器２号は，D－３区のⅥ層で検出された。

規　模

土器は土坑内で長軸0.25m，短軸0.22mの範囲に広がる。埋土の上層から532が横倒した状態で出土した。

出土遺物

532は小形の深鉢でほぼ完形に復元できた。バケツ状の形態で，器壁は厚い。口縁部はやや内湾する。底付の良い平底で，底面の中央部分を欠く。無文で，内外面は貝殻条痕後にナデ調整を施す。内面は，胴部下半が条痕後ナデである。底面には網代痕が残り，白色物質が付着する。胎土に金色の雲母を多く含む。形態はややイレギュラーだといえるが，主に胎土の特徴から縄文時代後期前半の遺物と判断した。

埋設土器３号（第206図）

検出状況

埋設土器３号は，C－15区のⅥ層で検出された。

規　模

土器は長軸0.33m，短軸0.30mの範囲に広がる。埋土の上層から533が逆位で出土した。土坑は南側に後世の攪乱を受ける。平面形状は円形で，533の径とほぼ同じ大きさである。

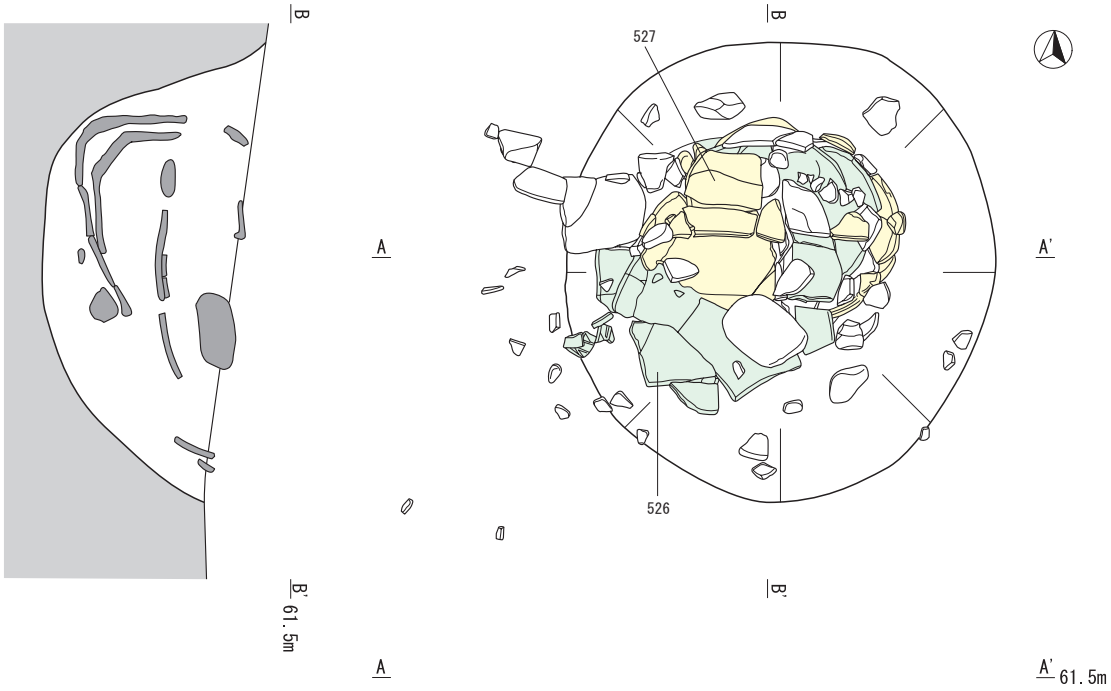
埋土

埋土は単層であったが，その特徴については不明である。

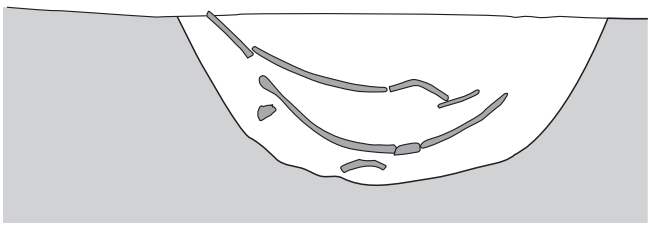
出土遺物

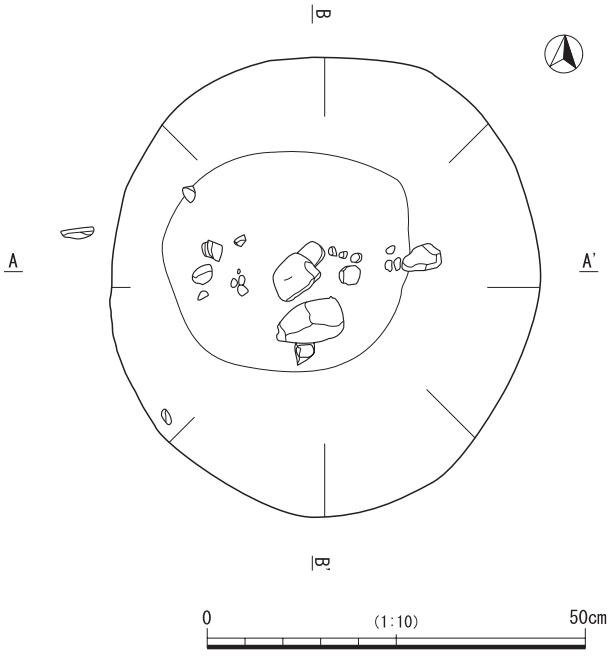
533は深鉢の上胴部片である。口縁部は緩く外反し，口縁端部を面取りにより平坦に形成する。胴部はやや丸みを帯びた形態である。外面は貝殻条痕による調整後，棒状工具によって曲線文を２段，横位に連続させる。やや灰色がかった色調で，器壁は薄く硬質である。Ⅵb類と考えられる。

埋設１



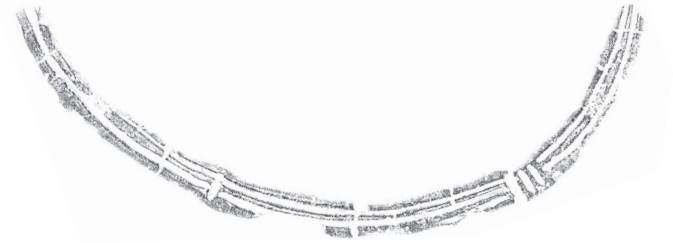
①黒褐色(7.5YR3/2)　粘性あり
　池田降下軽石（10㎜程度）を少し含む
　パミス（3～8㎜）を含む
　炭化物粒(3㎜程度)を含む
②暗褐色(7.5YR3/4)　やや粘性あり
　池田降下軽石（10～16㎜）
　パミス（3～8㎜）を含む
　Ⅳ層とⅤ層の混合土

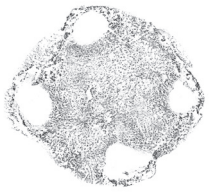




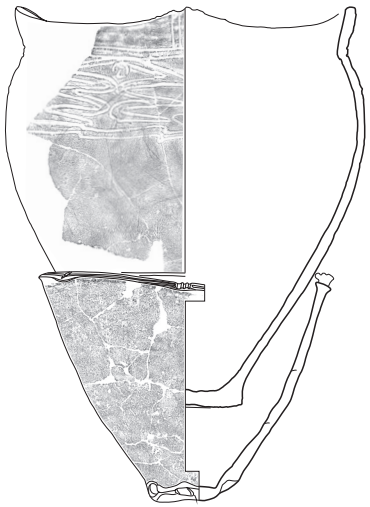
第202図　埋設土器１号

526胴部ハガレ痕





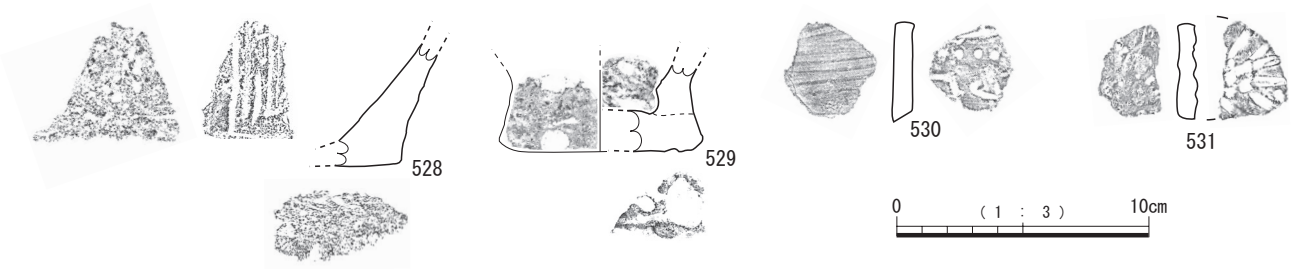
526・527　入れ子の状態の模式図



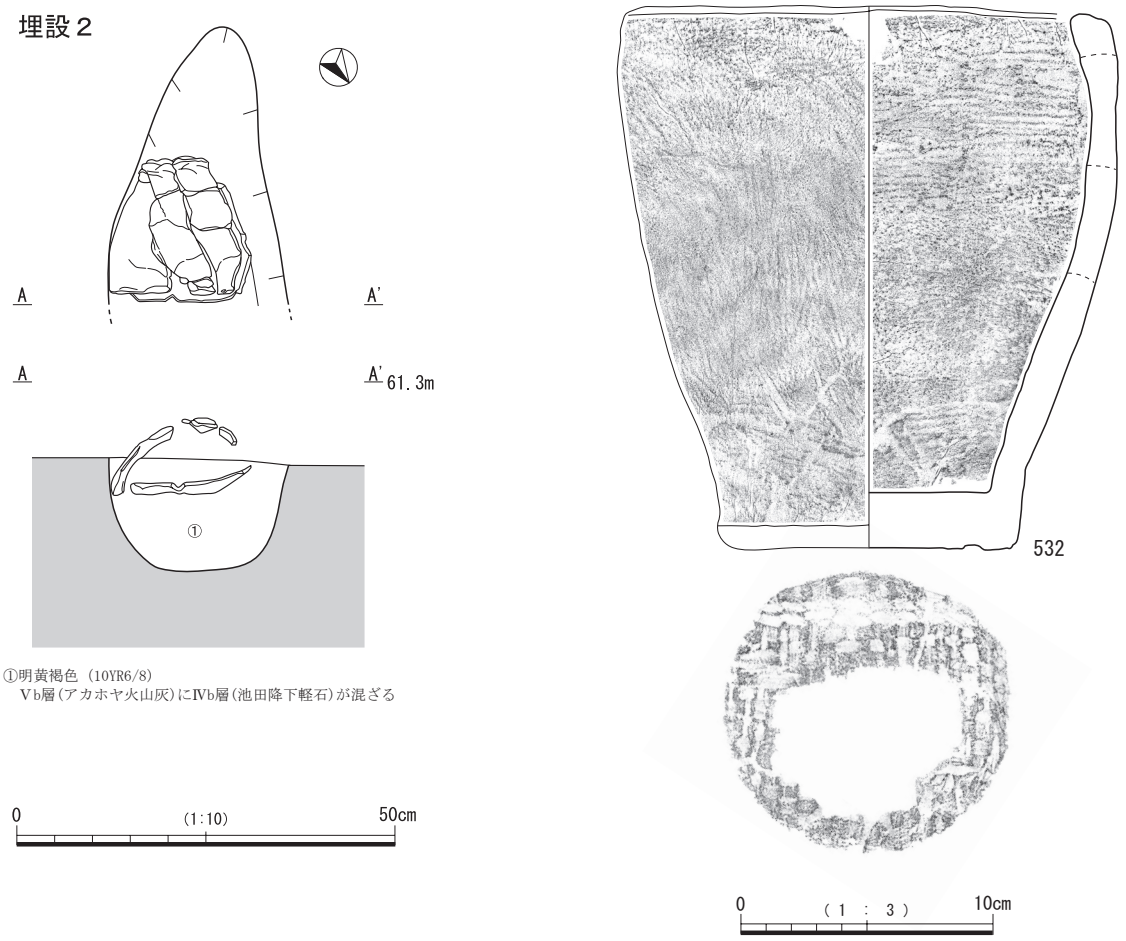
0　（1：8）　20cm

0　（1：4）　10cm

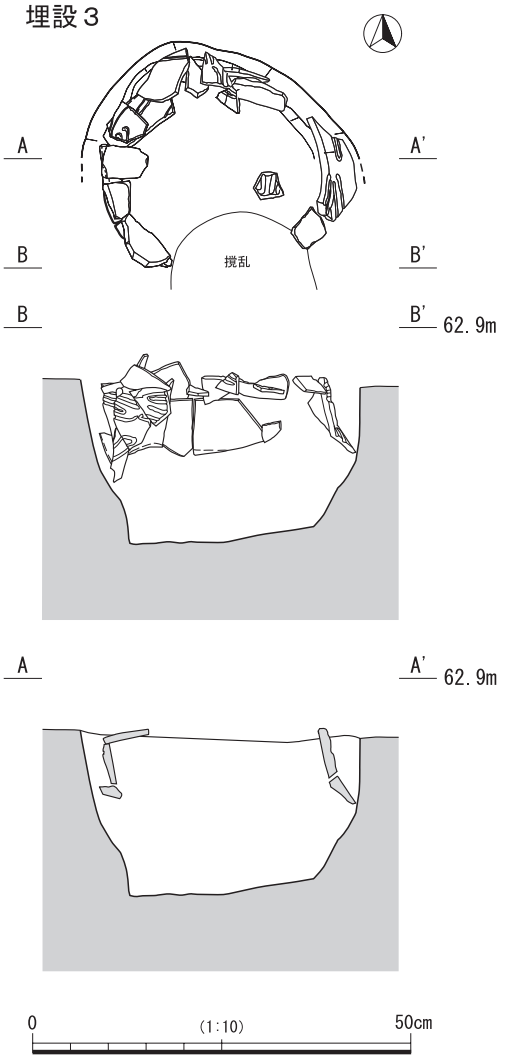
第203図　埋設土器１号出土遺物（１）

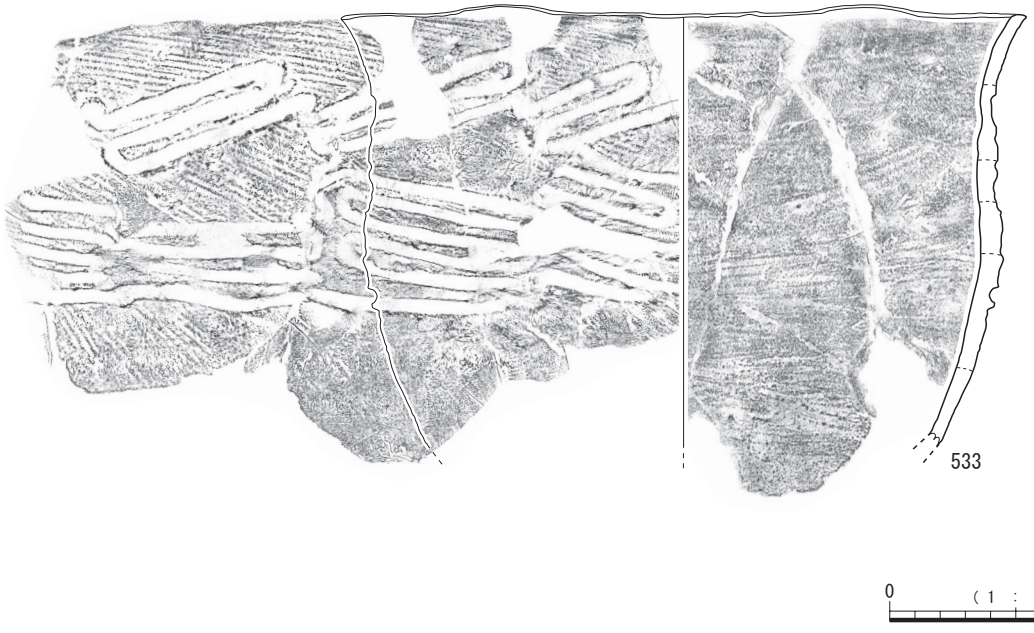


第204図　埋設土器１号出土遺物（２）



第205図　埋設土器２号と出土遺物





第206図　埋設土器３号と出土遺物

（5） 立石遺構

本報告書では，石皿・台石など，大型の石が立った状態で検出されたもの，立っていた可能性のあるもので，集石のように礫が集中しておらず大型の石１個ないし２個など数個程度の石で構成されて検出されたものを立石遺構とした。立石遺構は，32基が検出された。

本報告書では，立石に伴う掘り込みがあるもの，立石としている石皿等の検出状況等で分類を行った。立石遺構の詳細を下記のような名称を示して掲載した。

立石遺構32基中，掘り込みがあるⅠ類が21基，掘り込みがないⅡ類が11基であった。また立石遺構32基中，中心となる石皿等が立っていた状態のものであるa類が20基，置かれたような状態のものであるb類が12基であった。上記を念頭に立石遺構32基を分類すると，Ⅰa類が17基，Ⅰb類が４基，Ⅱa類が３基，Ⅱb類が８基であった。

なお，本遺構を造った時点で，石が露出していたかどうかについては明確ではないところであるが，検出状況を重視して「立石遺構」と呼称することとしたい。

長　軸：検出面で，掘り込み面のほぼ中心を通り，遺構の立石を含む端から端までの最大幅の長さのこと。または，掘り込みの端から端までの長さ。

短　軸：長軸に対して直角に交わり，立石を含む端から端までの最小幅の長さのこと。または，長軸に直交する掘り込みの端から端までの長さ。

また，立石遺構の掘り込みの有無から，下記のように細分した。

タイプⅠa：立石に伴う可能性のある掘り込みがあり，立石としている石皿等が立った状態で検出されたもの。

タイプⅠb：立石に伴う可能性のある掘り込みがあり，立石としている石皿等が置かれたような状態で検出されたもの。

タイプⅡa：立石に伴う掘り込みがなく，立石としている石皿等が立った状態で検出されたもの。

タイプⅡb：立石に伴う掘り込みがなく，立石としている石皿等が置かれたような状態で検出されたもの。

立石遺構１号（第207図）

検出状況

立石遺構１号は，Ｆ－３区のⅤ層で検出された。調査区の西側にあり，立石遺構では最北部に位置する。掘り込みの形状は，長軸49cm，短軸41cm，深さ10cmを測る。埋土は，褐色で黄パミスを含むやや粗い軟質の火山灰質土である。炭化物は含まれない。花崗岩製の石皿片，磨石が出土した。石皿片は立石遺構の石皿の中では小片のため図化には至っていない。

分類：タイプⅠa

立石遺構２号（第207図）

検出状況

立石遺構２号は，Ｃ－５区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸24cm，短軸14＋αcm，深さ６cmを測る。埋土は暗褐色でパミス類が周囲より少なく粒子の細かいやや軟質土である。花崗岩製の石皿片が出土したが，石皿の中では小片のため図化には至っていない。

分類：タイプⅠa

立石遺構３号（第207図）

検出状況

立石遺構３号は，Ｃ－６区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸35cm，短軸27＋αcm，深さ25cmを測る。花崗岩製の石皿が直立して出土した。埋土は暗褐色で黄パミス・白パミスを含む粒子細かい土である。炭化物は含まない。

分類：タイプⅠa

出土遺物

S191は花崗岩製の石皿Ⅰb類である。上・右を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。真下と左下に掻き出しがある。

立石遺構４号（第208図）

検出状況

立石遺構４号は，Ｃ－６区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸40＋αcm，短軸40cm，深さ７cmを測る。埋土は褐色でパミス類をほぼ含まない粒子細かい軟質土である。炭化物は含まれない。花崗岩製の石皿片が出土したが，小片のため図化には至っていない。

分類：タイプⅠb

立石遺構５号（第208図）

検出状況

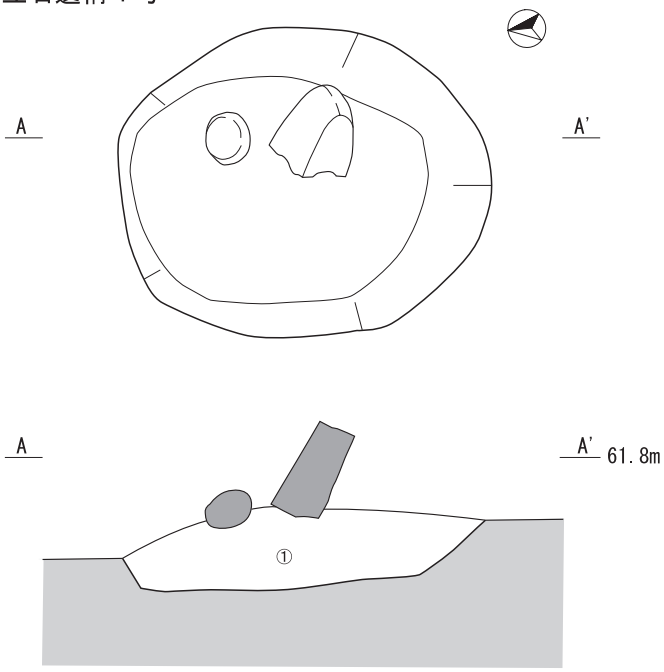
立石遺構５号は，Ｃ－６区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸51cm，短軸28＋αcm，深さ10cmを測る。埋土は，褐色で白パミス・黄パミスや炭化物をわずかに含む。Ⅳa層土に似ている粒子細かい軟質土である。立石遺構の分布域中央部の西端に位置する。

分類：タイプⅠa

出土遺物

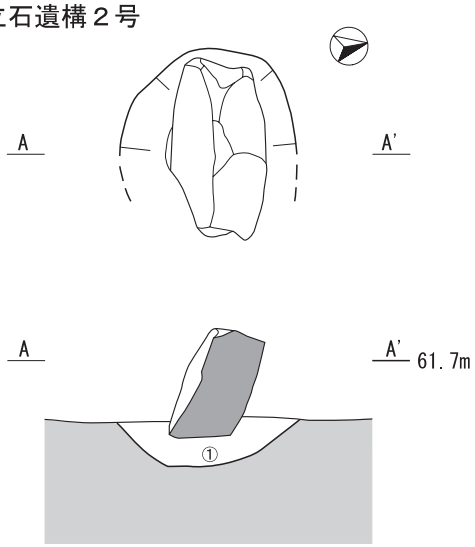
S192は花崗岩製の石皿Ⅰa類である。上を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがあり。敲打痕がみられる。真下に掻き出し口がある。

立石遺構１号



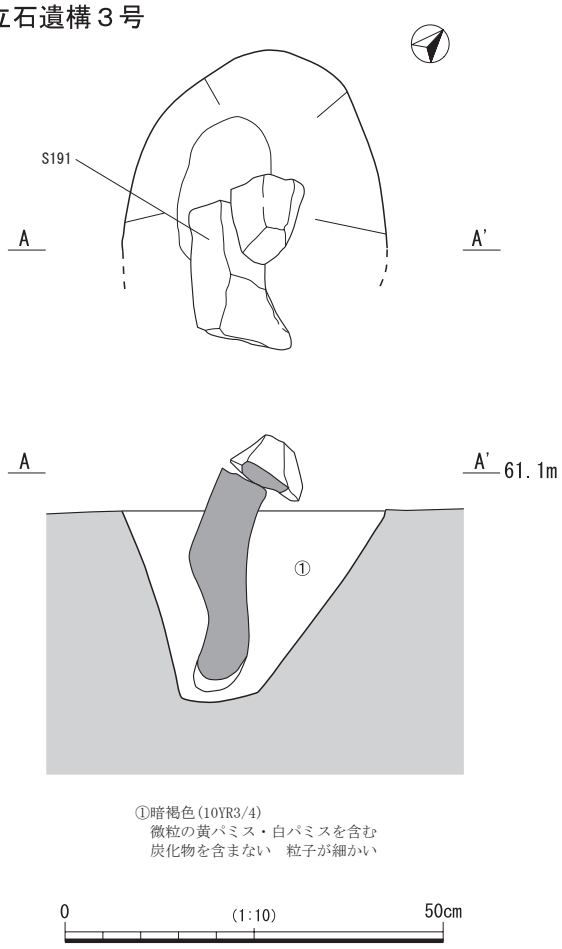
①褐色(10YR4/6)　軟質　火山灰質
細粒の黄パミスをごくわずかに含む
炭化物を含まない　やや粗い

立石遺構２号

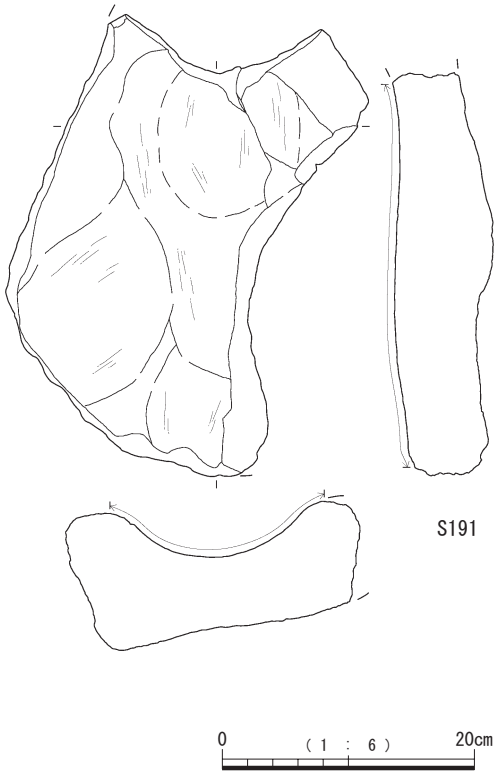


①暗褐色(10YR3/3)　やや軟質
パミス類が周囲のⅣb層よりかなり少ない
粒子が細かい

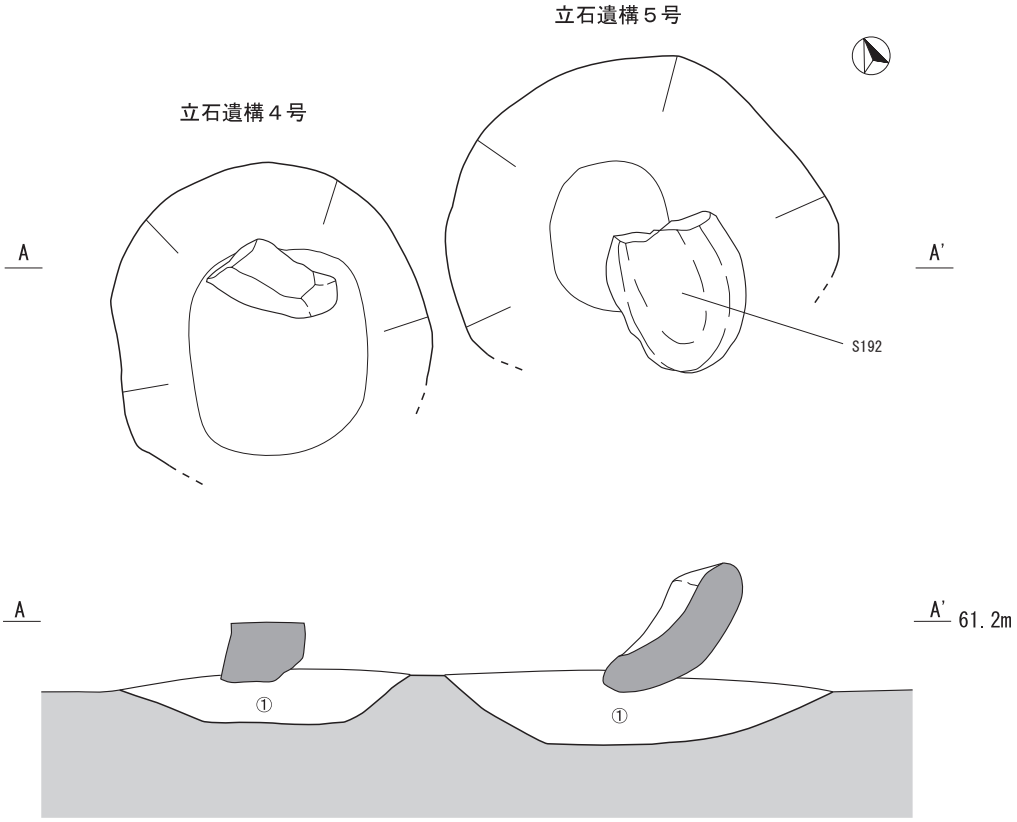
立石遺構３号



①暗褐色(10YR3/4)
微粒の黄パミス・白パミスを含む
炭化物を含まない　粒子が細かい



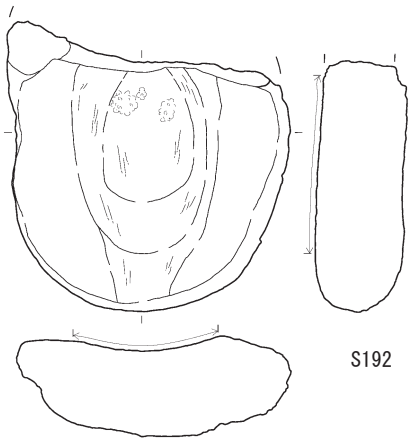
第207図　立石遺構１～３号と立石遺構３号出土遺物



立石遺構４号
①褐色(10YR4/4)　軟質
　パミス類ほぼ含まない　炭化物を含まない　粒子が細かい

立石遺構５号
①褐色(10YR4/4)　軟質
　微粒の白パミスわずかに含む
　細粒の黄パミスごくわずかに含む
　微粒の炭化物わずかに含む
　IVa層土に似ている　粒子が細かい

0　(1:10)　50cm



0　(1:6)　20cm

第208図　立石遺構４・５号と立石遺構５号出土遺物

立石遺構６号（第209図）

検出状況

立石遺構６号は，Ｂ－７・８区のⅣb層で検出された。調査区の西側にあり，立石遺構の中で最南部に位置する。さらに，立石遺構の分布域中央部の南端に位置する。掘り込みの形状は，長軸40cm，短軸25＋αcm，深さ10cmを測る。埋土は，黒褐色である。

分類：タイプⅠａ

出土遺物

S193は花崗岩製の石皿Ⅲ類である。右を欠く。方形を呈する。両面に摩耗面である凹みが顕著にみられる。表面の凹みが５cmと深く，裏面の凹みも1.8cmありよく使用した可能性が高い。

立石遺構７号（第209図）

検出状況

立石遺構７号は，Ｃ－７区のⅣb層で検出された。規模は，長軸20cm，短軸10cmを測る。花崗岩製の石皿が直立した状態で出土した。掘り込みは確認できなかったが，石皿が直立していたことから，掘り込みがあった可能性も残る。

分類：タイプⅡａ

出土遺物

S194は花崗岩製の石皿Ⅵ類である。中央部に摩耗面である凹みがある。左・下を欠損している。全体の１/４以下と考えられる。表面の凹みが4.7cmと深く，よく使用した可能性が高い。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。

立石遺構８号（第210図）

検出状況

立石遺構８号は，Ｃ－７区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸25cm，短軸15＋αcm，深さ７cmを測る。埋土は，暗褐色で白パミスや炭化物を含む。周囲のⅤ層より色調がやや黒色で濃い，周辺よりパミス類が少なく粒子の細かい土である。石皿は，傾いて出土しているが，掘り込みがあるため，立っていた可能性がある。

分類：タイプⅠａ

出土遺物

S195は花崗岩製の石皿Ⅳ類（台石）である。上下を欠く。上方・下方に凹みがある。敲打痕がみられる。

立石遺構９号（第210図）

検出状況

立石遺構９号は，Ｄ－７区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸59cm，短軸47cm，深さ13cmを測る。埋土は暗褐色土で，周辺よりパミス類が少なく，Ⅳb層よりやや暗い色調の粒子細かい軟質土である。花崗岩製の石皿片，磨・敲石片が出土した。石皿は，置かれた状態で検出しているが，掘り込みがあるため，立っていた可能性もある。

分類：タイプⅠｂ

立石遺構10号（第211図）

検出状況

立石遺構10号は，Ｄ－７区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸106cm，短軸96cm，深さ23cmを測る。埋土は，にぶい黄褐色で黄パミス・白パミスや炭化物を含む粒子やや粗い軟質土である。周囲のⅣb～Ⅴ層よりも土壌化している。石皿は，置かれた状態で出土しているが，掘り込みがあるため，立っていた可能性もある。

分類：タイプⅠｂ

出土遺物

534は深鉢の口縁部で，棒状工具により斜格子文を描くⅧb類と考えられる。535は波状の口縁部を含む上胴部片で頂部に棒状工具による３個の刻目を施す。口縁部外面に肥厚帯を形成し，肥厚帯と胴部に沈線による文様帯を有する。Ⅷa類と考えられる。535は付着している炭化物の分析を行った結果，放射性炭化物年代は暦年較正で3,613±22yrBP，2,031－1,897calBC（確率95.45％）という結果が出ている。

S196は花崗岩製の石皿Ⅵ類である。右半・下半を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。凹みが４cmと深く，よく使用した可能性が高い。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S197は軽石加工品である。正面にＵ字状の溝状砥面があり，裏面に凹みがある。表面は砥石的に使用した可能性がある。表面右側に赤色の付着物がある。

立石遺構11号（第213図）

検出状況

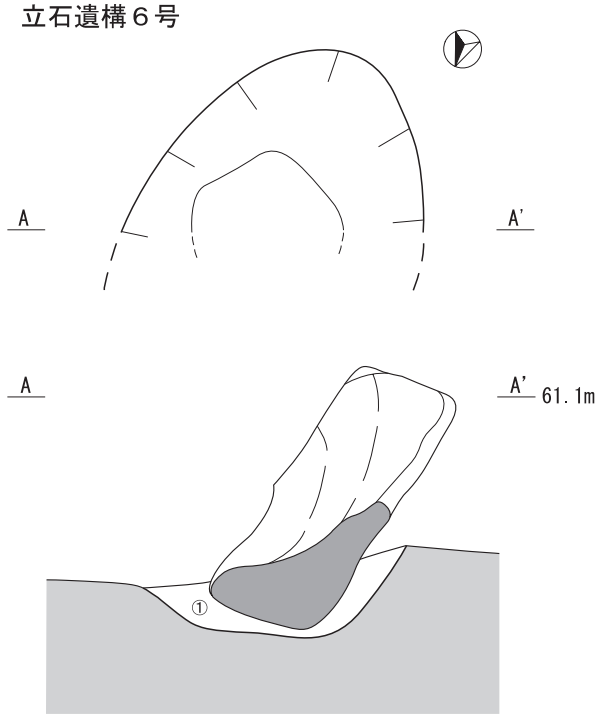
立石遺構11号は，Ｄ－７区のⅣb層で検出された。規模は，長軸50cm，短軸40cmを測る。S199は石皿の摩耗面を下に向け，伏せるような状態で出土している。用途的に対をなす石皿と磨・敲石が一緒に出土している。

分類：タイプⅡｂ

出土遺物

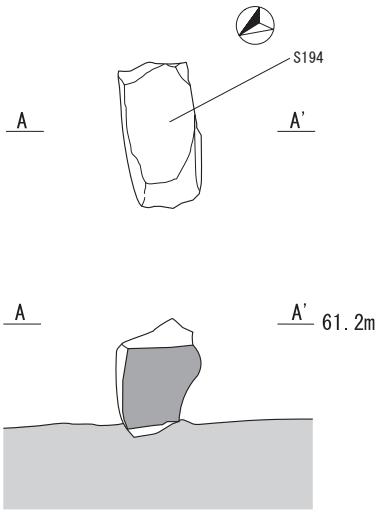
S198は，砂岩製の磨･敲石Ⅱb類である。風化が激しく，被熱が確認された。特に左側面中央でよく敲打している。S199は安山岩製の石皿Ⅰａ類である。中央付近に摩耗面がである凹みが0.7cmと浅く，使用初期段階の可能性が高い。敲打痕もみられる。真下から右方向に掻き出しがある。S199はデンプン分析において摩耗面でない部分から残存デンプン粒の形態の原形が円形を呈し，コナラ属の可能性があるデンプンが検出された結果が出ている。

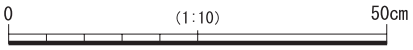
立石遺構６号

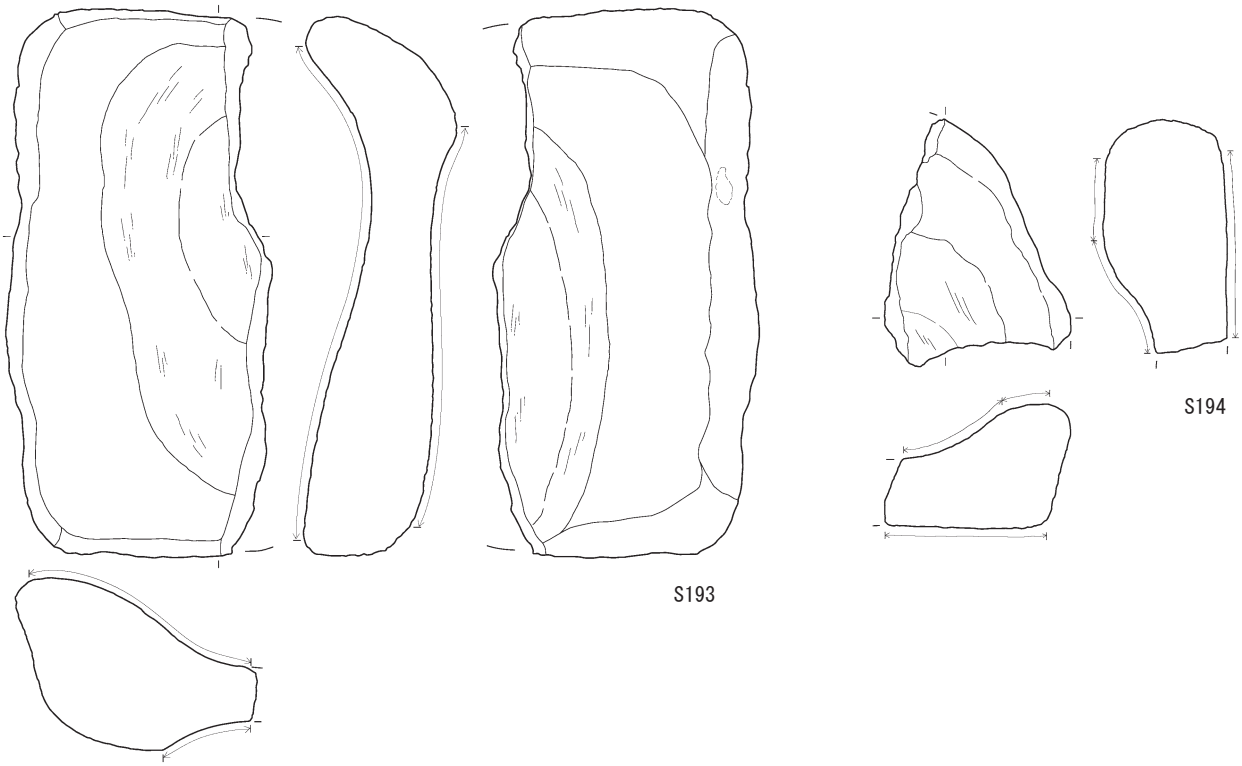


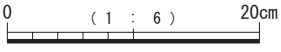
①黒褐色(7.5YR3/2)

立石遺構７号



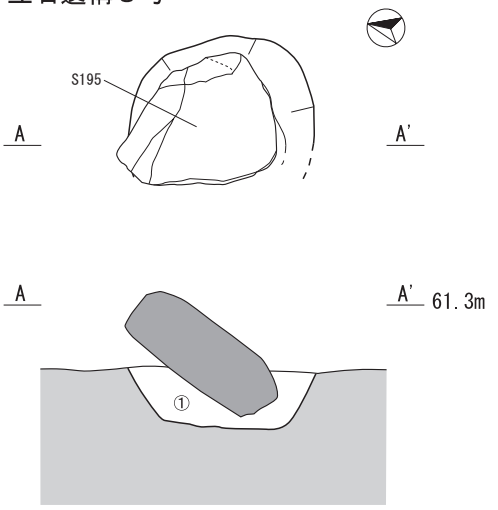


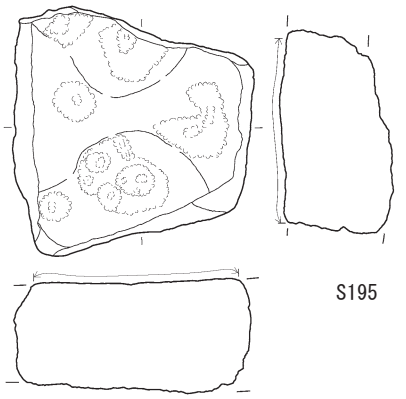




第209図　立石遺構６・７号と出土遺物

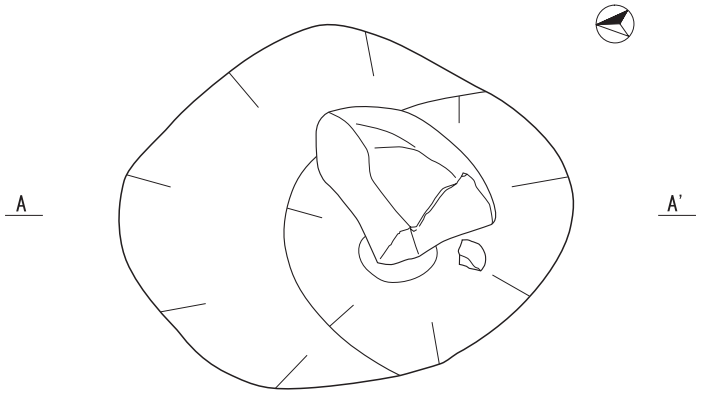
立石遺構８号

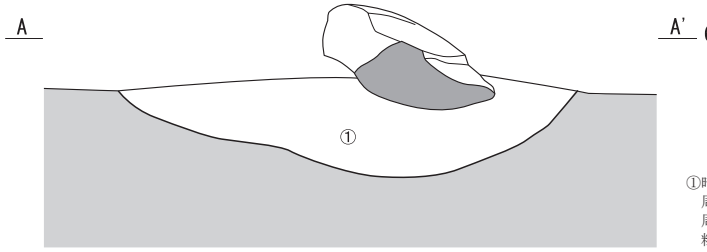




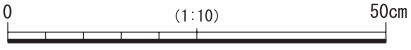
①暗褐色(10YR3/4)
　微粒の白パミスを含む
　微粒の炭化物をわずかに含む
　周囲のＶ層より土色がやや黒色が濃い
　周辺よりパミス類が少ない　粒子が細かい

立石遺構９号



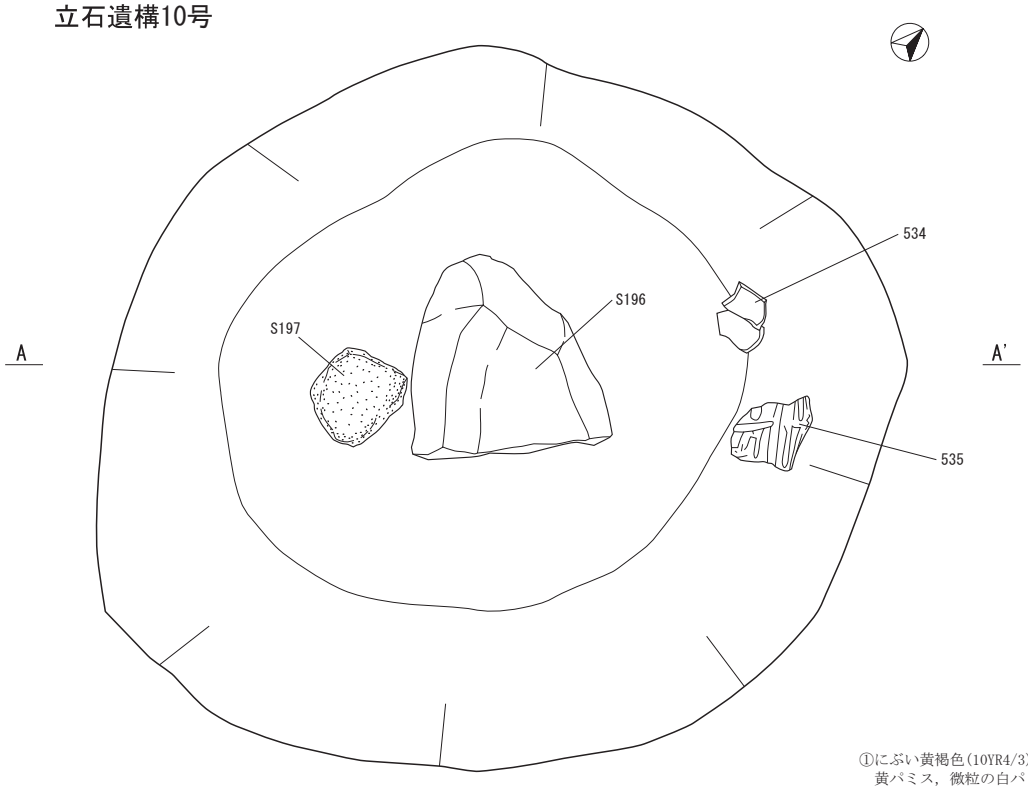


①暗褐色(10YR3/3)　軟質
　周辺よりパミス類が少ない
　周辺のⅣb層よりやや暗い色調
　粒子が細かい

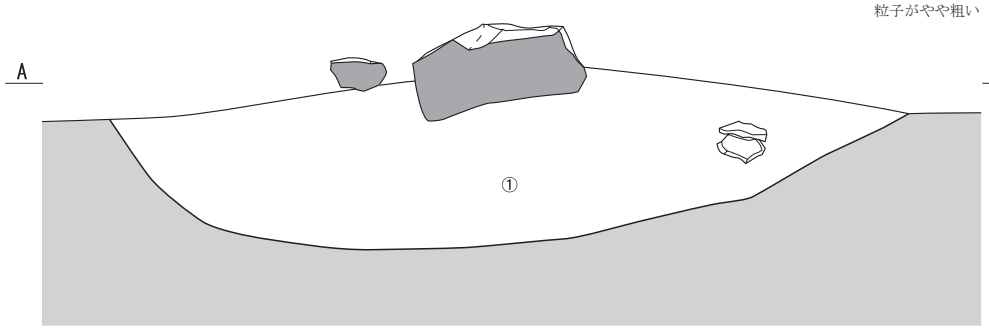


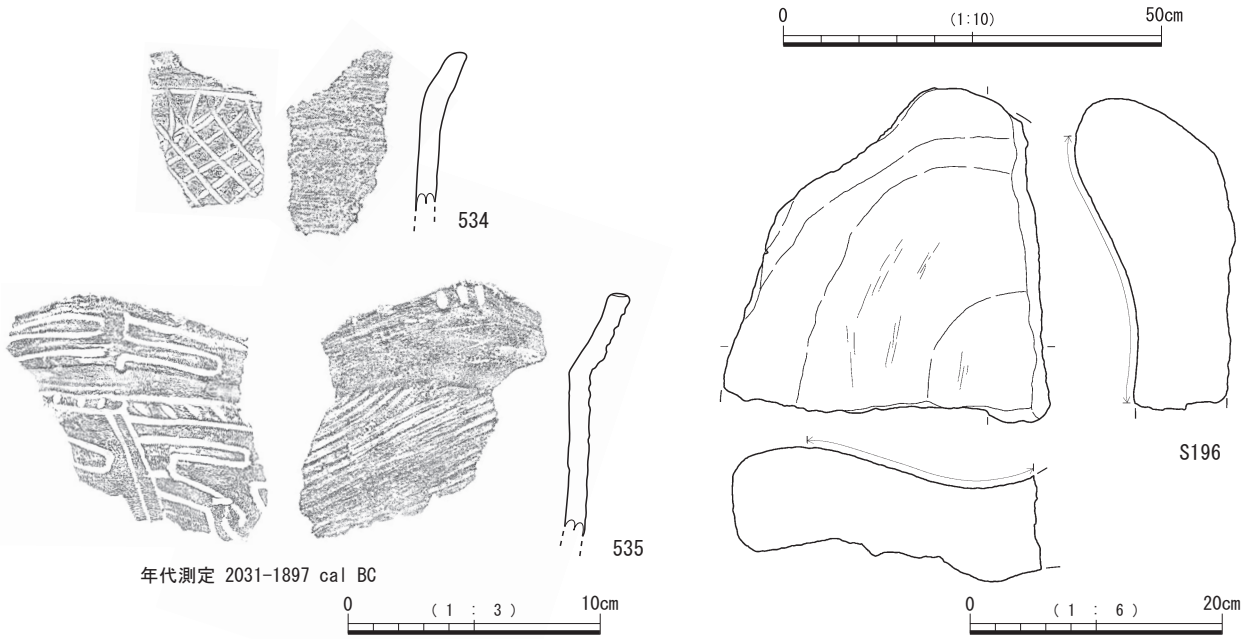
第210図　立石遺構８・９号と立石遺構８号出土遺物

立石遺構10号



①にぶい黄褐色(10YR4/3)　軟質
黄パミス，微粒の白パミスを含む
微粒の炭化物をわずかに含む
周囲のⅣb～Ⅴ層よりも土壌化している
粒子がやや粗い





第211図　立石遺構10号と出土遺物（1）

第212図　立石遺構10号出土遺物（２）

立石遺構12号（第214図）

検出状況

立石遺構12号は，D－７区のⅣb層で検出された。規模は，長軸30cm，短軸25cmを測る。

分類：タイプⅡa

出土遺物

S200は花崗岩製の石皿Ⅳ類（台石）である。上下を欠くが，方形を呈していたと考えられる。長軸方向に擦痕がある。

立石遺構13号（第214図）

検出状況

立石遺構13号は，E－７区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸34＋αcm，短軸34cm，深さ19cmを測る。花崗岩製で完形の石皿が直立した状態で出土した。埋土は，暗褐色で黄パミスや炭化物を含む，やや軟質土である。

分類：タイプⅠa

出土遺物

S201は花崗岩製の石皿のⅠb類である。中央に摩耗面である凹みがある。真下と左下に掻き出し口がある。

立石遺構14号（第215図）

検出状況

立石遺構14号は，E－７区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸38cm，短軸22＋αcm，深さ30cmを測る。埋土は，暗褐色で黄パミス・白パミスや炭化物を含む，粒子細かいやや軟質土である。

分類：タイプⅠa

出土遺物

S202は花崗岩製の石皿Ⅰa類である。完形で中央に摩耗面である凹みが0.7cmと浅く，使用初期段階の可能性が高い。側面の風化が顕著である。

立石遺構15号（第215図）

検出状況

立石遺構15号は，E－７区のⅥ層で検出された。規模は，長軸45cm，短軸35cmを測る。S203は石皿の摩耗面を下に向け，伏せた状態で出土している。

分類：タイプⅡb

出土遺物

S203は花崗岩製の石皿Ⅰa類である。上下を欠く。中央に摩耗面である凹みがある。断面の両側に平坦面を残している。

立石遺構16号（第215図）

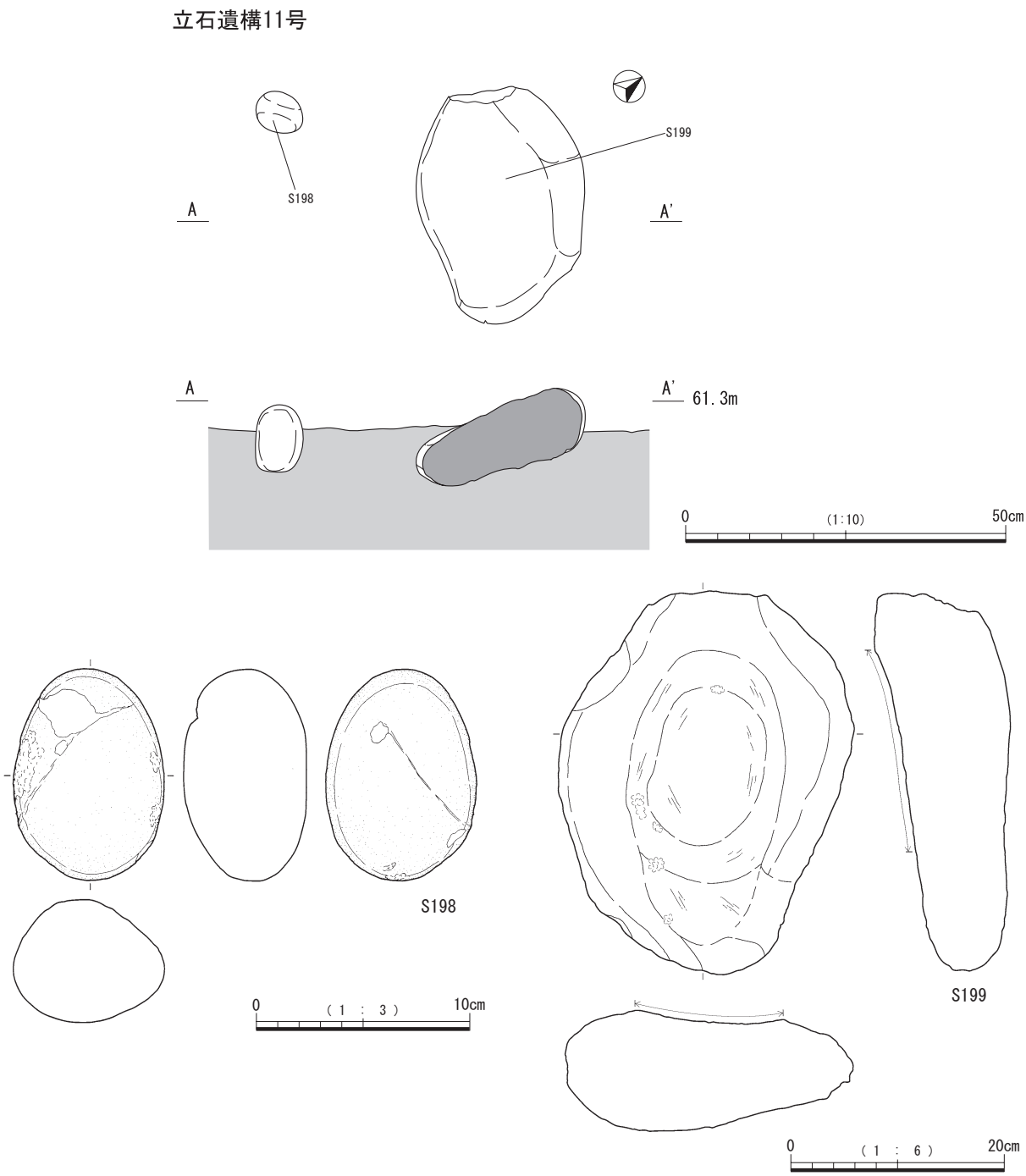
検出状況

立石遺構16号は，F－７区のⅣb層で検出された。規模は，長軸24cm，短軸20cmを測る。

分類：タイプⅡb

出土遺物

S204は花崗岩製の石皿Ⅵ類である。左・右・下を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。敲打痕がみられる。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性もある。



第213図　立石遺構11号と出土遺物

立石遺構17号（第216図）

検出状況

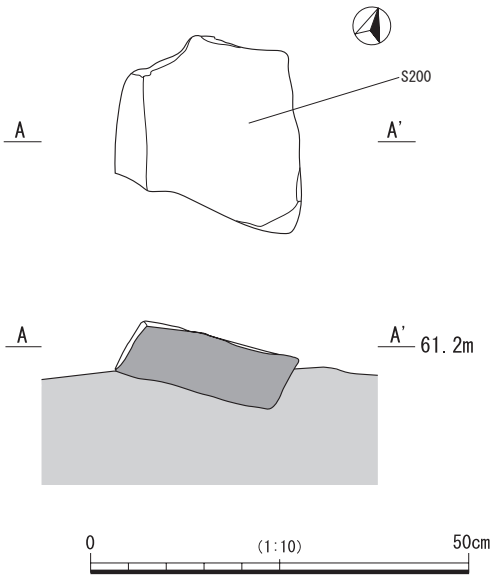
立石遺構17号は，B－8区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸98cm，短軸34＋αcm，深さ66cmを測る。埋土は，灰黄褐色でⅣ層にアカホヤ火山灰が混ざる砂質土である。埋土に完全に埋まった形で石皿が出土している。図面上部のS205は，石皿の摩耗面を下に向けて被せるように置かれていた。中央の石は石皿であったが，風化が著しく脆弱で取り上げることができなかった。図面下の石は，中央の石を固定する役割があった可能性もある。

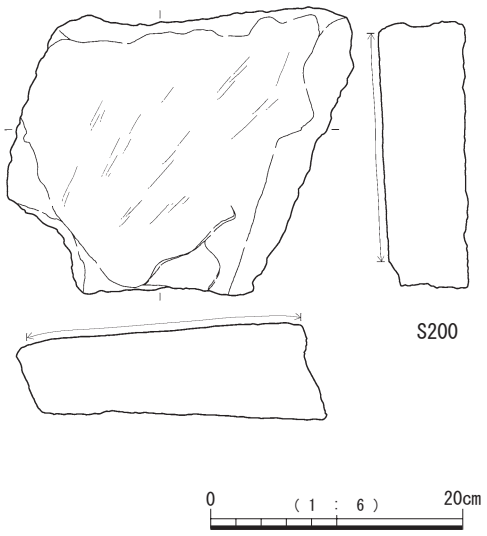
分類：タイプⅠa

出土遺物

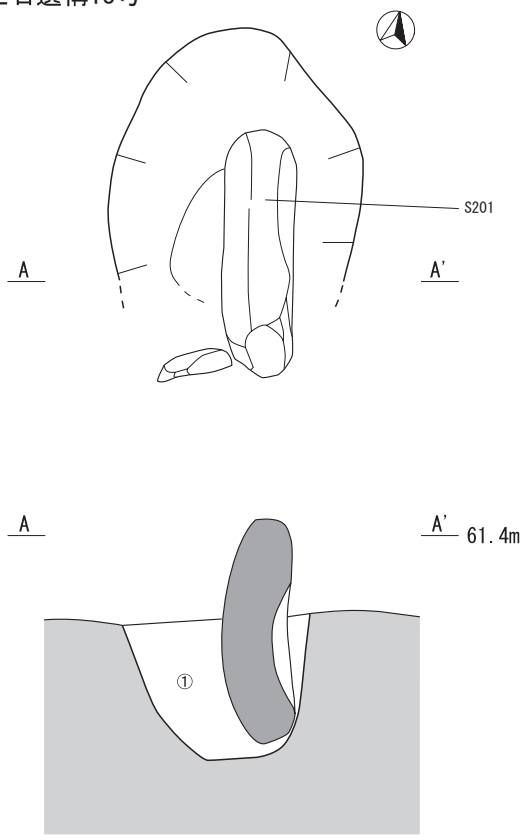
S205は安山岩B類製の石皿Ⅵ類である。上・左を欠く。全体の1／4以下と思われる。中央付近に摩耗面である凹みがある。掻き出し口が下部にみられるためⅠ類の可能性も残る。

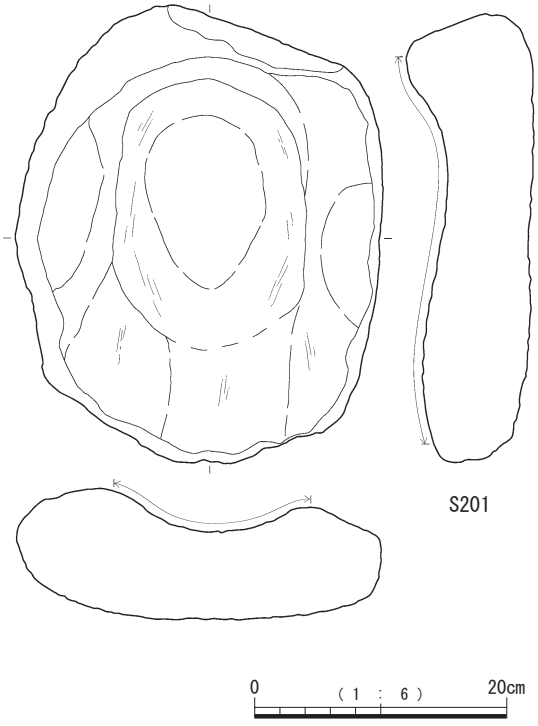
立石遺構12号





立石遺構13号

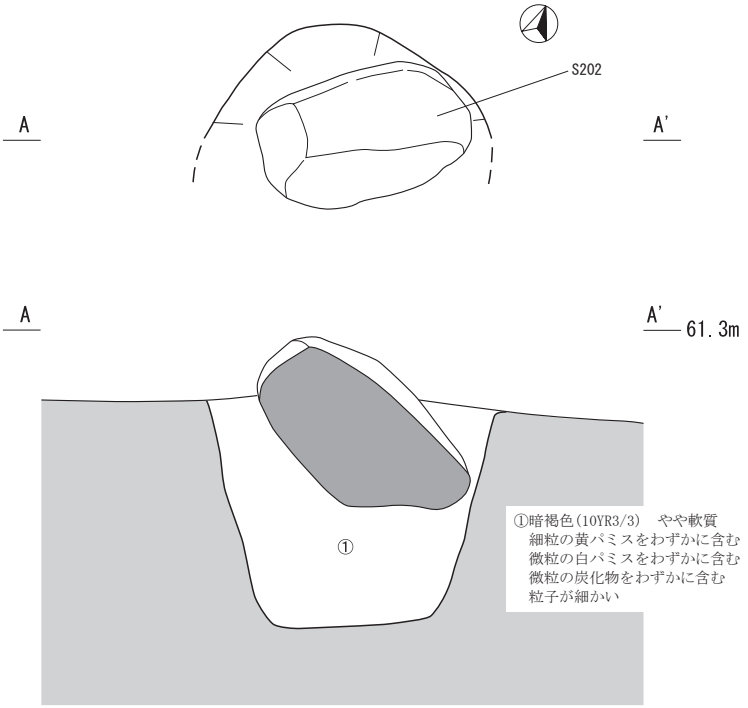


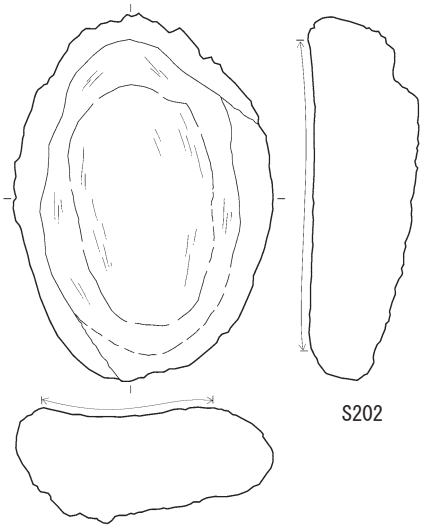


①暗褐色(10YR3/4)　やや軟質
　微粒の黄パミスをごくわずかに含む
　周辺のⅣb層よりパミス類は少ない
　微粒の炭化物をごくわずかに含む

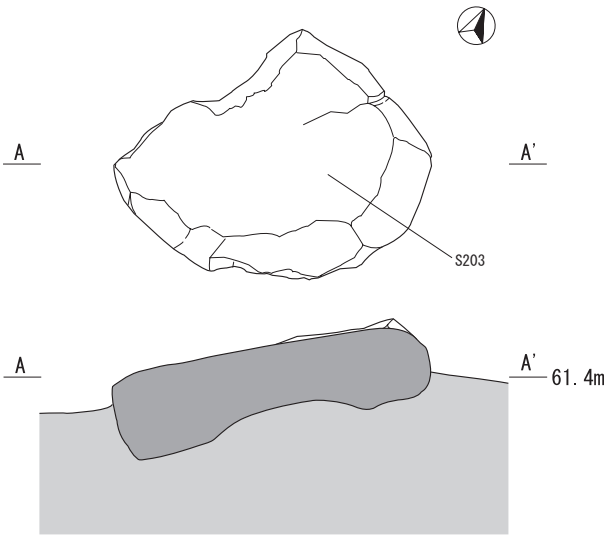
第214図　立石遺構12・13号と出土遺物

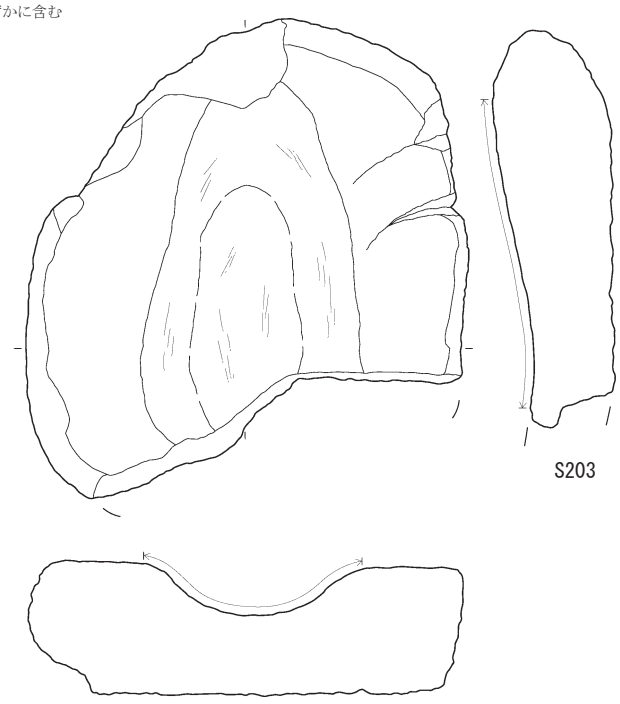
立石遺構14号



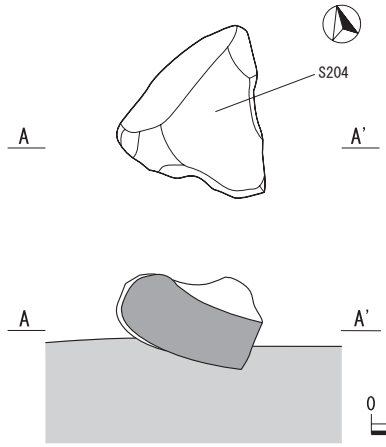


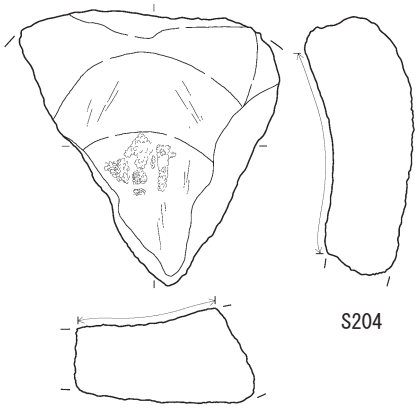
立石遺構15号

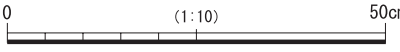


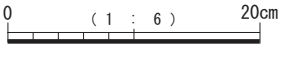


立石遺構16号



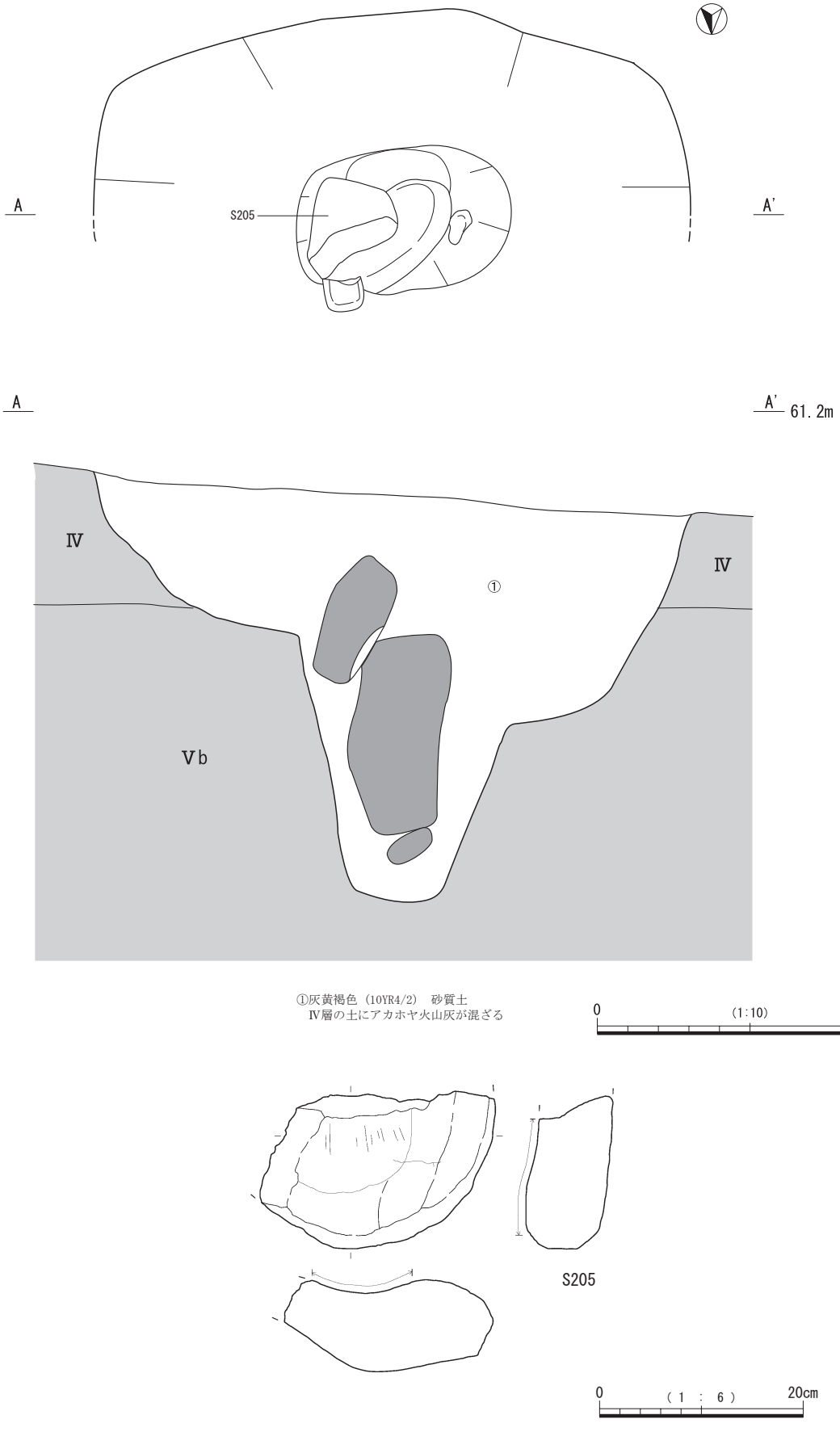






第215図　立石遺構14～16号と出土遺物

立石遺構仮17号



第216図　立石遺構17号と出土遺物

立石遺構18号（第217図）

検出状況

立石遺構18号は，C－８区のⅣb層で検出された。規模の形状は，長軸26cm，短軸20cmを測る。花崗岩製の石皿が直立して出土した。

分類：タイプⅡa

出土遺物

S206は花崗岩製の石皿Ⅵ類である。中央にわずかに摩耗面である凹みがある。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性もある。

立石遺構19号（第217図）

検出状況

立石遺構19号は，C－８区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸38cm，短軸35cm，深さ20cmを測る。埋土は，暗褐色で周辺より黄パミス・白パミスが少なく，粒子の細かいやや軟質土である。遺物は安山岩製の石皿と花崗岩製の石皿片などが出土した。立石遺構の分布域中央部のほぼ中心に位置する。

分類：タイプⅠa

出土遺物

S207は安山岩Ｂ類製の石皿Ⅲ類である。左半・下を欠くが，方形を呈するようである。中央付近に摩耗面である凹みがある。敲打痕がみられる。

立石遺構20号（第218図）

検出状況

立石遺構20号は，D－８区のⅣb層で検出された。規模は，長軸30cm，短軸20cmを測る。

分類：タイプⅡb

出土遺物

S208は花崗岩製の石皿Ⅵ類である。右・下を欠く。正面及び裏面も中央付近に摩耗面である凹みがある。敲打痕がみられる。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性もある。

立石遺構21号（第218図）

検出状況

立石遺構21号は，E－８区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸52cm，短軸39＋αcm，深さ15cmを測る。花崗岩製の石皿が直立して出土した。埋土は黒褐色で白パミスを含み，周辺とほぼ同じ色調・性質の硬質土である。炭化物は含まれない。石皿の上部を割った上で埋設したような状態で出土している。

分類：タイプⅠa

出土遺物

536は底部片で，底面に矢羽根網みの網代底が残る。537は円盤状土製加工品である。残存部分は少ないが，凹線と貝殻腹縁刺突の連続が確認できるため，Ⅵb類の深鉢の口縁部直下の破片を使用したと判断される。536・537ともに胎土に金色の雲母を含む。

S209は，花崗岩製の石皿Ⅱ類である。上を欠く。中央付近の摩耗面である凹みが5.9cmと顕著である。敲打痕がみられる。被熱が顕著である。Ⅰ類の可能性もあり。

立石遺構22号（第219図）

検出状況

立石遺構22号は，E－８区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸34cm，短軸27＋αcm，深さ20cmを測る。埋土は，黒褐色で白パミスを含むやや硬質の砂質土である。花崗岩製の石皿が直立して出土した。石皿を半分に割った上で埋設されたように出土している。立石遺構の分布域の中央部の北端に位置する。

分類：タイプⅠa

出土遺物

S210は花崗岩製の石皿Ⅰa類である。左を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。凹みが３cmと深くなっている。下側にわずかに掻き出し口がある。

立石遺構23号（第219図）

検出状況

立石遺構23号は，F－８区のⅣb層で検出された。規模は，長軸60cm，短軸30cmを測る。用途的に対をなす石皿と磨・敲石とが一緒に出土している。

分類：タイプⅡb

出土遺物

S211は安山岩Ｂ類製の磨・敲石Ⅱb類である。上半部が欠損する。表裏両面で敲打しているが，右側面上部には破断面の角でも敲打している。S212は花崗岩製の石皿Ⅳ類（台石）である。中央付近に摩耗面である凹みがわずかにみられる。敲打痕がみられる。周囲を欠いている。

立石遺構24号（第220図）

検出状況

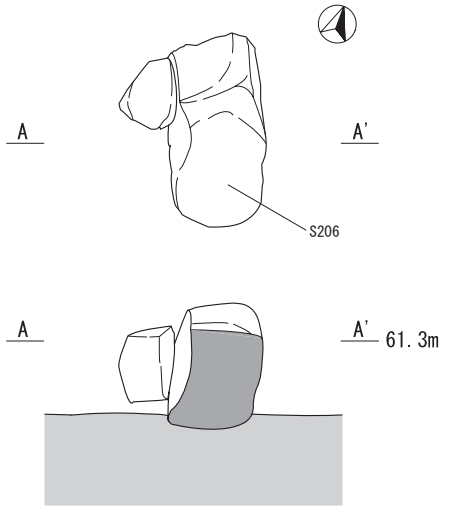
立石遺構24号は，F－８区のⅣb層で検出された。規模は，長軸25cm，短軸22cmを測る。石皿とともに縄文時代後期土器の底部も出土したが，摩耗しており形式は不明である。土器は，掘り込みがないため石皿に伴う遺物かどうかの判断が難しい。

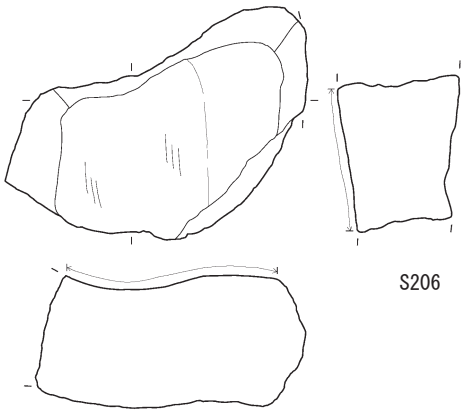
分類：タイプⅡb

出土遺物

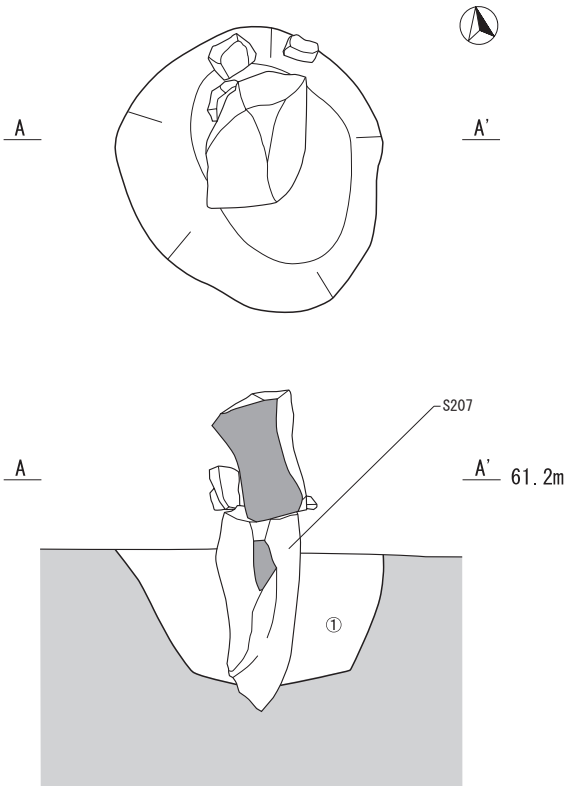
S213は花崗岩製の石皿Ⅲ類である。右を欠くが，方形を呈するようである。中央付近に摩耗面である凹みがある。敲打痕がみられる。

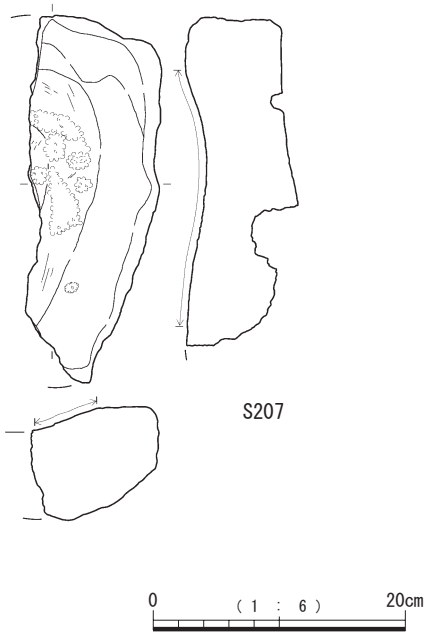
立石遺構18号



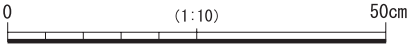


立石遺構19号



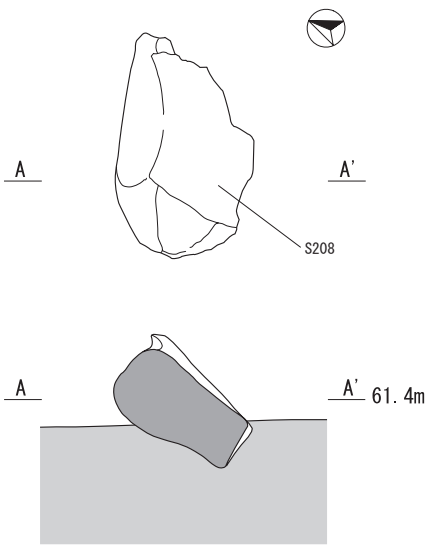


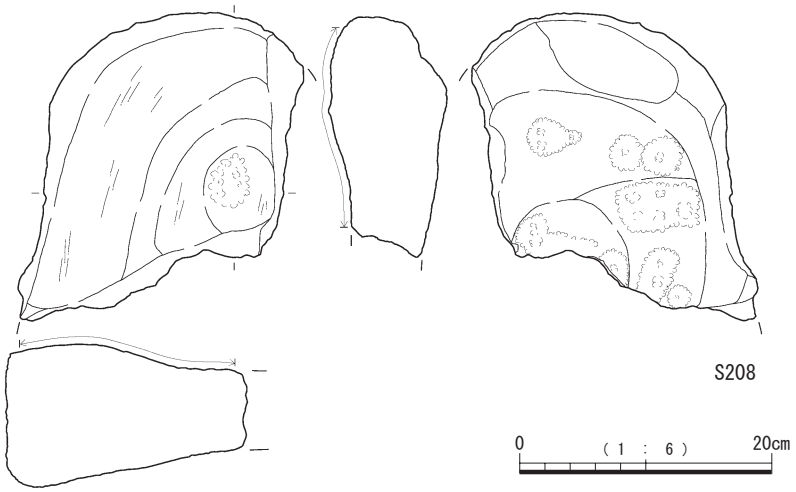
①暗褐色(10YR3/4)　やや軟質
　周辺より黄パミス・白パミスが少ない
　炭化物を含まない　粒子が細かい



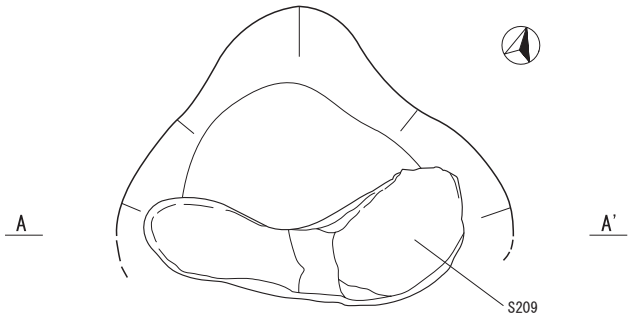
第217図　立石遺構18・19号と出土遺物

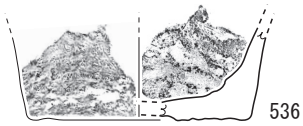
立石遺構20号

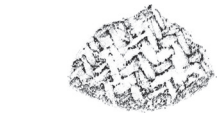


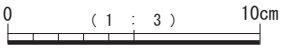


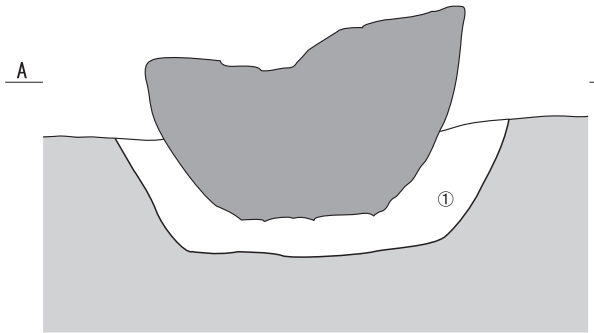
立石遺構21号

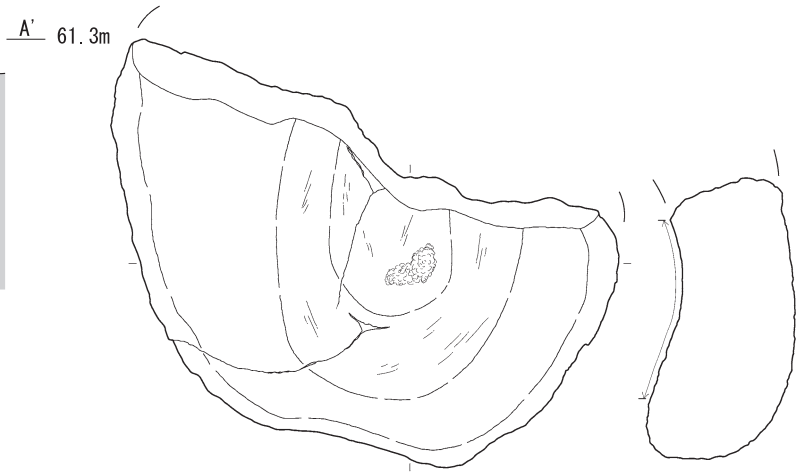




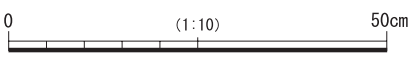


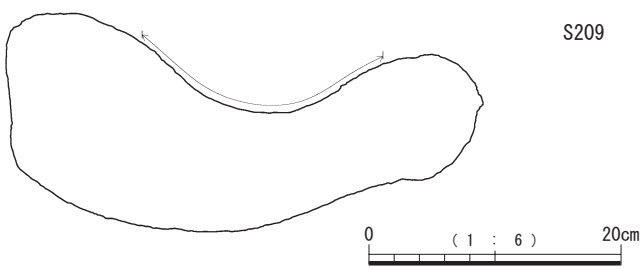






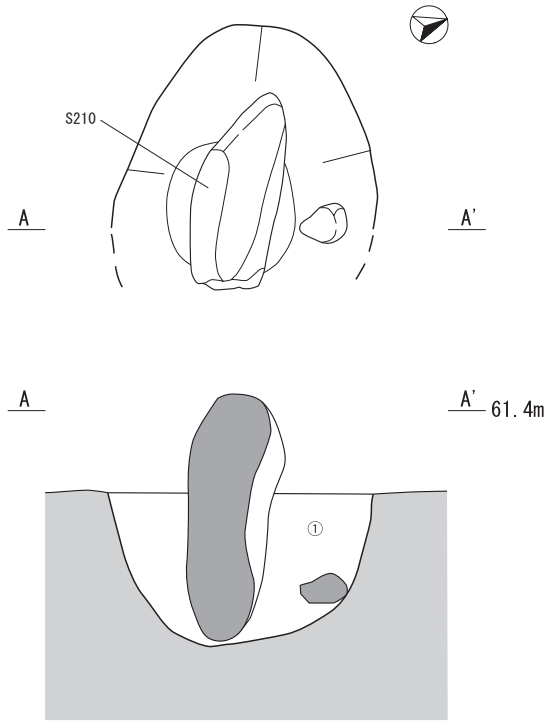
①黒褐色(10YR2/3)　硬質
　微粒の白パミスをわずかに含む
　周辺とほぼ同じ土色土質　炭化物を含まない

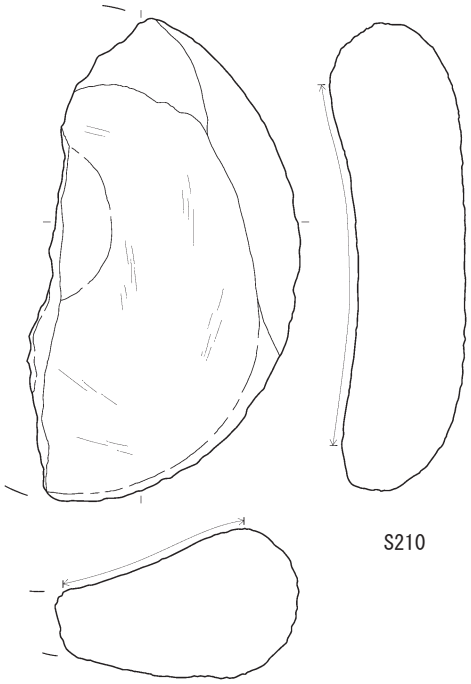




第218図　立石遺構20・21号と出土遺物

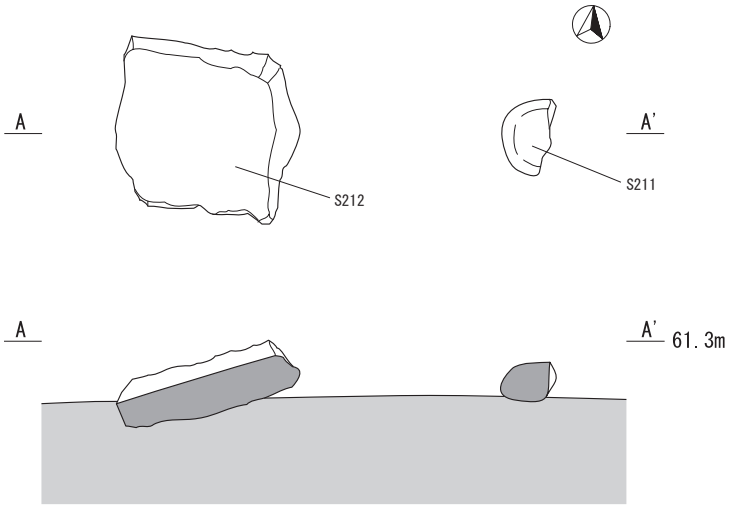
立石遺構22号

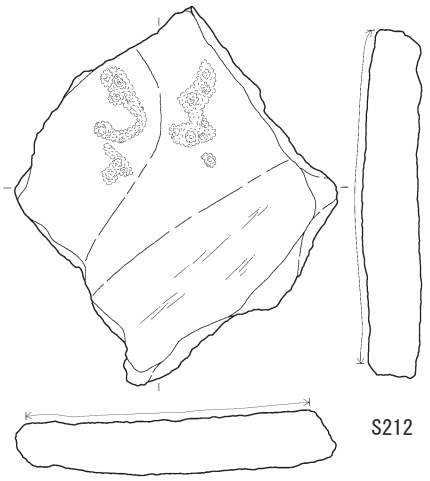


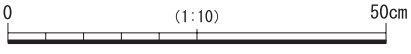


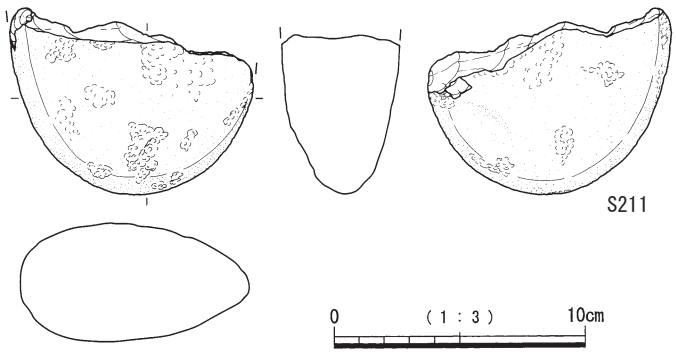
①黒褐色(10YR2/3)　やや硬質　やや砂質
微粒の白パミスをごくわずかに含む

立石遺構23号









第219図　立石遺構22・23号と出土遺物

立石遺構25号（第220図）

検出状況

立石遺構25号は，Ｆ－８区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸40cm，短軸36＋αcm，深さ20cmを測る。埋土は黒褐色で白パミスや炭化物を含む。石皿の検出面では，掘り込みの確認ができていない。石皿は，傾いて出土しているが，石皿検出面付近から掘り込みがあったとするならば，立っていた可能性も考えられる。

分類：タイプⅠb

出土遺物

S214は花崗岩製の石皿Ⅳ類（台石）である。凹みは明瞭ではない。中央付近に敲打痕がみられる。

立石遺構26号（第221図）

検出状況

立石遺構26号は，Ｂ－９区のⅣb層で検出された。規模は，長軸35cm，短軸30cmを測る。掘込みの確認はできなかったが，石皿が下向きに検出され，その下に用途的に対をなす磨・敲石が出土している。

分類：タイプⅡb

出土遺物

S215は，砂岩製の磨・敲石Ⅱb類である。表裏両面に磨面がある。どちらも光沢を帯びた磨面でよく使用している。正面中央に弱い敲打がみられ，周縁では敲打していない。S216は花崗岩の石皿Ⅲ類である。上・右下を欠くが，方形を呈するようである。全体の１/２程度と思われる。中央付近に摩耗面である凹みがある。小牧遺跡の石皿のほとんどの花崗岩が国見山系の可能性があるが，S216は鉱物の粒子を比較すると粒子が細かいため，高隈山系の花崗岩の可能性がある。若干赤化しているため被熱を受けた可能性もある。S216はデンプン分析において磨面の２か所で残存デンプン粒の形態の原形が円･楕円･半円・五角などの様々な形でクルミ属・ウバユリ属・堅果類の可能性のある複数のデンプンを14個検出された結果が出ている。

立石遺構27号（第222図）

検出状況

立石遺構27号は，Ｂ－９区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸45cm，短軸35cm，深さ27cmを測る。埋土は，黒褐色と褐色の２枚である。白パミス・オレンジ色パミスを含む。基本層土がⅣ層である。

分類：タイプⅠa

出土遺物

S217は花崗岩製の石皿Ⅵ類である。中央部に摩耗面である凹みがある。左側と下を欠く。全体の１/４以下と思われる。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性もある。

立石遺構28号（第222図）

検出状況

立石遺構28号は，Ｂ－９区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸54cm，短軸25＋αcm，深さ30cmを測る。花崗岩製の石皿で，石皿が直立して上部が抉れたように割れている。割れ面は明瞭でないものの意図的に割られた可能性がある。埋土は，にぶい黄褐色で周辺より黄パミス・白パミスが少ないやや黒みが強い土である。炭化物は含まれない。

分類：タイプⅠa

出土遺物

剥ぎ取り遺構ごと保存したため，石皿の実測は行っていない。

立石遺構29号（第223図）

検出状況

立石遺構29号は，Ｂ－９区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸66cm，短軸48cm，深さ34cmを測る。花崗岩製で完形の石皿が傾きつつも立てられた状態で出土した。埋土は暗褐色で，黄パミス・白色パミスや炭化物を含む粒子の細かい軟質土である。

分類：タイプⅠa

出土遺物

S218は花崗岩製の石皿Ⅰb類である。完形である。摩耗面の深さが6.5cmと深いことから長く使用した可能性が高い。真下と左下に掻き出し口がある。S218はデンプン分析において磨面で残存デンプン粒の形態の原形が円形のもので球根類の可能性があるデンプンを検出された結果が出ている。

立石遺構30号（第224図）

検出状況

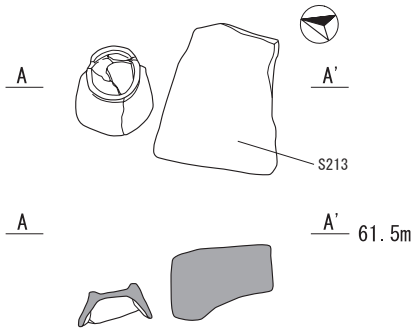
立石遺構30号は，Ｃ－９区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸32cm，短軸13＋αcm，深さ22cmを測る。砂岩製の石皿が直立して出土した。埋土は，暗褐色で黄パミス・白パミスや炭化物を含み，粒子の細かいやや軟質土である。砂岩製の立石遺構は，30号のみである。立石遺構の分布域中央部の東端に位置する。

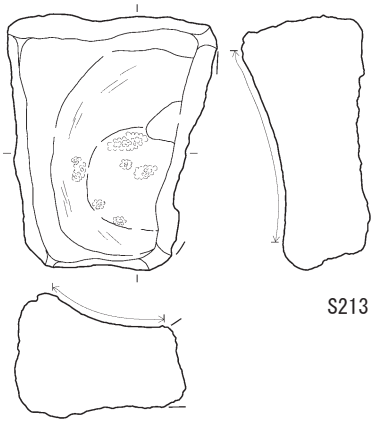
分類：タイプⅠa

出土遺物

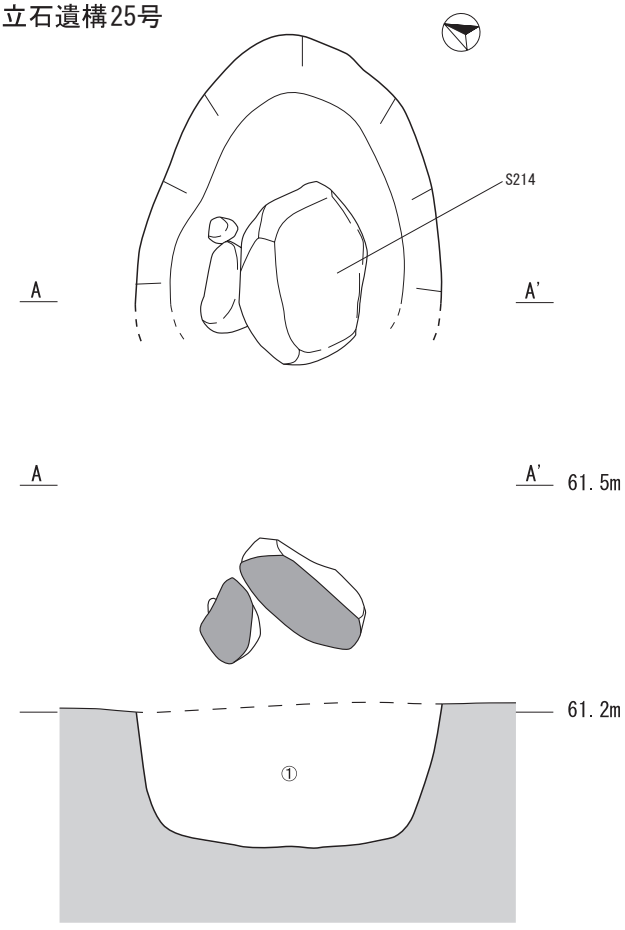
S219は砂岩製の石皿Ⅵ類である。石皿の１/３程度の破片である。正面に深い皿状，裏面に緩い凸面状の使用面をもつ。表裏両面の中央付近に敲打痕がみられる。上と下を欠く。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性もある。S219はデンプン分析において磨面で残存デンプン粒の形態の原形が識別困難なものではあるがデンプンを検出された結果が出ている。

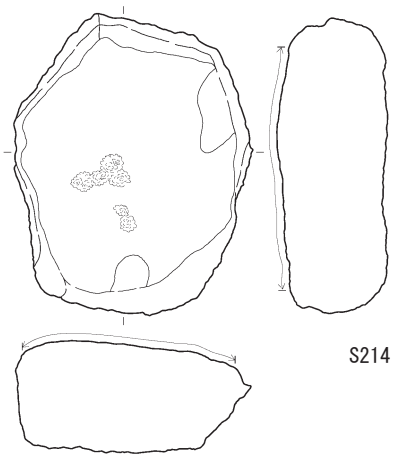
立石遺構24号

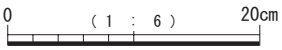




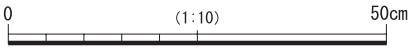
立石遺構25号



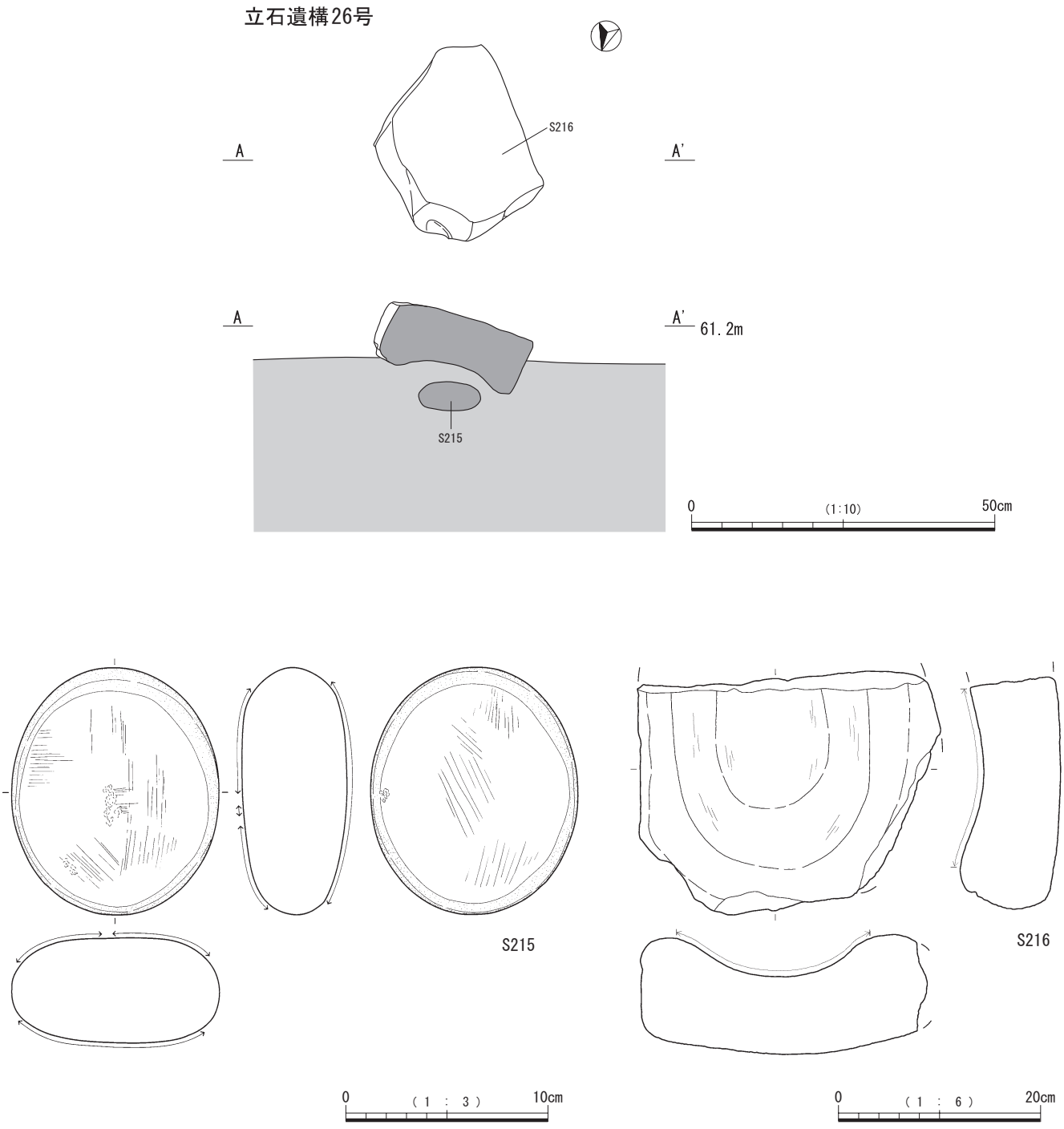




①黒褐色(10YR2/3)
微粒の白パミスを多く含む
微粒の炭化物をごくわずかに含む



第220図　立石遺構24・25号と出土遺物



第221図　立石遺構26号と出土遺物

立石遺構31号（第225図）

検出状況

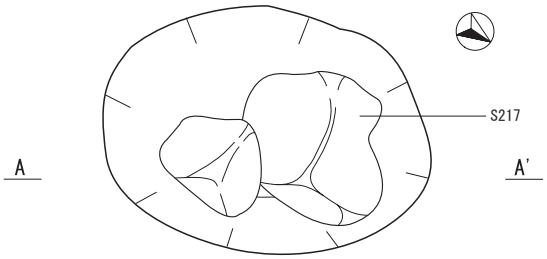
立石遺構31号は，F－９区のⅣb層で検出された。掘り込みの形状は，長軸35cm，短軸31cm，深さ２cmを測る。花崗岩製の石皿が直立して出土した。掘り込み面は，もっと高い位置であった可能性がある。埋土は，黒褐色でオレンジ色のパミスを含む。

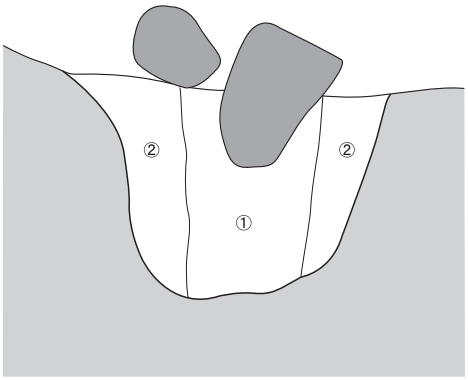
分類：タイプⅠa

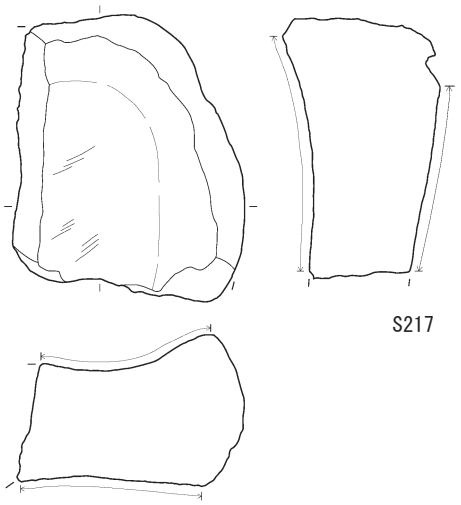
出土遺物

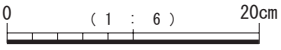
S220は花崗岩製の石皿Ⅵ類である。石皿の１/６程度の破片である。中央に摩耗面である凹みがある。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性もある。

立石遺構27号



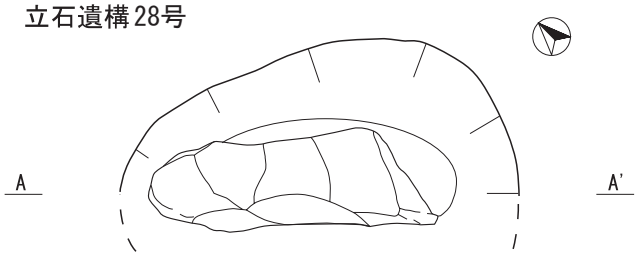


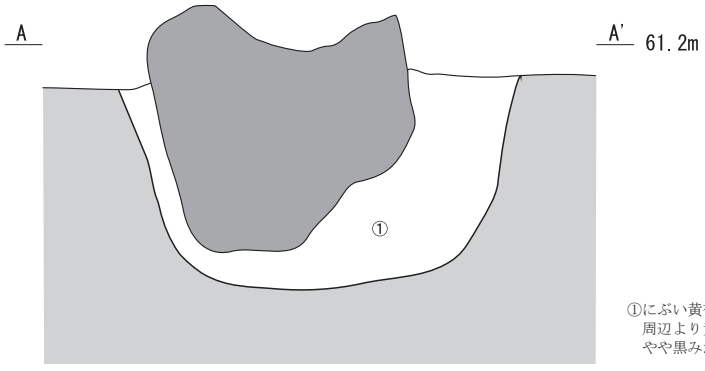




① 黒褐色(10YR2/2)
白パミス（3㎜程度） 2％を含む
包含層より暗い　Ⅳ層がにごる
② 褐色(7.5YR4/3)
オレンジ色パミス（2㎜～5㎜） 7％を含む
包含層より明るい　基本はⅣ層である

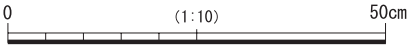
立石遺構28号



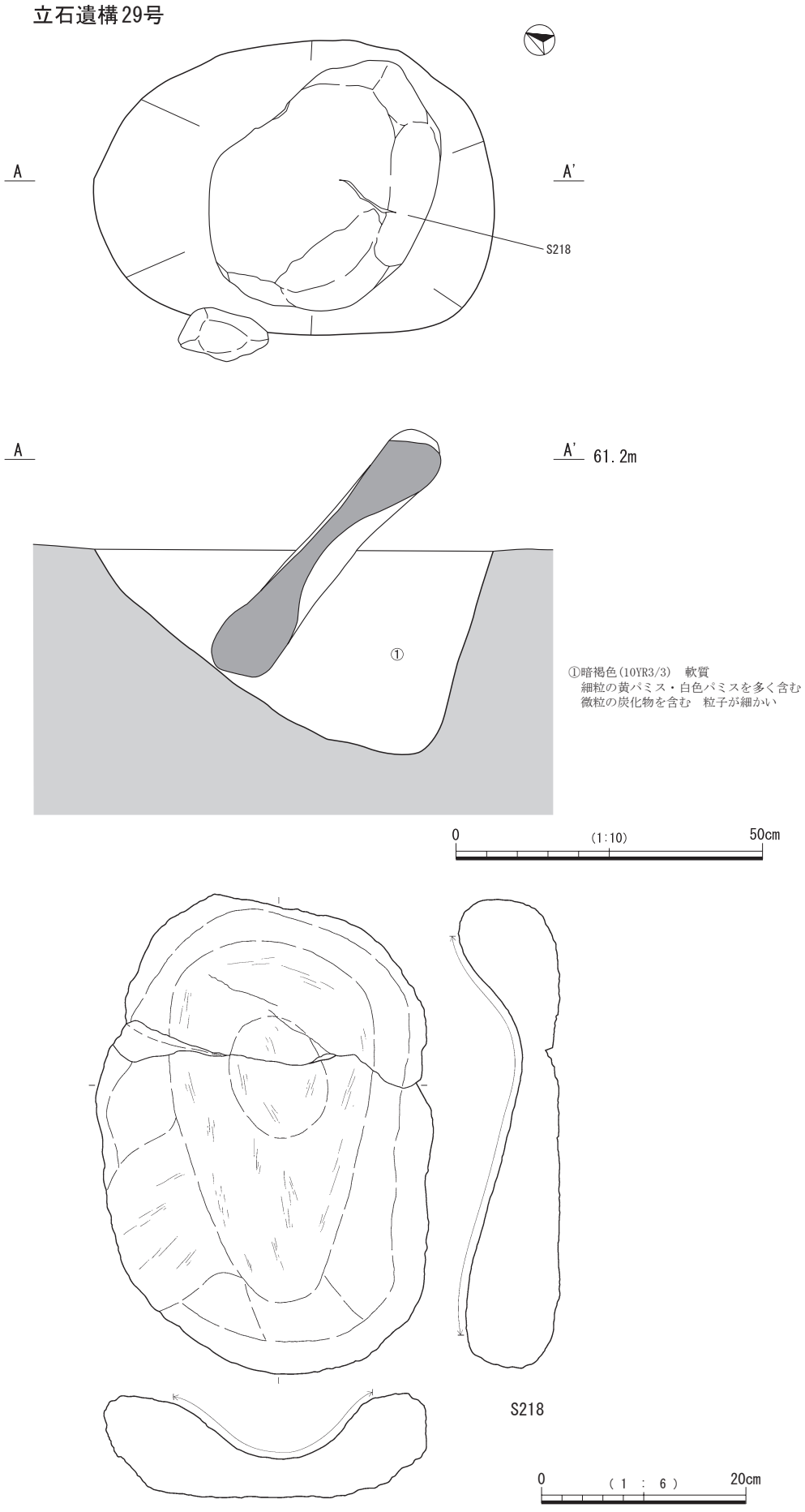


SK28 剥ぎ取り状況

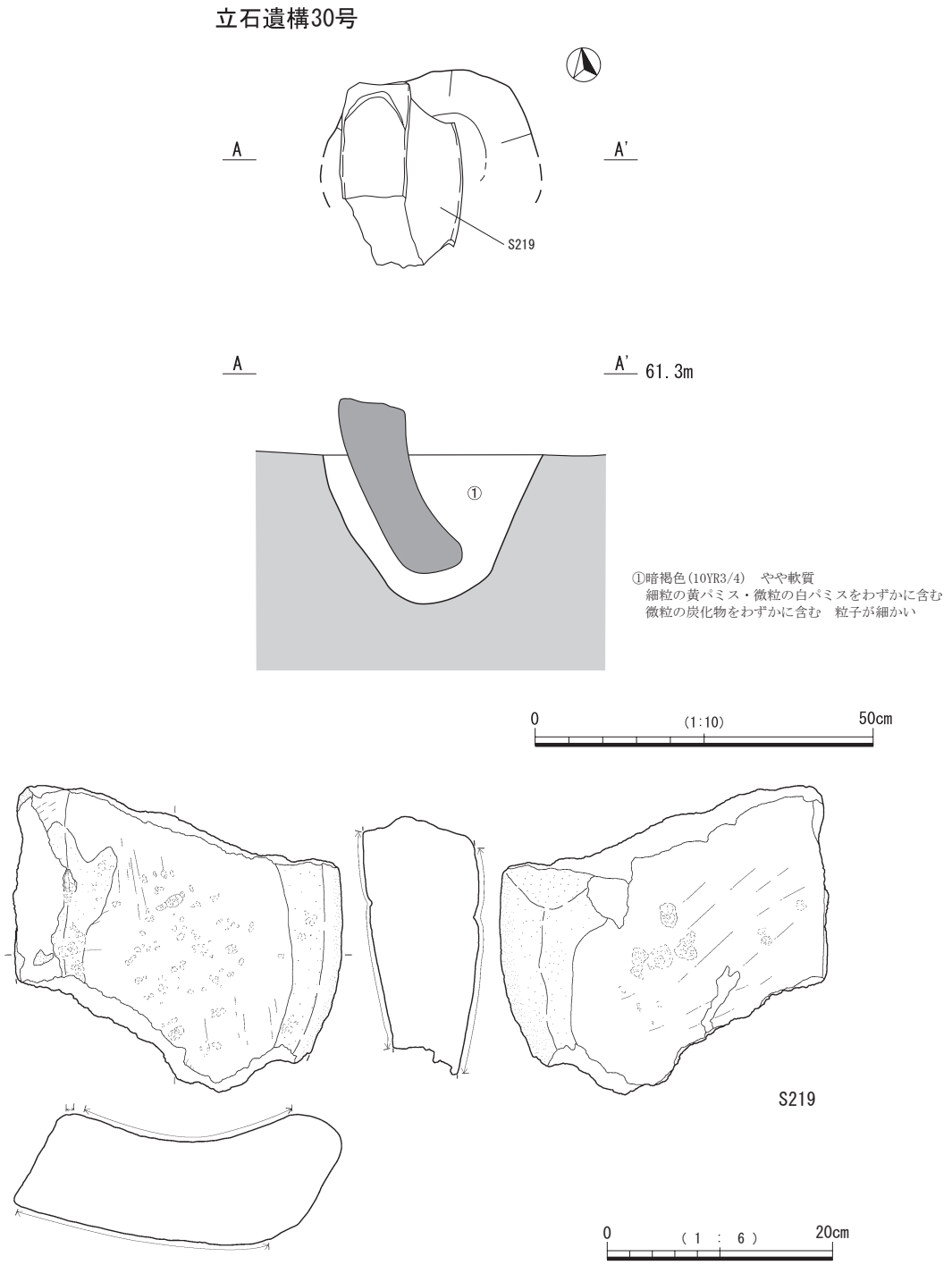
①にぶい黄褐色(10YR4/3)
周辺より黄パミス・白パミスが少ない
やや黒みが強い　炭化物を含まない



第222図　立石遺構27・28号と出土遺物



第223図　立石遺構29号と出土遺物



第224図　立石遺構30号と出土遺物

立石遺構32号（第225図）

検出状況

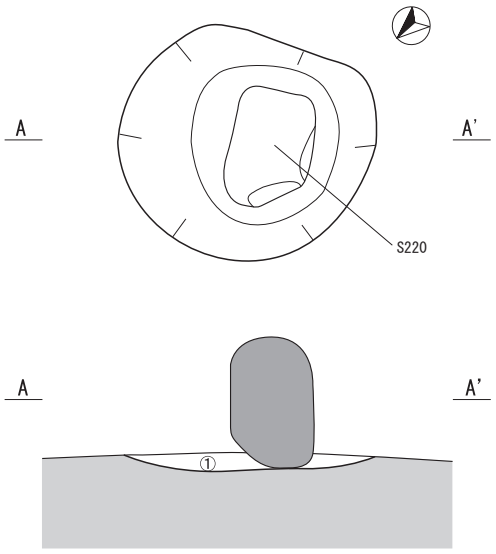
立石遺構32号は，B-16区のⅣb層で検出された。規模は長軸57cm，短軸40cmを測る。完形と完形に近い２つの石皿が一緒に出土していることから保管状態のまま検出された可能性がある。調査区の中央より西側であるが，立石遺構の中で最東部に位置する。

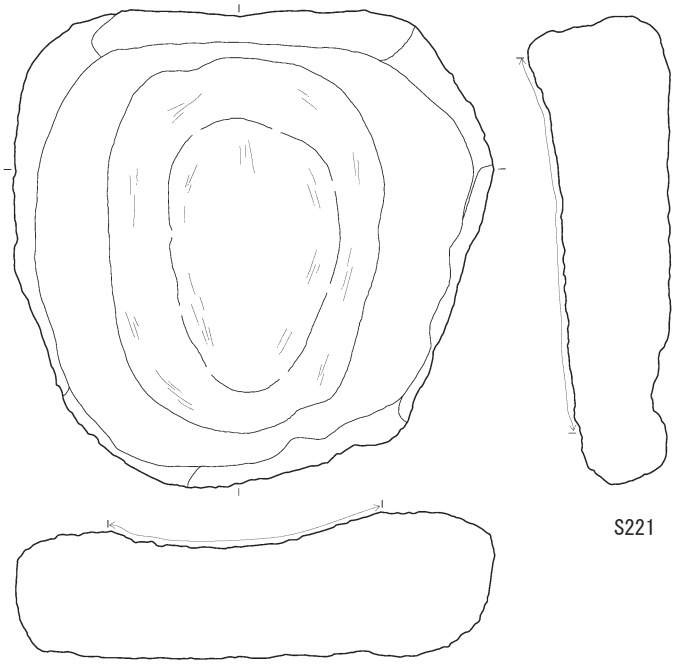
分類：タイプⅡb

出土遺物

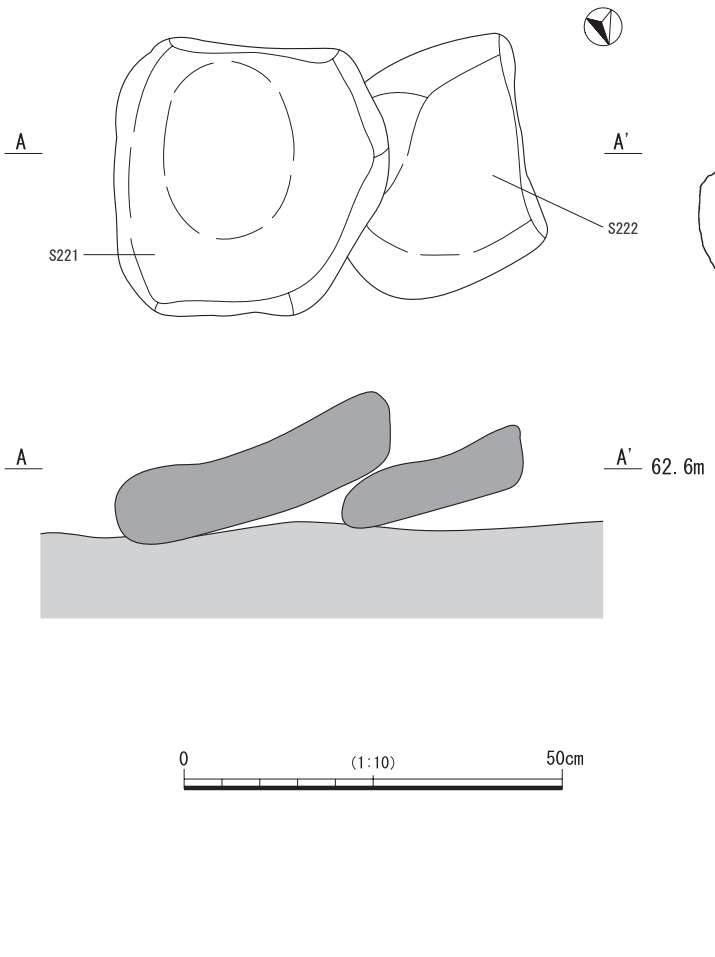
S221は花崗岩製の石皿Ⅲ類である。完形である。中央に摩耗面である凹みがある。凹みが２cmと浅いため使用初期段階の可能性が高い。S222は花崗岩製の石皿Ⅰb類である。上を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。凹みが3.3cmと深く，よく使用した可能性が高い。敲打痕がみられる。真下と左下に掻き出し口がある。左下の掻き出し口が1.5cmと深い。

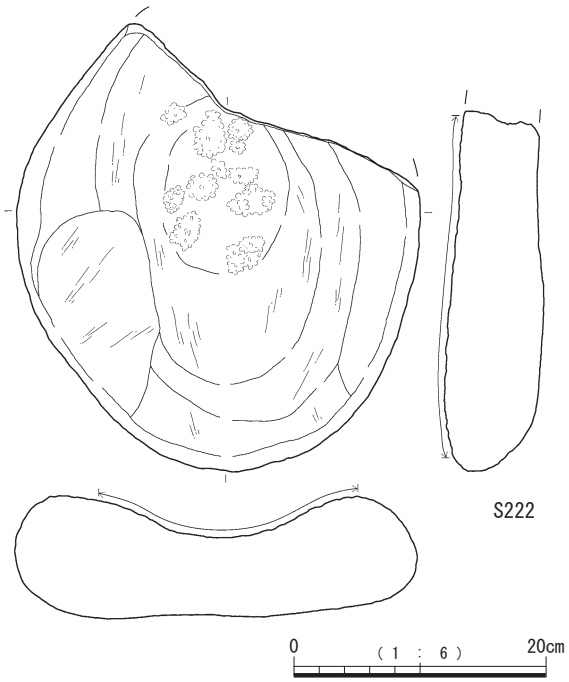
立石遺構31号





立石遺構32号





第225図　立石遺構31・32号と出土遺物

第８表　竪穴建物跡一覧表

挿図番号	遺構名	検出区	検出層	平面プラン	長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）	面積（㎡）	長短比	備考
45	竪穴建物跡１	C－3・4	Ⅳb	楕円形	3.86	3.4	23	10.63	0.88	年代測定：78 石皿立石　礫集中
48	竪穴建物跡２	D－3・4	Ⅴ	楕円形	3.20	3.09	23	8.15	0.97	
50	竪穴建物跡３	E－3	Ⅳb	楕円形	2.45	2.31	23	4.39	0.94	礫集中
53	竪穴建物跡４	E－3	Ⅴ	隅丸方形	2.87	2.86	18	6.83	1.00	
55	竪穴建物跡５	E－3・4	Ⅴ	楕円形	3.28	2.37	27	6.58	0.72	
57	竪穴建物跡６	E・F－3	Ⅴ	不明	2.96	2.63＋α	43	6.30	－	
60	竪穴建物跡７	E・F－3	Ⅴ	隅丸方形	3.14	2.44	27	6.84	0.78	
63	竪穴建物跡８	F－3	Ⅴ	隅丸方形	3.72	3.04	24	10.53	0.82	
	竪穴建物跡９	F－3	Ⅴ	隅丸方形	4.10＋α	3.43	24	15.12	0.83	
67	竪穴建物跡10	E－4	Ⅴ	楕円形	2.40	1.90	17	3.58	0.79	デンプン分析：S42石皿
69	竪穴建物跡11	E－4	Ⅴ	楕円形	2.49	2.48	18	4.91	1.00	年代測定：162
71	竪穴建物跡12	E・F－4	Ⅴ	隅丸長方形	3.80	2.45	32	8.59	0.64	
74	竪穴建物跡13	F－7	Ⅵ	隅丸方形	2.96	2.82	40	7.18	0.95	年代測定：180
77	竪穴建物跡14	C－9	Ⅳb	楕円形	4.48	4.15	35	15.38	0.92	礫集中
81	竪穴建物跡15	D・E－9	Ⅵ	楕円形	2.74	2.64	10	5.94	0.96	
82	竪穴建物跡16	E－9・10	Ⅵ	楕円形	4.23	4.04	30	13.39	0.96	年代測定：204
86	竪穴建物跡17	E－9	Ⅵ	楕円形	2.65	2.59	23	5.45	0.98	
87	竪穴建物跡18	F－9	Ⅵ	不明	3.71	1.79＋α	30	5.32	－	
88	竪穴建物跡19	C・D－10	Ⅶ	楕円形	3.7	3.65	22	11.35	0.99	
89	竪穴建物跡20	D－10	Ⅳb	楕円形	2.72	2.63	25	5.87	0.97	
90	竪穴建物跡21	D・E－10	Ⅵ	楕円形	3.82	2.22＋α	9	6.45	－	
91	竪穴建物跡22	D・E－10	Ⅳb	楕円形	2.61	2.28	27	4.92	0.87	
92	竪穴建物跡23	C－15・16	Ⅳb	隅丸方形	3.27	2.73	13	7.20	0.83	石皿立石
95	竪穴建物跡24	D・E－16	Ⅳb	楕円形	3.35	2.97	24	7.14	0.89	

第９表　土坑一覧表１

挿図番号	遺構名	検出区	検出層	タイプ	長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）	面積（㎡）	楕円率	備考
97	土坑７	B－2	Ⅳb	Ⅲ	0.78	0.67	20	0.42	0.86	
98	土坑８	B－3	Ⅳb	Ⅳ	1.20＋α	1.12	21	－	－	
100	土坑９	E－3	Ⅳb	Ⅱ	1.43	0.90	15	0.99	0.63	
101	土坑10	E・F－3	Ⅴ	Ⅲ	0.77	0.70	17	0.44	0.91	
102	土坑11	G－3	Ⅴ	Ⅱ	1.72	1.12	27	1.55	0.65	石皿立石
103	土坑12	C－4	Ⅳb	Ⅲ	1.73	1.54	44	2.14	0.89	
105	土坑13	D・E－4	Ⅴ	Ⅱ	2.32	1.64	14	2.97	0.71	
107	土坑14	E－4	Ⅳb	Ⅱ	1.19	0.61	43	0.58	0.51	
108	土坑15	E－4	Ⅴ	Ⅲ	0.85	0.68	14	0.45	0.80	
110	土坑16	B－6	Ⅳb	Ⅳ	0.58	0.43＋α	17	－	－	年代測定：308
111	土坑17	B・C－6	Ⅳb	Ⅱ	1.93	1.09	43	1.64	0.56	
113	土坑18	C－6	Ⅳb	Ⅱ	1.71	1.13	45	1.66	0.66	礫集中
114	土坑19	D・E－6	Ⅵ	Ⅲ	0.88	0.82	15	0.56	0.93	
	土坑20	E－6	Ⅵ	Ⅱ	1.36	0.72	22	0.74	0.53	
	土坑21	E－6	Ⅵ	Ⅱ	0.61	0.42	14	0.19	0.69	
115	土坑22	E－6	Ⅵ	Ⅱ	0.92	0.58	27	0.41	0.63	
	土坑23	B－7・8	Ⅴ	Ⅱ	1.02	0.70	37	0.59	0.69	
	土坑24	B－7	Ⅴ	Ⅲ	0.72	0.64	34	0.35	0.89	
116	土坑25	B－7	Ⅳb	Ⅳ	0.64	0.20＋α	11	－	－	
117	土坑26	D－7	Ⅷ	Ⅱ	1.06	0.75	67	0.60	0.71	
	土坑27	E・F－7	Ⅳa	Ⅰ	1.15	0.52	19	0.42	0.45	
118	土坑28	C－8	Ⅳb	Ⅱ	1.03	0.72	22	0.55	0.70	
	土坑29	C－8	Ⅳb	Ⅱ	1.28	0.80	17	0.82	0.63	
119	土坑30	C－8	Ⅳb	Ⅳ	1.22＋α	0.92	46	－	－	デンプン分析：S109石皿 石皿立石

第10表　土坑一覧表２

挿図番号	遺構名	検出区	検出層	タイプ	長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）	面積（㎡）	楕円率	備考
121	土坑31	C・D－8	Ⅵ	Ⅳ	0.76	0.30＋α	46	－	－	
122	土坑32	E－8	Ⅷ	Ⅲ	0.75	0.65	17	0.38	0.87	
123	土坑33	E－8	Ⅳb	Ⅱ	1.28	0.84	15	0.87	0.66	
124	土坑34	E－8	Ⅵ	Ⅱ	1.35	1.02	19	0.98	0.76	
125	土坑35	B－9	Ⅳb	Ⅳ	0.75	0.55＋α	19	－	－	石皿配石
127	土坑36	D－9	Ⅴ	Ⅱ	1.23	0.66	30	0.66	0.54	
	土坑37	D－9	Ⅴ	Ⅲ	0.74	0.72	26	0.42	0.97	
	土坑38	C・D－10	Ⅳb	Ⅳ	0.28	0.20＋α	17	－	－	礫集中
128	土坑39	D－10	Ⅷ	Ⅲ	1.75	1.53	40	2.01	0.87	
	土坑40	F－10	Ⅶ	Ⅲ	0.55	0.45	12	0.16	0.82	石皿配石
129	土坑41	C－11	Ⅴ	Ⅱ	1.18	0.66	21	0.64	0.56	デンプン分析：S120石皿 石皿立石
130	土坑42	E－11	Ⅳa	Ⅲ	0.67	0.54	32	0.28	0.81	
	土坑43	B－12	Ⅳb	Ⅳ	1.52	0.86＋α	40	－	－	
	土坑44	F－12	Ⅷ	Ⅲ	0.84	0.79	7	0.50	0.94	
131	土坑45	B－13	Ⅳb	Ⅱ	0.92	0.63	23	0.45	0.68	
	土坑46	C－14	Ⅳb	Ⅱ	0.72	0.48	16	0.27	0.67	
132	土坑47	C－15	Ⅳa	Ⅱ	0.82	0.51	25	0.35	0.62	
133	土坑48	C・D－15	Ⅳb	Ⅱ	1.58	0.90	15	1.11	0.57	
134	土坑49	D－15	Ⅳb	Ⅱ	1.70	1.20	42	1.60	0.70	
135	土坑50	B－16	Ⅳb	Ⅲ	1.51	1.45	55	1.81	0.96	
138	土坑51	C－22	Ⅴ	Ⅲ	1.10	1.08	40	0.96	0.98	
	土坑52	B－24	Ⅴ	Ⅳ	0.47＋α	0.57	63	－	－	
	土坑53	B－24	Ⅴ	Ⅳ	0.75＋α	0.22＋α	45	－	－	
139	土坑54	F－25	Ⅴ	Ⅱ	1.62	1.07	36	1.43	0.66	
	土坑55	D－26	Ⅳb	Ⅳ	0.74	0.34＋α	24	－	－	
	土坑56	C－27	Ⅳb	Ⅱ	1.00	0.70	29	0.53	0.70	
140	土坑57	D－27	Ⅳb	Ⅱ	0.97	0.57	15	0.43	0.59	
	土坑58	D・E－28		Ⅲ	0.55	0.45	10	0.19	0.81	礫集中

第11表　集石一覧表１

挿図番号	遺構名	検出区	検出層	タイプ	長軸（m）	短軸（m）	堀込	構成礫の内容数（個）									一個あたりの重量（g）	総計（g）	備考
								総数	安山岩	砂岩	頁岩	花崗岩	凝灰岩	ホルンフェルス	軽石	その他			
141	集石５	B－3・4	Ⅳb	Ⅲ	0.32	0.31	有	21	1	4	1		7	3	5		67	1,401	礫集中
	集石６	D－3	Ⅳb	Ⅰ	1.74	0.41	無	30	3	2	16		3	4	1	1	－	－	その他：石英
	集石７	D－3	Ⅳb	Ⅲ	0.70	0.62	有	30	6	5			15	4			－	－	準配石
142	集石８	C－5・6	Ⅳb	Ⅰ	1.31	0.93	無	11	1	1			2	7			－	－	礫集中
	集石９	D－5	Ⅳb	Ⅰ	1.07	0.32	無	11	3		3	2		2	1		660	7,257	
	集石10	E－5	Ⅳb	Ⅱ	0.53	0.29	無	7	4		3						1,475	10,325	準配石
143	集石11	E－5	Ⅳb	Ⅲ	0.65	0.59	有	25	3	1		1	10	10			787	19,680	準配石
	集石12	E－5・6	Ⅳb	Ⅰ	0.96	0.22	無	6	5	1							－	－	礫集中
144	集石13	F－5	Ⅳb	Ⅱ	0.99	0.42	無	13	1	3		4	5				－	－	礫集中
145	集石14	C－6	Ⅳb	Ⅱ	1.44	1.17	無	22		6		4	12				－	－	石皿配石
146	集石15	C－6	Ⅳb	Ⅲ	0.33	0.29	有	8	2		2		4				－	－	礫集中
147	集石16	C－6	Ⅳb	Ⅰ	0.44	0.40	無	6	1		3		1	1			1,102	6,611	
	集石17	C－6	Ⅳb	Ⅰ	0.40	0.21	無	5			1		4				915	4,574	
	集石18	C・D－6	Ⅳb	Ⅲ	0.68	0.59	有	21	6		4	5	5		1		1,782	37,432	石皿配石
148	集石19	D－6	Ⅳb	Ⅱ	0.56	0.49	無	17	5		11	1					293	4,976	礫集中
	集石20	D－6	Ⅳb	Ⅱ	0.35	0.17	無	6	6								589	3,536	
	集石21	D－6	Ⅳb	Ⅲ	0.66	0.64	有	17	7		2	4	4				1,482	23,717	重量は取り上げ不能分１個を抜く 石皿配石
	集石22	E－6	Ⅳa	Ⅱ	1.11	0.95	無	28	10	1	12		2	3			346	9,698	
149	集石23	E－6・7	Ⅳ	Ⅲ	0.95	0.95	有	21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

第12表　集石一覧表２

挿図番号	遺構名	検出区	検出層	タイプ	長軸(m)	短軸(m)	堀込	構成礫の内容数（個）									一個あたりの重量(g)	総計（g）	備考
								総数	安山岩	砂岩	頁岩	花崗岩	凝灰岩	ホルンフェルス	軽石	その他			
150	集石24	E－6	Ⅳb	Ⅲ	1.65	1.28	有	50	22	4	17	1	6				－	－	
	集石25	E－6	Ⅳb	Ⅲ	0.45	0.44	有	11	8			1	1			1	0		準配石
151	集石26	E－6・7	Ⅳb	Ⅳ	1.14	0.77	有	14	8		2	1	3				943	13,206	礫集中
	集石27	B－7	Ⅳb	Ⅲ	0.62	0.50	有	24	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	礫集中
152	集石28	C－7	Ⅳb	Ⅲ	0.74	0.52	有	10	3		5	1	1				2,056	20,559	石皿配石
	集石29	C－7	Ⅳb	Ⅰ	0.51	0.30	無	7	2			1	2	2			－	－	
	集石30	C－7	Ⅳb	Ⅱ	0.34	0.31	無	8				1	7				753	6,025	礫集中
153	集石31	C－7	Ⅳb	Ⅲ	0.72	0.63	有	33	11		15	1	1	4		1	－	－	石皿配石
	集石32	D－7・8	Ⅳb	Ⅲ	0.37	0.36	有	18	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	礫集中
	集石33	D－7	Ⅳb	Ⅲ	0.35	0.33	有	6			1	1	4				693	2,771	礫集中
154	集石34	F－7	Ⅵ	Ⅲ	0.74	0.50	有	6	1	1	2	1			1		－	－	デンプン分析：S147 石皿配石
155	集石35	B－8	Ⅳb	Ⅰ	1.14	1.05	無	24	9	2	7	3	2	1			－	－	石皿配石
156	集石36	C－8	Ⅳa	Ⅲ	1.28	1.03	有	30		7	10	2	11				－	－	準配石
157	集石37	C－8	Ⅳb	Ⅳ	0.68	0.62	有	16	13		3						599	9,586	礫集中
	集石38	C－8	Ⅳb	Ⅲ	0.69	0.52	有	16		2	1		13				－	－	礫集中
158	集石39	C－8	Ⅳb	Ⅰ	1.44	0.46	無	11	5		3	1	1		1		790	8,685	礫集中
	集石40	C－8	Ⅳb	Ⅳ	1.18	0.50	有	14		1	3	2	8				1,059	14,819	礫集中
159	集石41	D・E－8	Ⅵ	Ⅰ	3.09	2.50	無	28	15	1	6	6					－	－	デンプン分析：S154 石皿配石
161	集石42	E－8	Ⅳb	Ⅳ	0.96	0.60	有	9	3	2	0	1	2	1			2,019	18,168	準配石
	集石43	E－8	Ⅳb	Ⅰ	1.17	1.17	無	11	1	1	1	4	3		1		－	－	
162	集石44	E－8	Ⅳa	Ⅲ	0.50	0.49	有	11	1	1		6	2		1		3,885	42,737	石皿配石
163	集石45	B・C－9	Ⅳb	Ⅲ	0.59	0.55	有	11		1	4	2	4				2,119	23,310	石皿配石
164	集石46	E－9	Ⅳb	Ⅰ	0.57	0.25	無	7	1	1	1		3	1			－	－	
	集石47	F－9	Ⅳa	Ⅲ	0.80	0.67	有	31		6	7	3	15				－	－	石皿配石
165	集石48	B－10	Ⅳb	Ⅳ	2.00	1.29	有	23	12	1	6	3	1				1,942	44,668	石皿配石
167	集石49	B－10	Ⅳb	Ⅲ	0.56	0.50	有	13	7		1		5				－	－	礫集中
	集石50	B－10	Ⅳb	Ⅱ	0.58	0.25	無	10	5		3	1	1				－	－	礫集中
	集石51	C－10	Ⅳb	Ⅰ	0.34	0.18	無	4	3		1						399	1,594	礫集中
	集石52	C－10	Ⅳb	Ⅲ	0.67	0.57	有	15	3	3	5		1	3			－	－	礫集中
168	集石53	C－10	Ⅳa	Ⅱ	0.25	0.17	無	5	3	1				1			347	1,736	礫集中
	集石54	C－10	Ⅳb	Ⅲ	0.79	0.48	有	9		2		1	6				－	－	石皿配石
	集石55	C－10	Ⅳb	Ⅰ	0.37	0.18	無	4	3			1					866	3,464	礫集中
169	集石56	C－10	Ⅳb	Ⅲ	0.93	0.52	有	7	1		1	2	3				847	5,927	石皿配石
170	集石57	C－10	Ⅳb	Ⅱ	0.29	0.24	無	7			1	1	5				372	2,601	礫集中
	集石58	C－10	Ⅳb	Ⅱ	0.25	0.24	無	5			1	4					－	－	礫集中
	集石59	C－10	Ⅳb	Ⅰ	0.85	0.68	無	9	2	1	1	2	1	2			1,448	13,028	礫集中
171	集石60	D－10	Ⅳb	Ⅲ	0.88	0.88	有	34		9	1	4	19		1		1,142	38,828	石皿配石
172	集石61	E－10	Ⅳb	Ⅱ	0.43	0.37	無	13		1	10		2				171	2,219	礫集中
	集石62	C－11	Ⅳ	Ⅲ	0.64	0.55	無	25	4	5	4	5	1	6			1,187	29,684	石皿配石
	集石63	C－11	Ⅵ	Ⅲ	0.55	0.54	有	6	1			4	1				2,192	13,149	石皿配石
173	集石64	C－11	Ⅵ	Ⅲ	0.80	0.65	有	10	4	1	1	2		2			412	4,119	石皿配石
174	集石65	C－11	Ⅵ	Ⅲ	0.66	0.59	有	33	13	8	6		3	3			786	25,939	石皿配石
175	集石66	D－11	Ⅵ	Ⅲ	0.62	0.53	有	10	3	1	1	2	2	1			1,326	13,264	準配石
	集石67	B－12	Ⅳa	Ⅱ	0.55	0.38	無	9		8		1					980	8,820	礫集中
	集石68	C－12	Ⅳa	Ⅱ	0.30	0.25	無	5		2		2		1			816	4,080	礫集中
	集石69	C－12	Ⅳa	Ⅰ	0.71	0.67	無	6	2	1	1	1	1				1,213	7,280	礫集中
176	集石70	D－12	Ⅳb	Ⅲ	0.70	0.43	有	8	4			1		3			2,360	18,876	石皿配石
177	集石71	C－14	Ⅳb	Ⅱ	0.90	0.64	無	29	18	6	2	1	2				93	2,687	準配石
178	集石72	E－21	Ⅳb	Ⅲ	0.79	0.62	有	29	6	9	2		12				325	9,430	準配石
	集石73	D・E－28	Ⅳb	Ⅰ	0.81	0.25	無	5	3				2				－	－	礫集中

第13表　立石遺構一覧表

挿図番号	遺構名	検出区	検出層	大きさ（cm）			タイプ	堀込	遺物	備考
				長軸	短軸	深さ				
207	立石遺構１号	F－3	Ⅴ	49	41	10	Ⅰa	有		石皿立石
	立石遺構２号	C－5	Ⅳb	24	14＋α	6	Ⅰa	有		石皿立石
	立石遺構３号	C－6	Ⅳb	35	27＋α	25	Ⅰa	有	S191石皿	石皿立石
208	立石遺構４号	C－6	Ⅳb	40＋α	40	7	Ⅰb	有		
	立石遺構５号	C－6	Ⅳb	51	28＋α	10	Ⅰa	有	S192石皿	石皿立石
209	立石遺構６号	B－7・8	Ⅳb	40	25＋α	10	Ⅰa	有	S193石皿	石皿立石
	立石遺構７号	C－7	Ⅳb	20	10	－	Ⅱa	無	S194石皿	
210	立石遺構８号	C－7	Ⅳb	25	15＋α	7	Ⅰa	有	S195石皿	石皿立石
	立石遺構９号	D－7	Ⅳb	59	47	13	Ⅰb	有		
211	立石遺構10号	D－7	Ⅳb	106	96	23	Ⅰb	有	S196石皿　S197軽石　534・535土器	年代測定：535
213	立石遺構11号	D－7	Ⅳb	50	40	－	Ⅱb	無	S198磨・敲石 S199石皿	デンプン分析：S199石皿
214	立石遺構12号	D－7	Ⅳb	30	25	－	Ⅱa	無	S200石皿	
	立石遺構13号	E－7	Ⅳb	34＋α	34	19	Ⅰa	有	S201石皿	石皿立石
215	立石遺構14号	E－7	Ⅳb	38	22＋α	30	Ⅰa	有	S202石皿	石皿立石
	立石遺構15号	E－7	Ⅵ	45	35	－	Ⅱb	無	S203石皿	
	立石遺構16号	F－7	Ⅳb	24	20	－	Ⅱb	無	S204石皿	
216	立石遺構17号	B－8	Ⅳb	98	34＋α	66	Ⅰa	有	S205石皿	石皿立石
217	立石遺構18号	C－8	Ⅳb	26	20	－	Ⅱa	無	S206石皿	
	立石遺構19号	C－8	Ⅳb	38	35	20	Ⅰa	有	S207石皿	石皿立石
218	立石遺構20号	D－8	Ⅳb	30	20	－	Ⅱb	無	S208石皿	
	立石遺構21号	E－8	Ⅳb	52	39＋α	15	Ⅰa	有	S209石皿　536・537土器	石皿立石
219	立石遺構22号	E－8	Ⅳb	34	27＋α	20	Ⅰa	有	S210石皿	石皿立石
	立石遺構23号	F－8	Ⅳb	60	30	－	Ⅱb	無	S211磨・敲石 S212石皿	
220	立石遺構24号	F－8	Ⅳb	25	22	－	Ⅱb	無	S213石皿	
	立石遺構25号	F－8	Ⅳb	40	36＋α	20	Ⅰb	有	S214石皿	石皿立石
221	立石遺構26号	B－9	Ⅳb	35	30	－	Ⅱb	無	S215磨・敲石 S216石皿　536・537土器	デンプン分析：S216石皿
222	立石遺構27号	B－9	Ⅳb	45	35	27	Ⅰa	有	S217石皿	石皿立石
	立石遺構28号	B－9	Ⅳb	54	25＋α	30	Ⅰa	有		石皿立石
223	立石遺構29号	B－9	Ⅳb	66	48	34	Ⅰa	有	S218石皿	デンプン分析：S218石皿 石皿立石
224	立石遺構30号	C－9	Ⅳb	32	13＋α	22	Ⅰa	有	S219石皿	石皿立石
225	立石遺構31号	F－9	Ⅳb	35	31	2	Ⅰa	有	S220石皿	石皿立石
	立石遺構32号	B－16	Ⅳb	57	40	－	Ⅱb	無	S221・222石皿	

第14表　竪穴建物跡土器観察表１

※器種欄の円盤状土製加工品はメンコと示す。

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
46	76	深鉢	Ⅵc	C－4	Ⅳb	竪穴建物跡１	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○				礫	42035		56
	77	深鉢	Ⅷb	C－3	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○				礫	42105		－
	78	深鉢	Ⅷ	C－3･4	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○		42050他	年代測定試料	59
	79	深鉢	Ⅷ	C－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○	礫	42107他		56
	80	深鉢	Ⅷ	C－4	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○	○			礫	42061他		－
	81	深鉢	－	C－3	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○			○		42232他		－
	82	深鉢	－	C－3･4	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	暗灰黄	○	○	○	○		○		42071他	圧痕検出	－
	83	深鉢	－	C－4	Ⅳb		マメツ	ナデ	灰黄	褐	○	○	○			○		42064		－
	84	深鉢	－	C－4	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○	○		○		42063他		－
	85	深鉢	－	C－3	Ⅳb		マメツ	マメツ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		○			42115		－
	86	台付皿	－	C－3	Ⅳb		ナデ	マメツ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	○		○		34445		－
48	87	深鉢	Ⅴ･Ⅵ	D－3･4	Ⅴ	竪穴建物跡２	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○						－		56
	88	深鉢	Ⅵa	D－4	－		ナデ	ナデ	暗灰黄	黄褐	○	○				○		41656		56
	89	深鉢	Ⅴ	D－3･4	Ⅴ		貝殻条痕→ナデ	ナデ	黄灰	にぶい褐	○	○	○	○		○		－		56
	90	深鉢	Ⅴ	D－3･4	Ⅴ		ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○	○						－		－
	91	深鉢	Ⅵc	D－3･4	Ⅴ		ナデ	ナデ	黄灰	黄褐	○	○	○			○		－		－
49	92	深鉢	Ⅵ	D－4	－		貝殻条痕	貝殻条痕	黄灰	にぶい褐	○		○	○			礫	41665		56
	93	深鉢	－	D－3･4	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○					礫	－		－
	94	深鉢	－	D－3･4	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○		○	○				－		－
	95	深鉢	－	D－4	－		ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○	○		○			41625		－
	96	メンコ	－	D－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい黄橙	にぶい黄	○							41672	メンコ未製品	－
50	97	深鉢	Ⅷc	E－3	Ⅳb	竪穴建物跡３	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○	○				38329他		－
	98	深鉢	Ⅷc	E－3	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○	○				礫	45358		－
	99	深鉢	Ⅷc	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○				礫	38323		－
	100	深鉢	Ⅸa	E－3	－		貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい黄橙	明褐	○		○	○		○		38334		56
51	101	深鉢	Ⅷa	E－3	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○	○				38343他		56
	102	深鉢	Ⅷ	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○	○				38910他		－
	103	深鉢	Ⅷ	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○				38910		－
	104	深鉢	Ⅵ	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○			○		38319		56
	105	深鉢	Ⅷ	E－3	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○			礫	－		－
	106	深鉢	Ⅷ	E－3	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		38897他		－
	107	深鉢	Ⅷ	E－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○				礫	38877他		－
	108	深鉢	Ⅷ	E－3	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	灰褐	○		○	○				38865他		－
	109	深鉢	－	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	○		○				礫	45337他		－
	110	メンコ	－	E－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○		○	○		○		－		－
53	111	メンコ	－	E－3	－	竪穴建物跡４	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○					42250		－
	112	深鉢	Ⅴb	E－3	－		貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	にぶい褐	○	○	○			○		42258他		56
	113	深鉢	Ⅷ	E－3	－		ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○			礫	42249		56
56	114	深鉢	－	E･F－3･4	Ⅳb	竪穴建物跡５	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		27699他	Ⅵ類かⅧ類	－
	115	深鉢	－	E－3･4	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○				－		56
	116	メンコ	－	E－3･4	Ⅴ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○	○	○			礫	45765他	メンコ未製品	－
	117	深鉢	－	E－3･4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	黄灰	○		○	○			礫	45763他		－
	118	深鉢	－	E－3･4	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄	○	○	○			○		－		－
	119	深鉢	－	E－3･4	Ⅴ		ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい黄橙	○		○	○			礫	－		－
	120	深鉢	－	E－3･4	Ⅴ		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○		○	○				－		－
57	121	深鉢	Ⅵb	E･F－3	Ⅴ	竪穴建物跡６	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○			○		46642他		59
	122	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○			○	礫	46632他		56
58	123	深鉢	－	E－3	－		ナデ	ナデ	灰褐	にぶい黄橙	○	○	○			○	礫	46685		－
	124	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○		○		46623他		56
	125	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	灰褐	赤褐	○	○	○		○	○		46631他		56
	126	深鉢	－	E－3	－		ナデ	ナデ	暗灰黄	灰黄褐	○	○				○		46638		－
	127	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		○		○		46627他		－
	128	深鉢	－	E－3	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○		○	礫	46620		－
59	129	深鉢	－	E－3	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○	○				礫	46643		－
	130	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄	○	○	○				礫	46613他		－
	131	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黄灰	○	○		○		○	礫	－		－
	132	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	橙	橙	○	○	○				礫	－		－
	133	深鉢	－	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○	○				○		46616		－
	134	深鉢	－	E－3	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○		○	礫	46625		－
60	135	深鉢	Ⅵb	E－3	－	竪穴建物跡７	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○				○		45381		57
	136	深鉢	Ⅴb	E･F－3	Ⅴ		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○		○		礫	－		－
	137	深鉢	Ⅴ	E･F－3	Ⅴ		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○		○		－	断面に圧痕（不明）あり	－
	138	深鉢	Ⅴb	E－3	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○			○		27758他		57
61	139	深鉢	Ⅴ	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	○	○	○	○		○	礫	45407		－
	140	深鉢	Ⅴb	E－3	－		貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい褐	灰褐	○		○	○		○	礫	45375		－
	141	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい褐	○		○	○		○		45397他		－
	142	深鉢	－	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	○		○		45393		－
	143	深鉢	－	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○			○		45916		－
	144	深鉢	－	E･F－3	Ⅴ		ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	黄灰	○		○	○				－		－
63	145	深鉢	Ⅵb	F－3	Ⅴ	竪穴建物跡８	ナデ	ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○				○		－		57
	146	深鉢	Ⅵb	F－3	－		ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○					礫	44977		57
	147	深鉢	Ⅴ	F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		○				－		－
64	148	深鉢	－	F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	灰黄褐	黄灰	○	○	○	○				－		－
	149	深鉢	－	F－3	－		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黄灰	○	○	○			○	礫	44971		－
	150	深鉢	－	F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○		○			礫	－		－
	151	深鉢	－	F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	○				44975他		－
66	152	深鉢	Ⅵb	F－3	Ⅴ	竪穴建物跡９	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	褐灰	○			○			礫	－		57
	153	深鉢	Ⅵb	F－3	Ⅴ		ナデ	ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○						－		－
	154	深鉢	Ⅵb	F－3	－		ナデ	ナデ	暗灰黄	灰黄褐	○	○	○					46477		57
	155	深鉢	－	F－3	Ⅴ		貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい褐	褐灰	○		○	○				46476他		－
67	156	深鉢	－	E－4	－	竪穴建物跡10	ナデ	ナデ	黄灰	橙	○	○	○			○	礫	43429		57
	157	深鉢	－	E－4	Ⅴ		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	明赤褐	○		○	○				－		－
	158	深鉢	－	E－4	－		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○					礫	43441		－

第15表　竪穴建物跡土器観察表２

※器種欄の円盤状土製加工品はメンコと示す。

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
69	159	深鉢	Ⅵb	E－4	Ⅴ	竪穴建物跡11	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○			○		45636他		57
	160	深鉢	Ⅵb	E－4	Ⅴ		貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○		○	○				45623他		－
70	161	深鉢	Ⅵb	E－4	Ⅴ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい黄橙	灰黄褐	○		○	◎				45619他		－
	162	深鉢	Ⅵb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄橙	○		○	○				45618	年代測定試料	57
	163	深鉢	Ⅵb	E－4	Ⅴ		ナデ	工具ナデ	橙	橙	○	○	○	○		○		45633他		－
71	164	深鉢	Ⅵa	E･F－4	Ⅴ	竪穴建物跡12	ナデ	ナデ	にぶい橙	褐灰	○	○		○				－		57
	165	深鉢	Ⅵa	E･F－4	－		ナデ	ナデ	黄灰	にぶい黄橙	○	○	○				礫	44829他		57
	166	深鉢	Ⅵa	E･F－4	Ⅴ		ナデ	ナデ	褐灰	にぶい黄橙	○		○	○		○		－		－
	167	深鉢	Ⅷ	F－4	－		ナデ	ナデ	黄灰	灰黄褐	○	○	○			○	礫	44540		－
	168	深鉢	Ⅷ	F－4	－		貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○			○	礫	44747		57
	169	深鉢	Ⅷ	C･F－3･4	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○			礫	44541他		－
72	170	深鉢	－	E･F－4	Ⅴ		ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい黄	○		○	○			礫	44829他		－
	171	深鉢	－	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○	○			礫	44530		－
	172	深鉢	－	F－4	－		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○				礫	44548		－
	173	深鉢	－	E･F－4	Ⅴ		貝殻条痕	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		－		－
75	174	深鉢	Ⅵc	F－7	Ⅵ	竪穴建物跡13	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○		○	礫	－		57
	175	深鉢	Ⅵb	F－7	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○				礫	－		57
	176	深鉢	Ⅵb	F－7	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○	○		○	礫	45827他		57
	177	深鉢	Ⅷb	F－7	Ⅷb		ナデ	ナデ	黄褐	黄褐	○	○	○					53529		－
	178	深鉢	Ⅵb	F－7	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○		○		－		－
	179	深鉢	Ⅴ	F－7	Ⅵ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	赤褐	にぶい橙	○	○	○				礫	－		－
	180	深鉢	Ⅵb	F－7	－		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	○				45824		57
	181	深鉢	－	F－7	－		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○		○		45833		－
	182	深鉢	－	F－7	－		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○			○				45908		－
	183	深鉢	－	F－7	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい黄橙	○	○	○			○	礫	45818他		－
	184	深鉢	－	F－7	Ⅵ		ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄褐	にぶい黄橙	○	○		○		○	礫	－		－
	185	メンコ	Ⅶb	F－7	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○		○	礫	－	メンコ未製品	57
	186	メンコ	Ⅷ	F－7	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい褐	明赤褐	○		○	○		○		－		－
78	187	深鉢	Ⅸa	C･D－9･10	Ⅳa			貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○				礫	21208他		58
	188	深鉢	Ⅸa	C－9	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰	黄灰	○	○	○	○				45670他		58
	189	深鉢	Ⅸa	C－9	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	明赤褐	橙	○	○	○	○			礫	36516		58
79	190	深鉢	Ⅸb	C－9･10	Ⅳb	竪穴建物跡14	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	褐灰	灰褐	○	○		○				28788他		58
	191	深鉢	Ⅸb	C･E－9	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰褐	にぶい橙	○	○	○			○		43095他		－
	192	深鉢	Ⅸb	B－11･C－9	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○			○		20836他		58
	193	深鉢	Ⅸb	B－10･C－9	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	橙	○	○	○	◎		○		28810他		58
	194	深鉢	Ⅸb	B－D－9～11	Ⅳa･Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい赤褐	橙	○	○		○				22741他		58
80	195	深鉢	Ⅸb	B－10･C－9	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい橙	橙	○	○				○		28507他		58
	196	深鉢	Ⅸ	B･C－9～11	Ⅳa･Ⅳb･Ⅵ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	灰褐	○	○						3756他		59
	197	台付皿か	Ⅶb	C－9	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい褐	○	○	○			○	礫	36575	赤色顔料付着	58
	198	深鉢	－	C－9	－		工具ナデ	工具ナデ	黄褐	にぶい黄	○	○	○	○			礫	45672		－
81	199	深鉢	Ⅸb	D･E－9	Ⅵ	竪穴建物跡15	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	黄灰	○	○				○		－		－
	200	深鉢	－	D･E－9	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	○		○		46013他		59
	201	深鉢	－	D－9	－		ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○		○				46011		59
	202	メンコ	－	D･E－9	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	○	○	○	○			礫	－		－
83	203	深鉢	Ⅷa	E－9･10	Ⅵ	竪穴建物跡16	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	○				－		59
	204	深鉢	Ⅸa	E－10	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	○		○	○			礫	46111	年代測定試料	59
	205	深鉢	Ⅸa	E－9	－		貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	にぶい褐	○	○	○				礫	46393		59
	206	深鉢？台付皿？	Ⅸa	E－9･10	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい赤褐	橙	○		○	○				－		－
	207	深鉢	Ⅷ	E－9･10	Ⅵ		ナデ	ナデ	灰赤	赤灰	○	○	○	○			礫	－		－
	208	深鉢	－	E－9･10	Ⅵ		ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	黄灰	○	○	○	○		○	礫	－		59
	209	台付皿	Ⅷ～Ⅸ	E－9･10	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○		○	○	○		礫	－		－
	210	台付皿脚	Ⅷ～Ⅸ	E－9･10	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○		○	○		○	礫	－		－
	211	深鉢	－	E－9	－		貝殻条痕	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	○		○	礫	46390		－
	212	深鉢	－	E－9	－		貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		46651		－
84	213	メンコ	Ⅷ	E－9･10	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○			礫	－		－
	214	メンコ	Ⅷ	E－9･10	Ⅵ		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰褐	○	○	○					－		－
	215	メンコ	Ⅷ	E－9･10	Ⅵ		ナデ	ナデ	橙	にぶい褐	○		○	○				－		－
	216	メンコ	Ⅸa	E－9･10	Ⅵ		貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	灰黄褐	○	○	○	○			礫	－		－
	217	メンコ	－	E－9･10	Ⅵ		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	○				－		－
	218	メンコ	－	E－10	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	○		○	○		○	礫	46110		－
	219	メンコ	－	E－9･10	Ⅵ		工具ナデ	工具ナデ	にぶい赤褐	明赤褐	○	○			○	○		－		－
	220	メンコ	－	E－10	－		貝殻条痕→ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○		○	○				46386	メンコ未製品	－
	221	メンコ	－	E－10	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	○	○					礫	46108		－
	222	メンコ	－	E－9･10	Ⅵ		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	褐灰	○			○				－		－
86	223	深鉢	Ⅷb	E－9	Ⅵ	竪穴建物跡17	ナデ	ナデ	赤灰	にぶい橙	○		○	○		○		－		59
	224	深鉢	Ⅷa	E－9	－		ナデ	ナデ	黄褐	暗灰黄	○		○	○			礫	46015		59
	225	深鉢	－	E－9	Ⅵ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○		○		○	○		－		－
	226	メンコ	Ⅷ	E－9	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	暗灰黄	にぶい黄褐	○	○	○	○				45320		59
	227	メンコ	－	E－9	Ⅵ		ナデ	ナデ	黄灰	にぶい黄	○		○	○				－		－
	228	メンコ	Ⅷ	E－9	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	○		○	○		○	礫	46016		－
87	229	深鉢	－	F－9	Ⅵ	竪穴建物跡18	ナデ	ナデ	橙	灰黄褐	○	○	○			○		－		－
89	230	深鉢	Ⅵb	D－10	－	竪穴建物跡20	ナデ	ナデ	橙	橙	○		○	○				46140		59
	231	深鉢	－	D－10	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○		○	○		○		－		－
	232	メンコ	－	D－10	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○	○			○		礫	－		－
90	233	深鉢	－	D･E－10	Ⅳb	竪穴建物跡21	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○		○		礫	－		－
92	234	深鉢	Ⅵb	C－15	埋土	竪穴建物跡23	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	○		○	○			礫	17082		59
	235	深鉢	Ⅷa	C－15･16	Ⅳb		ナデ	ナデ	褐灰	明赤褐	○	○	○	○			礫	－		59
	236	深鉢	Ⅷa	C－15･16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○	○				－		59
	237	深鉢	－	C－15･16	Ⅳb		ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	○		○	○			礫	－		59
93	238	深鉢	－	C－16	埋土		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	○		○		17338		－
	239	深鉢	－	C－15	埋土		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○		○	礫	17344		－
	240	深鉢	－	C－15	埋土		ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○				礫	17342		－
	241	深鉢	－	C－15	埋土		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○	○	○		○	礫	18852		－

第16表　竪穴建物跡土器観察表３

※器種欄の円盤状土製加工品はメンコと示す。

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
93	242	深鉢	－	C－15	埋土	竪穴建物跡23	ナデ	ナデ	にぶい橙	明赤褐	○	○	○	○		○	礫	17085		－
	243	メンコ	－	C－15	埋土		ナデ	ナデ	黄灰	浅黄	○	○	○	○		○		17061	メンコ未製品	－
	244	メンコ	Ⅷ	C－15	埋土		ナデ	ナデ	黒褐	にぶい褐	○		○	○			礫	17062		59
95	245	深鉢	Ⅷb	E－16	埋土	竪穴建物跡24	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	○			礫	15138		59
	246	深鉢	Ⅷb	D·E－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○			○	礫	－		－
	247	深鉢	Ⅷ	D－16	埋土		ナデ	ヘラナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	○	○		○			礫	15131		59
	248	深鉢	Ⅷb	D·E－16	Ⅳb		ナデ	ヘラナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	○		○	礫	－		－
	249	深鉢	Ⅷb	D·E－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○			○	○		－		59
96	250	深鉢	Ⅷ	E－16	埋土		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○				15137		－
	251	深鉢	－	D·E－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○			○		－		－
	252	メンコ	Ⅷb	D·E－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	褐灰	にぶい橙	○		○	○				－		59

第17表　土坑土器観察表１

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
97	253	深鉢	Ⅷb	B－2	Ⅳb	土坑7	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	橙		○						31572他		54
98	254	深鉢	Ⅷa	B－3	Ⅳb	土坑8	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	○	◎	○				42006他	金色雲母微量	54
	255	深鉢	Ⅷ	B－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○				－		60
99	256	深鉢	Ⅷ?	B－3	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○					42007他		60
	257	深鉢	Ⅷ?	B－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	暗灰黄	にぶい黄	○	○		○			礫	－		－
	258	メンコ	Ⅷ	B－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	○				－		－
100	259	深鉢	Va	E－3	－	土坑9	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい橙	○	○	◎					43237他		60
	260	深鉢	Ⅷb	E－3	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい赤褐	○	◎				○		43241		－
	261	深鉢	Ⅵa·Ⅷ	E－3	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○						43245		－
	262	台付皿？	－	E－3	－		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○			礫	43247		60
101	263	深鉢	－	E·F－3	V	土坑10	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○		○			礫	－		60
	264	深鉢	－	E－3	－		ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰	○	○					礫	43664		－
	265	深鉢	－	E－3	－		ナデ	ナデ	黒褐	橙	◎	○	○					41688		－
	266	深鉢	Va	E－2	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	にぶい黄橙	◎	○						41684		60
	267	深鉢	Va	F－3	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○			礫	41679		－
	268	深鉢	Va	E－3	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	明褐	にぶい黄褐	◎	○						41682		－
102	269	深鉢	Vb	G－3	V	土坑11	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○	○	○				－		60
	270	深鉢	－	G－3	V		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○			◎			－		－
103	271	深鉢	Va	C－4	Ⅳb	土坑12	貝殻条痕	貝殻条痕	赤灰	赤灰	○	○					礫	－		60
	272	深鉢	Ⅵb	C－4	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○	○				－		－
	273	深鉢	Ⅵ	C－4	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	褐灰	褐灰	○	○		○				－		－
	274	深鉢	Ⅷ	C－4	Ⅳb		ナデ	工具ナデ	褐灰	黒褐	○							－		－
	275	深鉢	Ⅵb	C－4	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい褐	◎	○	○					43758		60
104	276	深鉢	V	C－4	－		ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○		○			礫	46665		－
	277	深鉢	－	C－4	Ⅳb		ナデ	マメツ	灰褐	にぶい橙	◎	○	○	○				－		－
	278	メンコ	－	C－4	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○		○				－		－
105	279	深鉢	Ⅵa	D·E－4	V	土坑13	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黒褐	暗灰黄	○				○	○		－		60
	280	深鉢	Ⅵa	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	◎	○	○	◎				42777		60
	281	深鉢	Ⅵb	D·E－4	V		ナデ	ナデ	にぶい黄褐	黄灰	○	○						－		－
	282	深鉢	－	D·E－4	V		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○				－		－
	283	メンコ	－	D·E－4	V		貝殻条痕	貝殻条痕	黄灰	黄褐	○	○	○	○		○		－	メンコ未製品	－
107	284	深鉢	Va	E－4	－	土坑14	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	◎	○	○	○				46664他		60
108	285	深鉢	Ⅷb	E－4	－	土坑15	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		44039	同一個体と判断	61
	286	メンコ	Ⅷb	E－4	V		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	○		○		44039他		61
	287	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○	○		○		44039		61
	288	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○	○		○		44039		61
109	289	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		44039		61
	290	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		44039		61
	291	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		44039		61
	292	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		44039		61
	293	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰	暗灰黄	○	○	○	○		○		44039		61
	294	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	黄灰	○	○	○	○		○		44039		61
	295	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○		44039他		61
	296	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○	○	○		○		44039		61
	297	メンコ	Ⅷb	E－4	V		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄	○	○	○	○		○		－		61
	298	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		44039		61
	299	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		44039		61
	300	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	暗黄灰	にぶい黄	○	○	○	○		○		44039		61
	301	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄	○	○	○	○		○		44039		61
	302	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	黄灰	○	○	○	○		○		44039		61
	303	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄	○	○	○	○		○		44039		61
	304	メンコ	Ⅷb	E－4	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		44039		61
	305	メンコ	Ⅵa	E－4	－		貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	にぶい黄橙	○	○					礫	44039		61
	306	メンコ	Ⅵa	E－4	V		貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○		○		○		－	メンコ未製品	－
	307	メンコ	Ⅵa	E－4	－		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰褐	◎	◎					礫	44039	メンコ欠損品	－
110	308	深鉢	－	B－6	－	土坑16	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	黒褐	○		○	◎				36844他	年代測定試料	61
	309	深鉢	Ⅷb	B－6	Ⅳb		ナデ	ナデ	橙	褐灰	○	○					礫	－		－
	310	深鉢	Ⅷb	B－6	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰褐	橙	○	○	○	○			礫	－		－
	311	深鉢	Ⅷ	B－6	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	褐灰	○	○		○			礫	－		－
	312	深鉢	Ⅷ	B－6	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい褐	○	○	○	○	○			－		－
	313	メンコ	－	B－6	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	橙	○	○		○	○			－		－
111	314	深鉢	Ⅵa	B·C－6	Ⅳb	土坑17	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい褐	○	○		○	○			29487他		61
	315	深鉢	Ⅷa	B·C－6	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい褐	褐灰	○	○		○	○			－		－
112	316	深鉢	Ⅷ	B－6	Ⅳb		ナデ	ナデ	黄褐	黒褐	○	○			○			25851		－
	317	深鉢	Ⅷa	B·C－6·9	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○	○			36615他		54
	318	脚片	－	B·C－6	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○						－		61

第18表　土坑土器観察表２

※器種欄の円盤状土製加工品はメンコと示す。

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
113	319	深鉢	Ⅵb	C－6	－	土坑18	貝殻条痕	貝殻条痕	暗灰黄	にぶい褐	○	○		○				46740		61
	320	深鉢	Ⅷa	C－6	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○		○				46738他		61
	321	深鉢	Ⅷ	C－6	－		ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○		○				46734		－
114	322	深鉢	Ⅷa	D･E－6	Ⅵ	土坑19	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	明赤褐	○	○						－		61
115	323	深鉢	Ⅷa	B－8	Ⅴ	土坑23	ナデ	ナデ	にぶい黄	黄灰	○	○						－		61
	324	深鉢	－	B－7	Ⅴ	土坑24	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	赤褐	○	○				○		－		61
	325	深鉢	Ⅶb	B－7	Ⅴ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○						－		61
	326	深鉢	Ⅸa	B－7	Ⅴ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	褐灰	○		○	○				－		61
	327	深鉢	－	B－7	Ⅴ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	暗赤褐	赤褐	○	○					礫	－	胎土赤みが強い	61
116	328	深鉢	Ⅷb	C－7	Ⅳb	土坑25	ナデ	ナデ	灰褐	灰褐	○	○			○			IBS25－23	IBS25→SK25	－
	329	深鉢	Ⅷa	C－7	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	灰褐	○	○		○				IBS25－01他		－
	330	深鉢	－	C－7	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○				IBS25－03他		62
	331	深鉢	－	C－7	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○						IBS25－07		－
117	332	深鉢	－	D－7	Ⅷ	土坑26	ナデ	ナデ	明赤褐	にぶい黄褐	◎	◎				○		SK234－10	SK234→SK26	－
	333	深鉢	－	E･F－7	Ⅳa	土坑27	ナデ	ナデ	明赤褐	橙	○	○				○		－		－
118	334	深鉢	－	C－8	－	土坑28	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○				45728		－
	335	深鉢	Ⅷb	C－8	Ⅳb	土坑29	ナデ	ナデ	黄灰	にぶい黄	○	○		○				－		－
	336	深鉢	Ⅷb	C－8	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○						－		62
119	337	深鉢	Ⅷb	C－8	Ⅳb	土坑30	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	◎	○	○	○				45902		62
	338	深鉢	Ⅷa	C－8	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	明赤褐	◎	○	○	○				46449		62
120	339	深鉢	Ⅷ	C－8	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄褐	明赤褐	○	○	○	○				45902		－
	340	深鉢	－	C－8	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○				45902		－
	341	深鉢	－	C－8	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○	○	○		○		45902		－
	342	深鉢	－	C－8	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○	○	○				－		－
	343	メンコ	－	C－8	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	明褐	○	○		○				－		－
122	344	深鉢	Ⅴb	E－8	Ⅷ	土坑32	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい褐	○	○						IBS24－05他	IBS24→SK32	－
	345	深鉢	Ⅴb	E－8	Ⅷ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	灰黄褐	○	○						IBS24－01他		－
123	346	深鉢	Ⅵb	E－8	－	土坑33	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○		○				45416		62
125	347	深鉢	Ⅷb	B－9	－	土坑35	ナデ	ナデ	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○		○				45806		－
	348	深鉢	Ⅷ	B－9	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○	○	○				45724他		－
127	349	メンコ	－	D－9	Ⅴ	土坑36	ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	褐灰	○	○						－		－
128	350	深鉢	－	D－10	Ⅷ	土坑39	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	◎	○	○	○				－		62
131	351	深鉢	Ⅷa	B－13	Ⅳb	土坑45	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○	○	○				－		62
	352	深鉢	Ⅸb	B－13	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○		○				－		－
	353	深鉢	－	C－14	埋土	土坑46	ナデ	貝殻条痕→ナデ	赤灰	にぶい赤褐	○	○		◎				15441		63
132	354	深鉢	Ⅷa	C－15	層土･Ⅳa	土坑47	ナデ	貝殻条痕	赤灰	にぶい赤褐	○	○		○				17906他		63
	355	深鉢	Ⅶb	C－15	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	暗灰黄	○	○		○			礫	20020		63
	356	深鉢	－	C－15	Ⅳa		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○						埋土		－
	357	深鉢	－	C－15	埋土		ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	褐灰	○	○			◎			17907		－
133	358	深鉢	Ⅸa	D－15	埋土	土坑48	ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	◎				17031		63
	359	深鉢	Ⅵ	D－15	埋土		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○				17033		63
	360	深鉢	Ⅶb	D－15	埋土		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○		○				17027		－
	361	深鉢	－	D－15	埋土		ナデ	ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○						17028		－
	362	深鉢	Ⅷ	D－15	埋土		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	◎	○	○	○				17026		－
	363	深鉢	－	D－15	埋土		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○						17035		－
	364	メンコ	Ⅷ	D－15	埋土		ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○	○				17029	メンコ未製品	－
134	365	深鉢	Ⅵb	D－15	埋土	土坑49	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○		○			礫	17050		－
	366	深鉢	Ⅵc	D－15	埋土		貝殻条痕	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	◎	○		○				17055		63
	367	深鉢	Ⅶa	D－15	埋土		ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	◎	○		○				17051		63
	368	深鉢	－	D－15	埋土		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	◎	○		○				17036		－
	369	メンコ	Ⅵb	D－15	埋土		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい褐	○	○		◎				17041		63
135	370	深鉢	Ⅵ	B－16	Ⅳb	土坑50	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	○			◎				－		63
	371	深鉢	Ⅷc	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	◎	○					礫	－		63
	372	深鉢	Ⅷa	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○			○				－		63
	373	深鉢	Ⅷa	B－16	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	◎	○		○			礫	－		－
	374	深鉢	Ⅷa	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	◎	○		○			礫	－		63
136	375	深鉢	Ⅸa	B－16	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	◎	○		○				－		63
	376	深鉢	Ⅸa	B－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	褐灰	◎	○		◎				－		63
	377	深鉢	Ⅵb	B－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	◎	○		○				－		63
	378	深鉢	Ⅵ･Ⅷ	B－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○		○		○	礫	－		－
	379	深鉢	－	B－16	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	にぶい褐	◎	○		○			礫	－		－
	380	深鉢	－	B－16	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	褐灰				○				－		－
137	381	鉢 台付Ⅲ	Ⅷ	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	◎	○	○	○			礫	－		63
	382	深鉢	－	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			◎			－		－
	383	メンコ	－	B－16	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	にぶい褐	○	○		○				－		63
	384	メンコ	Ⅵ･Ⅷ	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		○			礫	－	メンコ欠損品	63
	385	メンコ	Ⅵ･Ⅷ	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	褐灰	◎	○		◎			礫	－	メンコ欠損品	63
	386	メンコ	－	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	◎	○	○	○	○	○		－		－
	387	メンコ	－	B－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○		○			礫	－		－
	388	メンコ	－	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○				礫	－		－
	389	メンコ	－	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	◎	○		◎				－		－
	390	メンコ	－	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	◎	○	○	○				－	メンコ欠損品	－
	391	メンコ	－	B－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	○	○		○				－		－

第19表　集石土器観察表１

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
141	392	深鉢	Ⅷb	B－4	－	集石5	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○						38237		－
	393	メンコ	Ⅷ	D－3	Ⅳb	集石6	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	○		○	○				41519		－
	394	深鉢	Ⅵb	D－3	－	集石7	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○						43954		67
	395	メンコ	－	D－3	－		貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○		○				43950		－

第20表　集石土器観察表２

※器種欄の円盤状土製加工品はメンコと示す。

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
141	396	メンコ	－	D－3	－	集石7	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	黄灰	○	○		○		○		43951		－
142	397	深鉢	Ⅷb	C－5	－	集石8	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	○		○	○				38860		－
	398	深鉢	Ⅷa	C－6	－		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○				38858		67
	399	深鉢	Ⅷc	C－5	－		貝殻条痕	貝殻条痕	黄灰	にぶい黄橙	○						礫	38849		67
	400	深鉢	Ⅷb	C－5	－		ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○		○	○				38861		－
143	401	深鉢	－	E－5	－	集石11	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	暗灰黄	灰黄	○	○	○	○		○		33457		－
144	402	深鉢	Ⅵb	F－5	－	集石13	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰黄褐	○		○	◎		○		44615		67
145	403	深鉢	Ⅵb	C－6	－	集石14	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○					29009		67
	404	深鉢	Ⅵb	C－6	－		ナデ	ナデ	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○	○					29014		－
	405	深鉢	Ⅵb	C－6	－		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○		○		29016		67
148	406	深鉢	－	E－6	－	集石22	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○			○				44841		－
	407	深鉢	－	E－6	－		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○						44842		－
149	408	深鉢	Ⅶa	E－6･7	Ⅷ	集石23	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○					SS118－10	SS118→SS23	67
	409	深鉢	－	E－6･7	Ⅷ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	明赤褐	にぶい橙	○			◎				SS118－23		－
	410	深鉢	－	E－6･7	Ⅷ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○		○		○		SS118－25		－
	411	深鉢	－	E－6･7	Ⅷ		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	橙	○			◎				SS118－40		－
151	412	深鉢	Ⅵc	B－7	Ⅳb	集石27	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○			◎				SS90－27		67
	413	深鉢	－	B－7	Ⅳb		ナデ	工具ナデ	暗灰黄	暗灰黄	○		○					34638他	搬入品の可能性あり	54
152	414	深鉢	Ⅵb	C－7	Ⅳb	集石29	ナデ	ナデ	灰褐	明褐	○	○	○				礫	29818		－
153	415	メンコ	－	C－7	－	集石31	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい黄橙	○							44285		－
154	416	深鉢	Ⅷ	F－7	－	集石34	ナデ	ケズリ	にぶい橙	にぶい橙	◎	◎			○	○		46854		67
155	417	深鉢	－	B－8	－	集石35	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○		○				45070		－
157	418	深鉢	Ⅷb	C－8	－	集石38	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい橙	○			○				28485		67
	419	深鉢	－	C－8	－		ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○		○	○				28575		－
160	420	深鉢	－	E－8	Ⅵ	集石41	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○		○	○			礫	46380他		－
	421	深鉢	－	D－8	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○		○	◎		○	礫	46353		－
161	422	深鉢	Ⅸb	E－8	Ⅳb	集石43	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	明褐	○		○	○				31830		67
	423	深鉢	Ⅶa	E－8	Ⅳb		ナデ	工具ナデ	にぶい橙	明褐	○	○	○					31826		67
	424	メンコ	－	E－8	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	黄灰	にぶい褐	○	○		○			礫	31834		－
163	425	深鉢	Ⅷb	B･C－9･10	Ⅳb	集石45	ナデ	ナデ	にぶい褐	明褐	○	○	○					27335他		－
164	426	深鉢	Ⅵc	E－9	－	集石46	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○							39819		－
165	427	深鉢	Ⅸa	B－10	－	集石48	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	褐灰	にぶい赤褐	○			◎			礫	45276		67
	428	深鉢	Ⅸa	B－10	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄褐	○			◎				45275		－
167	429	深鉢	－	B－10	－	集石49	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○		○	○		○		44320		－
	430	深鉢	－	B－10	－	集石50	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○		○	○		○		44313		－
	431	メンコ	－	C－10	－	集石52	ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○	○					44463		－
170	432	深鉢	Ⅷa	C－10	－	集石59	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○				礫	45421		67
177	433	深鉢	Ⅵc	C－14	埋土	集石71	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		○			礫	16455		67
	434	深鉢	Ⅵc	C－14	埋土		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○		○	○				16456		67
	435	深鉢	Ⅵc	C－14	埋土		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○		○	○				16459		67
	436	深鉢	Ⅵc	C－14	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	ナデ	明赤褐	橙	○			○				17148他		－
	437	深鉢	－	C－14	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	明褐	暗褐	○							8916他		－
	438	深鉢	Ⅷa	C－14	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	明赤褐	黒褐	○			○				10306		－

第21表　土器集中土器観察表１

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
179	439	深鉢	Ⅷb	B－3	Ⅳb	土器集中1	ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	灰褐	◎	○					礫	36051他		64
	440	深鉢	Ⅸa	B－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○		○	◎				36054他		54
	441	深鉢	－	B－3	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○		○			礫	36071		－
	442	深鉢	－	B－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○			○			礫	36070	底部網代痕	－
180	443	深鉢	Ⅷa	C－3	Ⅳb	土器集中2	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○		○				37473		64
	444	深鉢	Ⅷa	C－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○			礫	37490他		64
	445	深鉢	Ⅴb	C－3	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○		○	◎				37491		－
	446	深鉢	Ⅷ	C－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	褐灰	○	○		○				37461		－
	447	深鉢	－	C－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	明褐	○		○	○		○	礫	37467他	底部網代痕	－
	448	深鉢	－	C－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○			○				37483	底部網代痕	64
	449	深鉢	－	C－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	○	○		○				37477	底部網代痕	－
181	450	メンコ	Ⅷ	C－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		○		○		37457	メンコ未製品	－
	451	メンコ	－	C－3	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄褐	灰黄褐	○			○				37465		－
182	452	深鉢	Ⅷa	D－3	Ⅳb	土器集中3	ナデ	ナデ	黄灰	にぶい黄橙	○			○				－		－
	453	深鉢	Ⅷa	D－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰	にぶい黄橙	○	○		○				35890		－
183	454	深鉢	Ⅷa	D－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	黄灰	にぶい黄橙	○							35919		64
	455	深鉢	Ⅷa	D－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○			○				35892		64
	456	深鉢	Ⅷa	D－3	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	○			○				35899他		－
	457	深鉢	Ⅷa	D－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○			○				35851他		64
	458	深鉢	Ⅷa	D－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	灰黄	○	○			○			35926他		64
184	459	深鉢	Ⅷ	D－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	褐灰	○			○				35934		－
	460	深鉢	Ⅷ	D－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	赤褐	○			○				35909		－
	461	深鉢	－	D－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰	にぶい黄	○	○						35872		－
	462	深鉢	－	D－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい橙	黄灰	○	○		○				35870		－
	463	深鉢	Ⅷ	D－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	○		○	○				35869		64
185	464	深鉢	Ⅷa	D－3	Ⅳb	土器集中4	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	○			○				36972他		64
	465	深鉢	Ⅸa	D－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	◎	○		○				27640他		64
	466	メンコ	－	D－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○			○			38358		－
186	467	深鉢	Ⅶb	D－3	Ⅳb	土器集中5	貝殻条痕	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄橙	○			○				34665他		54
187	468	深鉢	Ⅵb	D－3	Ⅳb	土器集中6	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰黄褐	○							40449		64
	469	深鉢	Ⅵb	D－3	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	灰褐	○							40449		－
	470	深鉢	Ⅵa	C－4	Ⅳb	土器集中7	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○							31475他	年代測定試料	65
	471	メンコ	－	B－3	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	褐	灰黄褐	○							40447		－
188	472	深鉢	Ⅵb	D－4	Ⅳb	土器集中8	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○		○				25653他		65

第22表　土器集中土器観察表２

※器種欄の円盤状土製加工品はメンコと示す。

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
188	473	深鉢	Ⅵa	D－4	Ⅳb	土器集中8	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰褐	○	◎	○					25655他		65
	474	深鉢	Ⅵb	D－4	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	灰褐	○	◎						25654他		65
189	475	深鉢	Ⅵa	D－5	Ⅳb	土器集中9	貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	にぶい橙	○	○		○				25669		65
	476	深鉢	Ⅵa	D－5	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	褐	褐	○	○	○				礫	25718		65
	477	深鉢	Ⅵa	D－5	Ⅳb		ナデ	ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○			○	礫	25603他		65
	478	深鉢	Ⅴb	D－5	Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい赤褐	○	◎	○					25663他		65
	479	深鉢	Ⅵ	D－5	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○					礫	25602他		－
	480	メンコ	Ⅷ	D－5	Ⅳb		ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	○	○		○		○	礫	25671	メンコ未製品	－
190	481	深鉢	－	E－5	Ⅳb	土器集中10	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○				46060		－
	482	メンコ	－	E－5	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○					礫	－		－
	483	メンコ	Ⅵc	E－5	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○	◎				46094	指紋あり	65
	484	深鉢	Ⅵb	E－5	Ⅳb		ナデ	ナデ	明赤褐	橙	○	○				○		46088他		65
191	485	深鉢	Ⅵb	E－5	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	黒褐	橙	○		○	○			礫	46058他		54
	486	深鉢	Ⅵb	E－5	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐	褐灰	○		○	○			礫	46087		54
192	487	深鉢	Ⅸa	D－6	Ⅳb	土器集中11	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	暗灰黄	にぶい赤褐	○	○		○		○		44163		66
	488	深鉢	－	D－6	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい赤褐	○	○		○				44160他	底部網代痕	－
	489	深鉢	－	D－6	Ⅳb		貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	○				44169他		－
	490	深鉢	Ⅷa	C－7	Ⅳb	土器集中12	ナデ	ナデ	にぶい褐	褐灰	○	○	○	○				29446他		55
193	491	深鉢	Ⅵb	C－15	Ⅳb	土器集中13	貝殻条痕	貝殻条痕	灰黄褐	明褐	○							17662		－
	492	深鉢	Ⅷb	C－15	層土・Ⅳa		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	褐灰	赤褐	○	○	○			○	礫	6322他		66
	493	深鉢	Ⅷb	C－15	埋土		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	褐灰	にぶい赤褐	○	○				○		6301他		66
	494	深鉢	－	C－15	埋土		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	○	○		○				6312		－
	495	深鉢	－	C－15	Ⅳa		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○		○	○				－		－
	496	深鉢	－	C－15	埋土		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	赤褐	○	○	○			○		6290他		－
194	497	メンコ	－	C－15	埋土		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	にぶい褐	○		○	○				6334		－
	498	メンコ	－	C－15	Ⅳa		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	褐灰	○	○	○					－		－
195	499	深鉢	－	C－16	Ⅳb	土器集中14	工具ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○				14246		66
	500	深鉢	Ⅷc	C－16	層土・Ⅳb		ナデ	ナデ	明褐	明褐	○	○		○		○		7133他		55
	501	深鉢	－	C－16	埋土		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	○				12627		－
	502	深鉢	－	C－16	埋土		ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○	○		○		12602		66
	503	深鉢	－	C－16	層土・Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○		○		7138他		－
196	504	メンコ	－	C－16	埋土		ナデ	ナデ	橙	橙	○	○						12607		－
197	505	深鉢	Ⅷb	D－16	埋土	土器集中15	ナデ	ナデ	褐灰	灰黄褐	○		○	○		○		20313他		66
	506	深鉢	Ⅷa	D－16	層土・Ⅳb		貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○			◎			礫	6917他		55
	507	深鉢	Ⅵb	D－16	埋土		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	○	○	○	○				20332		66
	508	鉢	Ⅵb	D－16	埋土		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	○	○		○		○	礫	20321他		66
	509	台付皿脚	－	D－16	埋土		ナデ	ナデ	にぶい橙	暗灰黄	○			○		○		20346他		66
	510	鉢	Ⅵb	D－16	Ⅳb		ナデ	工具ナデ	橙	にぶい黄褐	○		○	○				9634		－
198	511	深鉢	－	D－16	埋土		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	○		○	○		○		20328		－
	512	深鉢	－	D－16	層土・Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○		○	◎				20315他	底部網代痕	－
199	513	深鉢	Ⅷa	D－16	Ⅳb	土器集中16	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	◎		○	◎				DKS5－04他	DKS5→DKS16	66
	514	深鉢	Ⅷb	D－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	暗灰黄	灰黄褐	○	○	○	○			礫	5638		66
200	515	深鉢	Ⅷb	D－16	Ⅳb	土器集中17	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○	○			礫	DKS4－12		－
	516	深鉢	Ⅵb	D－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい橙	○	○					礫	DKS4－21		66
	517	深鉢	Ⅺ	D－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	褐灰	○	○	○				礫	DKS4－39他		66
	518	深鉢	Ⅷa	D－16	Ⅳa		ナデ	ナデ	黒褐	明褐	○		○				礫	2638		－
	519	深鉢	Ⅷa	D－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい赤褐	○	○	○	◎				DKS4－34		66
	520	深鉢	Ⅷb	D－16	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	灰褐	○		○	○				DKS4－54	DKS4→DKS17	55
	521	深鉢	Ⅷ	D－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○	◎		○		DKS4－37		66
	522	深鉢	Ⅷ	D－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○		○	◎			礫	DKS4－29他		－
	523	深鉢	Ⅷ	D－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	黒褐	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		DKS4－04		66
	524	深鉢	Ⅷ	D－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	○	○	○					DKS4－03		－
	525	メンコ	－	D－16	Ⅳb		ナデ	ナデ	黄灰	黄褐	○	○	○	○		○	礫	DKS4－40		－

第23表　埋設土器観察表

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
203	526	深鉢	Ⅷb	B－3	Ⅳb	埋設土器1	ナデ	ナデ	明赤褐	明褐	○	○			○			43604他	搬入品か	55
	527	鉢	Ⅷc	B－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	明赤褐	にぶい赤褐	◎	○	○	○			礫	埋設3－031他	脚台を欠損	55
205	528	深鉢	－	B－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄	にぶい黄	◎	○		○				埋設3－046	埋設3→埋設1	－
	529	深鉢	－	B－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	にぶい黄	5Y4/1灰	◎	○						埋設3－002		－
	530	メンコ	－	B－3	Ⅳb		ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄褐	◎	○						埋設3－049		－
	531	メンコ	－	B－3	Ⅳb		ナデ	ナデ	黄灰	にぶい黄	◎	○	○			○		埋設3－149		－
	532	深鉢	－	D－3	Ⅵ	埋設土器2	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○		◎				51962		55
206	533	深鉢	Ⅵb	C-15·D-3	埋土・Ⅵ	埋設土器3	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○		○				20000他		55

第24表　立石遺構土器観察表

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	文様・器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
211	534	深鉢	Ⅷb	D－7	Ⅳb	立石遺構10	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄褐	灰黄褐	○	○	○	○	○			－		67
	535	深鉢	Ⅷa	D－7	－		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○			礫	45536	年代測定試料	67
218	536	深鉢	－	E－8	Ⅳb	立石遺構21	ナデ	マメツ	にぶい褐	にぶい黄橙	○		○	○	○			－		－
	537	メンコ	Ⅵb	E－8	Ⅳb		ナデ	ナデ	黄灰	暗灰黄	○	○		○				－	メンコ欠損品	67

第25表　竪穴建物跡石器観察表１

※石皿備考①摩耗面の最大深さ②主の掻き出し口の深さ③左側の掻き出し口の深さ［単位：cm］

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考①②③（cm）	写真図版
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
47	S002	竪穴建物跡１	C－3	－	スクレイパー	－	7.56	8.30	2.93	137.4	砂岩	－	45450他	－	
	S003	竪穴建物跡１	C－3	－	剥片	－	4.28	3.24	1.90	26.6	石英	－	45452	－	
	S004	竪穴建物跡１	－	－	打製石斧	Ⅳ	6.63	4.76	1.40	49.9	ホルンフェルス	－	一括	－	
	S005	竪穴建物跡１	C－4	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	6.44	3.63	2.46	76.7	ホルンフェルス	－	42045	－	
	S006	竪穴建物跡１	C－4	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	7.77	7.66	2.60	203.7	安山岩	安山岩B	42056	－	69
	S007	竪穴建物跡１	－	－	磨・敲石	Ⅵ	(5.48)	(4.14)	(3.30)	82.8	安山岩	安山岩B	一括	－	Ⅵ
	S008	竪穴建物跡１	C－4	Ⅳb	石皿	Ⅵ	15.80	26.00	11.20	5800.0	花崗岩	－	45448	－	
49	S009	竪穴建物跡２	D－4	－	磨・敲石	Ⅰ	7.44	6.41	4.20	226.2	安山岩	安山岩B	41675	－	
	S010	竪穴建物跡２	D－4	－	磨・敲石	Ⅰ	10.53	7.37	6.40	730.0	ホルンフェルス	－	41643	－	
	S011	竪穴建物跡２	D－4	－	磨・敲石	Ⅰ	6.93	6.97	4.50	314.2	安山岩	安山岩B	41636	－	
	S012	竪穴建物跡２	D－4	－	磨・敲石	Ⅰ	5.36	5.33	2.00	71.4	安山岩	安山岩B	41629	－	
	S013	竪穴建物跡２	D－4	－	軽石加工品	－	4.07	4.28	2.16	7.1	軽石	－	41677	－	69
52	S014	竪穴建物跡３	E－3	－	磨・敲石	Ⅱa	(11.76)	(6.34)	(5.04)	425.5	砂岩	－	38340	－	
54	S015	竪穴建物跡４	E－3	Ⅳ	二次加工剥片	Ⅴ	2.00	1.50	0.50	1.1	黒曜石	黒曜石C	－	－	68
	S016	竪穴建物跡４	E－3	－	磨・敲石	Ⅱa	8.74	(7.88)	(5.26)	441.5	安山岩	安山岩B	42251	－	
56	S017	竪穴建物跡５	－	－	磨・敲石	Ⅰ	7.67	4.49	3.62	174.3	安山岩	安山岩B	一括	－	
	S018	竪穴建物跡５	－	－	磨・敲石	Ⅰ	8.21	5.08	4.30	267.9	安山岩	安山岩B	一括	－	
	S019	竪穴建物跡５	E－3	－	磨・敲石	Ⅰ	5.75	6.74	6.11	278.1	安山岩	安山岩B	45761	－	
59	S020	竪穴建物跡６	E－3	－	磨製石斧	Ⅵ	6.77	4.86	1.44	64.0	ホルンフェルス	－	46635	－	68
62	S021	竪穴建物跡７	E－3	－	磨・敲石	Ⅰ	8.67	7.81	4.29	410.8	安山岩	安山岩B	45307	－	
	S022	竪穴建物跡７	E－3	－	磨・敲石	Ⅰ	10.77	9.48	3.41	391.0	安山岩	安山岩B	45367	－	69
	S023	竪穴建物跡７	E－3	－	磨・敲石	Ⅰ	9.61	8.47	8.00	915.0	安山岩	安山岩B	45362	－	
	S024	竪穴建物跡７	E－3	－	石皿	Ⅳ	25.84	30.77	6.35	6500.0	花崗岩	－	45366	－	
64	S025	竪穴建物跡８	－	－	磨製石斧	Ⅵ	5.69	4.55	1.80	63.0	ホルンフェルス	－	一括	－	
	S026	竪穴建物跡８	F－3	－	磨製石斧	Ⅵ	6.06	5.42	1.16	40.6	ホルンフェルス	－	44980	－	
	S027	竪穴建物跡８	F－3	－	磨製石斧	Ⅵ	7.77	5.19	2.35	129.5	砂岩	－	44945	－	68
65	S028	竪穴建物跡８	F－3	－	磨・敲石	Ⅰ	13.29	11.16	8.95	1367.0	安山岩	安山岩B	44982	－	69
	S029	竪穴建物跡８	F－3	－	磨・敲石	Ⅰ	6.74	5.83	4.10	179.5	安山岩	安山岩B	44970	－	
	S030	竪穴建物跡８	F－3	－	磨・敲石	Ⅱa	10.44	8.32	4.60	656.8	ホルンフェルス	－	44961	－	69
	S031	竪穴建物跡８	F－3	－	磨・敲石	Ⅰ	11.02	9.24	5.70	809.1	安山岩	安山岩B	44974	－	
	S032	竪穴建物跡８	－	－	磨・敲石	Ⅰ	11.60	7.36	2.60	268.3	安山岩	安山岩B	一括	－	
	S033	竪穴建物跡８	F－3	－	磨・敲石	Ⅰ	(6.87)	(4.62)	5.08	181.3	安山岩	安山岩B	44979	赤色顔料付着	
	S034	竪穴建物跡８	F－3	－	磨・敲石	Ⅰ	(6.27)	(5.78)	(4.30)	137.5	安山岩	安山岩B	44968	－	
	S035	竪穴建物跡８	F－3	－	磨・敲石	Ⅰ	(4.62)	6.93	4.55	175.7	安山岩	安山岩B	44944	－	
66	S036	竪穴建物跡９	－	－	原石	－	4.72	2.70	2.30	36.0	石英	－	一括	－	
	S037	竪穴建物跡９	F－3	－	磨・敲石	Ⅰ	9.39	6.47	2.90	208.2	安山岩	安山岩B	46475	－	
67	S038	竪穴建物跡10	E－4	－	スクレイパー	－	5.47	8.48	3.40	151.1	ホルンフェルス	－	43439	－	68
	S039	竪穴建物跡10	E－4	－	スクレイパー	－	5.52	9.52	3.31	129.1	ホルンフェルス	－	43438	－	68
68	S040	竪穴建物跡10	E－4	－	磨・敲石	Ⅰ	6.08	4.16	2.70	87.7	安山岩	安山岩B	43437	－	
	S041	竪穴建物跡10	E－4	－	磨・敲石	Ⅰ	7.91	6.64	5.20	352.9	安山岩	安山岩B	43435	－	
	S042	竪穴建物跡10	E－4	Ⅴ	石皿	Ⅰa	34.60	24.90	16.70	19800.0	花崗岩	－	43428	①1.2	116
70	S043	竪穴建物跡11	E－4	－	磨・敲石	Ⅰ	5.93	6.24	4.40	189.5	安山岩	安山岩B	45640	－	
73	S044	竪穴建物跡12	F－4	－	打製石斧	Ⅳ	(6.88)	4.26	2.27	97.0	ホルンフェルス	－	44545	－	
	S045	竪穴建物跡12	F－4	－	磨・敲石	Ⅱb	11.55	9.62	4.74	847.0	砂岩	－	44544	－	69
	S046	竪穴建物跡12	F－4	－	磨・敲石	Ⅱb	10.05	7.88	3.85	558.0	安山岩	安山岩B	44826	－	69
	S047	竪穴建物跡12	E－4	Ⅴ	石皿	Ⅳ	52.40	35.70	11.30	36100.0	花崗岩	－	44837	①1.15	116
76	S048	竪穴建物跡13	F－7	－	使用痕剥片	－	3.56	7.06	1.00	27.3	安山岩	安山岩C	45826	－	
	S049	竪穴建物跡13	F－7	－	磨製石斧	Ⅲ	6.58	6.06	2.80	136.8	ホルンフェルス	－	45821	－	68
	S050	竪穴建物跡13	F－7	－	磨製石斧	Ⅵ	5.07	4.00	2.90	79.6	ホルンフェルス	－	45830	－	68
	S051	竪穴建物跡13	－	－	磨・敲石	Ⅰ	7.54	6.20	3.90	212.0	安山岩	安山岩B	一括	－	
	S052	竪穴建物跡13	F－7	－	磨・敲石	Ⅰ	(3.82)	(5.54)	(4.20)	97.4	安山岩	安山岩B	45829	－	
	S053	竪穴建物跡13	F－7	－	磨・敲石	Ⅵ	6.14	(6.18)	(4.20)	241.1	安山岩	安山岩B	45823	－	
	S054	竪穴建物跡13	F－7	－	石錘	Ⅰa	4.95	7.35	2.00	96.1	安山岩	安山岩B	45832	－	69
80	S055	竪穴建物跡14	C－9	－	使用痕剥片	－	4.20	2.88	0.55	6.2	頁岩	頁岩B	45671	－	68
	S056	竪穴建物跡14	C－9	－	磨製石斧	Ⅵ	5.52	6.81	2.20	119.2	ホルンフェルス	－	36503	－	68
	S057	竪穴建物跡14	C－9	－	使用痕剥片	－	9.58	5.50	2.01	110.2	砂岩	－	43112	－	
	S058	竪穴建物跡14	C－9	－	石核	－	3.02	4.71	3.48	48.9	黒曜石	黒曜石A	43134	－	
	S059	竪穴建物跡14	C－9	Ⅳb	石皿	Ⅰa	29.60	25.90	12.00	10200.0	花崗岩	－	43297	－	
81	S060	竪穴建物跡15	D－9	－	スクレイパー	－	3.34	6.03	0.60	10.4	安山岩	安山岩C	一括	－	68
84	S061	竪穴建物跡16	E－9・10	－	使用痕剥片	－	2.98	7.65	0.80	16.9	頁岩	頁岩B	一括	－	68
	S062	竪穴建物跡16	E－9・10	－	使用痕剥片	－	3.70	7.09	1.00	30.1	安山岩	安山岩C	一括	－	68
	S063	竪穴建物跡16	E－9・10	－	使用痕剥片	－	5.41	7.53	1.01	12.8	安山岩	安山岩C	一括	－	68

第26表　竪穴建物跡石器観察表２

※石皿備考①摩耗面の最大深さ②主の掻き出し口の深さ③左側の掻き出し口の深さ［単位：cm］

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考①②③(cm)	写真図版
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
84	S064	竪穴建物跡16	－	－	使用痕剥片	－	4.18	5.94	1.62	33.5	頁岩	頁岩B	一括	－	68
	S065	竪穴建物跡16	E－9	－	打製石斧	Ⅳ	(11.88)	(7.27)	(3.56)	300.8	ホルンフェルス	－	46116	－	
85	S066	竪穴建物跡16	－	－	打製石斧	Ⅳ	7.25	7.45	3.51	233.2	ホルンフェルス	－	一括	－	
	S067	竪穴建物跡16	E－10	－	磨製石斧	Ⅱ	10.92	5.68	3.08	231.4	ホルンフェルス	－	46103	－	68
	S068	竪穴建物跡16	E－10	－	磨･敲石	Ⅵ	(6.91)	(7.30)	4.00	238.3	安山岩	安山岩B	46107	－	
	S069	竪穴建物跡16	－	－	石錘	Ⅰd	7.07	(4.10)	1.70	70.6	安山岩	安山岩B	一括	－	
86	S070	竪穴建物跡17	E－9	－	使用痕剥片	－	4.46	2.66	0.46	4.9	頁岩	頁岩B	一括	－	68
	S071	竪穴建物跡17	E－9	－	使用痕剥片	－	2.31	5.56	0.47	5.0	頁岩	頁岩B	一括	－	68
88	S072	竪穴建物跡19	C・D－10	－	磨･敲石	Ⅳ	(10.80)	(6.60)	7.55	719.0	花崗岩	－	一括	－	
	S073	竪穴建物跡19	C・D－10	－	磨･敲石	Ⅵ	(5.45)	(5.87)	(4.10)	141.9	ホルンフェルス	－	一括	－	
91	S074	竪穴建物跡22	D－10	埋土	使用痕剥片	－	4.10	5.98	1.10	24.4	安山岩	安山岩C	一括	－	68
	S075	竪穴建物跡22	E－10	－	磨･敲石	Ⅱa	6.72	5.68	2.55	159.9	安山岩	安山岩B	40190	－	
	S076	竪穴建物跡22	E－10	－	磨･敲石	Ⅱa	(6.24)	(8.34)	4.40	294.6	安山岩	安山岩B	40189	－	
93	S077	竪穴建物跡23	C－15	埋土	使用痕剥片	－	4.63	6.49	4.91	72.3	頁岩	頁岩B	17066	－	
	S078	竪穴建物跡23	C－15	－	石核	－	3.97	6.59	4.60	57.4	頁岩	頁岩B	一括	－	
	S079	竪穴建物跡23	C－15	埋土	磨製石斧	Ⅵ	(5.56)	(4.55)	(2.87)	73.4	ホルンフェルス	－	20211	－	
	S080	竪穴建物跡23	C－15	－	使用痕剥片	－	6.22	4.82	1.65	61.5	ホルンフェルス	－	一括	－	
	S081	竪穴建物跡23	C－15	－	礫器	－	9.04	8.90	2.74	282.2	ホルンフェルス	－	17077	－	68
	S082	竪穴建物跡23	C－15	埋土	磨･敲石	Ⅱa	4.87	4.40	2.00	62.0	安山岩	安山岩B	17068	－	
94	S083	竪穴建物跡23	C－15	埋土	磨･敲石	Ⅵ	6.12	6.94	4.30	203.4	安山岩	安山岩B	17079	－	
	S084	竪穴建物跡23	C－15	－	磨･敲石	Ⅵ	5.63	8.46	5.28	351.1	安山岩	安山岩B	一括	－	
	S085	竪穴建物跡23	C－15	埋土	石皿	Ⅳ	21.87	(9.94)	(10.55)	2121.6	砂岩	－	20215	－	
	S086	竪穴建物跡23	C－15	－	擦切石器	－	(4.70)	(3.90)	0.70	15.0	砂岩	－	一括	－	
96	S087	竪穴建物跡24	E－16	－	異形石器	－	1.22	2.58	0.43	0.6	安山岩	安山岩A	15092	－	68
	S088	竪穴建物跡24	E－16	埋土	二次加工剥片	－	4.25	6.27	1.19	38.7	ホルンフェルス	－	15107	－	
	S089	竪穴建物跡24	E－16	埋土	二次加工剥片	－	5.95	5.59	1.55	53.7	ホルンフェルス	－	15104	－	
	S090	竪穴建物跡24	E－16	埋土	使用痕剥片	－	(4.99)	(3.89)	0.59	11.6	安山岩	安山岩C	15090	－	
	S091	竪穴建物跡24	E－16	埋土	磨･敲石	Ⅰ	5.98	4.91	4.10	163.8	安山岩	安山岩B	15113	－	
	S092	竪穴建物跡24	E－16	埋土	磨･敲石	Ⅵ	7.67	4.25	1.90	75.1	砂岩	－	15143	－	
	S093	竪穴建物跡24	E－16	埋土	磨･敲石	Ⅵ	(9.30)	*7.1	(5.10)	330.6	安山岩	安山岩B	15098	－	

第27表　土坑石器観察表１

※石皿備考①摩耗面の最大深さ②主の掻き出し口の深さ③左側の掻き出し口の深さ［単位：cm］

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考①②③(cm)	写真図版
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
102	S094	土坑11	G－3	V	石皿	Ⅰb	36.70	33.00	12.00	18600.0	花崗岩	－	46478	①3.1②0.5③0.9	116
104	S095	土坑12	C－4	－	礫器	－	7.46	10.61	5.76	460.0	砂岩	－	46668	－	
106	S096	土坑13	E－4	－	磨・敲石	Ⅰ	8.99	8.08	5.92	579.5	砂岩	－	42772	－	
	S097	土坑13	E－4	－	磨・敲石	Ⅵ	(4.59)	5.16	4.50	120.1	安山岩	安山岩B	42767	－	
	S098	土坑13	D－4	－	磨・敲石	Ⅱa	(4.60)	(6.40)	3.50	148.4	安山岩	安山岩B	42769	－	
112	S099	土坑17	－	－	磨・敲石	Ⅰ	5.44	5.14	4.10	167.5	ホルンフェルス	－	一括	－	
	S100	土坑17	B－6	－	磨・敲石	Ⅰ	8.38	(4.90)	(4.70)	232.6	安山岩	安山岩B	37451	－	
	S101	土坑17	B・C－6	－	打製石斧	Ⅳ	8.31	(4.25)	2.47	86.7	ホルンフェルス	－	一括	－	
113	S102	土坑18	C－6	－	磨・敲石	Ⅰ	9.33	6.60	3.59	287.0	ホルンフェルス	－	46743	－	
	S103	土坑18	C－6	－	磨・敲石	Ⅱ	5.80	11.35	5.81	495.0	砂岩	－	46751	－	
	S104	土坑18	C－6	－	磨・敲石	Ⅳ	9.84	5.39	3.98	210.4	砂岩	－	46746	－	
114	S105	土坑20	F－3	－	石錘	Ⅰa	6.39	4.92	3.00	121.6	安山岩	安山岩B	46466	－	
117	S106	土坑26	D－7	－	磨・敲石	Ⅱb	(7.53)	(6.26)	3.35	130.2	安山岩	安山岩B	SK234－12	－	
120	S107	土坑30	C－8	－	打製石斧	Ⅰ	(10.18)	4.54	2.48	116.6	ホルンフェルス	－	46181	－	68
	S108	土坑30	C－8	－	磨・敲石	Ⅰ	11.87	10.40	4.30	630.6	安山岩	安山岩B	46671	－	
	S109	土坑30	C－8	Ⅳb	石皿	Ⅲ	37.40	(21.50)	15.00	18700.0	花崗岩	－	46729	－	
	S110	土坑30	C－8	Ⅳb	石皿	Ⅲ	(27.40)	(18.40)	(9.00)	4600.0	花崗岩	－	46728	－	
122	S111	土坑32	－	－	磨・敲石	Ⅰ	6.74	4.64	3.65	151.1	安山岩	安山岩B	IBS024－11	－	
	S112	土坑32	－	－	磨・敲石	Ⅴa	11.57	7.17	5.49	610.5	石英	－	IBS024－06	－	69
	S113	土坑32	－	－	磨・敲石	Ⅰ	12.69	14.00	4.88	1229.6	安山岩	安山岩B	IBS024－10	－	
123	S114	土坑33	E－8	埋土	磨・敲石	Ⅰ	(8.10)	(4.80)	(4.30)	209.4	安山岩	安山岩B	45420	－	
124	S115	土坑34	E－8	－	磨・敲石	Ⅴa	(9.21)	(3.67)	1.84	69.8	砂岩	－	46536	－	
	S116	土坑34	E－8	Ⅳb	石皿	Ⅰa	36.30	30.00	14.40	19500.0	花崗岩	－	46535	①4.7②1.0	116
126	S117	土坑35	B－9	Ⅳb	石皿	Ⅰa	34.00	24.20	12.00	11600.0	花崗岩	－	45737	①(2.5)	116
	S118	土坑35	B－9	Ⅳb	石皿	Ⅵ	25.70	22.10	12.90	9700.0	花崗岩	－	45736	－	
	S119	土坑35	B－9	－	石皿	Ⅵ	27.70	27.10	8.20	6600.0	花崗岩	－	45735	－	
129	S120	土坑41	C－11	V	石皿	Ⅵ	24.60	27.50	14.60	13500.0	花崗岩	－	22149	－	

第28表　土坑石器観察表２

※石皿備考①摩耗面の最大深さ②主の掻き出し口の深さ③左側の掻き出し口の深さ［単位：cm］

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考①②③(cm)	写真図版
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
129	S121	土坑41	C－11	－	石皿	Ⅵ	22.00	31.60	12.80	11700.0	花崗岩	－	22145	－	
	S122	土坑41	C－11	－	石皿	Ⅵ	16.60	27.30	11.20	6200.0	花崗岩	－	22151	－	
130	S123	土坑42	E－11	埋土	磨･敲石	Ⅵ	(6.20)	(3.46)	(3.80)	85.0	安山岩	安山岩B	一括	－	
	S124	土坑44	F－12	Ⅳb	石皿	Ⅳ	(27.40)	29.50	7.00	7100.0	花崗岩	－	24737	－	
131	S125	土坑46	C－14	埋土	使用痕剥片	－	7.75	6.36	1.55	63.9	砂岩	－	15440	－	68
133	S126	土坑48	D－15	Ⅳ	石錘	Ⅰa	5.19	5.19	1.45	76.0	ホルンフェルス	－	17025	－	69
134	S127	土坑49	D－15	Ⅳ	磨製石斧	Ⅵ	6.90	8.10	2.10	151.4	ホルンフェルス	－	17046	－	
	S128	土坑49	D－15	Ⅳ	使用痕剥片	－	8.10	5.40	0.80	29.7	頁岩	頁岩B	17052	－	68
137	S129	土坑50	B－16	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	6.70	5.30	1.20	37.4	頁岩	頁岩B	－	－	68
	S130	土坑50	B－16	Ⅳb	使用痕剥片	－	6.30	3.80	1.10	21.6	頁岩	頁岩B	－	－	68
139	S131	土坑54	F－25	埋土	石鏃	Ⅱ	1.74	1.19	0.20	0.3	頁岩	頁岩B	－	－	68

第29表　集石石器観察表１

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考①②③(cm)	写真図版
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
141	S132	集石５	B－3	－	磨・敲石	Ⅵ	(5.37)	(3.39)	(3.65)	58.6	安山岩	安山岩B	38248	－	
	S133	集石６	D－3	Ⅳb	磨・敲石	Ⅵ	8.65	5.75	3.30	204.6	砂岩	－	41521	－	
145	S134	集石14	C－6	－	磨・敲石	Ⅱa	(9.98)	10.86	6.66	1067.0	砂岩	－	29008	－	
	S135	集石14	C－6	Ⅳb	石皿	Ⅳ	39.00	(20.00)	8.60	7500.0	花崗岩	－	29007	－	
146	S136	集石15	C－6	－	石錘	Ⅰa	7.51	8.40	2.74	233.1	砂岩	－	44498	－	69
147	S137	集石18	D－6	Ⅳb	石皿	Ⅲ	34.20	(23.10)	8.90	8200.0	花崗岩	－	44941	①(4.0)	
149	S138	集石23	E－6・7	－	磨製石斧	Ⅱ	11.87	5.96	3.86	445.3	ホルンフェルス	－	SS118－47	－	68
150	S139	集石24	E－6	－	礫器	－	8.22	10.56	3.07	310.3	ホルンフェルス	－	44845	－	68
	S140	集石25	E－6	－	磨・敲石	Ⅱa	10.79	9.97	5.47	972.0	花崗岩	－	31817	－	69
151	S141	集石27	C－7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅴa	10.45	7.54	3.39	391.4	砂岩	－	SS90－01	－	69
152	S142	集石28	C－7	－	磨・敲石	Ⅱa	9.22	9.09	5.40	653.0	花崗岩	－	45600	－	
	S143	集石28	C－7	Ⅳb	石皿	Ⅰb	(26.10)	35.60	13.40	14500.0	花崗岩	－	44932	①(3.3)②0.85③0.65	
	S144	集石30	C－7	－	磨・敲石	Ⅱa	11.48	10.18	5.65	1006.0	花崗岩	－	29366	－	69
153	S145	集石31	C－7	－	石皿	Ⅵ	15.70	22.60	12.50	3850.0	凝灰岩	－	44391	－	
154	S146	集石34	F－7	－	軽石加工品	－	22.32	18.24	6.91	1052.0	軽石	－	46855	－	69
	S147	集石34	F－7	Ⅵ	石皿	Ⅳ	32.97	27.70	16.50	15800.0	砂岩	－	45478	－	116
155	S148	集石35	B－8	－	磨・敲石	Ⅱa	10.56	9.80	5.23	721.0	砂岩	－	45066	－	69
156	S149	集石36	C－8	－	磨・敲石	Ⅰ	(10.05)	6.25	5.75	469.8	安山岩	安山岩B	26920	－	
	S150	集石36	C－8	Ⅳa	石皿	Ⅱ	(22.50)	(14.10)	7.20	2015.0	砂岩	－	26918	－	
158	S151	集石40	C－8	－	磨・敲石	Ⅱa	10.53	9.49	5.17	812.0	砂岩	－	29103	－	69
160	S152	集石41	D－8	Ⅵ	磨製石斧	Ⅵ	8.05	6.12	1.72	115.2	砂岩	－	46372	－	68
	S153	集石41	E－8	Ⅵ	石錘	Ⅰc	6.95	6.86	3.13	182.2	安山岩	安山岩B	46379	－	69
	S154	集石41	D－8	Ⅵ	石皿	Ⅰb	36.30	27.70	10.70	14300.0	花崗岩	－	46356	①3.5②0.85③0.9	116
	S155	集石41	D－8	Ⅵ	石皿	Ⅲ	(23.30)	22.40	6.10	5050.0	花崗岩	－	46369	①(1.9)	
	S156	集石41	D－8	Ⅵ	石皿	Ⅲ	23.40	20.00	6.60	4020.0	花崗岩	－	46361	－	
	S157	集石41	D－8	Ⅵ	石皿	Ⅵ	15.60	25.30	6.70	3420.0	花崗岩	－	46357	－	
161	S158	集石42	E－8	Ⅵ	磨・敲石	Ⅱa	10.68	9.55	5.22	838.0	花崗岩	－	45883	－	
	S159	集石43	E－8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	7.61	6.68	4.20	287.5	安山岩	安山岩B	31818	－	
	S160	集石43	E－8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	9.41	6.96	5.77	535.4	安山岩	安山岩B	31827	－	
162	S161	集石44	E－8	Ⅳb	石皿	Ⅰb	(23.80)	(26.70)	9.90	7600.0	花崗岩	－	23150	－	
163	S162	集石45	C－9	－	磨・敲石	Ⅴa	12.25	7.79	6.65	854.0	ホルンフェルス	－	44318	－	69
	S163	集石45	C－9	－	石皿	Ⅰa	25.70	26.70	12.40	10240.0	花崗岩	－	44319	－	
164	S164	集石48	B－10	－	磨・敲石	Ⅱa	11.14	10.31	5.04	879.1	砂岩	－	45273	－	69
	S165	集石48	B－10	Ⅳb	石皿	Ⅰa	29.80	32.00	11.00	16200.0	花崗岩	－	45271	①（3.2）③0.8	
168	S166	集石53	C－10	－	磨・敲石	Ⅰ	9.10	6.29	4.19	347.7	安山岩	安山岩B	23081	－	69
	S167	集石54	C－10	－	石皿	Ⅵ	17.00	21.20	8.40	3060.0	凝灰岩	－	32661	－	
169	S168	集石56	C－10	Ⅳb	石皿	Ⅲ	44.70	29.30	9.50	16200.0	花崗岩	－	32656	①3.1	116
170	S169	集石59	C－10	－	磨・敲石	Ⅱb	13.50	16.38	5.41	1536.5	砂岩	－	45423	－	69
171	S170	集石60	D－10	Ⅳb	石皿	Ⅰa	(26.80)	30.80	12.10	13400.0	花崗岩	－	27556	赤色顔料付着	
	S171	集石60	D－10	－	軽石加工品	－	37.09	30.60	11.70	3900.0	軽石	－	27559	①5.2	117
172	S172	集石62	C－11	－	石皿	Ⅳ	(20.06)	(18.57)	(10.50)	4800.0	砂岩	－	25308	－	
	S173	集石63	C－11	Ⅵ	石皿	Ⅱ	32.50	(14.80)	8.50	3100.0	凝灰岩	－	25388	－	
173	S174	集石64	C－11	－	砥石	－	15.74	17.27	10.10	6350.0	砂岩	－	25344		69
	S175	集石64	C－11	－	石皿	Ⅵ	(20.83)	(19.74)	(10.55)	3100.0	安山岩	安山岩B	25343	－	
174	S176	集石65	C－11	－	磨・敲石	Ⅱa	10.50	9.74	5.68	873.0	砂岩	－	25180	－	69
	S177	集石65	C－11	－	砥石	－	19.90	15.00	9.00	3000.0	砂岩	－	25171	－	69

第30表　集石石器観察表２

※石皿備考①摩耗面の最大深さ②主の掻き出し口の深さ③左側の掻き出し口の深さ［単位：cm］

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考①②③(cm)	写真図版
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
174	S178	集石65	C－11	－	石皿	Ⅱ	(14.12)	(25.65)	(7.30)	2500.0	凝灰岩	－	25172	①1.5	
175	S179	集石68	C－12	Ⅳa	磨・敲石	Ⅲa	12.73	11.38	5.24	1035.0	花崗岩	－	SS4－02	－	
	S180	集石69	C－12	Ⅳa	砥石	－	18.95	9.69	6.95	1507.0	砂岩	－	SS6－03	－	69
176	S181	集石70	D－12	Ⅳb	石皿	Ⅳ	39.40	29.10	9.80	15000.0	安山岩	安山岩B	21052他	44936と接合	
177	S182	集石71	C－14	－	磨・敲石	Ⅲb	7.65	8.39	6.25	529.0	砂岩	－	16446	－	

第31表　土器集中石器観察表

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考①②③(cm)	写真図版
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
181	S183	土器集中02	C－3	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	(11.10)	(7.90)	(4.80)	463.3	安山岩	安山岩B	37480	－	
186	S184	土器集中05	D－3	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	7.81	6.75	4.87	351.7	安山岩	安山岩B	34672	－	69
194	S185	土器集中13	C－15	Ⅳa	使用痕剥片	－	8.68	7.10	1.61	84.1	安山岩	安山岩C	6332	－	68
	S186	土器集中13	C－15	埋土	軽石加工品	－	41.30	25.80	13.10	3500.0	軽石	－	6329	①6.4	117
196	S187	土器集中14	C－16	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	8.68	6.97	3.89	375.6	ホルンフェルス	－	12643	－	68
198	S188	土器集中15	D－16	埋土	軽石加工品	－	7.14	7.00	5.18	57.4	軽石	－	20306	－	69
201	S189	土器集中17	D－16	Ⅳb	使用痕剥片	－	5.73	4.70	0.65	15.5	安山岩	安山岩C	DKS004－47	－	
	S190	土器集中17	D－16	Ⅳb	使用痕剥片	－	7.96	6.21	1.00	43.6	安山岩	安山岩C	DKS004－27	－	

第32表　立石遺構石器観察表

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考①②③(cm)	写真図版
							長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
207	S191	立石遺構３	C－6	Ⅳb	石皿	Ⅰb	36.30	28.60	11.70	10100.0	花崗岩	－	46438	①(3.0)③0.8	
208	S192	立石遺構５	C－6	Ⅳb	石皿	Ⅰa	(22.80)	22.30	7.90	5100.0	花崗岩	－	46437	①1.2②0.5	
209	S193	立石遺構６	B－8	Ⅳb	石皿	Ⅲ	43.30	(21.10)	13.60	16900.0	花崗岩	－	54865	①5.0	70
	S194	立石遺構７	C－7	Ⅳb	石皿	Ⅵ	19.60	14.70	9.90	3300.0	花崗岩	－	46427	①(4.7)	
210	S195	立石遺構８	C－7	Ⅳb	石皿	Ⅳ	(19.60)	(19.10)	8.90	4900.0	花崗岩	－	46426	①(0.35)	
211	S196	立石遺構10	D－7	Ⅳb	石皿	Ⅵ	(25.80)	(26.30)	12.60	9600.0	花崗岩	－	45537	①(4.0)	
212	S197	立石遺構10	D－7	Ⅳb	軽石加工品	－	11.74	12.06	5.29	163.9	軽石	－	45538	赤色顔料付着	69
213	S198	立石遺構11	D－7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	9.86	7.04	5.70	513.6	砂岩	－	45905	－	70
	S199	立石遺構11	D－7	Ⅳb	石皿	Ⅰa	35.60	27.50	12.70	10500.0	安山岩	安山岩B	45904	①0.7	70
214	S200	立石遺構12	D－7	Ⅳb	石皿	Ⅳ	(23.70)	(27.40)	7.70	6900.0	花崗岩	－	46241	①0.2	
	S201	立石遺構13	E－7	Ⅳb	石皿	Ⅰb	36.00	28.90	10.30	15100.0	花崗岩	－	45925	①3.2②0.9③0.5	70
215	S202	立石遺構14	E－7	Ⅳb	石皿	Ⅰa	29.00	20.50	9.20	6000.0	花崗岩	－	46118	①0.7	
	S203	立石遺構15	E－7	Ⅵ	石皿	Ⅰa	(37.80)	34.80	10.10	18500.0	花崗岩	－	46156	①3.9	70
	S204	立石遺構16	F－7	Ⅳb	石皿	Ⅵ	(21.70)	(20.50)	8.50	3900.0	花崗岩	－	45836	①(2.4)	
216	S205	立石遺構17	B－7	Ⅳb	石皿	Ⅵ	15.40	23.10	9.00	3900.0	安山岩	安山岩B	SK237－01	①(1.8)	
217	S206	立石遺構18	C－8	Ⅳb	石皿	Ⅵ	18.50	24.00	10.60	5400.0	花崗岩	－	45726	①(2.0)	
	S207	立石遺構19	C－8	Ⅳb	石皿	Ⅲ	28.80	(10.70)	8.90	3200.0	安山岩	安山岩B	46384	①(1.8)	
218	S208	立石遺構20	D－8	Ⅳb	石皿	Ⅵ	(24.30)	(22.60)	11.30	7600.0	花崗岩	－	46117	①(2.2)	
	S209	立石遺構21	E－8	Ⅳb	石皿	Ⅱ	(33.80)	(40.00)	17.20	21700.0	花崗岩	－	45331	①5.9	70
219	S210	立石遺構22	E－8	Ⅳb	石皿	Ⅰa	37.90	(21.50)	11.90	11200.0	花崗岩	－	46155	①(3.0)	70
	S211	立石遺構23	F－8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	(7.35)	(9.62)	4.85	407.8	安山岩	安山岩B	46425	－	70
	S212	立石遺構23	F－8	Ⅳb	石皿	Ⅳ	29.80	(25.40)	5.10	4000.0	花崗岩	－	46424	①(0.7)	70
220	S213	立石遺構24	F－8	Ⅳb	石皿	Ⅲ	20.20	16.50	10.10	4600.0	花崗岩	－	29549	①(1.65)	
	S214	立石遺構25	F－8	Ⅳb	石皿	Ⅳ	23.80	18.80	8.80	5500.0	花崗岩	－	45885	－	
221	S215	立石遺構26	B－9	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	12.17	10.21	5.25	975.3	砂岩	－	45748	－	70
	S216	立石遺構26	E－9	Ⅳb	石皿	Ⅲ	(23.90)	29.80	11.80	12000.0	花崗岩	－	45332	①4.6	70
222	S217	立石遺構27	B－9	Ⅳb	石皿	Ⅵ	22.70	18.40	12.40	7500.0	花崗岩	－	SK236－01	①(2.2)	
223	S218	立石遺構29	B－9	Ⅳb	石皿	Ⅰb	46.30	32.90	9.90	19800.0	花崗岩	－	45738	①6.5②1.0③1.3	70
224	S219	立石遺構30	C－9	Ⅳb	石皿	Ⅵ	27.10	29.00	11.50	9600.0	砂岩	－	45807	①(2.6)	70
225	S220	立石遺構31	F－9	Ⅳb	石皿	Ⅵ	14.60	17.60	11.10	3500.0	花崗岩	－	SK232－01	－	
	S221	立石遺構32	B－16	Ⅳb	石皿	Ⅲ	37.60	37.90	11.50	24200.0	花崗岩	－	20901	①(2.0)	70
	S222	立石遺構32	B－16	Ⅳb	石皿	Ⅰb	(35.20)	31.80	9.70	12900.0	花崗岩	－	20902	①3.3③1.5	70

第33表　遺構番号新旧対応表

縄文時代前中期遺構

	新遺構名	旧遺構番号
土坑	土坑１	土坑162
	土坑２	土坑133
	土坑３	土坑174
	土坑４	土坑189
	土坑５	土坑222
	土坑６	土坑224
集石	集石１	集石13
	集石２	集石89
	集石３	集石95
	集石４	集石94
ピット	ピット１号	ピット842
	ピット２号	ピット844
	ピット３号	ピット877
	ピット４号	ピット864
	ピット５号	ピット860
	ピット６号	ピット863
	ピット７号	ピット861
	ピット８号	ピット862
	ピット９号	ピット865
	ピット10号	ピット876
	ピット11号	ピット873

縄文時代後期前半遺構

	新遺構名	旧遺構番号
竪穴建物跡（ＳＨ）	竪穴建物跡１	土坑140
	竪穴建物跡２	土坑119
	竪穴建物跡３	土坑114
	竪穴建物跡４	土坑116
	竪穴建物跡５	土坑151
	竪穴建物跡６	土坑152
	竪穴建物跡７	土坑148
	竪穴建物跡８	土坑141
	竪穴建物跡９	土坑154
	竪穴建物跡10	土坑117
	竪穴建物跡11	土坑153
	竪穴建物跡12	土坑126
	竪穴建物跡13	土坑145
	竪穴建物跡14	土坑93
	竪穴建物跡15	土坑123
	竪穴建物跡16	竪穴住居跡33
	竪穴建物跡17	土坑124
	竪穴建物跡18	土坑135
	竪穴建物跡19	竪穴住居跡61
	竪穴建物跡20	土坑104
	竪穴建物跡21	土坑115
	竪穴建物跡22	土坑110
	竪穴建物跡23	竪穴住居跡９
	竪穴建物跡24	竪穴住居跡４
土坑（ＳＫ）	土坑７	土坑132
	土坑８	土坑150
	土坑９	土坑136
	土坑10	土坑131
	土坑11	土坑171
	土坑12	土坑172
	土坑13	土坑118
	土坑14	土坑166
	土坑15	土坑143
	土坑16	土坑106
	土坑17	土坑99
	土坑18	土坑175
	土坑19	土坑156
	土坑20	土坑157
	土坑21	土坑159
	土坑22	土坑158
	土坑23	土坑113
	土坑24	土坑111
	土坑25	遺物出土状況25
	土坑26	土坑234
	土坑27	土坑59
	土坑28	土坑96
	土坑29	土坑97
	土坑30	土坑173
	土坑31	土坑233
	土坑32	遺物出土状況24
	土坑33	土坑103
	土坑34	土坑168

	新遺構名	旧遺構番号
土坑（ＳＫ）	土坑35	土坑161
	土坑36	土坑127
	土坑37	土坑180
	土坑38	土坑182
	土坑39	土坑229
	土坑40	土坑235
	土坑41	土坑56
	土坑42	土坑６
	土坑43	土坑55
	土坑44	土坑81
	土坑45	土坑39
	土坑46	土坑40
	土坑47	土坑９
	土坑48	土坑34
	土坑49	土坑33
	土坑50	土坑42
	土坑51	土坑44
	土坑52	土坑138
	土坑53	土坑139
	土坑54	土坑134
	土坑55	土坑142
	土坑56	土坑147
	土坑57	土坑149
	土坑58	土坑245
集石（ＳＳ）	集石５	集石78
	集石６	遺物出土状況10
	集石７	集石47
	集石８	集石73
	集石９	集石82
	集石10	集石74
	集石11	集石41
	集石12	集石91
	集石13	集石46
	集石14	集石27
	集石15	集石55
	集石16	集石71
	集石17	集石63
	集石18	集石72
	集石19	集石83
	集石20	集石79
	集石21	集石64
	集石22	集石42
	集石23	集石118
	集石24	集石75
	集石25	集石43
	集石26	集石76
	集石27	集石90
	集石28	集石61
	集石29	集石77
	集石30	集石54
	集石31	集石59
	集石32	集石65
	集石33	集石62
	集石34	集石88
	集石35	集石70
	集石36	集石40
	集石37	集石86
	集石38	集石48
	集石39	集石85
	集石40	集石49
	集石41	遺物出土状況16
	集石42	集石60
	集石43	遺物出土状況４
	集石44	集石28
	集石45	集石56
	集石46	集石81
	集石47	集石32
	集石48	集石66
	集石49	集石67
	集石50	集石68
	集石51	集石69
	集石52	集石80
	集石53	集石29
	集石54	集石52
	集石55	集石87
	集石56	集石51
	集石57	集石50
	集石58	集石58
	集石59	集石84

	新遺構名	旧遺構番号
集石（ＳＳ）	集石60	集石45
	集石61	集石57
	集石62	集石36
	集石63	集石39
	集石64	集石38
	集石65	集石35
	集石66	集石31
	集石67	集石５
	集石68	集石４
	集石69	集石６
	集石70	集石24
	集石71	集石９
	集石72	集石３
	集石73	遺物出土状況15
土器集中	土器集中１号	土器集中18
	土器集中２号	土器集中17
	土器集中３号	土器集中15
	土器集中４号	土器集中16
	土器集中５号	土器集中14
	土器集中６号	遺物出土状況８
	土器集中７号	遺物出土状況７
	土器集中８号	遺物出土状況３
	土器集中９号	遺物出土状況２
	土器集中10号	土器集中12
	土器集中11号	土器集中13
	土器集中12号	遺物出土状況９
	土器集中13号	土器集中１
	土器集中14号	土器集中６
	土器集中15号	土器集中８
	土器集中16号	土器集中５
	土器集中17号	土器集中４
	埋設土器１号	埋設土器３
	埋設土器２号	遺物出土状況20
	埋設土器３号	埋設土器１
立石遺構	立石遺構１号	土坑179
	立石遺構２号	土坑165
	立石遺構３号	土坑176
	立石遺構４号	土坑178
	立石遺構５号	土坑177
	立石遺構６号	土坑238
	立石遺構７号	KK－10
	立石遺構８号	土坑181
	立石遺構９号	土坑155
	立石遺構10号	土坑164
	立石遺構11号	KK－15
	立石遺構12号	KK－40
	立石遺構13号	土坑100
	立石遺構14号	土坑167
	立石遺構15号	KK－17
	立石遺構16号	KK－31
	立石遺構17号	土坑237
	立石遺構18号	KK－７
	立石遺構19号	土坑163
	立石遺構20号	KK－36
	立石遺構21号	土坑94
	立石遺構22号	土坑101
	立石遺構23号	KK－21
	立石遺構24号	遺物出土状況５
	立石遺構25号	土坑102
	立石遺構26号	KK－52
	立石遺構27号	土坑236
	立石遺構28号	土坑108
	立石遺構29号	土坑160
	立石遺構30号	土坑107
	立石遺構31号	土坑232
	立石遺構32号	遺物出土状況27

縄文時代晩期から弥生初頭遺構

	新遺構名	旧遺構番号
土坑	土坑59	遺物出土状況１
	土坑60	土坑223
	土坑61	土坑186
	土坑62	土坑184
集石	集石74	集石93
	集石75	集石126
	石斧埋納遺構	石斧埋納遺構

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（52）
東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

小牧遺跡４（縄文時代前期～弥生時代初頭編）
第１分冊（全３分冊）

発 行 年 月　2023年３月

編集・発行　鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-70-0574　　FAX 0995-70-0576

印　　刷　株式会社　トライ社
〒892-0834　鹿児島市南林寺町12-6
TEL 099-226-0815　　FAX 099-225-7933

鹿児島県